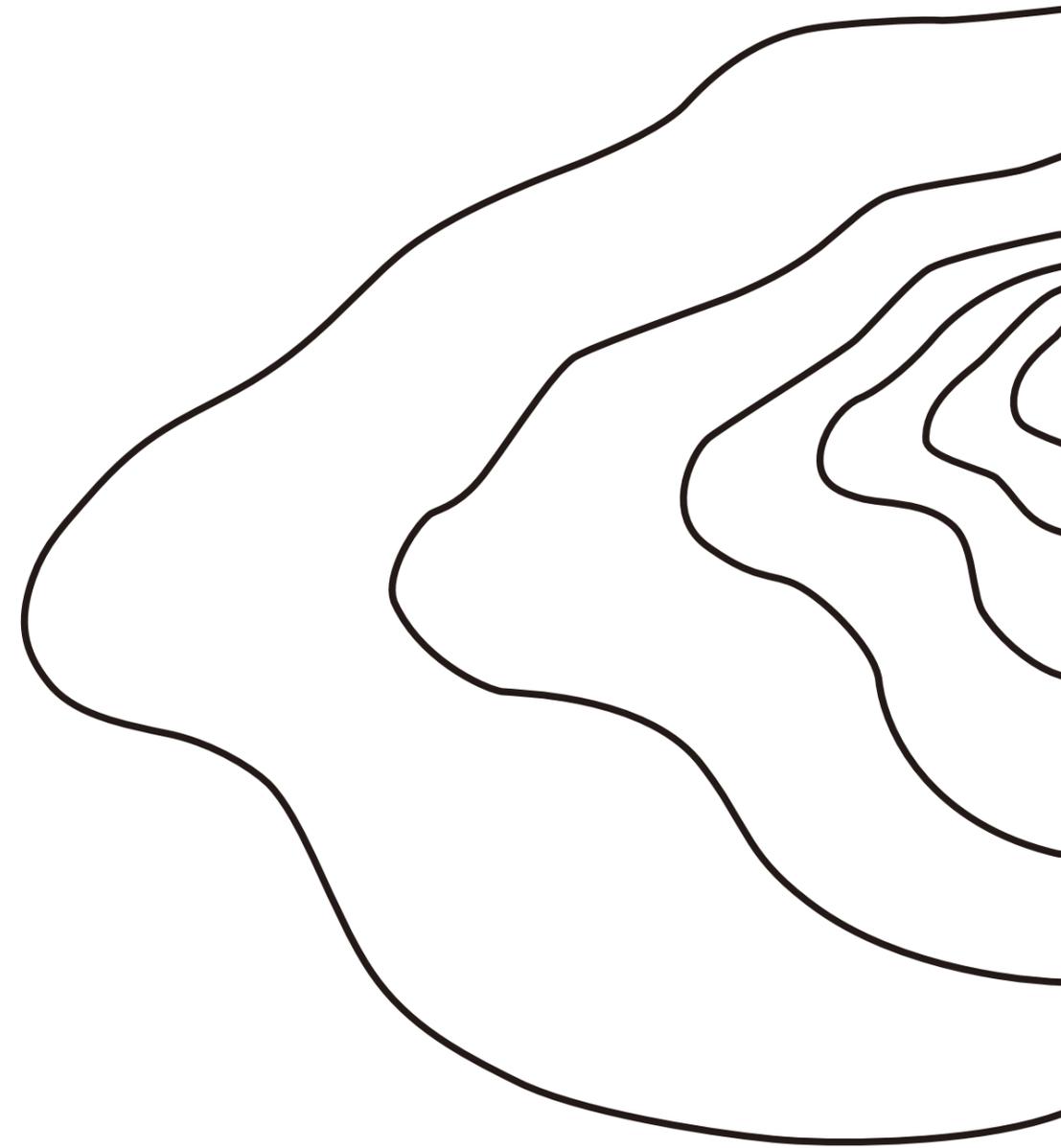


兵庫県立 こども病院 年報 2013 VOL.44

兵庫県立こども病院年報

2013 VOL.44



HYOGO PREFECTURAL  
KOBE CHILDREN'S HOSPITAL ANNUAL REPORT 13 VOL.44



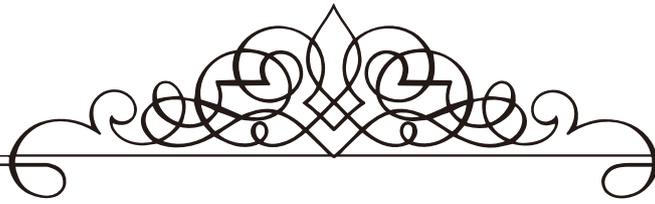
## 基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

## 基本方針

- 1 患者の権利を尊重した医療の実践
- 2 安全・安心と信頼の医療の遂行
- 3 高度に専門化されたチーム医療の推進
- 4 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
- 5 親とこどもが一体となった治療の推進
- 6 こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
- 7 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
- 8 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



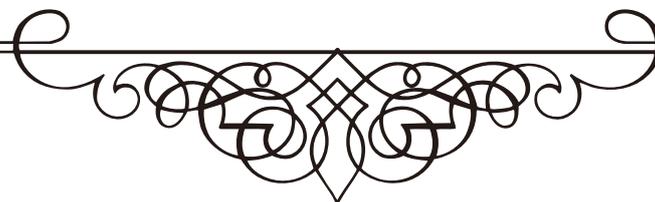


## 患者の権利

- 1 あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
- 3 あなたとご家族には、治療方針について同意や拒否する権利及びセカンドオピニオンを受ける権利があります。
- 4 あなたとご家族のプライバシーは守られます。

みなさまと私たちがお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。

- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう。今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
- 病院のきまりや約束ごとをお守りください。





## はじめに

兵庫県立こども病院  
病院長 長嶋 達也

平成 25 年 4 月に兵庫県立こども病院長に就任して以来、1 年余りが過ぎました。この 1 年間、患者さんにご家族から信頼される高度専門医療を提供すべく、すべての職員が一体となって精進してまいりました。年報を通じて当院の活動へのご理解が深まり、一層のご支援、ご指導を賜ることができれば幸いに存じます。

平成 25 年 11 月 30 日に、井戸敏三知事をお迎えして新しいこども病院の起工式と地鎮祭を執り行いました。知事からは「新しい 病院整備 ポーアイで こどもの拠点 連携めざして」の歌を贈っていただきました。平成 26 年 5 月現在、ポートアイランド中央緑地公園の東に予定通り基礎工事が進みつつあります。平成 28 年春には移転・開設の予定です。

当院は 1970 年の開設以来、1994 年に周産期母子医療センター、2007 年に小児救急医療センターの機能を加えながら、「ハイリスク胎児とこども達を守る砦」として小児医療に対する時代の要請に応じてまいりました。しかしながら、疾病構造や医療ニーズの変化を始め老朽化し狭い本館施設、診療機能や医療連携、施設の面で様々な課題が生じてまいりました。このような現状を踏まえて、ポートアイランドのメディカルクラスター内での連携を目指しての新築移転になります。開設時には毎年 200 万人を超えていた出生数が半減する時代を迎えて、少子化のすすむ社会構造に対応しうる新しいこども病院を目指します。

平成 25 年 2 月には、わが国有数の小児がん治療施設として「小児がん拠点病院」に指定されました。それに伴って診療機能を強化し、平成 26 年 4 月には、集学的治療、思春期・若青年期の医療、緩和医療、晩期合併症予防、長期フォロー含む小児がんの包括的医療体制を有する「小児がん医療センター」を開設いたしました。加えて、こども病院に隣接した「小児がんに重点を置いた新しい粒子線治療施設」が平成 29 年に開設される予定で基本設計が進んでいます。わが国の小児がん医療の最先端を担って大きく貢献することが期待されています。また、先天性心疾患治療の進歩とともに患者の過半数が成人に達するという現状から、小児専門病院における医療にも新たな取り組みが求められています。

平成26年4月に小児心臓センターを開設することにより、先天性心疾患に対する胎児診断、手術、思春期・若成人期、成人にいたる連続した医療を地域の中で組織的に提供できる体制を整備します。新たに開設した二つのセンターが、こども病院を支える太い柱になってまいります。

周産期医療と小児救急医療はこども病院を支える2本の大黒柱です。当院の総合周産期医療センターは、極めてリスクの高い新生児の治療、特にあらゆる外科的治療が可能であるという他にはない特性を生かして、広域を支える「最後の砦」として機能しています。移転後は神戸市立中央市民病院と連携して、あらゆるハイリスクの母体・新生児いずれにも対応可能な真の総合周産期医療を担う集合体として発展していきたいと考えます。小児救急医療の分野では3次救急を担い、どのような重症患児でも引き受ける文字通り「最後の砦」の機能を果たしています。麻酔科を含む外科系医師が半数を占めるという、強力なマンパワーに支えられて、あらゆる救急の外科的治療に対応可能な施設として広域小児救急を発展させます。

こども病院は高度で専門的な医療の提供を掲げていますが、命を救うことはゴールではありません。いかに医学が発達してもすべての命を救うことはかないませんし、命を救った後に重い障害を残すこともあります。命を救うことは出発点であり、助かったお子さんとそのご家族を支え・癒すことも私たちの大きな使命です。こどもを中心に、家族に心を配ることのできるこども病院であるべく努力をしていますが、まだまだ十分とは言えません。新病院に向けて、支える・癒すことにも力を注ぎたいと考えています。

兵庫県立こども病院の価値とは、救った命の数であり、生み出した希望の総量であり、そしてなにより「最良の手」にかけがえのない子どもの命をゆだねているという信頼と安心にあります。私たちは自分の手が「最良の手」“best possible hands”であるかどうかを常に自問しつつ、ハイリスクな治療に挑戦することを恐れず、困難の中にあっても可能な限り安全な医療を追求いたします。

しろかね くがね  
**銀も金も玉も何せむにまされる宝子にしかめやも**

山上憶良は、今から1300年近く前にこどもが何にもまして大切な宝であると詠みましました。兵庫県立こども病院を患者さんとご家族から信頼される高度専門医療を提供することによってこの大切な宝を守る「最後の砦」にすべく力の限り努力いたします。「こども」がたくさん生まれ育つ日本にするため、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

# 目 次

## I 病 院 概 要

1 兵庫県立こども病院の設立目的	1
2 沿 革	1
3 業 務 図	4
(1) 機構一覧表	4
(2) 担当医師表	5
(3) 外来診療スケジュール	6
4 職 員	7
(1) 職種別人員表	7
5 近畿厚生局長への届出に関する事項	8
6 研修・教育認定施設内容	9
7 委員会一覧	10

## II 医 事 経 理 関 係

## III 診 療 統 計

1 総合診療科	31
2 救急集中治療科	32
3 代謝内分泌科	36
4 リウマチ科・アレルギー科	37
5 脳神経内科	38
6 血液腫瘍科	40
7 循環器科	43
8 腎臓内科	45
9 精神神経科	46
10 小児外科	48
11 心臓血管外科	53
12 脳神経外科	56
13 形成外科	58

14	整形外科	59
15	眼科	61
16	耳鼻咽喉科	63
17	泌尿器科	67
18	小児歯科	69
19	麻酔科	70
20	新生児科	72
21	産科	75
22	放射線科	81
23	病理診断科	83
24	看護部	84
25	薬剤部	94
26	検査・放射線部（検査）	98
27	検査・放射線部（放射線部門）	106
28	栄養指導課	110
29	指導相談・地域医療連携部	116
30	臨床工学室	122
31	理学療法	123
32	医療安全室	124
33	感染対策管理室	126
34	褥瘡管理室	128

#### IV 学術・研究・教育活動

1	書籍	129
2	雑誌	131
3	学会発表	141
4	報道関連	171
5	実習生・研修生受け入れ状況	172
6	院内・院外研修	178

V	ボランティア	217
---	--------	-----

# I 病 院 概 要

## 1. 兵庫県立こども病院の設立目的

こども病院は、小児治療が内科疾患を除いては、成人と同じ環境で診療が行われている現状と、ますます進展しつつある専門化、細分化した医学を基礎とした小児特有の検査、診断、治療を行いうる小児専門病院の設置を望む社会的要請に応えて、県政100年の記念事業の一環として、昭和45年に開設されました。これは、小児病院の業務に加え、異常児の出生予防、小児の精神保健、各科医療に伴う訓練部門等の医療行政もあわせて行う、小児メディカルセンターでもあります。

具体的には、

- (1) 近代小児医療の進歩、在り方に則し、小児疾患の診断と治療に関する高度に専門化、細分化した機能を総合的に発揮できること。
- (2) 小児に関する医療相談機関であること。
- (3) 小児の保健衛生に関する行政分野に対して、あらゆる面で協力機関であること。
- (4) 小児医療従事者の育成研修期間であること。

などがあります。

平成6年10月には、ハイリスク母子の救命を図ることを目的とし、ハイリスク母子の24時間体制受け入れ、妊産婦、胎児、新生児の管理を連続かつ一体的に行うことのできる周産期医療センターをオープンしました。

また、平成14年10月より県下の第3次小児救急の拠点として救急医療室を開設し、その後、平成19年10月に、機能を一層充実させた小児救急医療センターを新たにオープンしました。

## 2. 沿革

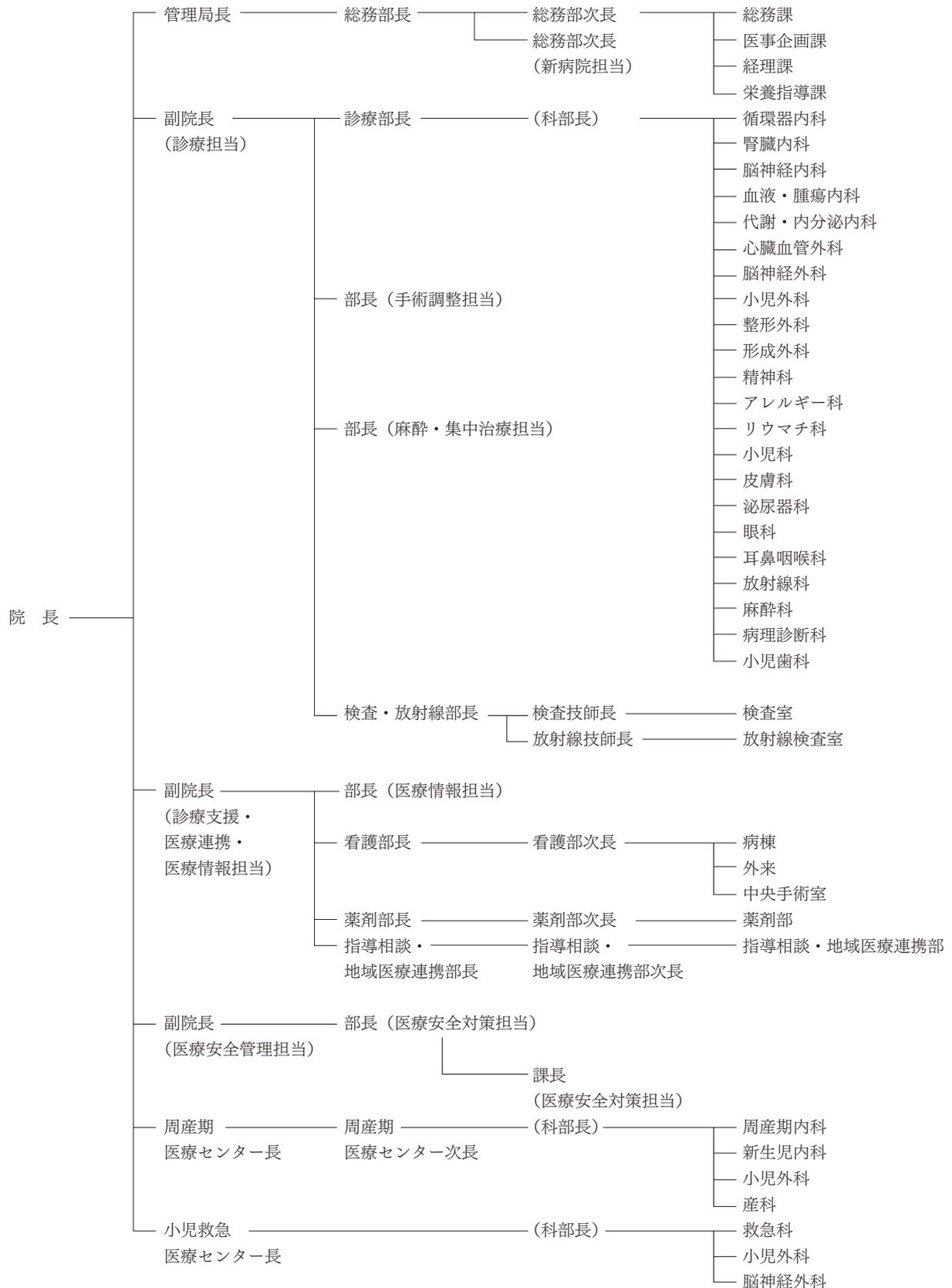
- |       |       |   |                              |
|-------|-------|---|------------------------------|
| (1) 名 | 称     | 兵庫県立こども病院   |                              |
| (2) 開 | 設     | 昭和45年4月1日（現管理者 長嶋 達也）   |                              |
| (3) 所 | 在     | 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1 TEL 078-732-6961（代表）  |                              |
| (4) 診 | 療     | 精神科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液・腫瘍内科、代謝・内分泌内科、周産期内科、新生児内科、整形外科、形成外科、脳神経外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、心臓血管外科、産科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、病理診断科、救急科、小児歯科 |                              |
| (5) 病 | 床     | 数   | 一般290床（稼働266床）               |
| (6) 沿 | 革     |   |                              |
|       | 昭和45年 | 4月1日  | 病院開設（管理者平田美穂）                |
|       | 昭和45年 | 4月30日   | 病院本館完成                       |
|       | 昭和45年 | 5月8日  | 診療開始                         |
|       | 昭和45年 | 7月23日   | 基準寝具実施（寝第295号）               |
|       | 昭和45年 | 9月17日   | 基準給食実施（食第307号）基準看護実施（看第130号） |
|       | 昭和46年 | 12月28日  | 母と子の指導教室完成現在は母と子の教室と呼称       |
|       | 昭和47年 | 2月1日  | 基準看護一般特類変更承認（険第98号）          |
|       | 昭和47年 | 12月1日   | 基準看護精神特類変更承認（険第219号）         |

昭和 49 年 10 月 1 日	基準看護一般特二類変更承認（険第 108 号）基準看護精神特一類変更承認（険第 108 号）
昭和 50 年 4 月 1 日	管理者変更受理（管理者児嶋喜八郎）
昭和 54 年 3 月 31 日	全館防災設備工事完成
昭和 54 年 8 月 2 日	日本脳神経外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 55 年 4 月 1 日	昭和 55 年 3 月 26 日兵庫県条例第 11 号兵庫県病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例により診療科目改正、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科を追加
昭和 56 年 5 月 5 日	シアトル小児整形外科病院医療センターとの間に姉妹病院提携
昭和 56 年 10 月 7 日	日本外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 56 年 10 月 12 日	日本麻酔学会認定医制度による指導病院として認定される
昭和 56 年 12 月 6 日	日本胸部外科学会認定医認定制度による指定訓練場所として認定される
昭和 57 年 4 月 1 日	日本小児外科学会認定医制度による認定医育成施設として認定される
昭和 58 年 4 月 1 日	日本病理学会認定病理医制度による認定病院として認定される
昭和 58 年 4 月 11 日	日本整形外科学会認定医制度研修施設として認定される
昭和 58 年 10 月 1 日	日本眼科学会専門医制度による研修施設として認定される
昭和 60 年 3 月 18 日	プリンセス・マーガレット小児病院との間に姉妹提携
昭和 60 年 3 月 28 日	日帰り手術棟完成
昭和 60 年 4 月 3 日	日本形成外科学会認定医研修施設として認定される
昭和 60 年 4 月 15 日	日帰り手術棟手術開始
昭和 61 年 3 月 31 日	日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
昭和 61 年 4 月 1 日	管理者変更受理（管理者玉木健雄）
昭和 61 年 4 月 1 日	日本泌尿器科学会専門医教育施設として認定される
昭和 61 年 10 月 1 日	日本医学放射線学会専門医制度規定による修練機関として認定される
昭和 62 年 1 月 22 日	自家発電設備改良工事完成
平成元年 2 月 1 日	外国医師臨床習練制度による研修施設として認定される
平成 3 年 5 月 1 日	基準看護一般特三類（一部）変更承認（険第 220 号）
平成 4 年 4 月 1 日	基準看護一般特三類（260 床に）変更承認（険第 363 号）医事会計システムの電算化開始、医療業務・事務当直・警備の全面委託開始
平成 4 年 5 月 9 日	週 40 時間制試行
平成 4 年 5 月 18 日	病床数 260 床に変更承認（精神病棟廃止）
平成 4 年 7 月 6 日	病床数 290 床に変更承認（兵庫県指令医第 1 - 67 号）
平成 4 年 7 月 29 日	周産期医療センター安全祈願祭
平成 4 年 11 月 7 日	週 40 時間制本格実施
平成 5 年 4 月 1 日	管理者変更受理（管理者竹峰久雄）
平成 6 年 7 月 20 日	周産期医療センター定礎式
平成 6 年 9 月 1 日	管理者変更受理（管理者小川恭一）
平成 6 年 9 月 30 日	ドクターズカー購入
平成 6 年 9 月 30 日	周産期医療センター完成

平成6年10月1日	行政組織規則の改正（兵庫県規則第66号）により、周産期医療センターを設置
平成6年10月3日	周産期医療センター開設記念式典
平成6年10月4日	周産期医療センター診療開始
平成7年1月17日	阪神・淡路大震災
平成7年9月1日	本館改修工事に着手
平成8年4月1日	日本産科婦人科学会認定医制度による卒後研修指導施設として指定される
平成10年6月30日	本館改修工事完了
平成11年4月2日	管理者変更受理（管理者山本節）
平成12年3月1日	総合周産期母子総合医療センターとして指定される
平成12年4月24日	慢性疾患児家族宿泊施設（ファミリーハウス）を開設
平成13年10月10日	駐車場立体化工事に着手
平成14年2月28日	立体駐車場完成
平成14年4月1日	臨床研修病院指定（厚生労働省発医政第0401006）
平成14年4月1日	地方公営企業法の財務適用から全部適用に移行
平成14年10月15日	第3次小児救急開設（稼働病床260床）
平成15年4月2日	管理者変更（管理者中村肇）
平成15年10月30日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第1030005号-511,519,526,533）
平成15年11月28日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第1128007号-330）
平成16年3月22日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.3.1）
平成16年4月1日	アレルギー科追加
平成18年4月1日	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設として認定される
平成18年4月1日	日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系）として認定される
平成19年10月1日	小児救急医療センターを開設（稼働病床266床）
平成20年4月1日	管理者変更（管理者丸尾猛）
平成21年4月1日	医療法施行令の改正に伴う診療科目標榜名変更
平成21年7月3日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.5.0）
平成21年12月16日	地域医療支援病院の名称使用承認
平成21年1月4日	「母と子の指導教室」を「研修センター」に改修して供用開始
平成22年4月1日	駐車場の拡張（北駐車場増設）と有料化
平成23年1月4日	本館玄関周辺及び玄関ロビーを改修して供用開始
平成24年4月9日	中国福利会国際和平婦幼保健院と交流協定締結
平成24年11月1日	日本小児神経学会、小児神経専門医研修施設として認定される
平成25年2月8日	小児がん拠点病院として指定される
平成25年4月1日	管理者変更（管理者長嶋達也）

### 3. 業務図

#### (1) 機構一覧表 (2013.12.31 現在)



## (2) 担当医師表 (2013.12.31 現在)

- |                 |  |
|-----------------|--|
| (1) 小児科         | 宅見晃子、花田卓也、山崎武美 (非常勤)   |
| (2) 新生児内科       | 中尾秀人、芳本誠司、溝渕雅巳、坂井仁美、岩谷壮太、和田佳子  |
| (3) 脳神経内科       | 永瀬裕朗、丸山あずさ、藤田杏子  |
| (4) 循環器内科       | 城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、富永健太、佐藤有美、小川禎治<br>亀井直哉   |
| (5) 腎臓内科        | 田中亮二郎、中川拓  |
| (6) 代謝・内分泌内科    | 郷司克己、尾崎佳代  |
| (7) 血液・腫瘍内科     | 小阪嘉之、川崎圭一郎、長谷川大一郎、矢内友子、石田敏章、神前愛子   |
| (8) 救急科         | 上谷良行、福原信一、竹田洋樹、山口善道、中岸保夫、神田杏子、<br>梶原伸介、楠元真由美   |
| (9) アレルギー・リウマチ科 | 三好麻里、笠井和子  |
| (10) 小児外科       | 横井暁子、中尾真、尾藤祐子、福澤宏明、大片祐一  |
| (11) 心臓血管外科     | 大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典   |
| (12) 脳神経外科      | 長嶋達也、河村淳史、山元一樹、田中潤   |
| (13) 形成外科       | 大山知樹、木矢孝一郎   |
| (14) 整形外科       | 薩摩眞一、小林大介、衣笠真紀   |
| (15) 泌尿器科       | 杉多良文、中川賀清、久松英治   |
| (16) 耳鼻咽喉科      | 大津雅秀、阪本浩一 (兼務)   |
| (17) 眼科         | 野村耕治、井上結香子   |
| (18) 精神科        | 関口典子   |
| (19) 小児歯科       | 小本由美子  |
| (20) 産科         | 船越徹、佐本崇、喜吉賢二、高松祐幸、牧志綾、南谷智之   |
| (21) 放射線科       | 赤坂好宣、杉岡勇典  |
| (22) 麻酔科        | 香川哲郎、鈴木毅、高辻小枝子、大西広泰、池島典之、土居ゆみ、<br>野々村智子、上北郁男、久保田恵理、山根悠   |
| (23) 病理診断科      | 吉田牧子   |
| (24) フェロー・専攻医   | 西山将広、古賀千穂、雪本千恵、三木康暢、野村安隆、宮田憲二<br>越智聡史、齋藤敦郎、田中司、辻真之介、水田麻雄<br>宇仁田亮、武岡恵美子、二野菜々子、白鳥孝俊、日外祐理、石田悠介、<br>谷口紫野、高藤哲、中西啓太、橋本興人、上村和也、祖父江俊樹、<br>瓦野昌大 (小児科)<br>岩出珠幾、園田真理、谷本光隆、岩城隆馬、吉田拓哉 (小児外科)<br>野田怜、松島峻介 (心臓血管外科)<br>谷口真貴 (形成外科)<br>蒲田悦子 (整形外科)<br>神野 雅 (泌尿器科)<br>金井友範、金井美智子 (眼科)<br>中澤浩志 (産科)<br>川瀬太助、小嶋大樹、末田彩、法華真衣、中野祥子、山鳥佑輔<br>(麻酔科) |

(3) 外来診療スケジュール (平成 24 年 12 月 1 日)

科目	曜日	月		火		水		木		金	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	総合診療	◎神田	各担当医	◎上谷	各担当医	◎笠井	各担当医	1・3・5週 ◎宅見 各担当医 2・4週 ◎山崎 各担当医		◎藤田 (杏)	
	アレルギー			◎三好					三好		
	リウマチ			中岸 三好		◎中岸 三好	中岸 三好		中岸 三好		
	予防接種	三好							◎永瀬		
	脳神経	◎永瀬			丸山				◎永瀬 児玉		◎丸山
	循環器	田中(敏)	城戸	◎田中 (敏)	田中(敏)	城戸 ◎藤田 (秀)	藤田(秀)	◎城戸	城戸	◎富永	富永
	腎臓	中川(拓) (神田)	3週 田中(亮)	◎田中 (亮) ◎中川 (拓)		◎田中 (亮) ◎中川 (拓)	神田				◎田中 (亮) ◎中川 (拓)
	代謝内分泌		1・2・4週 郷司			◎郷司			◎郷司		◎尾崎
	新生児				◎坂井 ◎和田 芳本		◎中尾(秀) ◎溝淵 坂井		◎中尾(秀) ◎芳本 和田		◎芳本 ◎溝淵
血液	◎小阪	川崎		◎小阪				◎小阪		◎小阪 長谷川	
外科	一般	◎中尾(真)	中尾(真)	◎福澤	福澤	◎尾藤	尾藤	◎担当医 西島	◎西島	◎横井	
	ヘルニア外来	◎担当医						◎担当医			
	特殊外来		ストマ		在宅療法						
	心臓		◎大嶋 松久 圓尾				◎大嶋 圓尾 長谷川				◎大嶋 長谷川 松久
	脳神経	◎山元				◎長嶋				◎河村	河村 1・3週 二春(長嶋) 2・4週 二春(山元)
	形成			◎大山 木矢 言語療法				◎大山 木矢 谷口 言語療法			
	整形		◎薩摩 ◎小林	◎薩摩 ◎衣笠	◎小林 ◎衣笠 (1週側溝外来)	◎薩摩 ◎小林					二分脊椎
放射線科									副島		
眼科	◎野村 井上 金井(友) 金井(美)			野村 井上 金井(友) 金井(美)	◎野村 井上 金井(友) 金井(美)	野村 井上 金井(友) 金井(美)	◎野村 井上 金井(友) 金井(美)	野村 井上 金井(友) 金井(美)			
泌尿器科	◎久松		◎杉多 中川(賀) 久松	杉多 中川(賀) 久松	◎担当医			杉多 中川(賀) 久松	◎中川 (賀) 久松	二分脊椎	
耳鼻咽喉科	◎大津	1週・2週 補聴器	◎阪本	3週・4週 補聴器				◎大津		◎阪本	
	言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		
歯科	◎曾根	曾根	◎曾根	曾根				◎曾根	曾根	◎曾根	曾根
精神科	◎長谷川(弘) ◎関口	関口	◎関口	関口	◎関口	関口		関口		◎松川	
ADHD外来			前田	前田							
卒煙外来							◎永瀬				
発達行動							◎永瀬				
産科	◎船越 ◎佐本	超音波 検査	◎高松 ◎喜吉	超音波 外来	◎佐本 ◎牧志	超音波 検査	◎喜吉 ◎高松	超音波 外来	◎牧志 ◎船越	超音波 検査	

◎印は新患受付曜日となります。

兵庫県立こども病院 〒 654-0081 神戸市須磨区高倉台 1-1-1  
 代表 TEL078-732-6961  
 予約センター直通 TEL 078-940-5532 (平日 9:00 ~ 17:00 医療機関専用)  
 予約センター直通 FAX 078-732-6980 (24 時間対応)

## 4. 職員

## (1) 職種別人員表 (2013.12.31 現在)

職 種 別		現 員 [人]
事 務 職		18
技             術             職	医 師 ・ 歯 科 医 師	93 (42)
	薬 劑 師	12
	診 療 放 射 線 技 師	11
	臨 床 検 査 技 師	15
	栄 養 士	2
	看 護 師	472 (8)
	視 能 訓 練 士	3
	心 理 判 定 員	2
	精 神 保 健 福 祉 相 談 員	1
	保 育 士	7 (1)
	言 語 聴 覚 士	2
	臨 床 工 学 技 士	5
	理 学 療 法 士	1
	小 計	644 (51)
技 能 労 務 職	調 理 員	11
合 計		655 (51)

注1 「医師・歯科医師」の現員数は、非常勤医師、研修医師を除く。

2 ( ) 外書きは、臨時的任用職員

## 5. 近畿厚生局長への届出に関する事項

当院は診療報酬の請求に関し、近畿厚生局長へ以下の事項につき届出を行っています。

### 入院基本料

一般病棟入院基本料（7対1）

### 入院基本料等加算

臨床研修病院入院診療加算（協力型）

救急医療管理加算

妊産婦緊急搬送入院加算

診療録管理体制加算

医師事務作業補助体制加算

急性期看護補助体制加算

無菌治療室管理加算 1

重症者等療養環境特別加算

医療安全対策加算 1

感染防止対策加算 1

感染防止対策加算地域連携加算

患者サポート体制充実加算

褥そうハイリスク患者ケア加算

ハイリスク妊娠管理加算

ハイリスク分娩管理加算

新生児特定集中治療室退院調整加算 1、2

救急搬送患者地域連携紹介加算

救急搬送患者地域連携受入加算

データ提出加算

### 特定入院料

特定集中治療室管理料 1、2

総合周産期特定集中治療室管理料

母体・胎児集中治療室管理料

新生児特定集中治療室管理料

小児入院医療管理料 1

同上（保育士加算）

### 特掲診療料

高度難聴指導管理料

がん性疼痛緩和指導料

夜間休日救急搬送医学管理料

開放型病院共同指導料

薬剤管理指導料

医療機器安全管理料 1

造血器腫瘍遺伝子検査

検体検査管理加算（Ⅱ）

心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡

検査加算

埋込型心電図検査

胎児心エコー法

皮下連続式グルコース測定

補聴器適合検査

小児食物アレルギー負荷検査

画像診断管理加算 2

C T撮影及びMRI撮影

冠動脈C T撮影加算

大腸C T撮影加算

心臓MRI撮影加算

抗悪性腫瘍剤処方管理加算

外来化学療法加算 1

無菌製剤処理料

脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅰ）

集団コミュニケーション療法料

一酸化窒素吸入療法

頭蓋骨形成手術

上顎骨形成術、下顎骨形成術

（いづれも骨移動を伴う場合に限る。）

ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術

（電池交換を含む）

埋込型心電図記録計移植術及び埋込型心電図

記録計摘出術

大動脈バルーンパイピング法

経皮的大動脈遮断術

ダメージコントロール手術

医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6

（歯科点数表第2章第9部の

通則4を含む。）に掲げる手術

輸血管管理料Ⅰ

人工肛門・人口膀胱造設術前処置加算

麻酔管理料（Ⅰ）（Ⅱ）

高エネルギー放射線治療

病理診断管理加算 1

### 歯科関係

歯科外来診療環境体制加算

クラウン・ブリッジ維持管理料

歯科矯正診断料

### 入院時食事療養費Ⅰ

## 6. 研修・教育認定施設内容

厚生労働省認定病院等	<p>◆ [厚生労働省認定]          厚生労働省認定臨床研修指定病院（小児）          厚生労働省認定外国医師臨床研修施設</p> <p>◆ [専門医教育病院学会指定]          日本小児科学会専門医研修施設          日本外科学会外科専門医訓練施設          日本脳神経外科学会専門医訓練施設          日本泌尿器科学会専門医教育施設          日本整形外科学会専門医研修施設          日本眼科学会専門医研修施設          日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設          日本病理学会登録施設          日本麻酔学会麻酔指導病院          日本医学放射線学会専門医修練機関          日本胸部外科学会認定医指定施設          日本気管支学会認定施設          日本アレルギー学会認定教育施設          日本リウマチ学会認定教育施設          日本腎臓学会認定研修施設          日本形成外科学会認定医指導施設          日本小児外科学会認定施設          日本産科婦人科学会専門医研修指導施設          日本内分泌代謝科専門医認定教育施設          日本気管食道科学会認定日本気管食道科専門医研修施設          日本周産期新生児医学会専門医研修施設          日本小児循環器学会専門医修練施設          日本血液学会認定血液研修施設          日本がん治療認定医機構認定研修施設          日本小児血液・がん専門医研修施設          日本小児神経学会専門医研修施設</p>
姉妹提携・交流協定病院	<p>シアトル小児病院（アメリカ合衆国）          プリンセスマーガレット小児病院（オーストラリア）          中国福利会国際和平婦幼保健院（中華人民共和国）</p>

## 7. 委員会一覧（平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月）

委員会名	開催回数	活動内容と結果
幹部会	毎月第 2 月曜日	病院の管理及び運営に関する基本方針等を審議
運営協議会・経営計画推進委員会	毎月第 4 月曜日	幹部会からの指示事項の調査、検討と職員への周知
保険診療対策委員会	毎月第 4 金曜日	減点内容の検討、返戻に対する対応の検討
医療事故防止対策委員会	毎月第 2 月曜日	リスクマネジメント部会からの報告、事故等案件の状況報告
リスクマネジメント部会	毎月第 2 火曜日	①各部門の毎月のヒヤリハット発生状況の報告 ②医療安全研修会の開催 ③医療安全推進週間の啓蒙 ④平成 25 年度の重点取り組み課題の決定と実施、評価
医療事故対策部会	事故発生時	①事故原因の追及 ②再発防止策の策定
院内感染対策委員会	毎月第 2 金曜日	①病院の感染対策に関する審議 ②院内外における感染微生物の発生状況の把握 ③院内発生時の早急な対応と拡大防止
ICT	毎週木曜日	①院内感染に関する情報収集・相談・対策検討・評価 ②感染予防における職員への教育 ③院内ラウンド
衛生委員会	月 1 回	職員の健康障害の防止対策等について審議
仕様策定委員会	2 回	200 万円以上の医療機器仕様について審議
診療材料委員会	6 回	①新規診療材料採用申請の審議 ② JITS システムデータに基づく診療材料変更提案の審議
薬事委員会	2 回	採用・中止薬品の検討、薬剤情報提供内容の追加 新規医薬品（18 品目）、中止医薬品（34 品目）
手術運営委員会	隔月第 4 水曜日	①手術件数報告 ②効率的な手術室運営について ③機種保守点検、更新について ④安全、感染について
医療用ガス安全管理委員会	1 回	医療用ガス設備に係る定期点検の報告
放射線安全委員会	1 回	①放射線業務従事者管理状況について ②放射線安全研修会開催について
倫理委員会	3 回	詳細は別紙のとおり
虐待防止委員会	事例発生時	処遇検討
	定例 1 回	1 年間の件数報告・検討
治験審査委員会	6 回	詳細は別紙のとおり
化学療法レジメン委員会	2 回	①新規化学療法レジメンについて ② 1 泊入院の化学療法レジメン登録について
褥瘡対策委員会	12 回	①院内の褥瘡に関する状況の報告 ②褥瘡に関する研修 ③褥瘡対策患者対象の回診 ④褥瘡に関するデータの共有とケアの評価や対策の検討。
輸血療法委員会	隔月第 1 水曜日	①血液製剤の使用状況報告 ②輸血に関連した副作用報告 ③安全な輸血に関する取り決め ④輸血に関する諸問題の対応
検査委員会	2 回 不定期	①検査項目、運用等の変更に関する承認 ②検査に関する諸問題の解決 ③検査に関する要望
栄養給食委員会 NST 部会	1 回	①平成 24 年度給食及び栄養指導実施状況報告 ②院内約束食事基準の改定 ③とろみ食品の品目追加提供について ④NST 活動について
患者サービス向上委員会		

接遇部会	1回	各部門の接遇についての問題報告と新人及び全スタッフの研修について
防災対策委員会	1回	防災対策の推進について審議
省エネルギー推進委員会	1回	日常の省エネルギー活動の推進と活動結果の検証
医師の負担軽減等推進委員会	1回	負担軽減計画の策定
広報委員会	5回	①ニュースレター「げんきカエル」の発行（年4回） ②2012年報の発行 ③ホームページの一部更新 ④2013診療のご案内の発行
I T化推進委員会	4回	①電子カルテの取組について ・電子カルテ導入検討委員会の立ち上げ ・電子カルテ実施施設訪問及び報告 ・医療情報学連合大会参加及び報告 ②診療支援システムのアップグレードについて ・端末機のOSを必要に応じてバージョンアップ
診療記録等管理委員会	12回	診療録記載ガイドラインの改定 看護記録などの様式変更
外来運営委員会	3回	在宅物品等交付窓口の設置 胎児心エコー外来の整備 血液腫瘍外来などの診察枠の増設
病棟運営委員会	3回	①夏休みのベッドコントロールについて ・各診療科のめやすベッドについて ・入院キャンセル等の対応について ②血液腫瘍科のベッドコントロールについて ・入院部署について ・日帰り手術室を使用する際の処置実施の検討 ③HCUの病棟運営について
クリニカルパス委員会	11回	①クリニカルパスの広報・作成・運用・管理 ②院内クリニカルパス大会2回開催 ③新規クリニカルパス作成・改訂 ④地域医療連携パスカンファレンス3回
医療の質向上委員会	2回	①臨床指標の設定 ②毎年の臨床指標の集計
国際交流推進委員会	8回	①シアトル小児病院研修派遣について ②シアトル小児病院の訪問について
緩和ケアチーム	13回	緩和ケアチームの立ち上げ 緩和ケアマニュアルの作成、ポスター作成 症例検討
研修教育委員会	2回	①平成24年度研修教育委員会各部会から活動報告 ②平成25年度研修教育委員会各部会から研修計画

各種委員会（別紙）

名称	委員長	開催日時	場所	出席者数	議題
倫理委員会	上谷 良行	6月11日	応接室	7	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 超低出生体重児の生後早期の高ナトリウム血症および脳室内出血の予防を目的としたポリウレタン・フィルムの皮膚貼付＜溝淵新生児内科部長＞</li> <li>2 早産児の生後早期の難治性低血圧に対するヒドロコルチゾン療法＜同上＞</li> <li>3 小児臨床検体からの Muse 細胞の単離・同定に関する研究＜同上＞</li> <li>4 超早産児における血清中および気管内吸引液中 IL-6 値と組織学的絨毛羊膜炎および臍帯炎との関連性に関する研究＜岩谷新生児内科医長＞</li> <li>5 早産児の臍ヘルニアに対する綿球および創傷被覆材を用いた早期圧迫療法＜杉森 GCU 看護師＞</li> </ol>
倫理委員会	上谷 良行	9月9日	応接室	7	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 持続硬膜外麻酔カテーテルを用いた腸骨採取部の鎮痛法＜上北麻酔科医長＞</li> <li>2 低出生体重児の消化管機能障害に関する周産期背景因子の疫学調査研究＜横井小児外科部長＞</li> <li>3 超早産児、超低出生体重児に対する生後早期のインドメサシン少量持続投与による未熟児動脈管開存症予防および合併症軽減＜芳本新生児内科部長＞</li> <li>4 極低出生体重児の精神運動発達障害発症に関連する周産期危険・予後因子の同定に関する研究＜溝淵新生児内科部長＞</li> <li>5 初診時遠隔転移のない小児肺芽腫に対するリスク別多施設共同臨床第Ⅱ相試験（JPLT-3 プロトコル）＜小阪血液・腫瘍内科部長＞</li> <li>6 小児 B 前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多施設共同第Ⅱ相および第Ⅲ相臨床試験（JPLSGALL-B12）における有害事象報告について＜同上＞</li> <li>7 一般社団法人日本スキバンクネットワークへの参加＜大山形成外科医長＞</li> </ol>

倫理委員会	上谷 良行	12月9日	応接室	6	<p>1 新生児横隔膜ヘルニア長期生存例に対するフォローアップ調査&lt;横井小児外科部長&gt;</p> <p>2 胆道閉鎖症Ⅲ型における予後予測因子の検討&lt;同上&gt;</p> <p>3 小児の救急・集中治療体制に関する研究&lt;福原救急集中治療科部長&gt;</p> <p>4 小児頭蓋内悪性腫瘍の遺伝子診断体制の構築（髄芽腫・上衣腫）&lt;河村脳神経外科部長&gt;</p> <p>5 3歳児検尿の効果的方法と腎尿路奇形の早期発見&lt;田中腎臓内科部長&gt;</p> <p>6 先天性腎尿路奇形の早期診断と腎不全進行予後因子の解析&lt;同上&gt;</p> <p>7 小児フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病（Ph+ALL）に対するチロシンキナーゼ阻害剤併用化学療法の第Ⅱ相臨床試験（ALL Ph13）&lt;小阪血液・腫瘍内科部長&gt;</p> <p>8 神経芽腫がん幹細胞マーカーに関する研究&lt;同上&gt;</p>
治験審査委員会	中尾 秀人	5月17日	応接室	10	SME3110 試験および第Ⅰ相試験の実施の適否について審議、また現在進行中の治験4課題の継続についても審議した
治験審査委員会	中尾 秀人	7月5日	応接室	8	NK104 試験及び第Ⅰ相試験の実施の適否について審議、また現在進行中の治験4課題の継続について審議した
治験審査委員会	中尾 秀人	8月30日	応接室	8	現在進行中の治験5課題の継続について審議した
治験審査委員会	中尾 秀人	10月25日	応接室	8	現在進行中の治験5課題の継続について審議した
治験審査委員会	中尾 秀人	12月20日	応接室	7	現在進行中の治験5課題の継続について審議した
治験審査委員会	中尾 秀人	2月28日	応接室	9	現在進行中の治験4課題の継続について審議した



## II 医事経理関係

## 第1節 患者数統計

## 1. 総括

## (1) 年度別

区 分				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
外 来	a	診療日数	日	242	243	244	245	244
	b	新患者数	人	8,101	7,923	7,696	7,631	8,032
	c	一日平均新患者数	人	33.5	32.6	31.5	31.1	32.9
	d	延患者数	人	84,186	86,269	86,464	86,902	87,254
	e	一日平均延患者数	人	347.9	355.0	354.4	354.7	357.6
	f	平均通院日数	日	10.4	10.9	11.2	11.4	10.9
入 院	g	稼働日数	日	365	365	366	365	365
	h	稼働病床数	床	266	266	266	266	266
	I	入院患者数	人	5,483	5,261	5,425	5,290	5,271
	j	一日平均入院患者数	人	15.0	14.4	14.8	14.5	14.4
	k	退院患者数	人	5,470	5,294	5,422	5,302	5,279
	l	一日平均退院患者数	人	15.0	14.5	14.8	14.5	14.5
	m	延入院患者数	人	86,991	88,487	88,849	88,036	86,385
	n	一日平均延患者数	人	238.3	242.4	242.8	241.2	236.7
	o	病床利用率	%	89.6	91.1	91.3	90.7	89.0
	p	病床回転数	回	20.6	19.8	20.4	19.9	19.8
	r	日帰入院患者数	人	92	108	122	88	120
	s	N I C U ・ G C U 入院患者数	人	991	1,014	1,011	963	1,009
	t	平均在院日数	日	14.9	15.8	15.4	15.6	15.4
	u	外来入院比率	%	96.8	97.5	97.3	98.7	101.0
v	入院率	%	67.7	66.4	70.5	69.3	65.6	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m/ (h × g) × 100 p 病床回転数 = ((I+k) /2) /h t 平均在院日数 = (m-k) / ((I+k) /2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100							

## (2) 月別患者統計

H25 年度

区 分				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
外 来	a	診 療 日 数	日	21	21	20	22	22	19	22	20	19	19	19	20	244
	b	新 患 者 数	人	681	686	689	733	767	622	669	664	623	645	574	679	8,032
	c	一日平均新患者数	人	32.4	32.7	34.5	33.3	34.9	32.7	30.4	33.2	32.8	33.9	30.2	34.0	32.9
	d	延 患 者 数	人	7,508	7,022	6,734	7,819	8,498	6,832	7,424	6,873	7,234	7,092	6,503	7,715	87,254
	e	一日平均延患者数	人	357.5	334.4	336.7	355.4	386.3	359.6	337.5	343.7	380.7	373.3	342.3	385.8	357.6
	f	平均通院日数	日	11.0	10.2	9.8	10.7	11.1	11.0	11.1	10.4	11.6	11.0	11.3	11.4	10.9
入 院	g	稼 働 日 数	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	h	稼 働 病 床 数	床	266	266	266	266	266	266	266	266	266	266	266	266	266
	I	入 院 患 者 数	人	439	467	418	460	482	419	420	446	477	428	380	435	5,271
	j	一日平均入院患者数	人	14.6	15.1	13.9	14.8	15.5	14.0	13.5	14.9	15.4	13.8	13.6	14.0	14.4
	k	退 院 患 者 数	人	425	457	428	453	504	419	427	436	515	394	361	460	5,279
	l	一日平均退院患者数	人	14.2	14.7	14.3	14.6	16.3	14.0	13.8	14.5	16.6	12.7	12.9	14.8	14.5
	m	延入院患者数	人	7,014	7,364	7,435	7,799	7,780	7,027	6,933	7,139	7,524	6,906	6,413	7,051	86,385
	n	一日平均延患者数	人	233.8	237.5	247.8	251.6	251.0	234.2	223.6	238.0	242.7	222.8	229.0	227.5	236.7
	o	病 床 利 用 率	%	87.9	89.3	93.2	94.6	94.3	88.1	84.1	89.5	91.2	83.7	86.1	85.5	89.0
	p	病 床 回 転 数	回	1.6	1.7	1.6	1.7	1.9	1.6	1.6	1.7	1.9	1.5	1.4	1.7	19.8
	r	日 帰 入 院 患 者 数	人	9	7	11	5	9	9	8	12	13	17	6	14	120
	s	N I C U ・ G C U 入 院 患 者 数	人	90	93	76	79	82	88	83	97	115	74	72	60	1,009
	t	平 均 在 院 日 数	日	15.3	15.0	16.6	16.1	14.8	15.8	15.4	15.2	14.1	15.8	16.3	14.7	15.4
	u	外 来 入 院 比 率	%	107.0	95.4	90.6	100.3	109.2	97.2	107.1	96.3	96.1	102.7	101.4	109.4	101.0
v	入 院 率	%	64.5	68.1	60.7	62.8	62.8	67.4	62.8	67.2	76.6	66.4	66.2	64.1	65.6	
計 算 式	f	平均通院日数	= d/b													
	o	病床利用率	= (m/ (h × g) × 100													
	p	病床回転数	= ((I+k) /2) /h													
	t	平均在院日数	= (m-k) / ((I+k) /2)													
	u	外来入院比率	= (d/m) × 100													
	v	入院率	= (I/b) × 100													

## 2. 月別科別外来患者数

H25 年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新患者数	32	41	36	44	46	44	42	38	32	37	27	35	454
	再来患者数	663	595	526	626	852	644	634	584	658	638	542	787	7,749
	延患者数	695	636	562	670	898	688	676	622	690	675	569	822	8,203
腎臓内科	新患者数	12	5	16	30	31	11	10	7	4	5	14	12	157
	再来患者数	249	208	229	313	313	253	281	218	302	256	233	269	3,124
	延患者数	261	213	245	343	344	264	291	225	306	261	247	281	3,281
脳神経内科	新患者数	16	17	20	10	14	16	14	12	11	15	16	13	174
	再来患者数	322	247	268	294	333	272	294	276	297	301	264	347	3,515
	延患者数	338	264	288	304	347	288	308	288	308	316	280	360	3,689
血液内科	新患者数	7	3	7	4	8	4	5	8	4	4	4	6	64
	再来患者数	350	293	267	356	410	279	287	306	298	313	272	332	3,763
	延患者数	357	296	274	360	418	283	292	314	302	317	276	338	3,827
代謝・内分泌内科	新患者数	7	18	16	11	24	16	17	8	6	15	7	11	156
	再来患者数	373	431	365	423	499	428	454	442	434	409	411	422	5,091
	延患者数	380	449	381	434	523	444	471	450	440	424	418	433	5,247
新生児内科	新患者数	55	56	48	50	52	52	53	56	65	49	43	38	617
	再来患者数	260	246	269	252	246	261	307	266	256	270	260	267	3,160
	延患者数	315	302	317	302	298	313	360	322	321	319	303	305	3,777
心臓血管外科	新患者数	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	5
	再来患者数	105	130	129	126	138	145	102	121	128	141	97	147	1,509
	延患者数	106	131	130	126	139	146	102	121	128	141	97	147	1,514
脳神経外科	新患者数	28	28	27	25	8	25	22	30	23	33	28	24	301
	再来患者数	343	298	242	305	395	268	252	271	302	305	286	306	3,573
	延患者数	371	326	269	330	403	293	274	301	325	338	314	330	3,874
小児外科	新患者数	45	50	54	64	61	59	54	38	35	55	51	68	634
	再来患者数	450	370	426	445	551	391	454	391	439	471	359	492	5,239
	延患者数	495	420	480	509	612	450	508	429	474	526	410	560	5,873
整形外科	新患者数	83	54	74	75	55	43	96	99	80	86	55	68	868
	再来患者数	577	388	386	548	480	461	478	363	433	394	325	480	5,313
	延患者数	660	442	460	623	535	504	574	462	513	480	380	548	6,181
形成外科	新患者数	34	43	39	43	49	31	37	42	34	35	25	37	449
	再来患者数	287	277	248	284	335	218	290	237	254	269	251	322	3,272
	延患者数	321	320	287	327	384	249	327	279	288	304	276	359	3,721
精神科	新患者数	10	10	5	6	7	9	7	5	4	4	4	8	79
	再来患者数	251	257	240	298	285	256	284	276	276	274	271	305	3,273
	延患者数	261	267	245	304	292	265	291	281	280	278	275	313	3,352

アレルギー 内科	新患者数	4	4	7	9	7	5	5	4	3	6	3	5	62
	再来患者数	127	132	110	127	127	95	114	95	116	107	108	125	1,383
	延患者数	131	136	117	136	134	100	119	99	119	113	111	130	1,445
小児科	新患者数	21	23	17	20	23	24	19	14	16	15	19	17	228
	再来患者数	137	139	126	167	155	118	154	125	127	126	129	111	1,614
	延患者数	158	162	143	187	178	142	173	139	143	141	148	128	1,842
泌尿器科	新患者数	58	53	64	66	66	52	53	58	51	56	68	65	710
	再来患者数	405	363	400	462	502	396	406	436	382	324	339	429	4,844
	延患者数	463	416	464	528	568	448	459	494	433	380	407	494	5,554
産科	新患者数	48	52	48	40	49	41	46	64	47	25	35	41	536
	再来患者数	283	292	259	249	225	206	260	252	311	257	205	188	2,987
	延患者数	331	344	307	289	274	247	306	316	358	282	240	229	3,523
眼科	新患者数	39	54	52	60	48	49	51	47	52	50	38	47	587
	再来患者数	757	912	796	901	981	732	885	772	808	779	841	885	10,049
	延患者数	796	966	848	961	1,029	781	936	819	860	829	879	932	10,636
耳鼻咽喉科	新患者数	44	40	42	48	48	31	29	23	18	39	36	39	437
	再来患者数	531	423	406	539	537	462	477	447	460	436	430	454	5,602
	延患者数	575	463	448	587	585	493	506	470	478	475	466	493	6,039
放射線科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	新患者数	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
	再来患者数	79	77	82	85	95	67	83	74	79	76	69	86	952
	延患者数	80	78	82	85	95	67	83	74	79	77	69	86	955
救急科	新患者数	50	57	48	49	61	48	41	38	53	46	45	55	591
	再来患者数	66	71	61	55	54	60	57	58	71	97	64	81	795
	延患者数	116	128	109	104	115	108	98	96	124	143	109	136	1,386
歯科	新患者数	86	76	68	79	109	61	68	73	85	69	56	90	920
	再来患者数	212	187	210	231	218	198	202	199	180	204	173	201	2,415
	延患者数	298	263	278	310	327	259	270	272	265	273	229	291	3,335
合計	新患者数	681	686	689	733	767	622	669	664	623	645	574	679	8,032
	再来患者数	6,827	6,336	6,045	7,086	7,731	6,210	6,755	6,209	6,611	6,447	5,929	7,036	79,222
	延患者数	7,508	7,022	6,734	7,819	8,498	6,832	7,424	6,873	7,234	7,092	6,503	7,715	87,254

## 3. 月別科別入院患者数

H25 年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新規入院患者数	29	25	33	29	33	26	23	27	19	21	26	36	327
	退院患者数	33	28	36	31	44	24	31	31	37	23	30	43	391
	延患者数	683	678	762	744	754	666	804	708	721	705	718	857	8,800
腎臓内科	新規入院患者数	6	6	7	7	9	8	9	7	7	4	2	9	81
	退院患者数	5	6	8	8	11	9	9	6	12	6	3	4	87
	延患者数	70	176	142	180	138	160	141	135	150	92	51	156	1,591
脳神経内科	新規入院患者数	5	4	4	4	5	3	7	5	4	4	2	9	56
	退院患者数	13	16	8	11	14	12	9	11	13	11	6	14	138
	延患者数	166	164	120	110	138	107	176	205	210	205	88	144	1,833
血液内科	新規入院患者数	49	53	57	50	51	55	62	49	53	46	37	44	606
	退院患者数	54	62	57	58	57	55	66	54	62	40	38	47	650
	延患者数	864	909	975	950	1,007	942	906	858	933	772	766	854	10,736
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	1	2	4	4	4	4	2	5	6	5	3	5	45
	退院患者数	3	4	3	5	3	4	3	7	7	4	3	5	51
	延患者数	34	22	22	57	26	32	13	38	23	19	28	43	357
新生児内科	新規入院患者数	63	59	54	53	55	54	53	56	68	52	47	36	650
	退院患者数	45	64	43	45	52	63	48	48	55	49	34	49	595
	延患者数	1,931	2,001	1,914	2,062	2,032	1,791	1,591	1,770	1,923	1,988	1,835	1,931	22,769
心臓血管外科	新規入院患者数	8	9	10	14	12	9	11	14	10	13	10	18	138
	退院患者数	10	10	12	17	21	6	12	12	13	6	17	19	155
	延患者数	307	308	393	422	252	248	292	284	387	352	331	274	3,850
脳神経外科	新規入院患者数	13	13	15	17	9	11	15	10	11	13	11	12	150
	退院患者数	16	18	17	23	21	14	18	18	14	19	13	22	213
	延患者数	196	248	293	356	325	343	268	278	245	302	251	277	3,382
小児外科	新規入院患者数	42	43	42	59	72	37	41	43	43	39	42	38	541
	退院患者数	48	47	54	65	79	53	47	55	66	45	49	61	669
	延患者数	635	613	647	838	882	749	680	747	708	607	566	601	8,273
整形外科	新規入院患者数	15	27	16	15	19	15	19	24	19	24	18	17	228
	退院患者数	17	21	23	13	22	20	17	19	27	17	20	20	236
	延患者数	195	302	301	213	337	151	165	202	264	248	276	296	2,950
形成外科	新規入院患者数	18	14	18	23	18	17	25	21	23	23	20	22	242
	退院患者数	17	16	17	23	21	16	24	21	26	20	21	26	248
	延患者数	123	127	109	143	111	105	143	144	176	137	149	140	1,607
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

アレルギー内科	新規入院患者数	3	1	1	1	1	0	2	2	2	0	2	1	16
	退院患者数	4	3	3	1	1	0	1	4	2	1	3	1	24
	延患者数	32	12	17	3	2	6	21	24	6	15	12	2	152
小児科	新規入院患者数	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	1	0	5
	退院患者数	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	5
	延患者数	0	7	0	15	0	0	0	24	3	0	4	0	53
泌尿器科	新規入院患者数	23	21	25	21	24	20	22	24	20	21	22	29	272
	退院患者数	20	22	29	22	27	20	24	24	23	20	21	27	279
	延患者数	120	137	160	116	137	121	125	128	105	95	117	147	1,508
産科	新規入院患者数	45	58	38	45	39	37	35	51	57	45	32	41	523
	退院患者数	48	54	41	44	42	35	35	53	60	51	32	39	534
	延患者数	1,014	976	979	999	979	864	960	936	991	768	700	682	10,848
眼科	新規入院患者数	35	35	38	33	45	37	29	36	38	40	33	37	436
	退院患者数	40	28	41	33	44	35	34	31	43	33	33	38	433
	延患者数	169	135	198	140	195	167	151	172	191	156	151	177	2,002
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	15	12	8	14	10	11	15	10	10	11	12	10	138
	退院患者数	14	10	9	15	11	10	14	9	14	9	12	10	137
	延患者数	109	63	66	89	68	79	103	68	78	81	78	78	960
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科	新規入院患者数	69	84	48	70	76	75	50	60	87	67	60	71	817
	退院患者数	38	47	27	38	34	43	35	32	40	40	25	35	434
	延患者数	366	486	337	362	397	496	394	418	410	364	292	392	4,714
歯科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	439	467	418	460	482	419	420	446	477	428	380	435	5,271
	退院患者数	425	457	428	453	504	419	427	436	515	394	361	460	5,279
	延患者数	7,014	7,364	7,435	7,799	7,780	7,027	6,933	7,139	7,524	6,906	6,413	7,051	86,385

## 4. 年度別科別外来患者数

		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
循環器内科	新患者数	464	453	454	430	454
	再来患者数	6,817	6,939	7,107	7,301	7,749
	延患者数	7,281	7,392	7,561	7,731	8,203
腎臓内科	新患者数	174	162	163	152	157
	再来患者数	2,543	2,714	2,739	2,896	3,124
	延患者数	2,717	2,876	2,902	3,048	3,281
脳神経内科	新患者数	125	122	157	185	174
	再来患者数	2,360	2,731	3,315	3,512	3,515
	延患者数	2,485	2,853	3,472	3,697	3,689
血液内科	新患者数	61	73	79	70	64
	再来患者数	2,995	2,899	3,198	3,721	3,763
	延患者数	3,056	2,972	3,277	3,791	3,827
代謝・内分泌内科	新患者数	137	148	154	142	156
	再来患者数	4,546	4,756	4,741	4,668	5,091
	延患者数	4,683	4,904	4,895	4,810	5,247
新生児内科	新患者数	662	680	664	598	617
	再来患者数	3,486	3,466	3,042	3,213	3,160
	延患者数	4,148	4,146	3,706	3,811	3,777
心臓血管外科	新患者数	11	9	6	3	5
	再来患者数	1,305	1,391	1,484	1,530	1,509
	延患者数	1,316	1,400	1,490	1,533	1,514
脳神経外科	新患者数	243	247	270	223	301
	再来患者数	3,547	3,604	3,696	3,712	3,573
	延患者数	3,790	3,851	3,966	3,935	3,874
小児外科	新患者数	685	770	636	606	634
	再来患者数	5,167	5,192	5,212	5,486	5,239
	延患者数	5,852	5,962	5,848	6,092	5,873
整形外科	新患者数	714	733	819	835	868
	再来患者数	4,631	4,857	5,171	5,336	5,313
	延患者数	5,345	5,590	5,990	6,171	6,181
形成外科	新患者数	449	443	441	482	449
	再来患者数	3,629	3,656	3,504	3,620	3,272
	延患者数	4,078	4,099	3,945	4,102	3,721
精神科	新患者数	125	108	123	106	79
	再来患者数	3,297	3,633	2,583	2,859	3,273
	延患者数	3,422	3,741	2,706	2,965	3,352

アレルギー内科	新患者数	127	142	95	73	62
	再来患者数	2,562	2,629	2,687	1,447	1,383
	延患者数	2,689	2,771	2,782	1,520	1,445
小児科	新患者数	348	345	294	255	228
	再来患者数	1,918	1,924	1,599	1,556	1,614
	延患者数	2,266	2,269	1,893	1,811	1,842
泌尿器科	新患者数	782	794	776	724	710
	再来患者数	5,181	5,258	5,375	5,060	4,844
	延患者数	5,963	6,052	6,151	5,784	5,554
産科	新患者数	753	605	521	515	536
	再来患者数	3,467	3,269	2,967	2,773	2,987
	延患者数	4,220	3,874	3,488	3,288	3,523
眼科	新患者数	560	679	578	565	587
	再来患者数	9,205	9,863	10,226	10,502	10,049
	延患者数	9,765	10,542	10,804	11,067	10,636
耳鼻咽喉科	新患者数	393	476	442	436	437
	再来患者数	4,389	4,916	5,255	5,438	5,602
	延患者数	4,782	5,392	5,697	5,874	6,039
放射線科	新患者数	0	0	1	0	0
	再来患者数	1	0	4	0	0
	延患者数	1	0	5	0	0
麻酔科	新患者数	0	4	9	8	3
	再来患者数	989	1,032	947	952	952
	延患者数	989	1,036	956	960	955
救急科	新患者数	929	633	645	632	591
	再来患者数	1,094	931	1,131	1,008	795
	延患者数	2,023	1,564	1,776	1,640	1,386
歯科	新患者数	359	297	369	591	920
	再来患者数	2,956	2,686	2,785	2,681	2,415
	延患者数	3,315	2,983	3,154	3,272	3,335
合計	新患者数	8,101	7,923	7,696	7,631	8,032
	再来患者数	76,085	78,346	78,768	79,271	79,222
	延患者数	84,186	86,269	86,464	86,902	87,254

## 5. 年度別科別入院患者数

		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
循環器内科	新規入院患者数	280	296	318	321	327
	退院患者数	297	321	346	369	391
	延患者数	7,329	9,437	9,210	9,198	8,800
腎臓内科	新規入院患者数	90	67	73	84	81
	退院患者数	105	95	103	100	87
	延患者数	1,414	1,281	1,288	1,302	1,591
脳神経内科	新規入院患者数	34	27	31	42	56
	退院患者数	94	79	117	120	138
	延患者数	1,548	1,707	2,229	2,102	1,833
血液内科	新規入院患者数	509	462	566	581	606
	退院患者数	563	499	604	634	650
	延患者数	9,192	9,416	10,908	10,881	10,736
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	44	72	38	29	45
	退院患者数	47	81	42	35	51
	延患者数	439	559	302	306	357
新生児内科	新規入院患者数	786	695	663	631	650
	退院患者数	735	659	612	582	595
	延患者数	23,875	23,701	23,512	22,868	22,769
心臓血管外科	新規入院患者数	109	148	147	145	138
	退院患者数	125	176	178	165	155
	延患者数	4,064	4,054	4,457	3,845	3,850
脳神経外科	新規入院患者数	191	165	152	165	150
	退院患者数	248	220	219	221	213
	延患者数	3,383	3,724	3,204	3,353	3,382
小児外科	新規入院患者数	565	574	580	586	541
	退院患者数	642	639	670	687	669
	延患者数	9,035	8,777	9,627	9,073	8,273
整形外科	新規入院患者数	249	241	232	239	228
	退院患者数	248	252	243	247	236
	延患者数	3,122	3,225	2,586	2,998	2,950
形成外科	新規入院患者数	249	289	270	259	242
	退院患者数	264	297	282	268	248
	延患者数	2,137	2,172	1,856	1,563	1,607
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0

アレルギー内科	新規入院患者数	47	32	73	29	16
	退院患者数	59	37	76	28	24
	延患者数	485	194	283	354	152
小児科	新規入院患者数	61	17	4	3	5
	退院患者数	256	148	54	4	5
	延患者数	1,715	1,232	419	32	53
泌尿器科	新規入院患者数	269	273	315	260	272
	退院患者数	274	279	326	263	279
	延患者数	1,499	1,501	1,652	1,316	1,508
産科	新規入院患者数	635	597	587	524	523
	退院患者数	638	594	589	519	534
	延患者数	11,233	11,078	10,472	11,345	10,848
眼科	新規入院患者数	438	458	472	478	436
	退院患者数	438	453	476	477	433
	延患者数	1,968	2,104	2,284	2,193	2,002
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	88	106	106	112	138
	退院患者数	91	108	108	113	137
	延患者数	700	793	845	836	960
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
救急科	新規入院患者数	839	742	798	802	817
	退院患者数	346	357	377	470	434
	延患者数	3,853	3,532	3,715	4,471	4,714
歯科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	5,483	5,261	5,425	5,290	5,271
	退院患者数	5,470	5,294	5,422	5,302	5,279
	延患者数	86,991	88,487	88,849	88,036	86,385

## 6. 年齢別患者状況

H25年度

年齢区分	外 来		入 院	
	患者数(人)	構成比(%)	患者数(人)	構成比(%)
0歳～1歳未満	2,440	10.3%	960	24.2%
1歳以上～3歳未満	3,413	14.4%	607	15.3%
3歳～6歳未満	4,425	18.7%	621	15.7%
6歳～13歳未満	8,555	36.1%	920	23.2%
13歳以上～16歳未満	2,435	10.3%	224	5.7%
16歳以上	2,410	10.2%	628	15.9%
合 計	23,678	100.0%	3,960	100.0%

※実患者数

## 7. 地域別患者状況

(1) 外来

区 分	24年度		25年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫	神戸市	10,823	45.4%	11,043	46.6%
	姫路市	1,193	5.0%	1,161	4.9%
	尼崎市	387	1.6%	357	1.5%
	明石市	2,265	9.5%	2,254	9.5%
	西宮市	850	3.6%	846	3.6%
	洲本市	189	0.8%	193	0.8%
	芦屋市	278	1.2%	234	1.0%
	伊丹市	245	1.0%	220	0.9%
	相生市	50	0.2%	55	0.2%
	豊岡市	256	1.1%	273	1.2%
兵 庫 県	加古川市	856	3.6%	851	3.6%
	赤穂市	127	0.5%	126	0.5%
	西脇市	172	0.7%	159	0.7%
	宝塚市	321	1.3%	302	1.3%
	三木市	452	1.9%	429	1.8%
	高砂市	343	1.4%	298	1.3%
	川西市	96	0.4%	93	0.4%
	小野市	253	1.1%	257	1.1%
	三田市	457	1.9%	484	2.0%
	加西市	146	0.6%	135	0.6%
兵 庫 県	篠山市	156	0.7%	158	0.7%
	養父市	4	0.0%	2	0.0%
	丹波市	3	0.0%	6	0.0%

(1) 入院

区 分	24年度		25年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫	神戸市	1,783	44.9%	1,791	45.2%
	姫路市	212	5.3%	207	5.2%
	尼崎市	69	1.7%	51	1.3%
	明石市	352	8.9%	324	8.2%
	西宮市	126	3.2%	160	4.0%
	洲本市	24	0.6%	30	0.8%
	芦屋市	39	1.0%	41	1.0%
	伊丹市	31	0.8%	30	0.8%
	相生市	3	0.1%	5	0.1%
	豊岡市	48	1.2%	62	1.6%
兵 庫 県	加古川市	123	3.1%	131	3.3%
	赤穂市	17	0.4%	21	0.5%
	西脇市	23	0.6%	29	0.7%
	宝塚市	39	1.0%	36	0.9%
	三木市	94	2.4%	92	2.3%
	高砂市	48	1.2%	40	1.0%
	川西市	15	0.4%	15	0.4%
	小野市	52	1.3%	45	1.1%
	三田市	73	1.8%	73	1.8%
	加西市	29	0.7%	27	0.7%
兵 庫 県	篠山市	27	0.7%	29	0.7%
	養父市	2	0.1%	0	0.0%
	丹波市	0	0.0%	0	0.0%

兵 庫 県	南あわじ市	2	0.0%	2	0.0%
	朝来市	6	0.0%	2	0.0%
	淡路市	2	0.0%	2	0.0%
	宍粟市	2	0.0%	3	0.0%
	加東市	6	0.0%	3	0.0%
	たつの市	3	0.0%	4	0.0%
	猪名川町	29	0.1%	25	0.1%
	多可町	3	0.0%	4	0.0%
	稲美町	112	0.5%	130	0.5%
	播磨町	142	0.6%	153	0.6%
	市川町	36	0.2%	28	0.1%
	福崎町	48	0.2%	45	0.2%
	神河町	6	0.0%	4	0.0%
	太子町	90	0.4%	87	0.4%
	上郡町	31	0.1%	25	0.1%
	佐用町	26	0.1%	25	0.1%
	香美町	1	0.0%	1	0.0%
	新温泉町	1	0.0%	1	0.0%
	その他	2	0.0%	4	0.0%
計	20,470	85.9%	20,484	86.5%	
近畿圏	2,390	10.0%	2,532	10.7%	
近畿圏外	958	4.0%	662	2.8%	
総 計	23,818	100.0%	23,678	100.0%	

兵 庫 県	南あわじ市	0	0.0%	0	0.0%
	朝来市	0	0.0%	1	0.0%
	淡路市	0	0.0%	0	0.0%
	宍粟市	1	0.0%	1	0.0%
	加東市	0	0.0%	0	0.0%
	たつの市	0	0.0%	0	0.0%
	猪名川町	5	0.1%	2	0.1%
	多可町	0	0.0%	1	0.0%
	稲美町	20	0.5%	18	0.5%
	播磨町	21	0.5%	20	0.5%
	市川町	7	0.2%	2	0.1%
	福崎町	8	0.2%	6	0.2%
	神河町	0	0.0%	0	0.0%
	太子町	16	0.4%	10	0.3%
	上郡町	6	0.2%	2	0.1%
	佐用町	2	0.1%	7	0.2%
	香美町	0	0.0%	0	0.0%
	新温泉町	0	0.0%	0	0.0%
	その他	0	0.0%	0	0.0%
計	3,315	83.4%	3,309	83.6%	
近畿圏	432	10.9%	430	10.9%	
近畿圏外	226	5.7%	221	5.6%	
総 計	3,973	100.0%	3,960	100.0%	

※実患者数

## 8. 公費負担患者状況

H25 年度

公費負担制度	件数	構成比
1. 小児慢性特定疾患	1,155	47.3%
2. 育成医療	110	4.5%
3. 養育医療	193	7.9%
4. 児童福祉（措置）	59	2.4%
5. 特定疾患	73	3.0%
6. 生活保護	39	1.6%
7. 精神保健	71	2.9%
8. 自 費	740	30.3%
合 計	2,440	100.0%

## 9. 時間外患者状況

H25 年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	外来	0	0	1	1	0	1	1	0	1	2	2	1	10
	入院	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	2	6
	計	1	0	1	1	0	1	1	1	3	2	2	3	16
腎臓内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経内科	外来	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	入院	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	計	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3
血液内科	外来	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2
	入院	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3
代謝・内分泌内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新生児内科	外来	6	11	12	8	2	7	0	0	1	0	0	0	47
	入院	20	23	11	13	14	18	24	20	29	19	13	14	218
	計	26	34	23	21	16	25	24	20	30	19	13	14	265
心臓血管外科	外来	1	1	0	0	0	2	0	0	0	2	0	1	7
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	1	0	0	0	2	0	0	0	2	0	1	7
脳神経外科	外来	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
小児外科	外来	0	3	0	0	2	1	1	2	2	1	0	0	12
	入院	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	計	0	3	0	0	3	2	1	2	2	1	0	0	14
整形外科	外来	1	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	5
	入院	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	5
	計	2	2	2	1	1	1	0	0	0	0	1	0	10
形成外科	外来	0	1	1	1	0	2	0	1	1	1	0	0	8
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	1	1	1	0	2	0	1	1	1	0	0	8
精神科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ア レ ル ギ ー 内 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 児 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌 尿 器 科	外来	2	1	2	3	2	1	0	0	1	1	0	1	14
	入院	0	3	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	6
	計	2	4	3	3	2	1	0	1	1	1	1	1	20
産 科	外来	3	4	7	4	3	3	8	6	16	15	5	4	78
	入院	1	6	3	4	3	4	3	4	5	1	2	7	43
	計	4	10	10	8	6	7	11	10	21	16	7	11	121
眼 科	外来	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
耳 鼻 咽 喉 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放 射 線 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻 酔 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救 急 科	外来	48	59	52	46	45	54	47	45	59	84	57	74	670
	入院	20	25	20	22	23	20	16	20	29	21	19	21	256
	計	68	84	72	68	68	74	63	65	88	105	76	95	926
菌 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	外来	61	81	78	64	55	73	57	54	81	107	64	81	856
	入院	44	60	35	39	42	43	43	46	65	41	36	45	539
	計	105	141	113	103	97	116	100	100	146	148	100	126	1,395

区 分		単 位	24 年度 決 算	25 年度				決算評価		
				計 画	決 算	計 画 対 比	前 年 対 比	計 画 対 比	前 年 対 比	
業 務 量	入 院	許 可 病 床 数	床	290	290	290	0	0		
		稼 働 病 床 数	床	266	266	266	0	0		
		病 床 利 用 率	%	90.7	90.5	89.0	△ 1.5	△ 1.7	×	×
		病 床 利 用 率 (一 般 の み)	%	90.7	90.5	89.0	△ 1.5	△ 1.7	×	×
		延 入 院 患 者 数	人	88,036	87,866	86,385	△ 1,481	△ 1,651	×	×
		1 日 当 た り 患 者 数	人 / 日	241	241	237	△ 4	△ 4	×	×
		新 規 入 院 患 者 数	人	5,290	5,350	5,271	△ 79	△ 19	×	×
		平 均 在 院 日 数	日	15.6	15.4	15.4	0.0	△ 0.2	○	○
		入 院 単 価	円	82,193	83,497	82,842	△ 655	649	×	○
	入 院 単 価 (一 般)	円	82,193	83,497	82,842	△ 655	649	×	○	
	外 来	延 外 来 患 者 数	人	86,902	85,400	87,254	1,854	352	○	○
		1 日 当 た り 患 者 数	人 / 日	355	350	358	8	3	○	○
		外 来 単 価	円	20,203	20,392	19,778	△ 614	△ 425	×	×
		新 規 外 来 患 者 数	人	7,631	7,600	8,032	432	401	○	○
		紹 介 率	%	100.0	100.0	91.5	△ 8.5	△ 8.5	×	×
	手 術 件 数	件	3,981	4,000	3,836	△ 164	△ 145	×	×	
	救 急 車 搬 送 患 者 数	人	645	400	526	126	△ 119	○	×	
収 支	入 院 収 益	百万円	7,236	7,337	7,156	△ 181	△ 80	×	×	
	外 来 収 益	百万円	1,756	1,741	1,726	△ 15	△ 30	×	×	
	そ の 他 医 業 収 益	百万円	120	114	135	21	15	○	○	
	* 医 業 収 益 *	百万円	9,112	9,192	9,017	△ 175	△ 95	×	×	
	医 業 外 収 益 等	百万円	181	146	158	12	△ 23	○	×	
	* * 収 益 計 * *	百万円	9,293	9,338	9,175	△ 163	△ 118	×	×	
	給 与 費	百万円	6,416	6,472	6,456	△ 16	40			
	(うち退職給与金)	百万円	168	191	193	2	25			
	材 料 費	百万円	2,180	2,196	2,177	△ 19	△ 3			
	(うち薬品費)	百万円	1,386	1,397	1,376	△ 21	△ 10			
	(うち診療材料費)	百万円	714	726	728	2	14			
	経 費	百万円	1,430	1,518	1,465	△ 53	35			
	減 価 償 却 費	百万円	506	553	517	△ 36	11			
	そ の 他 の 医 業 費 用	百万円	88	94	73	△ 21	△ 15			
	* 医 業 費 用 *	百万円	10,620	10,833	10,688	△ 145	68			
	医 業 外 費 用 等	百万円	240	6	224	218	△ 16			
	* * 費 用 計 * *	百万円	10,860	11,053	10,912	△ 141	52			
差 引 損 益	百万円	△ 1,567	△ 1,715	△ 1,737	△ 22	△ 170	×			×
一 般 会 計 繰 入 金	百万円	1,811	1,815	1,781	△ 34	△ 30	-			-
当 期 純 損 益	百万円	244	100	44	△ 56	△ 200	×			×
資 金 収 支	百万円	928	831	1,009	178	81	○	○		
経 営 指 標	医 業 給 与 費 比 率	%	70.4	70.4	71.6	1.2	1.2	×	×	
	材 料 費 比 率	%	23.9	23.9	24.1	0.2	0.2	×	×	
	(うち薬品費比率)	%	15.2	15.2	15.3	0.1	0.1	×	×	
	(うち診療材料費比率)	%	7.8	7.9	8.1	0.2	0.3	×	×	
	経 費 比 率	%	15.7	16.5	16.3	△ 0.2	0.6	○	×	
	医 業 収 支 比 率	%	83.7	84.8	84.4	△ 0.4	0.7	×	○	
経 常 収 支 比 率	%	99.8	100.9	100.6	△ 0.3	0.8	×	○		

※ 24 年度決算は賞与引当金除き

※ 紹介率の算定  $\frac{(\text{文書により紹介された患者数}) + (\text{救急用自動車での搬送患者数})}{(\text{初診患者数}) - (\text{時間外、休日又は深夜に受診した 6 歳未満の初診患者数})} \times 100$

決算の推移

区分	365 日		365 日		366 日		365 日		365 日		365 日		365 日	
	入院日数	外来日数	入院日数	外来日数	入院日数	外来日数	入院日数	外来日数	入院日数	外来日数	入院日数	外来日数	入院日数	外来日数
	365	242	365	243	366	244	365	245	365	244	365	244	365	244
	決	算	決	算	決	算	決	算	決	算	決	算	決	算
	医業比	前年比	医業比	前年比	医業比	前年比	医業比	前年比	医業比	前年比	医業比	前年比	医業比	前年比
	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
稼働病床数	266	100.0	266	100.0	266	100.0	266	100.0	266	100.0	266	100.0	266	100.0
病床利用率	89.6	102.3	91.1	101.7	91.3	101.7	90.7	100.2	90.7	100.2	89.0	99.3	89.0	98.1
平均在院日数	14.9	96.1	15.8	106.0	15.4	101.3	15.6	97.5	15.6	101.3	15.4	98.7	15.4	98.7
人間ドック	0		0		0		0		0		0		0	
延入院患者数	86,991	102.3	88,487	101.7	88,849	100.4	88,036	100.4	88,036	99.1	86,385	98.1	86,385	98.1
(1日当り)	238	102.1	242	101.7	243	100.4	241	99.2	241	99.2	237	98.3	237	98.3
新規入院患者数	5,483	106.0	5,261	96.0	5,425	103.1	5,290	103.1	5,290	97.5	5,271	99.6	5,271	99.6
延外来患者数	84,186	96.4	86,269	102.5	86,464	100.2	86,902	100.2	86,902	100.5	87,254	100.4	87,254	100.4
(1日当り)	348	96.9	355	102.0	354	99.7	355	99.7	355	100.3	358	100.8	358	100.8
新規外来患者数	8,101	105.6	7,923	97.8	7,696	97.1	7,631	97.1	7,631	99.2	8,032	105.3	8,032	105.3
入院収益	6,354,437	80.2	6,879,319	108.3	7,049,609	79.6	7,235,953	102.5	7,235,953	79.4	7,156,347	98.9	7,156,347	98.9
(1日1人)	73,047	103.5	77,744	106.4	79,344	102.1	82,193	102.1	82,193	103.6	82,842	100.8	82,842	100.8
外来収益	1,454,627	18.3	1,507,449	104.9	1,691,258	17.7	1,755,701	112.2	1,755,701	19.3	1,725,720	19.1	1,725,720	19.1
(1日1人)	17,279	108.9	17,474	101.1	19,560	111.9	20,203	111.9	20,203	103.3	19,778	97.9	19,778	97.9
その他医業収益	118,169	1.5	111,152	94.1	111,725	1.3	119,905	100.5	119,905	1.3	134,832	1.5	134,832	1.5
* 医業収益計*	7,927,233	100.0	8,497,920	107.2	8,852,592	100.0	9,111,559	104.2	9,111,559	100.0	9,016,899	100.0	9,016,899	100.0
医業外収益	127,064	1.6	170,435	134.1	151,667	1.7	138,529	89.0	138,529	1.5	155,866	1.7	155,866	1.7
特別利益	58,015	0.7	2,185.1	3.8	27	0.0	43,082	4.5	43,082	0.5	1,926	0.0	1,926	0.0
** 収益合計**	8,112,312	102.3	8,668,954	106.4	9,004,286	101.7	9,293,170	103.9	9,293,170	102.0	9,174,691	101.7	9,174,691	101.7
給与費	5,708,725	72.0	6,041,044	71.1	6,203,528	70.1	6,685,902	102.7	6,685,902	73.4	6,455,660	71.6	6,455,660	71.6
うち退職給与金	(218,668)	2.8	(398,887)	4.7	(274,709)	3.1	(168,081)	68.9	(168,081)	1.8	(193,264)	2.1	(193,264)	2.1
うち退職給与引当金					(189,709)				(178,185)		(178,185)	2.0	(178,185)	2.0
材料費	1,873,937	23.6	1,993,138	106.4	2,192,863	24.8	2,179,583	110.0	2,179,583	23.9	2,176,781	24.1	2,176,781	24.1
経費	1,293,679	16.3	1,349,899	104.3	1,417,049	16.0	1,430,088	105.0	1,430,088	15.7	1,465,310	16.3	1,465,310	16.3
減価償却費	476,945	6.0	501,061	105.1	483,749	5.5	506,104	96.5	506,104	5.6	517,497	5.7	517,497	5.7
資産減耗費	46,044	0.6	19,506	42.4	22,258	0.3	28,132	114.1	28,132	0.3	5,575	0.1	5,575	0.1
研究研修費	53,217	0.7	46,518	87.4	54,752	0.6	59,989	117.7	59,989	0.7	67,032	0.7	67,032	0.7
* 医業費用計*	9,452,547	119.2	9,951,166	117.1	10,374,199	117.2	10,889,798	104.3	10,889,798	119.5	10,687,855	118.5	10,687,855	118.5
医業外費用	218,432	2.8	212,253	97.2	210,858	2.4	196,638	99.3	196,638	2.2	196,811	2.2	196,811	2.2
特別損失	60,222	0.8	2,147	3.6	26,142	0.3	43,505	1,217.6	43,505	0.5	27,670	0.3	27,670	0.3
** 費用合計**	9,731,201	122.8	10,165,566	104.5	10,611,199	119.9	11,129,941	104.4	11,129,941	122.2	10,912,336	121.0	10,912,336	121.0
差引損益	△1,618,889	△20.4	△1,496,612	△17.6	△1,606,913	△18.2	△1,886,771	△107.4	△1,886,771	△20.2	△1,737,645	△19.3	△1,737,645	△19.3
一般会計繰入金	1,891,124	23.9	1,899,673	100.5	1,731,266	19.6	1,810,684	91.1	1,810,684	19.9	1,781,957	19.8	1,781,957	19.8
当期純損益	272,235	3.4	403,061	4.7	124,353	1.4	△26,087	△30.9	△26,087	△0.3	44,312	0.5	44,312	0.5

(注1) 延入院患者数欄上段は、人間ドック分で外書き

※平成24年度費与引当金270,000千円を給与費に計上

区分	365 日	366 日	365 日					
	365	244	365	245	365	244	365	244
	決	算	決	算	決	算	決	算
	前年度							
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
経常収支比率	102.8	105.6	104.0	101.1	101.4	99.8	98.4	100.6
医業収支比率	83.9	105.9	85.4	101.8	85.3	83.7	98.1	84.4
	%	%	%	%	%	%	%	%
	100.9	100.8	100.9	100.8	100.9	100.8	100.9	100.8

# III 診 療 統 計

## 1. 総合診療科

総合診療科は(1) 専門各科における診療になじまない紹介患者への対応、(2) 院内各科からの相談対応、(3) セカンドオピニオンに準じた相談に応じることなどが主な業務である。症例としては発育・発達障害や感染症を中心に、各診療科にまたがるような疾患の全身管理や、様々な特殊な問題を抱えた common disease 症例が数多く紹介されてくる。

担当スタッフは2名であるが、4月から10月まで花田卓也医師が主として血液浄化担当として救急医療センターに参画して活躍してもらった。研修医や専攻医の研修の受け皿となり、研修計画の立案や実際の研修を担当し、コーディネートする役割も担っている。

入院患者は小児救急医療センターからの転棟症例を主に担当してきたが、スタッフの関係上現在は救急集中治療科スタッフが継続して担当する体制になっている。多くが基礎疾患を持った児の合併症、特に感染症である。

現在、新しい病院に向けて診療体制の見直しが進んでいるが、総合診療科は救急部門と連携して、救急総合診療という大きな枠組みの中で院内の患者の内科的管理を担当するようなイメージで進めていければと考えている。

我が国のみならず世界中の小児科が抱えている大きな問題として小児期に発症した疾患が治癒せずそのまま成人まで医療を必要とする患者が極めて多くなっており、所謂小児期発症疾患を有する患者の移行期医療の問題が深刻になっている。内科で管理すべきか、小児科が継続して管理するのかいろいろなケースが考えられるが、いずれにしてもその受け皿を整備する必要があり、そこに総合診療科がタッチしていくことが求められている。そのための環境整備を進めていく必要がある。

当院は各専門診療科に細分化されており、各々の診療科でのサブスペシャリティー研修を目的に応募する専攻医が多くを占めるが、専門医制度の大幅な改革に対応するためにも専攻医はまず小児医療の基礎を身に着けることが先決であり、その意味で総合診療の重要性をアピールし、研修体制を充実する必要があると思っている。

外来担当スタッフ：上谷良行、宅見晃子、山崎武美（阪神北広域こども急病センター）、笠井和子、森永杏子、藤田杏子、花田卓也

小児救急医療センター開設後は救急センター退院患者のフォローを午後の総合診療科外来で実施し、主として専攻医が担当している。

## 2. 救急集中治療科

### 1. 診療活動

小児救急医療センターが平成19年10月1日に開設以来6年、当センターの前身である救急医療室が平成14年10月に開設され、三次救急医療がスタートしてから11年が経過した。

当センターは院外からの重症患者の受入や院内の急変患者、術後患者の受入など、多岐にわたる分野の患者を受け入れているため、各関連診療科との連携、調整が重要で、科長の竹田医師を中心に看護サイドとも密な協力のもと細かい気配りで対応している。

本年は救急医の取扱患者数が年間1936人で、ほぼ昨年並みであった。最重症に分類したいわゆる救命救急に相当する患者数は294人で昨年の296人とほぼ横ばいの状況である。初診の最重症患者は昨年より11人増加しており、院外からの重症患者の搬送がより敷居低く行われるようになってきていることを表している。現在の近隣の小児科関連医療施設のスタッフの充足状況を考えると、重症患者を当院へ搬送する際に医師が同乗することは、その間の当該施設の医療をストップさせることになり、ほとんど不可能に近い。今後は患者受け入れに際して当院から出迎え搬送できる体制を組むことで、より効率的で安全な医療を提供できるのではないかと考えており、その体制を整備できるように努力したい。

### 2. スタッフ

救急集中治療科：上谷良行、竹田洋樹、福原信一、山口善道、中岸保夫、神田杏子、梶原伸介、楠元真由美

兼任：三好麻里（部長・免疫アレルギー科）、田中亮二郎（腎臓内科）、永瀬裕朗（脳神経内科）  
長谷川大一郎（血液腫瘍科）、尾崎佳代（代謝内分泌科）、丸山あずさ（脳神経内科）  
笠井和子（免疫アレルギー科）、藤田杏子（脳神経内科）、中川拓（腎臓内科）  
花田卓也（総合診療科）

フェロー：田中 司、辻真之介

専攻医：辻真之介（平成25年1月～3月）

祖父江俊樹（平成25年10月～11月）

谷口紫野（平成25年2月～4月）

白鳥孝俊（平成24年11月～平成25年1月）

中西啓太（平成24年12月～平成25年3月）

橋本興人（平成25年4月～9月）

上村和也（平成25年10月～）

初期研修医：

吉田淳史	県立塚口病院	6月～8月	救急集中治療科
------	--------	-------	---------

小児外科、脳神経外科、整形外科、形成外科など外科系各科は on call で back up 体制をとっている。

兵庫県立こども病院 小児救急医療センター 統計 2013年1月～12月

【1】 救急医療センター 来院患者 全体統計

2013年 1月～12月	外来のみ				本館入院				救急センター入院				小計				合計									
	時間内		時間外		時間内		時間外		時間内		時間外		時間内		時間外											
	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診										
	903		670		135		597		214		545		1391		1936											
救急集中 治療科 Dr 外来診察	39		113		557		74		112		102		246		351		40		369		1022					
	233		670		84		214		597		87		545		1391		1936									
他科 Dr 外来診察	1038		144		556		898		836		1656		2492													
	1		15		0		20		0		10		3		8		1		25		3		28		57	
	2		11		0		4		0		4		1		4		2		15		1		8		26	
	1		13		2		16		1		6		2		0		2		19		4		16		41	
	1		21		1		13		1		0		0		2		2		22		1		13		38	
	0		5		3		4		4		1		2		1		4		6		5		5		20	
	0		27		1		16		0		11		1		3		0		38		2		19		59	
	0		87		0		101		0		23		0		41		0		110		0		142		252	
	1		31		0		15		3		10		0		3		4		41		0		18		63	
	6		210		7		189		9		66		9		60		15		276		16		249		556	
216		196		75		69		144		291		265		836		1656		2492								
412		556		898		1594		836		1656		2492														
45		404		120		746		15		111		19		134		40		836		1656		2492		2492		
合計		1594		898		836		1656		2492																

## 【2】救急センター外来・入院患者の内訳（救急集中治療科診察）2013年1月～12月

### 1) 総内訳

外来患者	1038 (本館入院 135 帰宅 903 )
------	-------------------------

入院患者	死亡	23	PICU	300
	最重症	294		
	重症	581	救病棟	598
	計	898	計	898

### 2) 来院患者重症度別

#### ① 重症度

来院患者		初診	再診	計	%
	死亡	10	13	23	1.2
	最重症	134	160	294	15.2
	重症	214	367	581	30.0
	外来	168	870	1038	53.6
	計	526	1410	1936	100

#### ② 事故・疾病別 重症度

来院患者		事故	%	疾病	%	計	%
	死亡	4	17.4	19	82.6	23	100.0
	最重症	42	14.3	252	85.7	294	100.0
	重症	101	17.4	480	82.6	581	100.0
	外来	176	17.0	862	83.0	1038	100.0
	計	323	16.7	1613	83.3	1936	100.0

### 3) 来院方法別

		小計	計	%	
自家用車・タクシー・徒歩		1733	1733	69.5	
救急車	公共	637	668	26.8	
	Dr car	当院			4
		災害医療			4
		中央市民			
		その他			23
ヘリ		4	4	0.2	
転棟		87	87	3.5	
計		2492		100.0	

#### ヘリでの搬送例

3/29 6m 呼吸不全、先天性気管狭窄症 新宮市立医療センターから

5/24 10y てんかん発作、脳性麻痺 大阪大学から  
10/9 2y 交通外傷、現着災害医療センターヘリより直接

12/12 3m 心肺停止蘇生後、遺伝子異常症の疑い 姫路赤十字病院から

## 4) 主な症例

1	人工換気療法	81
2	緊急手術	92
	消化器系	40
	脳神経系	40
3	交通外傷	9
4	脳低温・平温療法	23
5	血液浄化	9
6	到着時心肺停止	14

## 5) 外科系緊急協力科(含重複)

小児外科	247	泌尿器科	56
脳外科	184	放射線科	61
麻酔科	40	耳鼻科	16
形成外科	30	眼科	17
整形外科	42	精神科・指導相談	1
心外循環器	78	歯科	2

## 6) 救急センター入院 最重症患者住所

	2013年	
	数	%
神戸・三田	138	43.5
阪神	26	8.2
東播磨	43	13.6
北播磨	23	7.3
西播磨	28	8.8
但馬	5	1.6
丹波	11	3.5
淡路	11	3.5
県外	32	10.1
不明		0.0
計	317	100.0

### 3. 代謝・内分泌科

#### 1. 診療活動

部長（科長）	郷司 克己
医長	尾崎 佳代
フェロー	野村 安隆

本年はスタッフ2名、フェロー1名の3名体制で診療を行った。1～2か月のサイクルで専攻医が研修を行った。

#### 2. 診療活動

代謝内分泌科は小児における大きな特性である成長と成熟にかかわる疾患、すなわち低身長症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、思春期発来異常、性分化異常などを対象としている。さらに、小児がん経験者における内分泌合併症に対しても積極的に取り組んでいる。また、小児糖尿病においては患児が日常生活をよりよく過ごせるように、代謝内分泌科医師、看護相談外来看護師、栄養士が合同で月1回カンファレンスを行っている。各部署が情報を共有することによって、患児一人一人の年齢、環境にあわせてよりきめ細やかなサポートが出来るように努めている。

当科においては遺伝工学的手法を駆使して診療にあたることを社会的要請に合致することと考え分子生物学的技術の確立に努めている。本年度は先天性副腎過形成、副甲状腺機能低下症など臨床と直結する成果が得られた。なかでも先天性副腎過形成にエーラスダンロス症候群を合併する症例の報告は小児内分泌学会において高い評価を得た。今後も神戸大学小児科とも協力しながら、分子生物学的手法を用いた解析、研究を臨床の場に役立てたいと考えている。

#### 代謝内分泌科 2013 年度

##### 外来患者（新患）

	患者数
低身長症	70
甲状腺疾患	30
性腺疾患	38
副腎	2
糖代謝異常	12
肥満	3
マススクリーニング クレチン症	20
先天代謝異常症	8
先天性副腎過形成	5
その他	29
計	217

##### 入院患者

	患者数
低身長症	17
糖代謝異常	15
性腺疾患	3
甲状腺疾患	1
副腎疾患	2
その他	12
計	50

## 4. リウマチ科、アレルギー科

リウマチ・アレルギー科は、三好、中岸、笠井、水田が診療を担当した。

## 【診療活動】

リウマチ性疾患の対象としては、若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎、自己炎症性疾患などがあり、不明熱を主訴とした紹介もあり、その鑑別診断も重要な役割と考えている。診断・治療が日進月歩であるリウマチ性疾患のこどもへより良い対応をするように努力を続けている。リウマチ性疾患の患者数も徐々に蓄積され、近畿各地からの紹介や相談も増えてきている。JIA に対する生物学的製剤の診療実績も積み重ねられてきており、地域の中心的病院としての役割を果たしていると考えている。今後も診療に努力を続けるとともに後進の育成にも力を尽くしたい。

一方、アレルギー性疾患の対象としては、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、じんましん、などがあり、ガイドラインに沿ったスタンダードな治療を普及し、地域の中心的病院としての役割を果たすように努力を続けている。

## 1) 外来初診患者数

## 1. アレルギー疾患

気管支喘息	2
アトピー性皮膚炎	15
好酸球性胃腸症	3
食物アレルギー	28
その他のアレルギー疾患	15

## 2. リウマチ性疾患

若年性特発性関節炎	21
〈うち、精査して否定〉	〈12〉
SLE	6
〈うち、精査して否定〉	〈3〉
皮膚筋炎	3
〈うち、精査して否定〉	〈3〉
周期熱	3
高安病	2
ベーチェット病	1
不明熱	2

## 2) 入院患者数

## 1. アレルギー疾患

アトピー性皮膚炎	1
好酸球性胃腸症	1

## 2. リウマチ性疾患

若年性特発性関節炎	3
皮膚筋炎	1
SLE	1
MCTD	1
大動脈炎症候群	1
川崎病	1
不明熱	1

## 5. 脳神経内科

### 1. 人事異動

#### 【スタッフ】

医長（科長）	永瀬 裕朗
医長	丸山あずさ
医長	藤田 杏子

#### 【フェロー】

	西山 将広
10月－	田中 司

#### 【専攻医】

2013年 1月	高藤 哲
2－3月	武岡 恵美子
4－5月	日外 祐理
6－7月	二野 菜々子
8－9月	中西 啓太
10－12月	石田 悠介

本年は田中がフェローとなりスタッフ3名と合わせ5名体制となった。児玉荘一先生に引き続き週1回スーパーバイズをお願いしている。

### 2. 活動状況

診療活動は、脳神経内科外来初診291名・発達行動小児科外来初診患者は46名、外来延べ人数3623名であった。また入院患者延べ人数は1913名であった。県内の中核機関としての役割を引き続き担って行きたい。

当科で重点的に取り組んでいる集中治療領域における連続脳波モニタリングは88例に対して行った。意識障害の評価には必須の管理であるが全国的に見ても、有数の件数である。引き続き急性脳症や重症頭部外傷などの重篤な症例の管理の質の向上に取り組んでいく予定である。またビデオ下発作時脳波検査は17例に行った。

小児で対応できる機関の限られている神経伝導速度検査にも対応できる体制を整え、検査体制を充実させてきている。

学術活動についても引き続き尽力している。急性脳症に対する県下多施設での共同研究のデータを学会報告し、publicationの準備をしている。その他の業績については別項を参照していただきたい。

一般的な診療・学術活動に加え、脳死判定委員会、虐待防止委員会の活動にも積極的に参与している。永瀬は本年も引き続き兵庫県の虐待防止委員を務めた。また県下の医療機関、保健所、児童相談所、児童養護施設、学校などの多職種で構成される虐待防止研究会の事務局を引き続き担当している。こどもを取り巻く環境に関する社会的活動にも積極的に貢献している。

脳神経内科外来

初診患者 291 例

(疑い疾患名を含む、一部重複あり。)

発作性疾患 156

てんかん	85
ウエスト症候群	5
熱性けいれん	35
泣き入りひきつけ	6
不随意運動	8

感染性・炎症性疾患 27

急性脳炎・脳症	27
---------	----

自己免疫性神経疾患 5

多発性硬化症	3
ADEM	1
Bell 麻痺	1

発達障害 56

精神遅滞	44
広汎性発達障害	11
ADHD	3

心身症 等 38

チック	5
頭痛	13
摂食障害	6
睡眠障害	6
転換性障害	5

その他

脳性麻痺	19
大頭症・小頭症	6
脳血管疾患	10
神経皮膚症候群	1
神経変性疾患	3
神経筋疾患	6
頭部外傷	1

検査

連続脳波モニタリング	88 件
ビデオ下発作時脳波	17 件

発達行動小児科外来初診患者 46 例

広汎性発達障害	24
精神遅滞	7
注意欠陥多動障害	8
その他	8

(疑い疾患名を含む、一部重複あり)

## 6. 血液・腫瘍科

### 【人事】

フェローの山下達也医師が転出したが、矢内友子医師が正規雇用で転入となった。スタッフの合計人数には変化は無かった。

転出：山下達也 フェロー（岐阜市民病院へ）

転入：矢内友子 正規（神戸大学より）

なお短期ローテーターは割愛した。

### 【診療活動】

昨年2月に全国で15施設の小児がん拠点病院として認定を受けた。小児がん拠点病院としての取り組みとして

- ① 合計7回の院内小児がん拠点病院推進会議開催
- ② がん相談支援センター設置
- ③ 緩和ケア委員会設置
- ④ 臨床心理士1名のがん診療への介入
- ⑤ 長期フォローアップ外来設置
- ⑥ 当科にがん登録担当クラークとCRC（Clinical Research Coordinator）各1名配置
- ⑦ 中四国ブロックとの連携強化（TV会議に参加）
- ⑧ 兵庫県下の小児がん診療病院との連携会議（1回）および研究会（3回）開催

などを実現した。

臨床面では昨年までと同様新患は表1に示す通り全国屈指の症例数となっている。また表2の造血幹細胞移植もほぼ例年並みの施行数となった。

新病院への移転は平成28年度初頭が予定されているが、新病院では当科の病床数が増加される予定で、また約1年遅れて隣接地に粒子線治療センターの設立も決定した。

今後も悪性のみならず小児の難治性血液・腫瘍疾患に対して後遺症無き治癒を目指してスタッフ一同頑張っていく所存である。

なお学会活動等学術面は学会・研究・教育活動の項を参考にされたい。海外での国際学会を含めて着実に実績を上げているところである。

表 1 新患一覧

		合計
血液腫瘍性疾患	急性リンパ性白血病	15
	BCP	15
	急性骨髄性白血病	6
	AML (Down 症)	(3)
	AML (M1)	(1)
	AML (M4)	(1)
	APL	(1)
	慢性骨髄性白血病	1
	悪性リンパ腫	4
	ALCL	(2)
	T-lymphoblastic	(2)
	骨髄異形成症候群	3
	MDS	(2)
	RCMD	(1)
	Down 症 TAM	3
	ランゲルハンス細胞組織球症	1
	血球貪食性リンパ増殖性疾患	6
		39
固形腫瘍性疾患	髄芽腫	1
	AT/RT	2
	頭蓋内胚細胞腫瘍	9
	上衣腫	1
	神経膠芽腫	1
	星細胞腫	1
	髄膜腫	1
	神経芽腫	3
	網膜芽細胞種	5
	肝芽腫	1
	腎腫瘍	
	Wilms 腫瘍	1
	ユーイング肉腫	3
	横紋筋肉腫	2
	奇形腫群腫瘍	6
	mature teratoma	(4)
	immature teratoma	(2)
	腭腫瘍	1
	結節性甲状腺腫	1
	その他	5
		44
血液疾患	溶血性貧血	
	自己免疫性溶血性貧血 (AIHA)	1
	球状赤血球症	1
	血栓性血小板減少性紫斑病	1
	特発性血小板減少性紫斑病	6
	血友病 A	3
	再生不良性貧血	2
	原発性免疫不全症候群	2
	自己免疫性好中球減少症	3
	好中球減少症	2
	アンチトロンビンⅢ欠乏症	2
	第Ⅶ因子欠乏症	1
	その他	30
	(ドナー)	25
		79
合計		162

表 2 造血幹細胞移植一覧

	疾患名	年齢／性	病期	移植の種類	転帰
1	Pineoblastoma	10/F	1st PR	APBSCT	無病生存
2	MBL	10/M	1st CR	APBSCT	無病生存
3	NBL	6/M	2nd CR	UBMT	担癌生存
4	AML	8/M	2nd CR	RBMT	原病死
5	SCN	4/M		UBMT	無病生存
6	Hepatoblastoma	4/F	PR	APBSCT	無病生存
7	AML	2/F	1st CR	RBMT	無病生存
8	NBL	5/M	1st PR	APBSCT	無病生存
9	MBL	7/F	1st CR	APBSCT	無病生存
10	MBL	3/M	1st CR	APBSCT	無病生存
11	Retinoblastoma	4/M	2nd CR	APBSCT	原病死
12	NBL	2/M	1st PR	APBSCT	無病生存
13	NBL	8/F	3rd PR	CBT	担癌生存
14	Retinoblastoma	4/M	2nd CR	APBSCT	原病死
15	MDS	15/M		UBMT	無病生存
16	HLH	5/M	1st relapse	CBT	原病死
17	AML	4/M	3rd CR	CBT	無病生存
18	AML	4/M	生着不全	CBT	無病生存
19	NBL	6/M	2nd PR	RBMT	担癌生存
20	RMS	10/F	1st CR	APBSCT	無病生存
21	NBL	10/F	3rd relapse	RBMT	担癌生存
22	AML	10/F	1st CR	CBT	無病生存
23	AML	3/F	2nd CR	CBT	無病生存

NBL : 神経芽腫  
 SCN : Severe congenital neutropenia  
 MBL : 髄芽腫  
 AML : 急性骨髄性白血病  
 HLH : 血球貪食性リンパ組織球症

APBSCT: 自家末梢血幹細胞移植  
 RBMT : 血縁者間同種骨髄移植  
 UBMT : 非血縁者間同種骨髄移植  
 CBT : 臍帯血移植

## 7. 循環器内科

### 【スタッフ・フェロー】

スタッフ	城戸佐知子	専攻医	宇仁田 亮
	田中 敏克		日外 祐理
	藤田 秀樹		祖父江 俊樹
	富永 健太		白鳥 孝俊
	佐藤 有美		石田 悠介
	小川 禎治		中西 啓太
	亀井 直哉		
フェロー	古賀 千穂		
	雪本 千穂		
	三木 康暢		

スタッフ7名、フェロー3名、他に専攻医数名。

専攻医は2-4ヶ月ごとのローテーションで、主に入院患者管理、カテーテル検査の補助などに従事。心疾患患者の扱いに慣れ、心疾患の診断技術として主として心エコーの基礎を習得し、カテーテル検査の結果を読み、軽症では診断から手術適応の判断ができるようになることを主たる目的とする。

フェローは1年単位（1-3年）の比較的長期間循環器診療に携わり、できる限りカテーテル検査、心エコー検査を単独でこなし、軽症から重症の疾患までの治療方針を自身の判断で立てられることが目標である。小児循環器専門医の取得も可能である。

### 【診療活動】

- (1) 外来：月曜日から金曜日まで週5日、午前・午後、基本1診。外来総患者数はのべ8054名（実数3472名）。

新規患者数は月曜日以外の毎日受け入れており、2013年の総新規患者数は526名（うち278名に心疾患・不整脈など経過観察を要する疾患あり）であった。外来での有疾患患者の主体は比較的軽症の疾患であり、内訳は心室中隔欠損（94）、心房中隔欠損（71）、肺動脈狭窄（20）、動脈管開存（20）、川崎病（既往含む）（10）、ファロー四徴症（6）、房室中隔欠損（3）、両大血管右室起始（4）、大動脈弁・僧帽弁疾患（12）、不整脈（20）、心筋疾患（7）、他院での術後症例、など。

専門外来は、カテーテル治療外来（木曜午前、担当：田中医師）、思春期・成人期外来（月曜午後、経過観察、妊娠・分娩の相談など、担当：城戸）、胎児心エコー外来（火曜日・木曜日、担当：佐藤医師）、不整脈外来（金曜日、担当：小川医師）などを行っており、徐々に充実させていっている。

また地域医療連携についても昨年に引き続き充実を図っている。当院では外来枠の制限があるため、地域の病院での先天性心疾患外来が充実されることが望ましいが、兵庫県内では従事可能な小児科循環器医の数が少なく、今後の大きな課題である。成人に達した患者については、神戸大学附属病院循環器内科、兵庫県立姫路循環器病センターなどで、循環器内科医と共同で診療応援（外来応援）を行っている。また胎児心疾患診断についても、当院産科外来以外にも、他院産院にて診療の応援を行っている。尚、胎児心臓超音波専門施設にも認定されている。

- (2) 入院：1年間の総入院患者数は433名。カテーテル検査・治療目的の入院が多数を占めるが、新生児・乳児期の重症疾患患者は昨年に引き続き、入院患者の半数を占めている。心疾患の他に多疾患を合併

する症例も多く、ICU 滞在期間・入院期間は必然的に長くなっており、昨年に引き続き病棟運営上の問題となっているが、今後も各科スタッフ協調して受け入れを図っていく。入院の内訳は以下の通り。

- (3) 生理検査:総心電図件数 4476 件、Master 負荷心電図件数 1879 件、Holter 心電図件数 179 件、トレッドミル負荷心電図は 115 件。心エコーは 5020 件（本年統計は ICU や手術室でのエコー件数を除いている）、胎児心エコーは 356 件（うち 221 件で異常所見あり）。
- (4) 心臓カテーテル検査:総件数 277 件。造影 CT や心臓 MRI など、より低侵襲かつ外来で可能な検査が一般化しており、カテーテル検査の位置づけも変化しているが、変わらず重要な検査である。カテーテル治療の件数は微増で 94 件。

### 【その他の活動】

- (1) カンファレンス:月曜日に心臓外科との合同カンファレンス、木曜日にカテーテル検査および心エコー検討会、木曜日朝に心臓外科と合同の抄読会・検討会を行い、討議の時間をもっている。
- (2) 学会参加:小児循環器病学会、JPIC 研究会、胎児循環器学会、成人先天性心疾患研究会、HOT 研究会、川崎病研究会、日本循環器学会などへの参加。
- (3) 循環器科主催患者教室:年に 2-3 回。2013 年は主に投薬のある小学生を対象に、普段外来で行っている検査の意味や、自分のバイタルサインの取り方、薬の知識などを確認し、ノートにまとめていく教室を開催した。

### 【新規患者内訳】

1. 入院患者総数(カテーテル検査入院重複あり)	433 名	心室中隔欠損	6
A. 新生児期・乳児期	149	心房中隔欠損	30
心室中隔欠損・心内膜症欠損	28	動脈管開存	13
心房中隔欠損(肺高血圧などを伴う)	4	両大血管右室起始	15
大動脈離断複合・縮窄複合	4	大動脈弓離断・大動脈縮窄	3
両大血管右室起始	18	房室中隔欠損	4
大血管転位	11	大血管転位	12
肺動脈閉鎖・心室中隔欠損	2	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖	6
ファロー四徴症、	9	重症肺動脈狭窄	3
ファロー四徴症・房室中隔欠損	1	大動脈弁疾患(狭窄・逆流)	12
左心低形成症候群	8	川崎病・冠動脈後遺症	7
無脾症候群	3	総肺静脈環流異常	4
その他の単心室系疾患	11	両大血管右室起始・房室中隔欠損	4
総肺静脈還流異常	3	感染性心内膜炎	2
エプスタイン奇形	1	不整脈	1
肺動脈弁欠損・ファロー四徴症	2	エプスタイン奇形	1
総動脈幹症	2	総動脈幹症	3
肺動脈閉鎖(心室中隔欠損を伴わない)	11	僧帽弁閉鎖不全	1
不整脈・心不全	6	肺動脈弁欠損	3
大動脈弁狭窄	6	大動脈・肺動脈瘻	3
動脈管開存	2	修正大血管転位	3
重症肺動脈弁狭窄・肺動脈狭窄(治療を要する)	13	その他	4
心筋疾患	2		
僧帽弁逆流	1	C. カテーテル治療(カテーテル総数 277 件)	94
川崎病冠動脈瘤	1	弁形成(肺動脈弁)	13
		血管形成(肺動脈・大動脈)	30
B. 幼児期以降の入院患者疾患内訳(カテーテル検査入院含む)	284	コイル塞栓術(動脈管開存)	4
フォンタン型手術関連疾患(いわゆる単心室型心臓)	56	コイル塞栓術(側副血管・動静脈瘻)	19
左心低形成症候群	11	バルーン心房中隔裂開術	8
無脾症候群・多脾症候群	11	心房中隔欠損閉鎖術(Amplatzer)	13
ファロー四徴症	11	動脈管開存閉鎖術(Amplatzer)	7
肺動脈閉鎖・心室中隔欠損	56		

## 8. 腎臓内科

外来／入院診療については、中川拓医師、神田杏子医師と田中亮二郎医師が担当した。また専攻医の高藤哲医師（2月、3月）、白鳥孝俊医師（8月、9月）、中西啓太医師（10月、11月）、日外祐里医師（1月－3月）が研修した。平成25年の外来初診患者数186名、入院患者数は94名であった。

## 【活動状況】

ネフローゼ症候群、急性腎炎、IgA腎症、紫斑病性腎炎、遺伝性腎炎、その他慢性腎炎、全身性エリテマトーデス、溶血性尿毒症症候群などの急性腎不全、慢性腎不全、高血圧、尿路感染症、先天性尿路奇形、腎臓移植後、夜尿症等を対象としている。本年度はネフローゼ症候群や腎炎などに対して39例の腎生検を施行した。またPICUにおいて11名の患児（TTP/HUS 2名、腎不全 4名、川崎病 4名、激症肝炎 1名）に急性血液浄化を施行した。また低形成腎による慢性腎不全の患児1名に対して新規に腹膜透析を導入し、現在5名の慢性腎不全患児が外来維持腹膜透析を受けている。腎移植に関しては他院にお願いし、現在計5名の患者さんが外来にてフォロー中である。今後急性腎不全に対する血液浄化や慢性腎不全に対する在宅腹膜透析を積極的に押し進めたいと考えている。一方平成15年度より厚生労働科学研究「小児難治性腎疾患に対する薬物療法ガイドライン作成のための多施設協同研究」に参加し、巣状メサンギウム増殖を示す小児IgA腎症、初発ネフローゼ症候群、頻回再発型ネフローゼ症候群、ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群を対象とした多施設協同非盲検ランダム化比較試験を行ってきた。また平成20年より厚生労働科学研究「小児保存期慢性腎臓病患者の長期予後の解明と腎不全進行抑制の治療法の確立」に参加し、本邦小児の新たな診断基準による小児慢性腎臓病（CKD）の実態把握のための調査研究や保存期の小児慢性腎臓病を対象とした多施設協同非盲検ランダム化比較試験を行ってきた。さらに平成20年度より小児期発症の難治性ネフローゼ症候群に対するIDEC-C2B8の多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験を医師主導治験として開始し、治験を終了した。現在は、「初発寛解後早期に再発する小児ステロイド感受性ネフローゼ症候群患者を対象とした標準治療と標準治療＋高用量ミゾリピン併用治療の多施設共同オープンランダム化比較試験」と「頻回再発型小児ネフローゼ症候群を対象としたタクロリムス治療とシクロスポリン治療の多施設共同非盲検ランダム化比較試験」の臨床研究に参加している。また平成25年より神戸市と協力して、「3歳児検尿の効果的方法と腎尿路奇形の早期発見に関する研究」を行っている。当科では臨床研究・治験と疫学的研究を通して新しいエビデンス構築に向けて貢献している。また院内活動としては、週1回英文抄読会を行い、最新の情報の収集に努めている。また平成18年度より日本腎臓学会の研修教育施設にも指定されている。臨床研究のできる小児腎臓医を育てることを目標としている。

## 平成25年 入院患者

ネフローゼ症候群	50
IgA腎症	7
膜性腎症	1
微小変化型	3
ループス腎炎	5
紫斑病性腎炎	4
ADPKD	1
ARPKD	6
MCDK	1
TTP/HUS	2
慢性腎不全	6
腎移植後	1

尿路感染症	6
腎血管性高血圧	1
計	94名

## 9. 精神神経科

### 【スタッフ】

常勤

関口典子

非常勤

長谷川弘子（神戸市こども家庭センター）

松川悦之（松川診療所）

スタッフの体制は昨年に引き続き、常勤1名、非常勤2名となっている。

関口が月曜日から金曜日まで毎日外来診療を行い、長谷川（月曜日）と松川（金曜日）が週1回半コマ外来を担当している。

### 【活動内容】

- 1) 主な対象疾患は、発達障害の診断、療育相談をいった心理発達の障害、チック障害、非器質性遺尿、遺糞などの情緒障害、心因性視力障害、心因性聴覚障害、強迫性障害、外出困難を伴う不登校（不安障害）などの神経症性障害などである。
- 2) 診療活動は外来診療が主である。再来患者増加のため、新患枠は増やすことができていないが、新患の予約待ちは1週間から長くとも1か月以内となるように調整している（院内紹介の急ぎの場合は随時対応している）。新患数は乳幼児後期から微増し、中学生年齢で最大となる。初診時の病名としては、就学前は、発達障害が最も多く、中学生年代では神経症性障害（不安障害、身体表現性障害など）が最も多い。
- 3) 入院患者に対するリエゾンは、虐待、産後うつなど精神科医が必要とされている分野は多い。また、緩和ケアを含め家族への支援を期待されることもある。しかしながら、一人医長で外来をこなしながらの業務であり、病棟での診療は十分にできていない。今後の課題である。
- 4) 精神科領域での啓蒙、教育研修として、神戸大学発達科学部の精神科講義、保健所での講演を行った。児童精神科領域への興味を持つ精神科医に対して見学を受け入れている。
- 5) 司法精神医学として、発達障害に関連する分野で成人の精神鑑定を引き受けた。
- 6) 今年度は児童青年期精神医学会総会において「当院におけるADHD薬物療法の現状」を発表した。今後も学会での発表等を通して、学術的貢献も充実したものにしたいと考えている。

## 平成 25 年 新患分布

		幼児期	学童期	中学高校	18 歳以上	計
F0	脳損傷、脳機能不全および身体疾患による他の精神障害		2	2		4
F1	鎮静薬又は催眠薬使用による精神及び行動の障害			1		1
F2	統合失調症			1	1	2
F3	気分障害			2	3	5
F4	ストレス関連障害	6	25	36	2	69
F5	摂食障害		3	2	11	16
F7	軽度精神遅滞 [ 知的障害 ]		1	1	1	3
F8	広汎性発達障害	25	12	3		40
F90	多動性障害	1	10	3		14
F91	行為障害		2	2		4
F94	小児期および青年期に特異的に発症する社会的機能の障害		2	1		3
F95	チック障害		1	2		3
F98	小児期および青年期に通常発症する他の行動および情緒の障害	1	3	1		5
他	てんかん			1		1
計		33	61	58	18	170

## 10. 小児外科

### 小児外科スタッフ

西島栄治（昭和 53 年卒）  
 横井暁子（平成 2 年卒）  
 中尾 真（平成 3 年卒）  
 尾藤祐子（平成 5 年卒）  
 荒井洋志（平成 7 年卒～ 3 月）  
 福澤宏明（平成 11 年卒）  
 大片祐一（平成 16 年卒）

### 小児外科フェロー・専攻医

園田真理（平成 17 年卒）  
 谷本光隆（平成 17 年卒）  
 吉田拓哉（平成 19 年卒）  
 洲尾昌伍（平成 19 年卒～ 3 月）  
 河原仁守（平成 20 年卒～ 3 月）  
 岩出珠幾（平成 16 年卒 4 月～）  
 岩城隆馬（平成 19 年卒 4 月～）

### 【診療活動】

入院患者数 919 名（前年度 952 名）に対して 881 件、日帰り手術患者数 267 名（前年度 271 名）に対して 268 件の手術を行った。全手術件数 1149 件（前年度 1170 件）であった。うち新生児患者数 50 名（前年度 36 名）に対して 54 件の手術を行った。鏡視下手術は 62 件（前年度 56 件）であった。

手術待ち時間は入院手術で 1 ヶ月、日帰り手術で約 2~3 週間であった。

### 【教育活動】

例年通り神戸大学と熊本大学の 5-6 年生を臨床実習生として受け入れた。本年は海外からの留学生の受け入れはなかった。

### 【学会活動】

日本小児外科学会、太平洋小児外科学会、英国小児外科学会、小児がん学会、日本内視鏡手術手技研究会、日本小児呼吸器外科研究会等で発表した。発表論文は邦文 9 編であった。

### 入院手術

部位	術式	件数		術式	件数			
頭頸部	リンパ管腫摘出術	1	縦隔	縦隔嚢胞摘出術	1			
	甲上舌管嚢腫摘出術	5		胸壁	漏斗胸			
	頸部腫瘍摘出術	4			Nuss bar 挿入	10		
気道	声門下腔狭窄症	1			Nuss bar 抜去	2		
					喉頭前方切開	1	Ravitch	3
					喉頭前方切開 T-tube 留置	1	胸郭形成術	1
	喉頭形成術（肋軟骨グラフト）	1			羊水胸腔シャントカテーテル摘出術	1		
	気管狭窄症			横隔膜	先天性横隔膜ヘルニア			
	スライド気管形成術	2			横隔膜ヘルニア修復術開腹)	1		
	気管形成術（切除端々吻合）	1			胸腔鏡下横隔膜ヘルニア手術	2		
	気管切開術	30	胸腔鏡下 / 横隔膜弛緩症縫縮術		2			
	気管切開孔閉鎖術	5	食道	食道閉鎖症				
	気管切開孔形成術	1		GAP 測定	1			
喉頭気管分離術	10	食道食道吻合術（Collise-Nissen）		1				
喉頭食道気管裂隔壁形成術	1	食道食道吻合術・胃瘻造設術		1				
肺	気胸修復術	1		食道食道吻合術	2			
	胸腔鏡下肺部分切除術	2		気管食道瘻離断術 胃瘻造設術	1			
	肺葉切除術	4		食道狭窄部切除再吻合術	1			
				先天性食道狭窄症、狭窄部切除術	1			

胃	腹腔鏡下 / 食道裂孔ヘルニア修復術	2	人工肛門閉鎖術	4	
	腹腔鏡補助下・胃瘻造設術	16		総排泄腔外反症	
	噴門形成術	2		人工肛門造設、膀胱修復、恥骨縫合	1
	腹腔鏡下噴門形成術	7		腹壁閉鎖術	1
	肥厚性幽門狭窄症手術	6		H型鎖肛	
十二指腸	十二指腸閉鎖・狭窄症手術	6	瘻孔切除術	2	
	肥厚性幽門狭窄症手術	6	会陰部形成術	2	
小腸・大腸	腹腔鏡下 / 腸回転異常症手術	11	人工肛門閉鎖術	3	
	腹腔鏡下 / 腸重積観血の整復術	5	痔核・痔瘻手術	3	
	イレウス解除術・腸管切除術	13	肛門形成・拡張術	2	
	腹腔鏡補助下癒着剥離術	1	肛門ポリープ切除術	1	
	サイロ形成術	3	肛門重複症瘻孔造影	1	
	Hirschsprung 病		腹壁		
	直腸・結腸生検	5	臍帯・臍帯内ヘルニア		
	人工肛門造設	1	臍帯ヘルニア根治術	4	
	Colon patch graft	1	サイロ形成術	1	
	腹腔鏡補助下 / Swenson 手術	5	サイロ後腹壁閉鎖術	1	
	経肛門 Soave 手術	1	鼠径ヘルニア・陰嚢水腫手術	81	
	腸瘻造設・閉鎖・吻合		臍ヘルニア手術	7	
	胎便性腹膜炎	7	泌尿・生殖器		
	特発性腸穿孔	3	腎摘出術	1	
	壊死性腸炎	5	付属器切除術・卵巣腫瘍核出術	5	
	腹腔鏡補助下重複腸管手術	3	尿管管遺残摘出術	1	
	腹腔鏡下 / 虫垂切除術	10	腫瘍		
	総胆管拡張症		生検	10	
	嚢腫切除肝管空腸吻合術	4	切除術	18	
	腹腔鏡下嚢腫切除肝管空腸吻合術	3	処置・検査		
腹腔鏡下 / 胆のう瘻造設術	3	胸腔鏡下 / 縦隔・胸腔ドレナージ	2		
胆道閉鎖症手術	3	腹腔鏡検査	3		
腹腔鏡下胆嚢摘出術	2	試験開胸・開腹術	2		
開腹肝生検・胆道造影	2	腹腔ドレナージ	2		
膵腫瘍		切開排膿・ドレナージ	5		
膵体尾部切除術	1	ピシバニール注入	15		
膵体尾部切除後膵液瘻ドレナージ術	1	摘便	6		
膵腫瘍核出術	1	中心静脈カテーテル留置・抜去	165		
腹腔鏡下脾摘出術	1	テコフカテーテル挿入、抜去	1		
腹腔鏡下リンパ管腫摘出術	1	VP シャント留置術	2		
鎖肛		気管支鏡検査・処置	197		
PSARP	4	上部消化管内視鏡検査・処置	65		
腹腔鏡補助下 PSARP	1	ERCP 検査処置	4		
創再縫合	2	下部消化管内視鏡検査・処置	8		
カットバック	1	膀胱鏡検査	1		
人工肛門造設術	6	イレウス管挿入	2		
		止血術	1		
		計	881		

日帰り手術

術式	件数
鼠径ヘルニア手術	214
臍ヘルニア	30
陰唇癒合剥離術	5
腫瘍切除	3
経肛門のポリープ切除	1
痔瘻根治術	1
肛門拡張術	1

摘便	1
肛門余剰皮膚切除	1
三輪 - Gant s	4
包茎環状切開	1
上部消化管内視鏡	4
H型鎖肛会陰部観察	1
舌小体短縮手術	1
計	268

## 新生児手術

病名	術式	件数
先天性食道閉鎖症	一期的吻合術	2
	TEF 離断術・胃瘻造設術	1
食道穿孔	透視下胃管留置術	1
先天性横隔膜ヘルニア	横隔膜ヘルニア修復術	1
	胸腔鏡下横隔膜ヘルニア修復術	1
肥厚性幽門狭窄症	幽門筋切開術	4
胃穿孔の疑い	開腹ドレナージ術	1
先天性十二指腸閉鎖症・狭窄症	ダイヤモンド吻合術	4
	膜切除術	1
腸回転異常症	Ladd 手術	5
胎便性腹膜炎	腸瘻造設術	5
	開腹止血術	1
壊死性腸炎	腸瘻造設術	1
	サイロ形成術	1
	腸管切除	1
特発性腸穿孔	腸瘻造設術	1
アラジール症候群	開腹肝生検・胆道造影	1
ヒルシスプルング病	結腸生検	1
	人工肛門造設術	3
鎖肛	人工肛門造設術	1
	カットバック術	1
総排泄腔外反症	人工肛門造設、膀胱修復、恥骨結合、サイロ形成術	1
	腹壁閉鎖術	1
臍帯ヘルニア	閉鎖術	4
	サイロ形成術	1
顔面奇形腫	気管切開術 (EXIT)	1
	気管切開術	1
	胃瘻造設術	1
後腹膜奇形腫	後腹膜奇形腫摘出術	1
仙尾部奇形腫	仙尾部奇形腫摘出術	2
先天性白血病	中心静脈カテーテル留置術	1
喉頭軟化症	気管切開術	1
先天性声門下腔狭窄症	気管切開術	1
	計	54

## 気管支鏡検査・処置

術式	件数
気管支鏡のみ	158
気管狭窄バルーン拡張術	1
気切カニューレ交換	2
気管異物摘出術	3
KTP レーザーによる肉芽焼灼	15
T-tube 交換・留置	10
レティナ挿入	4
経鼻挿管チューブ入れ替え	3
計	196

## 鏡視下手術

術式	件数
Nuss bar 挿入	10
胸腔鏡下肺部分切除術	2
胸腔鏡下洗浄ドレナージ術	1
胸腔鏡下横隔膜ヘルニア根治術	2
胸腔鏡下横隔膜縫縮術	1
腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア修復術	1
腹腔鏡下噴門形成術	7
腹腔鏡下胃瘻造設術	3
腹腔鏡下脾摘術	1
腹腔鏡下胆道拡張症手術	3
腹腔鏡下胆嚢ドレナージ術	2
腹腔鏡下胆嚢摘出術	2
腹腔鏡下腸重積症手術	1
腹腔鏡下 Ladd 手術	1
腹腔鏡下虫垂切除術	8
腹腔鏡補助下 Swenson 手術	4
腹腔鏡下癒着剥離術	1
腹腔鏡補助下腸管重複症手術	3
腹腔鏡補助下鼠径ヘルニア手術	4
腹腔鏡補助下鎖肛手術	1
腹腔鏡下リンパ管腫摘出術	1
腹腔鏡検査	3
計	62

## 消化管内視鏡検査・処置

術式	件数
上部消化管内視鏡	
検査のみ	23
食道バルーン拡張術	24
異物摘出術	6
EIS/EVL	5
チューブ留置術	8
ERCP	3
E S T	1
下部食道内視鏡	
検査のみ	6
内視鏡的ポリープ切除術	1
計	77

2013 年度 研修記録

岩出 珠幾

術式	症例数	
	執刀医	助手
<気道・頸胸部>		
内視鏡下バルーン拡張術		1
内視鏡的食道静脈瘤結紮術		1
内視鏡下イレウス管挿入術		1
内視鏡下ジェジュナルボタン挿入術		1
気管切開	1	
気管切開部止血	1	
気管切開孔閉鎖	1	
喉頭気管分離術	1	
正中頸嚢胞手術		1
胸腔ドレナージ	1	
横隔膜縫縮術	1	
漏斗胸手術 (Nuss 法)	1	
漏斗胸手術 (Ravitch 法)		1
漏斗胸手術 (バー抜去)	1	
硬性気管支鏡検査	2	23
硬性気管支鏡下異物摘出術		2
気管支ファイバー	3	
頸部リンパ節切開排膿	1	

<上腹部手術>		
幽門筋切開術	1	
開腹噴門形成術		1
腹腔鏡下噴門形成術		1
先天性十二指腸狭窄	1	
上部消化管内視鏡	1	2

<肝・胆・膵>		
腹腔鏡下脾臓摘出術	1	

<下腹部手術>		
腹腔鏡下虫垂切除	1	
人工肛門閉鎖術	1	
ヒルシュスプルング病手術 (Swenson 法)	1	
鎖肛手術 (PSARP)	1	

直腸脱手術	1	
H 型鎖肛手術	1	
腸回転異常症手術 (Ladd)	1	
イレウス解除術	2	
腸瘻造設術	2	1
卵巣腫瘍核出術	1	
腹腔内嚢腫ドレナージ	1	

<ヘルニア>		
臍ヘルニア手術	10	
ソケイヘルニア	40	

<その他>		
腫瘍摘出 (開腹 or 開胸)	2	1
仙尾部奇形腫摘出術		1
IVH 挿入 (Broviac)	3	
IVH 挿入 (Hickman)	4	
IVH 抜去	12	
陰唇癒合		1
リンパ管腫硬化療法	2	
皮下腫瘍摘出術	1	
舌唇小帯形成術		1
痔瘻根治術		1
摘便	5	

合計	110	41
----	-----	----

術式	症例数	
	執刀医	助手
<気道・頸胸部>		
C型食道閉鎖根治術		
気管形成術		1
喉頭気管分離	1	
気管切開	10	
気管支鏡検査	2	17
気道異物除去		1
気管内腫瘍切除	1	1
胸腔鏡補助下肺生検	1	1
Sistrank 手術		1
Nuss bar 挿入	1	3
Nuss bar 抜去		
Ravitch 手術	1	
皮下腫瘍摘出	2	

<ヘルニア>		
臍ヘルニア手術	2	1
ソケイヘルニア	50	2

<その他>		
腫瘍生検（開腹 or 開胸）	1	1
IVH 挿入（Hickman）	15	
IVH 抜去	6	
陰唇癒合	2	
肺膿瘍ドレナージ		1
ピシバニール	1	
イレウス解除		1
経肛門的狭窄解除（ネツ）		1

合計	115	46
----	-----	----

<上腹部手術>		
横隔膜ヘルニア根治術	1	
幽門筋切開術	2	
開腹噴門形成・胃瘻造設術	2	
腹腔鏡下噴門形成術		1
胃瘻造設術	3	
先天性十二指腸狭窄・膜切除		2
先天性小腸閉鎖 小腸切除術	1	
Ladd 手術	1	
小腸切除	1	1
腸管重複症 粘膜抜去	1	
腸重積観血的整復術		1
上部消化管内視鏡	1	3
内視鏡下異物摘出	1	
食道静脈瘤硬化療法	2	1

<肝・胆・膵>		
胆道閉鎖症手術		1

<下腹部手術>		
腹腔鏡下虫垂切除	1	1
人工肛門造設	2	1
腹腔鏡補助下 Swenson 手術		1
PSARP		1

## 11. 心臓血管外科

### 【スタッフ紹介】

部長（手術部長兼任） 大嶋 義博（昭和 57 年神戸大卒）、

神戸大学医学研究科医科学専攻外科系講座客員教授、

心臓血管外科専門医、同 修練指導者

医長 圓尾 文子（平成 7 年神戸大卒）心臓血管外科専門医

医長 長谷川 智巳（平成 8 年京都府立医大卒）心臓血管外科専門医

医長 松久 弘典（平成 11 年神戸大卒）心臓血管外科専門医

専攻医（心臓血管外科修練医）

野田 伶（平成 17 年神戸大卒）日本外科学会専門医

松島 峻介（平成 20 年大阪大卒）日本外科学会専門医

### 【診療体制】

外来：月、水、金の午後 2 診

手術：月～金。

田中亜紀子医長が 11 月からシカゴ医療センターに留学。全体の手術件数は前年度を下回った。胎児診断症例の紹介が増加、それに伴って新生児症例が増加している。2013 年の体外循環を用いた手術は 168 例（新生児 20 例）、体外循環非使用の心臓手術は 53 例（新生児 27 例）、その他 54 例で、全例中、早期死亡 0 例、在院死亡 2 例（いずれも非開心術）であった。体外循環の症例数は前年を下回ったが、手術成績は向上している。毎朝の麻酔科との術前カンファレンス、ICU カンファレンス、毎週月曜朝の術前検討会、夕方の循環器カンファレンス、金曜の術後検討会に加え、循環器科および複数科との Audit meeting も定例化した。また、MRSA 感染対策のマニュアルを作成後、再評価を行い、見直しを検討している。

心臓外科関連のカンファレンスは表に示した。

### 【学会活動】

英文、邦文論文が掲載あるいは投稿中で、胸部外科学会、心臓血管外科学会、小児循環器学会、その他、多数の学会、研究会にて発表した。

術式 (疾患)	28 日未満			～ 1 歳未満			1 歳～ 17 歳			18 歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA													0		
CoA (simple)				1									1		
+VSD	3			1									4		
+DORV													0		
+AVSD	2												2		
+TGA													0		
+SV													0		
+others													0		
IAA (simple)													0		
+VSD													0		
+DORV													0		
+Truncus													0		
+TGA													0		
+SV													0		
+others													0		
Vascular ring													0		
PS				1			1						2		
PPA or critical PS	4			4			2						10		
TAPVR	1			2									3		
asplenia	1												1		
PAPVR ± ASD							2						2		
ASD				6			20						26		
Cor triatriatum				1									1		
AVSD (partial)							1						1		
AVSD (complete)				1									1		
+TF or DORV													0		
+others				1		1							1		1
VSD ( I )				3			3						6		
VSD ( II or IV )				18			10						28		
VSD ( III )													0		
VSD + PS													0		
DCRV ± VSD				1			1						2		
Aneurysm of sinus Valsalva													0		
TF				4			1						5		
(SP shunt)	1												1		
PA + VSD (Rastelli)							2						2		
(SP shunt)				1									1		
(UF ± shunt)				1									1		
DORV	1			5			2						8		
TGA (simple)													0		
+ VSD				2									2		
+ VSD + PS													0		
corrected TGA													0		
Truncus arteriosus							1						1		
SV (SP shunt)	1												1		
(BDG)				6									6		
(Fontan)							7						7		
TA (SP shunt)													0		
(BDG)													0		
(Fontan)													0		
HLHS (Norwood)	4			3									7		
(BDG)				3									3		
(Fontan)							1						1		
Aortic valve lesion (形成)				1			2						3		
(弁置換)							1						1		
SAS				1			1						2		
supra AS				1			2						3		
Mitral valve lesion (MR形成)				4									4		
(MR 弁置換)													0		
(MS 形成)													0		
(MS 弁置換)													0		
Ebstein				1			1						2		
Coronary disease													0		
その他				2		1							2		1
再手術 VSD 再閉鎖													0		
PS 解除													0		
RV-PA 導管再置換							2			2			4		
(PVR を伴う)													0		
その他	2			4			3			1			10		
総数	20	0	0	79	0	2	66	0	0	3	0	0	168	0	2

III 診療統計

術式 (疾患)	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA	19		1	5									24		1
CoA (simple)				1									1		
+VSD	1												1		
+DORV													0		
+AVSD													0		
+TGA													0		
+SV													0		
+others													0		
IAA (simple)													0		
+VSD													0		
+DORV													0		
+Truncus													0		
+TGA													0		
+SV													0		
+others													0		
Vascular ring				2									2		
PS													0		
PPA or critical PS													0		
TAPVR													0		
asplenia													0		
PAPVR ± ASD													0		
ASD													0		
Cor triatriatum													0		
AVSD (partial)													0		
AVSD (complete)	2		1	2									4		1
+TF or DORV													0		
+others													0		
VSD (I)													0		
VSD (II or IV)				4									4		
VSD (III)				1									1		
VSD + PS													0		
DCRV ± VSD													0		
Aneurysm of sinus Valsalva													0		
TF				1									1		
PA + VSD													0		
DORV	1			6									7		
TGA (simple)				1									1		
+ VSD	1												1		
+ VSD + PS													0		
corrected TGA													0		
Truncus arteriosus													0		
SV (SP shunt)				1									1		
(PAB)	2			1									3		
TA (SP shunt)													0		
(BDG)													0		
(Fontan)													0		
HLHS (bil.PAB)	1												1		
(SP shunt 追加)													0		
Aortic valve lesion (形成)													0		
(弁置換)													0		
SAS													0		
supra AS													0		
Mitral valve lesion (MR形成)													0		
(MR 弁置換)													0		
(MS 形成)													0		
(MS 弁置換)													0		
Ebstein													0		
Coronary disease													0		
その他							1						1		
再手術 VSD再閉鎖													0		
PS解除													0		
RV-PA 導管再置換													0		
(PVRを伴う)													0		
その他													0		
総数	27	0	2	25	0	0	1	0	0	0	0	0	53	0	2

	症例数	死亡	在院死亡
皮下膿瘍、デブリードメント	4	0	0
ペースメーカー植え込み	6	0	0
ペースメーカー電池交換	7	0	0
心嚢ドレナージ	7	0	0
胸腔ドレナージ	4	0	0
横隔膜縫縮	6	0	0
ECMO 装着 (ショック)	2	0	0
ECMO 装着 (気管形成術等)	2	0	0
血腫除去	3	0	0

シャントクリップ調節・除去	3	0	0
肺部分切除	1	0	0
リンパ瘻	2	0	0
人工血管内血栓除去	1	0	0
カテーテル・ドレナージ	2	0	0
縦隔炎手術 (大網充填)	1	0	0
気胸手術	1	0	0
大動脈/肺動脈吊上げ	2	0	0
総計	54	0	0

## 12. 脳神経外科

2013年度の脳神経外科スタッフは長嶋達也（院長）、河村淳史（部長・診療科長）、山元一樹（部長）の指導医とローテーション医師である。2013年4月1日-2013年10月31日の間は前山昌博（医員）、2013年10月1日-2014年1月31日は田中 潤（医員）、2014年1月1日-2014年3月31日は藤本陽介（医員）が脳神経外科専門医研修の一環として着任した。

診療活動では兵庫県下のみならず他府県からの紹介例、セカンドオピニオン例が引き続き増加している。複数科との連携によるチーム医療が当院の特色であり、脳神経外科・血液腫瘍内科・放射線科・臨床病理部による集学的治療を必要とする脳腫瘍症例、脳神経外科・整形外科・泌尿器科による治療および管理が必要な二分脊椎症例、脳神経外科・形成外科による外科的治療を要する頭蓋顔面奇形症例、脳神経外科・救急部・脳神経内科をはじめ多数科の関与が必要な頭部外傷・多発外傷症例などを中心に積極的な治療に取り組んでいる。手術前後に小児医療各方面と密な連携を保ちながら長期の追跡を行ない、成人した時点でのQOLの向上を目指して、神経奇形、頭部外傷、脳腫瘍を中心に国際的な水準を維持する手術成績を積み重ねていきたい。

神経内視鏡手術に加え脳神経外科画像誘導支援手術（ニューロナビゲーション）が順調に稼動し、困難な手術を支える施設面も充実した。24時間365日、あらゆる小児の脳神経外科手術に対応するという体制を今後も維持し続けたい。

件数

	脳神経外科的手術の総数	156
1	脳腫瘍	
	摘出術	15
	開頭生検術	0
	経蝶形骨銅手術	0
2	脳血管障害	
	バイパス手術	10
	開頭血腫除去術	0
3	外傷	
	急性硬膜外血腫	5
	急性硬膜下血腫	4
	減圧開頭術	0
	慢性硬膜下血腫	2
4	奇形	
	頭蓋・脳	12
	脊髄・脊椎	19
5	水頭症	
	脳室シャント術	61
	内視鏡手術	2
6	脊髄・脊椎	
	腫瘍	15
	脊髄空洞症	0
7	その他	10
8	血管内手術	1

日本脳神経外科学会の分類による

脳神経外科 専攻医指導記録  
 専攻医 前山昌博  
 研修期間 2013.4.1 ~ 10.31  
 指導医 長嶋 達也、河村淳史、山元一樹

症例	執刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		12	
経蝶形骨洞手術			
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか			
開頭脳内血腫		0	
バイパス手術		3	
急性硬膜外血腫		3	
急性硬膜下血腫		3	
慢性硬膜下血腫・水腫		1	
頭蓋・脳奇形		8	
脊椎・脊髄奇形		7	
水頭症脳室シャント		44	
水頭症神経内視鏡手術		2	
脊椎・脊髄腫瘍		10	
脊髄空洞症		0	
その他		6	
	0	99	0

専攻医 田中 潤  
 研修期間 2013.10.1 ~ 1.31  
 指導医 長嶋 達也、河村淳史、山元一樹

症例	執刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		1	
経蝶形骨洞手術		0	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		1	
開頭脳内血腫		0	
バイパス手術		7	
急性硬膜外血腫		1	
急性硬膜下血腫		1	
慢性硬膜下血腫・水腫		1	
頭蓋・脳奇形		2	
脊椎・脊髄奇形		6	
水頭症脳室シャント		12	
水頭症神経内視鏡手術		0	
脊椎・脊髄腫瘍		4	
脊髄空洞症		1	
その他		6	
	0	43	0

医員 藤本陽介  
 研修期間 2014.1.1 ~ 3.31  
 指導医 長嶋 達也、河村淳史、山元一樹

症例	執刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		4	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		0	
開頭脳内血腫		0	
バイパス手術		3	
急性硬膜外血腫		2	
急性硬膜下血腫		0	
慢性硬膜下血腫・水腫		0	
頭蓋・脳奇形		3	
脊椎・脊髄奇形		8	
水頭症脳室シャント		10	
神経内視鏡手術		0	
脊椎・脊髄腫瘍		2	
脊髄空洞症		0	
その他		8	
血管内手術			
計 合計	0	40	

### 13. 形成外科

形成外科スタッフは2月1日付で谷口真貴医師が住友病院に転出、森本萌恵医師が大阪医療センターより転入した。入院手術件数は長期休暇期間の手術件数の制限継続により来年、再来年の手術予約が埋まりつつある。当科設置の赤あざ用レーザーが旧型のため、月平均5～10名の新患者をそのまま他院に紹介している。病棟運営の抜本的改革、機器導入の戦略的投資により収益改善が可能と思われる。

#### 形成外科手術件数

入院手術	全身麻酔	253	件	(合計 253 件)
	腰麻・伝達麻酔	0	件	
	局所麻酔・その他*	0	件	
外来手術	全身麻酔	172	件	(合計 367 件)
	腰麻・伝達麻酔	1	件	
	局所麻酔・その他*	194	件	

#### 手術内容区分

区 分	件 数						計
	入 院 手 術			外 来 手 術			
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
I. 外傷	7						7
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷で全身管理を要する非手術例							
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例	3						3
顔面軟部組織損傷							0
顔面骨折	3						3
頭部・頸部・体幹の外傷							0
上肢の外傷							0
下肢の外傷	1						1
外傷後の組織欠損（2次再建）							0
II. 先天異常	176			58		2	236
唇裂・口蓋裂	80			1		1	82
頭蓋・顎・顔面の先天異常	38			55		1	94
頸部の先天異常	1						1
四肢の先天異常	45			1			46
体幹（その他）の先天異常	12			1			13
III. 腫瘍	48			56		5	109
良性腫瘍（レーザー治療を除く）	48			56		5	109
悪性腫瘍							0
腫瘍の続発症							0
腫瘍切除後の組織欠損（一次再建）							0
腫瘍切除後の組織欠損（二次再建）							0
IV. 癬痕・癬痕拘縮・ケロイド	9			1			10
V. 難治性潰瘍	3						3
褥瘡	1						1
その他の潰瘍	2						2
VI. 炎症・変性疾患							0
VII. 美容（手術）							0
VIII. その他							0
Extra. レーザー治療	10			57	1	187	255
良性腫瘍でのレーザー治療例	10			57	1	187	255
美容処置でのレーザー治療例							0
大分類計	253	0	0	172	1	194	620

## 14. 整形外科

2013年度は黒岩先生、飛梅先生の2人が去り新たに神戸大学から蒲田先生が赴任した。もともと小児整形外科に興味を持っていたというだけあり非常にモチベーションが高く精力的に研修を行った。手術件数は277例とほぼ横ばいであった。今後手術枠の増加を期待する。

## 手術

	病名	術式	手術数
体 幹	斜 頸	切腱術	4
	側 弯 症 後 弯 症	矯正術、ロッド延長、病巣搔爬など	6
	脊 椎 疾 患 (側 弯 を 除 く)	頸椎固定術 ハロー装着など	4
股 関 節	先天性股関節脱臼など(麻痺性除く)	大腿骨骨きり術など	2
		SA (with or without OR and femoral osteotomy)	4
	ペ ル テ ス 病	大腿骨骨きり術	2
	骨 頭 す べ り	大腿骨骨切り術	1
		ピンニング	8
	麻痺性股関節脱臼、DDH以外の疾患など	筋解離術 (含む観血的整復術)	4
		骨盤骨切り術など (含む DVO 合併)	3
		大腿骨内反骨切り術 (with or without 筋解離術)	1
		観血整復	1
膝 関 節	膝 関 節 脱 臼	鏡視下手術など	2
	関 節 炎 円 板 状 半 月 板 等	拘縮除去	2
	屈 曲 拘 縮 伸 展 拘 縮	アキレス腱切腱 (Ponseti)	38
足 部	先 天 性 内 反 足	軟部組織解離術腱移行術エバンス	7
		軟部組織解離術 (ATL 含む) 腱移行術エバンスなど	16
	麻 痺 性 変 形 (症 候 性)	距骨摘出術	2
		観血的整復術など	1
		距舟関節ピンニング、アキレス腱切腱	2
	垂 直 距 骨	形成術など	1
	下 肢 先 天 性 疾 患 等	その他骨接合、骨移植など	1
		延長, 矯正 (イリザロフ (含む Taylor Frame))	5
		成長抑止術 (含む 8 プレート)	6
	脚 長 差 変 形 等	短菅骨延長	4
		変形矯正 (回旋含む創外固定以外)	4
	足 根 骨 癒 合 症	癒合部切除	2
	膝 蓋 骨 脱 臼	整復術	1
上 肢	上 肢 短 縮	上肢骨延長術 (上腕、前腕)	2
外 傷	上腕骨の骨折 (顆上、外顆など)	整復固定術	18
	下 肢 骨 折	整復固定	6
	骨 折 後 偽 関 節	骨接合術など	1
	骨 折 等	鋼線牽引	2
炎 症	化膿性関節炎 脊椎炎	病巣搔爬、洗浄穿刺	2
	腫瘍骨髄炎, LCH, 病態不明など	生検術 病巣搔爬	7
腫 瘍	腫 瘍	骨	12
		軟部	5

その他	多・合指（趾）症	余剰指（趾）切除	14
		指（趾）間形成	7
	手指（足趾含む）変形	矯正、骨切り術など	2
	癒痕拘縮	形成術	2
	剛直母指	腱鞘切開	10
	その他		53
			277
	部位	方法	
	股関節	アルトロ	18
	その他	アルトロ	1

## 15. 眼 科

今年の眼科医師の異動は以下の通り。4月、大西健医師が1年間、山崎悠佐医師が6ヶ月、中野沙弥医師が3ヶ月の研修期間を終えてそれぞれ新たな研修施設に異動した。後任として井上結香子医師が久々の医長職として、また、金井友範、阪田紘奈両名が研修医として着任した。阪田医師は10月に異動、交代に金井美智子医師が着任した。金井両名は兄妹にして同じ職場で働くことになり、やりにくい面もあった様だが、診療、研修自体は特に支障なく行えたものと考えている。

今後のことになるが4月に日本では数十年ぶり2回目となる第34回国際眼科学会が開催される（第29回アジア太平洋眼科学会、第118回日本眼科学会総会との併催）。当科からも短期間ながら意欲的に研修に取り組んだ中野医師に希少疾患の貴重な治療経過を報告して貰う。

## 2013年新患者数

病名	新生児	乳 児		幼 児		学 童		思春期	合計（眼）
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
	1ヶ月未満	1～5ヶ月	6～11ヶ月	1～3歳	4～6歳	7～9歳	10～12歳	13歳以上	
屈折異常	0	8	28	175	145	67	33	26	482
斜視及び疑い	0	10	30	165	85	32	22	3	347
未熟眼底	0	0	0	0	0	0	0	0	0
未熟児網膜症	0	13	3	2	3	0	0	0	21
眼瞼疾患	0	14	11	29	28	8	5	1	96
涙器疾患	1	9	16	12	1	1	1	0	41
結膜疾患	0	0	0	9	1	1	2	0	13
角膜・強膜疾患	1	5	0	10	2	2	1	3	24
ブドウ膜疾患	5	12	1	6	2	3	2	0	31
網膜症・硝子体疾患	0	25	11	16	8	4	0	6	70
水晶体疾患	9	21	3	9	8	9	0	0	59
眼窩疾患	0	0	0	0	1	0	0	0	1
遺伝性疾患	0	0	0	1	1	0	0	0	2
視神経・視路の障害（眼振他）	2	11	9	20	18	18	6	7	91
緑内障	6	4	3	9	8	4	4	2	40
外傷	0	0	1	2	4	4	0	0	11
症候群	1	1	1	6	2	0	0	0	11
心因性視力障害	0	0	0	0	1	8	4	3	16
腫瘍	1	2	7	3	1	1	0	0	15
その他	1	9	0	7	3	7	2	2	31
合計（眼）	27	144	124	481	322	169	82	53	1402

特殊検査・訓練患者数

PAT・矯正・弱視訓練・その他	156名
P L ・ T A C	371名
視野検査	202名(398眼)
合計	729名

実習生受け入れ状況 合計 11名

学 校 名	人 数	期 間	実習場所
大阪医療福祉専門学校	2名	2月18日～3月1日	外来及び手術室(見学)
神戸総合医療専門学校	5名	5月1日～5月31日	同上
大阪医療福祉専門学校	2名	5月14日～6月18日	同上
九州保健福祉大学視機能矯正学科	2名	6月4日～6月22日	同上

(2) 入院眼科診療統計

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
斜 視	0	0	1	36	64	125	60	21	307
内 反 症	0	0	0	2	12	18	6	0	38
眼 瞼 下 垂	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼 瞼・眼窩疾患	0	0	0	7	6	0	0	0	13
結膜疾患(腫瘍)	0	0	0	0	1	0	1	0	2
角 膜 疾 患	0	0	0	1	0	0	0	0	1
網膜疾患(腫瘍)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
硝 子 体	0	3	0	0	0	0	0	0	3
鼻涙管閉鎖及び異常	0	0	0	5	2	0	0	0	7
眼 瞼 形 成	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緑 内 障	1	3	2	0	0	4	1	1	12
白 内 障	1	4	3	13	11	9	4	3	48
未熟児網膜症	0	4	0	1	0	0	0	0	5
眼球振盪症	0	0	0	0	1	3	3	0	7
外傷・検査・その他	0	0	0	2	3	6	0	0	11
合 計	2	14	6	67	100	165	75	25	454

## 16. 耳鼻咽喉科

## 1. 外来診療

今年も常勤医師1名(大津)、兼任医師1名(火・金曜、阪本)は変わらず診療を行った。新患の内訳としては、例年同様、滲出性中耳炎、反復性中耳炎、扁桃・アデノイド肥大、言葉の遅れの精査依頼などが多い。3歳児健診での言葉の遅れの精査依頼が増えている。診察室の耳鼻科診療ユニットは1台しかないため、1診体制での診療であり、年間の外来診察患者数5600人余はほぼ限界に達している。

## 2. 手術・入院診療

一昨年から第2金曜日に2時間の手術枠が増えたことと、他科の学会出張による手術枠の空情報を周知していただけるようになったことで、当科入院手術症例は126例となり、他科入院中の併施症例や日帰り手術を合わせると365例で、3年連続300件を超えた。引き続き増加傾向にある地域の医療機関からの紹介による手術対象例に対応すべく、手術枠増に努力したい。年少児の重症睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出、アデノイド切除術は周術期の呼吸管理が重要であり術後数日間挿管管理を要することもあり、麻酔科各医師とHCU看護スタッフの多大の協力を支えられている。今後も限られたスタッフであるが医療安全に十分配慮しつつ手術治療に取り組むたい。

手術統計（併施を含む）：

入院手術（併施を含む）	
扁桃摘出術	100
アデノイド切除術	95
鼓膜チューブ挿入術	42
鼓膜穿孔閉鎖	2
後鼻孔ポリープ摘出	2
副鼻腔内視鏡手術	4
頸部膿瘍切開排膿術	1
鼻涙管チューブ挿入	5
その他	10
合計症例数（他科入院14名含）	140

日帰り手術（併施を含む）	件数
鼓膜チューブ挿入術	205
鼓膜肉芽切除術、鼓膜切開等	22
鼓膜穿孔閉鎖術	11
口唇粘液嚢胞摘出術	0
舌小帯形成術	6
合計症例数	225

### 3. 診療内容充実への取り組み、地域連携への取り組み

補聴器外来では、適応を検討して軽中等度難聴児に対する補聴器装用も増加傾向にある。経済的な理由から装用できない児も多かったが、2013年から兵庫県、神戸市において軽中等度難聴児に対する補聴器補助事業が開始され装用児が増加した。

睡眠時無呼吸に対する携帯式アプノモニター検査は3台と予備機1台で検査を行っている。検査待ちがかなり解消し術後の評価にも使用できるようになってきた。生理検査室への業務移管を引き続き要望する。

限られた医療資源の活用のため、かかりつけ耳鼻科医との連携を深めて「日常診療はかかりつけ医で、検査・手術治療は当院で」という診療体制を推進してゆきたい。

### 4. 言語聴覚療法について

#### 【人員】

4月に日々雇用の言語聴覚士(以下ST)が新たに1名加わり、正規職員2名(うち1名は柏原病院との兼務)と日々雇用2名と合わせた合計3.6名体制で業務をおこなった。

#### 【主な業務】

大きく検査業務とリハビリテーション業務に分けられる。

検査業務としては①聴力検査(耳鼻科外来)②補聴器外来(耳鼻科外来)。リハビリテーション業務としては③言語聴覚療法(耳鼻科外来、形成外科外来、入院)④摂食機能療法(入院)である。

#### 【診療保険点数、業務上の変化】

常勤3名以上となったため7月には脳血管リハビリテーションの施設基準Iが取得出来た。これによって1単位(20分)当たりの保険点数が100点から245点に引き上げられた。定期的なカンファレンスも開催されるようになり、業務の量も質も向上していると自負している。業務量については従来から行ってきた外来業務に加え、昨年度から入院患者への言語聴覚療法・摂食機能療法の充実を図っており、少しずつ依頼が増えている状態である。特に摂食嚥下訓練の依頼は大幅に増えており、ニーズの高さを改めて感じている。

#### 【業務詳細】

##### ①聴力検査

一般病院では行うことの難しい聴性行動反応聴力検査や条件詮索反応聴力検査、遊戯聴力検査などをケースに合わせて実施している。さまざまな検査の結果、補聴器適応となれば、補聴器外来での予約をとるよう勧めている。

##### ②補聴器外来

週一度実施している。新生児聴覚スクリーニング検査の普及により、早期からの補聴器装着ケースが増えているのにくわえ、これまで補聴器装用を勧めてこなかった軽度の難聴であっても学習面での困難さが指摘されるようになり、補聴器適応となる患者は増加傾向にある。各人の予約時間を長めに設定し、慎重な評価、親への心理面を含めたサポート、通園施設や聴覚特別支援学校など適切な機関への橋渡しがタイミングよく行えるように心がけている。

##### ③言語聴覚療法

<耳鼻科>「ことばの遅れ」や「発音の異常」を主訴に来院されるケースに対して評価を行い、保護者へのアドバイスを行っている。症状の多くは、全般的な発達遅滞によることばの遅れや器質的な異常を持たない機能性構音障害である。近年は、発達に偏りのある広汎性発達障害と考えられるケースも増えている。マンパワー不足によりこれらのケースを抱える余力がないため、特別な事情以外は各関連機関へ紹介させていただいている。

<形成外科>唇顎口蓋裂児に対して週2日外来訓練日を設けている。1回の訓練は40分であるが、単に訓練だけでなく、保護者へのアドバイスや学校への連絡等、外部機関との連携も担っている。

<入院>脳損傷後の高次脳機能障害や構音障害の評価および訓練、気管切開カニューレ使用中（または抜管後）の発声・構音訓練、その他言語・コミュニケーションに遅れや困難さをもつ児に対してサイン言語導入訓練や語彙力向上を目的にした訓練等を実施している。ST介入することで、日常生活上の注意点や予後の見通し、退院の方向性について、医師・看護師・家族らへ情報提供など、微力ながら支援できるのではないかと考えている。

④摂食機能療法

入院児を対象に行っている。食事を開始したが上手く進まない、何から始めていいのか悩む、試行錯誤しているような症例は依頼いただければ可能な限り対応している。訓練だけでなく、食具の選定、食形態の検討、姿勢のアドバイス等も行っている。関連職種と連携をとりながら嚥下チームの一員として取り組み、さらに精進していくつもりである。

今年度から課題であった入院患者への介入拡充もなされつつあり、STとしては一步前進したと感じている。従来業務である外来業務を丁寧に行いつつ、入院患者へのニーズにも応えていくには、更なる人材確保・育成が必要と思われる。引き続き適切な人員配置を行い言語聴覚療法充実を図りたい。将来的にはリハビリテーション部の独立した一部門とすべきと考える。

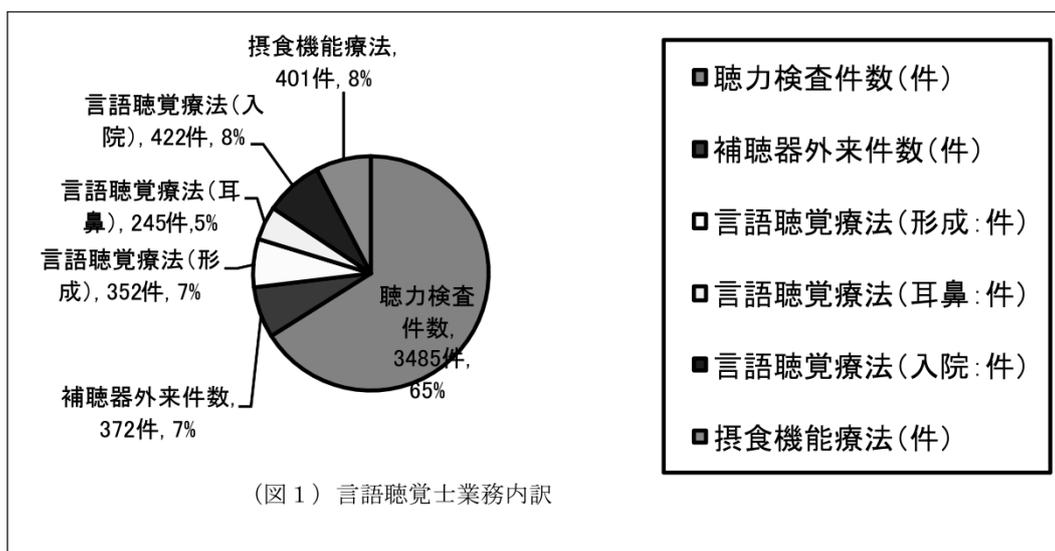
<資料：業務別統計>

(表1) 聴覚検査・補聴器関連件数

	小計	合計
遊戯聴力検査	2761	3485
標準純音聴力検査	585	
標準語音聴力検査	37	
気導純音聴力検査	102	
補聴器適合検査1回目	52	372
補聴器適合検査 2回目以降	320	
高度難聴指導管理料	20	

(表2) リハビリテーション関連（言語聴覚・摂食機能療法）件数・単位数

	件数	単位数	総件数	総単位数
リハビリテーション料Ⅲ(形成)	195	382	352	690
リハビリテーション料Ⅰ(形成)	157	308		
リハビリテーション料Ⅲ(耳鼻)	117	230	245	433
リハビリテーション料Ⅰ(耳鼻)	128	203		
リハビリテーション料Ⅲ(入院)	221	523	422	1068
リハビリテーション料Ⅰ(入院)	201	545		
摂食機能療法	401			



2013年耳鼻咽喉科新患集計（重複含む）

	症例数	院内	耳鼻科	小児科	産科	健診	聾学校	その他	なし
言語発達遅滞	73	13	36	6		17		1	
構音障害	19	10	8	1					
ダウソンの症	8	4	3					1	
耳介奇形・小耳症	11	1	6	1	3				
軟骨無形成症	0								
外耳道閉鎖・狭窄	9	4	2		3				
外耳道腫瘍	2		2						
外耳道異物	0								
副耳	5	1	2	1	1				
先天性耳ろう孔	4	1	1		1	1			
耳垢栓	12	6	4	1		1			
急性中耳炎	12	10	1					1	
反復性中耳炎	6	3	3						
滲出性中耳炎	239	57	152	14	2	7	3	2	2
慢性中耳炎	3		3						
真珠腫性中耳炎	4		4						
癒着性中耳炎	1		1						
乳様突起炎	2	2							
先天性難聴（疑い含む）	175	54	59	17	22	18	2	1	2
ムンプス難聴	4		4						
心因性難聴	24		24						
突発性難聴	4		4						
高音障害型難聴	0								
低音障害型難聴	1		1						
難聴	92	24	56	2		4	4		2
難聴（疑い含む）	20	6	7	3	1	3			
後迷路性難聴	2	2							
聾	0								
外耳奇形	1		1						
内耳奇形	1	1							
中耳奇形	5		5						
側頭骨折・耳小骨離断	2	2							
耳鳴	0								
めまい	11	6	4	1					
顔面神経麻痺	4	1		2		1			
慢性鼻副鼻腔炎	59	26	24	5		4			
急性鼻副鼻腔炎	5	5							
アレルギー性鼻炎	75	16	53	3		2		1	
鼻出血	3	3							
鼻腔異物	0								
鼻咽閉鎖不全	4	3	1						
後鼻孔閉鎖・狭窄	4	2	1	1					
後鼻孔ポリープ	2		2						
鼻骨骨折	0								
アデノイド肥大	176	23	129	15	1	5	1	2	
扁桃肥大	108	14	78	9	1	3		2	1
扁桃炎	6	2	2	2					
睡眠時無呼吸症候群	124	16	86	15	1	4		2	
急性咽頭炎	0								
咽・喉頭外傷	3	2	1						
咽・喉頭浮腫	4	4							
口腔外傷	2	1	1						
口腔腫瘍	3	1		1					1
咽頭のう胞	0								
口唇粘液のう胞	0								
舌小帯短縮症	5		2	2	1				
唾石	2		2						
がま腫	2							2	
耳下腺炎	1		1						
耳下腺のう胞・腫瘍	2		2						
咽・喉頭異物	4	2	2						
喉頭軟化症（疑い含む）	49	36	6	6	1				
反回神経麻痺（疑い含む）	58	52	2		3	1			
声帯ポリープ	7	5	1	1					
先天性声門下狭窄	9	7	1	1					
急性声門下喉頭炎	0								
嚥下障害	20	18	1			1			
正中顎のう胞・側顎のう胞	0								
顎部リンパ節炎	4	2		2					
口蓋裂	10	4	3	3					
顔面外傷	1							1	
感染症チェック	3	3							
新スク後精密検査	27	4	5	5	13				
その他の症例	23	15	5	1		19			
小計	1561	474	804	121	54	91	10	16	8
新患数（重複除く）	802								

## 17. 泌尿器科

2013年3月に専攻医の福田輝雄が退職し、4月からは神野雅（じんのただし）が着任した。2013年度の泌尿器科は4人体制（杉多、中川、久松、神野）で診療を行った。ノロウィルスやインフルエンザの流行で、手術のキャンセルがあったが、日程調整を行うなどして入院手術・日帰り手術ともに手術件数は増加した。

尿道下裂形成手術は現在行っている手術法（フリーグラフト・ラップ法）により、良好な治療成績を得ている。来年度は、腹腔鏡下腎盂形成術、気膀胱下膀胱尿管逆流防止術などの鏡視下手術を積極的に取り入れ、児にとって低侵襲でかつ開放手術に劣らない治療成績を得られるように努力したい。

例年通り、学術活動に関しては、国内学会は日本泌尿器科学会（北海道）、日本小児外科学会（東京）、日本小児泌尿器科学会（東京）において、小児泌尿器科疾患の診断・治療に関して、当院での対応や手術成績などを発表した。国外学会においても、中台小児泌尿器科会議（台北）、アジア太平洋小児泌尿器科学会（台北）において当院の尿道下裂の治療成績などを発表した。（杉多記）

## 尿路系

## 計

VUR	Cohen	47
	Lich-Gregoir	12
	デフラックス	16
完全重複腎盂尿管 尿管瘤	膀胱尿管新吻合	1
VUR、巨大尿管、水腎症術後など	DJ（尿管）カテーテル抜去	11
水腎症	腎盂形成術	5
後部尿道弁、尿道狭窄	内視尿道切開術	5
総排泄腔外反後、NGB	逆行性腎盂尿管造影	2
委縮腎	後腹膜鏡下腎尿管切除	1
	腎尿管摘除	2
腎不全、水腎症	腎瘻造設	2
	腎瘻交換	1
神経因性膀胱、尿道損傷、鎖肛	膀胱鏡	2
重複腎盂尿管	下部尿管尿管吻合	1
膀胱結石	切石術	1
	経尿道的碎石、摘除	2
神経因性膀胱	腸管利用膀胱拡大	3
尿管遺残	摘除	1
	膿瘍ドレナージ	1
神経因性膀胱、VUR	膀胱皮膚ろう	4
鎖肛など	膀胱鏡	4
尿管結石、尿管損傷疑い	DJカテーテル留置	3
腎結石	切石術	1
膀胱内異物	異物摘除	1
尿道憩室	尿道皮膚ろう造設	1
膀胱外反	膀胱閉鎖 恥骨縫合	1

## 性器系

計

CAH	外陰部形成	2
cloaca MRTK 膻閉鎖	内視鏡	5
BXO 包茎	包皮環状切除	13
尿道下裂	free graft	28
	Koyanagi	9
	陰茎形成	14
	TIP	5
	口腔粘膜二期の一期	2
	口腔粘膜二期の二期	1
	口腔粘膜 onlay	1
	膀胱粘膜利用修復	1
	二期の手術二期目	1
そけいヘルニア	ヘルニア手術	12
	腹腔鏡下ヘルニア手術	1
陰嚢水腫	陰嚢水腫根治術	23
精索静脈瘤	顕微鏡下精巣静脈低位結紮術	6
停留精巣	精巣固定術	101
精巣捻転	精巣摘除	5
	捻転整復	6
停留精巣 / vanishing	精巣摘除	10
	腹腔鏡 対側固定	2
停留精巣 / 腹腔内	腹腔鏡下精巣血管結紮 (F-S1 期目)	6
	腹腔鏡下精巣固定術 (F-S2 期目)	6
	試験切開	1
	精巣摘除	1
埋没陰茎	包皮形成術 (逆 Byars flap)	6
尿道下裂術後	瘻孔閉鎖術	7
	尿道形成	3
	尿道口形成	1
遊走精巣	精巣固定術 (transscrotal)	21
前置陰嚢	陰嚢形成	3
外尿道口嚢腫	嚢腫切除	5
処女膜閉鎖	切開 ドレナージ	2
尖圭コンジローム	焼灼	1
膻口狭窄、閉鎖	膻口形成	3
術後出血	止血術	1
精巣外傷	修復術	1
精巣腫瘍	高位精巣摘除	1
	核出	1
精巣上体炎	精巣上体切除	1
膀胱内陰茎	陰茎膀胱外形成	1
会陰部外傷	修復術	2

入院	285
日帰り	168

## 18. 小児歯科

診療内容として全身疾患を有する患児や心身障害児の齲蝕予防・治療を行うことが大きな柱となっていることに変化はない。特に院内において先天性の疾患を有する患児に対しては低年齢（乳前歯萌出時期）からの定期受診により歯科疾患予防を積極的に行っている。また、周術期における口腔管理が保険に組み込まれた背景より、歯科衛生士による口腔ケア介入症例が急増した。それに加え形成外科と共同で取り組んでいる唇顎口蓋裂児のホッツ床、術前顎矯正治療の患児の成長により歯列矯正治療を受ける患者数が増加している。一方、摂食嚥下外来は現在休診中である。人事面には変わりはなく、現在小児歯科は常勤歯科医師一名（曾根由美子）の体制をとっているが、一人医長体制では患者数に限りがあり、また引継ぎが困難で問題が生じやすいと考えられる。

新患内訳（2013）		院内紹介	院外紹介		紹介なし	計
			歯科	医科		
小児歯科関連	口腔内検診希望	39	1	1	0	41
	齲蝕	24	49	3	0	76
	乳歯晚期残存	7	1	0	0	8
	先天性歯	1	0	4	0	5
	その他	3	0	2	0	5
矯正歯科関連	不正咬合	11	3	0	0	14
	術前顎矯正	18	0	0	0	18
口腔外科関連	外傷	11	0	0	0	11
	埋伏歯・過剰歯	2	12	0	0	14
周術期口腔機能管理		55	0	0	0	55
摂食嚥下障害		10	0	0	0	10
計		181	66	10	0	257

全身麻酔下処置	歯科単独	他科合同	計
入院手術	0	顎矯正 9	9
外来手術	47	0	47
計	47	9	57

## 19. 麻酔科

### 1. 人事異動

常勤医である鹿原医師が青森県立中央病院に転出した。5年間、スタッフとして麻酔科業務を行い、さらに各種委員会等を通じて病院の運営に貢献していただいたことに感謝したい。

専攻医の異動としては、神戸大学からは法華医師を迎え、本田医師が西神戸医療センターへ、中川医師が神戸大学へ転勤した。香川大学からは山田医師、ついで山鳥医師を迎えた。大阪医大からは中野医師を迎えた。塚口医師が大阪市立大学へ戻った。兵庫県立病院からは山根医師、久保田医師を迎え、山長医師が尼崎病院に転出した。

公募採用医師は、2年間の研修を終えた古賀医師が兵庫県立災害医療センターへ、似内医師が東京の公立福生病院に転勤した。1年勤務した長井医師が大阪医療センターへ転勤した。名古屋市立大学から小嶋医師、姫路日赤病院から川瀬医師を迎えた。そのほか、短期研修として島根医大から片山医師、当院小児科から祖父江医師を迎えた。

2013年12月の時点では香川、鈴木、高辻、大西、池島、野々村、上北、土居、末田、小島、山根、川瀬、久保田、法華、中野、山鳥の16名が従事している。

### 2. 活動状況と反省

2013年の総麻酔件数は4673件であり、前年とほぼ同数で推移した。これは手術室、放射線部門、病棟での麻酔件数の総計であるが、こうした麻酔業務以外に、病棟での気管挿管70件、中心静脈カテーテル挿入31件、その他14件の依頼があった。これらは以前より麻酔科医が業務の合間に対応していたが、件数の増加もあって今年度は病棟の回診と合わせて日替わりで担当者を決めて対応するようにした。

症例の内容として新生児開心術、気管形成術、複数の合併症を持つ症例など、重症例が一定数あることは例年と変わりなく、高い専門性とマンパワーを必要とする状態が続いている。一方で麻酔科医の半数近くは研修目的であり、1年以下で転勤していく。一定レベルの知識や技術を継承し持続していくことが困難な状況もあり、麻酔科関連の医療事故やヒアリハットもいくつか経験した。そこから学び、対策を立て、後進に伝えていくよう、努力が必要であると感じている。

学術面では、麻酔科関連学会にて発表を行うとともに、当院麻酔科医師が主体となって執筆している小児麻酔の教科書を5年ぶりに改訂することができた。

### 3. 展望

「患者様に安全かつ快適に手術・麻酔を受けていただく」ことが麻酔科の理念である。これまで同様、麻酔科医の教育や知識技術の向上、コミュニケーションの向上、麻酔業務の効率化、そして麻酔科医の確保により、安全・快適な麻酔を提供し続けたい。

## 麻酔科 診療統計

総麻酔件数（麻酔科管理症例数） 2013.1.1 ～ 12.31

4673 件

手術室で行われた局所麻酔症例：200 件

手術室で行われた麻酔科管理症例＋局所麻酔症例：3919 件

## 入院区分および麻酔の場所による内訳

入院手術の麻酔（手術室 1 ～ 7 室）	2731
日帰り手術の麻酔（日帰り手術室）	990
病棟での麻酔	617
放射線部門（アンギオ室、透視室）での麻酔	317
MR I 検査時の麻酔	18
計	4673

## 麻酔法による内訳

全身麻酔・吸入麻酔	3720
全身麻酔・静脈麻酔	258
全身麻酔・吸入麻酔＋硬膜外麻酔	459
全身麻酔・静脈麻酔＋硬膜外麻酔	34
脊椎麻酔（脊髄くも膜下麻酔）	197
硬膜外麻酔	0
硬膜外麻酔＋脊椎麻酔	2
その他	2
全身麻酔 小計	4471
合計	4673

## 年齢別内訳

1ヶ月まで	128
12ヶ月まで	702
5歳まで	2006
18歳まで	1574
65歳まで	263
66歳以上	0
計	4673

## 20. 新生児科

### 1. 医師の異動

スタッフの藤岡 一路、岩谷 壮太、和田 佳子、坂井 仁美、溝渕 雅巳、芳本 誠司、中尾 秀人は引き続き在任した。藤岡医師は、8月に米国留学のため、離任した。全国的な新生児科医の不足は、当院も例外でなく、スタッフの補充は難渋している。世代交代も叶えられる、清新なスタッフのリクルートは最重要課題である。

4月に岡山大学に帰局した村上 優子に続き、岡山大学より梶 笑美子が6ヶ月の研修予定で着任し、10月まで勤務した。他に本年も多くの専攻医・後期研修医の往来があり、新生児・小児医療の展開にあたらしい息吹を吹き込んでいただいた。専攻医に対する教育・研修の工夫を重ね、着任する医師の要望にこたえていく努力も重要と認識している。周産期医療の従事者を再生産していくことは、総合周産期母子医療センターの重大な使命であり、そのためにもスタッフの確保は最重要案件となっている。

### 2. 診療活動

新生児病棟は変動はあるものの重症児、長期入院児が引き続き多く、業務は上限を超えつつある。新生児病棟より転棟後の患児の医療も担当せざるを得ない現状の改善を、関連各科の協力と理解を得て進めていかざるを得ない。Simple, Clear, Speedy を旨として医療の安全には充分留意して、看護部門も含め全員の意志疎通を計り、患児の最善の利益が尊重できる診療行為の遂行に勤めている。NICU・GCUの両看護長をはじめ、看護部門の全面的な理解と協力は、診療の遂行の必要不可欠な要因である。在宅医療への移行は、指導相談部との連携のもと、地域の診療支援を活用する方策が、整備されつつあるが、まだまだ、行政の支援が少なく、他の医療機関との連携、役割分担の相互理解も含め引き続き重要な案件である。本年も集学的治療を要する重症児の診療については、関連各科・関連病棟の御理解と御協力をいただき、厚く感謝するところである。今後は、在宅の重症児に対するサポートを、病院全体の機能の中で如何に円滑に対応できるかの課題の解決にも、展望を開きたい。

### 3. 学会活動

多忙な診療の傍ら、国内外に渡って主要な学会での活発な活動がなされている。

また、神戸大学との連携のもと臨床研究の体制の整備も進みつつある。

出来る限り、多くのスタッフが各学会に参加できるように県当局、病院の研修に対する支援を活用したい。

2013年新生児科統計

I. 新生児病棟統計

1) 月別入院数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
52	46	31	53	49	41	46	47	44	44	54	64	571

2) 診療科別入院数

新生児科入院	569	新生児科からの転科	80
循環器内科	1	循環器内科	45
一般外科	1	一般外科	20
		脳神経外科	12
		血液腫瘍科	2
		代謝内分泌科	1

3) 入院形態と紹介医療機関地域

	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	中播磨	西播磨	北播磨	淡路	丹波	但馬	県外
院外出生	174	102	11	0	43	3	0	2	5	2	4
一次搬送	125	78	8	0	36	0	0	2	1	0	0
(14日以上)	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
二次搬送	49	24	3	0	7	3	0	0	4	2	4
院内出生	397	239	21	2	70	6	0	26	8	8	15
緊急母体	111	70	10	1	17	1	0	6	4	2	0
非緊急母体	285	168	11	1	53	5	0	20	4	6	15
院内出生	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日齢14未満一次搬送+院内出生	519	314	29	2	106	6	0	28	9	8	15

II. 新生児科統計

対象：新生児科入院（日齢14未満一次搬送入院及び院内出生症例，転科例を含む）

1) 院内出生と院外出生

出生体重	患者数	院内	率	帰院	産科	週数	患者数	院内	率	帰院	産科
500 g 未満	2	2	100%	0	0	22, 23	6	6	100%	0	0
500-749 g	16	15	94%	0	0	24, 25	5	4	80%	0	0
750-999 g	11	11	100%	0	0	26, 27	10	10	100%	0	0
1,000-1,499 g	34	34	100%	0	0	28, 29	16	16	100%	0	0
1,500-1,999 g	77	69	89.6%	0	0	30, 31	21	21	100%	0	0
2,000-2,499 g	134	107	79.9%	4	18	32, 33	32	31	97%	0	0
2,500 g 以上	245	158	64.5%	9	56	34-36	149	133	89.3%	2	13
計	519	396	76.3%	13	74	37以上	280	176	62.9%	11	61
						計	519	397	76.5%	13	74

2) 分娩方法・出生前ステロイド

出生体重	患者数	帝切	率	ANS	率	週数	患者数	帝切	率	ANS	率
500 g 未満	2	1	50.0%	2	100%	22, 23	6	2	33.3%	4	67%
500-749 g	16	11	68.8%	10	63%	24, 25	5	3	60%	2	40%
750-999 g	11	10	91%	6	55%	26, 27	10	9	90%	5	50%
1,000-1,499 g	34	31	91.2%	15	44%	28, 29	16	15	93.8%	9	56%
1,500-1,999 g	77	54	70.1%	9	12%	30, 31	21	14	66.7%	13	62%
2,000-2,499 g	134	91	67.9%	12	9%	32, 33	32	24	75.0%	9	28%
2,500 g 以上	245	105	42.9%	13	5%	34-36	149	115	77.2%	19	13%
計	519	303	58.4%	67	13%	37以上	280	121	43.2%	6	2%
						計	519	303	58.4%	67	13%

### 3) 生存率, 死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500 g 未満	2	1	50%
500-749 g	16	1	94%
750-999 g	11	0	100%
1,000-1,499 g	34	1	97%
1,500-1,999 g	77	1	99%
2,000-2,499 g	134	1	99%
2,500 g 以上	245	3	99%
計	519	8	98.5%

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	6	2	67%
24, 25	5	0	100%
26, 27	10	1	90%
28, 29	16	1	94%
30, 31	21	0	100%
32, 33	32	1	97%
34-36	149	3	98.0%
37 以上	280	0	100%
計	519	8	98.5%

### 4) 多胎割合 (品胎 2 組)

出生体重	患者数	多胎	率	品胎
500 g 未満	2	0	0.0%	0
500-749 g	16	3	18.8%	0
750-999 g	11	4	36.4%	0
1,000-1,499 g	34	14	41.2%	2
1,500-1,999 g	77	28	36.4%	3
2,000-2,499 g	134	37	27.6%	1
2,500 g 以上	245	21	8.6%	0
計	519	107	20.6%	6

週数	患者数	多胎	率	品胎
22, 23	6	0	0.0%	0
24, 25	5	0	0.0%	0
26, 27	10	3	30.0%	0
28, 29	16	7	43.8%	0
30, 31	21	10	47.6%	3
32, 33	32	10	31.3%	0
34-36	149	58	38.9%	3
37 以上	280	19	6.8%	0
計	519	107	20.6%	6

### 5) 人工呼吸管理の割合

出生体重	患者数	MV	率	HFO	CPAP
500 g 未満	2	2	100%	1	1
500-749 g	16	16	100%	9	15
750-999 g	11	10	91%	0	11
1,000-1,499 g	34	20	58.8%	0	22
1,500-1,999 g	77	24	31.2%	0	22
2,000-2,499 g	134	22	16.4%	1	28
2,500 g 以上	245	38	15.5%	2	19
計	519	132	25.4%	13	118

週数	患者数	MV	率	HFO	CPAP
22, 23	6	6	100%	5	5
24, 25	5	5	100%	3	5
26, 27	10	9	90%	2	9
28, 29	16	16	100%	0	15
30, 31	21	16	76.2%	0	16
32, 33	32	13	40.6%	1	10
34-36	149	27	18.1%	0	36
37 以上	280	40	14.3%	2	22
計	519	132	25.4%	13	118

### 6) 特殊治療

PDA 閉鎖術	15例 (+ 二次搬送 7 例)	生後ステロイド全身投与	30例
NO 吸入療法	14例	ステロイド吸入	1例
CHDF	1例	在宅酸素療法	16例
		ROP レーザー	2例

### 7) 新生児搬送出動回数 44 回

入院	40	分娩立合い	2
転院	4	時間外搬送	13

### 8) 双胎生存率, 死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500 g 未満	0	0	
500-749 g	3	0	100%
750-999 g	4	0	100%
1,000-1,499 g	12	0	100%
1,500-1,999 g	25	0	100%
2,000-2,499 g	36	1	97%
2,500 g 以上	21	0	100%
計	101	1	99%

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	0	0	
24, 25	0	0	
26, 27	3	0	100%
28, 29	7	0	100%
30, 31	7	0	100%
32, 33	10	1	90%
34-36	55	0	100%
37 以上	19	0	100%
計	101	1	99%

## 21. 産科

本年も大きなトラブルや事故もなく無事1年を終えることができ、産科スタッフ一同ならびに関連・関係各位に感謝致します。

診療統計は次ページ以降の表をご覧ください。限られた医療資源の中で高いパフォーマンスを示すことができました。2013年は新型出生前診断（NIPT）がマスコミで取り上げられた関係か羊水検査が増加しました（81例）。

学術活動では本誌の該当頁に掲載されておりますように多くのoutputを行いました。

12月21日に兵庫県医師会館で「平成25年度兵庫県周産期医療研修会」を開催し、兵庫医科大学産科婦人科准教授の澤井英明先生に「NIPTを中心とした出生前診断のトピックス」の特別講演をいただきました。

今年も神戸赤十字病院から平井理恵（4月）、恩賀陽平（6月）、宮崎勇輔（7月）、竹本 良（10月）、横田祐貴（12月）、濱場啓史（2014年2月）（敬称略）の6名が臨床研修医（2年目）として各1ヶ月間当科で研修を行いました。1ヶ月という短い期間ですが、大学病院のBSLでは経験できない貴重な研修ができたと思います。

放射線科医師と胎児MRIを撮影した症例の経過とMRIの読影、その後の経過を検討する「MRIカンファレンス」を月1回隔月で開催しております。読影報告書からだけでは伺えないMRIの読み方についてリアルに研修することができます。

また、管理に難渋した症例のふりかえりと今後の対応について検討する「症例検討会」を不定期ですが開催しております。

当院は総合周産期母子医療センターですので、兵庫県の周産期医療の最後の砦として診療レベルの維持・向上に努め、また、空床がある限り母体搬送入院を受け入れております。平成25年の病床稼働率は99.4%、緊急母体搬送の受け入れ率は55%でした。胎児機能不全等の適応があれば手術決定から15分以内の児の娩出を目指す「超緊急帝王切開」を関連部門・スタッフの協力を得て行っており、平成25年の超緊急帝王切開は14件でした。また、「近畿ブロック周産期医療広域連携」が行われており、こども病院は兵庫県の拠点病院として他府県からの母体搬送に対応しています。なお、4月に神戸市立医療センター中央市民病院が総合周産期母子医療センターに、兵庫県立西宮病院が地域周産期母子医療センターになりました。

病床稼働率が高くなれば、満床またはオーバーベッドの日が多くなるためベッドコントロールの困難な日が増加し、結果として緊急母体搬送を受け入れることができません。また、外来紹介を受け即日入院が必要と判断されても入院ベッドがないこともあります。当科はこども病院に併設された周産期母子医療センター産科ですので、他科のベッドを借りることができません。従って、当科が満床となれば搬送依頼をお断りし、他院を紹介せざるを得ないこともあります。そのため、病状が落ち着いた方や、紹介元で対応可能な妊娠週数となれば、紹介元へ戻っていただいております。平成25年のバックトランスファー（紹介元へ戻れた方）は312名でした（外来レベルで行われたものも含む）。また、当院には産科以外の成人を継続して診る常勤の専門医がおりませんので、母体合併症に関しては神戸大学病院や神戸医療センター中央市民病院等をご紹介しております。

当科も常にマンパワー不足であり、現在のスタッフの退職や病気・事故で長期休暇を取得すると、たちまち診療レベルや当直体制を維持することができなくなってしまいます。総合周産期母子医療センターは産科医師2名の当直体制が必要です。現在第1当直は院内医師、第2当直は院外医師（神戸大、医師会）に応援をいただいております。年末年始、5月の連休、学会シーズン等では第2当直医の確保に困難があり、院外

医師の第2当直が見つからなければ院内医師が行わざるを得ません（その分、院内医師の負担が増えます）。実際、最近では休日の第2当直が月1、2回恒常的に見つからず院内医師で対応しています。また、症例が重なった時の応援業務と第2当直医来院までの居残り・翌早朝帰院後の早出のためオンコールの医師を立てています。医師公募も常に行っておりますが、産科医師不足のため苦戦を強いられています。

## 2013年人事

2013年のスタッフは、丸尾 猛病院長、船越 徹周産期医療センター次長、産科科長兼部長、佐本 崇部長、喜吉賢二医長、高松祐幸医長、牧志 綾医長、上田智弘医長、葉 宜慧専攻医、久保田陽子専攻医で始まりました。

1月末に久保田専攻医が神戸アドベンチスト病院へ異動。

3月末に丸尾院長が退任、上田医長が明石医療センター、葉専攻医が済生会兵庫病院へ異動。

4月1日神戸大学医学部附属病院から上田菫子専攻医、また、公募で南谷智之医師（H20 神戸大卒）、中澤浩志専攻医（H22 徳島大卒）が入職。

9月30日上田専攻医が神戸大学医学部附属病院へ異動し、7人体制になりました。

1) 平成25年産科診療状況

入院患者数*	538
うち緊急母体搬送によるもの	127
紹介元へ戻すまたは他院紹介***	312
分娩母体数(22週以降)**	349
正期産	167
早産	182
過期産児	0
多胎妊娠	55
うち双胎	53
うち品胎	2
うち要胎	0
経膈分娩	132
うち鉗子・吸引分娩	23
うち骨盤位牽出術	1
帝王切開術	217
出産児数(22週以降、死産含む)**	406
正期産児	177
早産児	229
過期産児	0
低出生体重児(2500g未満)	248
巨大児(4000g以上)	0
その他	
22週未満死産****	9
子宮内胎児死亡(22週以降)	10
D I C	3
自己血貯血回数	38

\* 入院患者数は2013.1-12入院したものの

\*\* 分娩母体数、出産児数は2013.1-12に出産したものの

\*\*\* 紹介元へ戻すまたは他院紹介は、入院せず外来レベルで行われたものも含む

\*\*\*\* 単胎7、双胎2

2) 紹介元施設所在地別入院件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	4	1%	中播磨	姫路市	30	6%
	西宮市	27	5%		神崎郡	0	0%
	芦屋市	3	1%		小計	30	6%
	小計	34	6%		相生市	0	0%
阪神北	宝塚市	0	0%	西播磨	たつの市	0	0%
	三田市	1	0%		赤穂市	0	0%
	川西市	0	0%		揖保郡	0	0%
	伊丹市	1	0%		赤穂郡	0	0%
	川辺郡	0	0%		佐用郡	0	0%
	小計	2	0%		宍粟市	2	0%
					小計	2	0%
神戸市	須磨区	76	14%	但馬	豊岡市	1	0%
	中央区	68	13%		美方郡	0	0%
	西区	91	17%		養父市	1	0%
	垂水区	18	3%		朝来市	0	0%
	灘区	2	0%	小計	2	0%	
	東灘区	10	2%	丹波	篠山市	3	1%
	北区	34	6%		丹波市	5	1%
	兵庫区	0	0%		小計	8	1%
	長田区	8	1%		洲本市	11	2%
	小計	307	57%	淡路	淡路市	0	0%
					南あわじ市	5	1%
			小計		16	3%	
東播磨	明石市	64	12%	他府県	大阪	7	1%
	加古川市	24	4%		京都	5	1%
	高砂市	3	1%		奈良	2	0%
	加古郡	0	0%		その他	7	1%
	小計	91	17%	小計	21	4%	
北播磨	西脇市	10	2%	海外	0	0%	
	三木市	1	0%	院内紹介	0	0%	
	小野市	12	2%	不明	0	0%	
	加西市	2	0%	計	538	100%	
	加東市	0	0%				
	多可郡	0	0%				
小計	25	5%					

救急隊はその所属地域にカウントした

### 3) 取り扱い疾患（重複あり）

疾 患 名	件数	率
切 迫 早 産	219	15%
高年妊娠(35歳以上)	191	13%
胎 児 形 態 異 常	145	10%
子宮内胎児発育不全	91	6%
羊 水 検 査	81	6%
多 胎	67	5%
既 往 帝 王 切 開	66	5%
前 期 破 水	57	4%
B群溶連菌保菌者	49	3%
胎 児 機 能 不 全	49	3%
羊水過多・過少	47	3%
妊娠高血圧症候群	40	3%
妊 娠 糖 尿 病	37	3%
絨毛膜羊膜炎・子宮内感染	31	2%
他 科 合 併 症	20	1%
子 宮 筋 腫 合 併	20	1%
胎 位 異 常	17	1%
頸 管 無 力 症	15	1%
胎 児 染 色 体 異 常	13	1%
胎 児 水 腫	12	1%
双胎胎児発育不均衡	12	1%
前 置 胎 盤	10	1%
そ の 他	162	11%
計	1,451	100%

入院時、入院中に診断された疾患名

### 4) 入院時間帯

時間帯	件数	率
時間内	444	83%
平日日勤帯		
時間外	94	17%
平日夜勤帯	43	8%
休日日勤帯	22	4%
休日夜勤帯	29	5%
計	538	100%

### 6) 分娩時間帯（流産、死産含む）

時間帯	件数	率
時間内	219	62%
平日日勤帯		
時間外	137	38%
平日夜勤帯	68	19%
休日日勤帯	28	8%
休日夜勤帯	41	12%
計	356	100%

### 5) 入院時妊娠週数（母）

週数	件数	率	累積率
～ 21 週	98	18%	18%
22 ～ 24 週	50	9%	28%
25 ～ 28 週	71	13%	41%
29 ～ 32 週	84	16%	56%
33 ～ 36 週	107	20%	76%
37 週～	125	23%	99%
不明	0	0%	100%
産後	3	1%	100%
非妊娠	0	0%	100%
計	538	100%	

### 7) 帝王切開時間帯

時間帯	件数	率
時間内		
平日日勤帯	165	76%
時間外	52	24%
平日夜勤帯	18	8%
休日日勤帯	15	7%
休日夜勤帯	19	9%
計	217	100%

### 8) 分娩時妊娠週数（流産、死産含む）

週数	件数	率	累積率
～ 21 週	7	2%	2%
22 ～ 24 週	10	3%	5%
25 ～ 28 週	19	5%	10%
29 ～ 32 週	36	10%	20%
33 ～ 36 週	117	33%	53%
37 ～ 41 週	167	47%	100%
42 週～	0	0%	100%
不明	0	0%	100%
計	356	100%	

### 9) 出産時児体重（流産、死産含む）

児体重	件数	率	累積率
～ 499 g	14	3%	3%
500 ～ 999 g	30	7%	11%
1000 ～ 1499 g	34	8%	19%
1500 ～ 1999 g	72	17%	36%
2000 ～ 2499 g	107	26%	62%
2500 ～ 2999 g	107	26%	88%
3000 ～ 3499 g	40	10%	97%
3500 ～ 3999 g	11	3%	100%
4000 ～ 4499 g	0	0%	100%
計	415	100%	

10) 緊急母体搬送依頼電話受信状況

月	依頼件数	受け入れ不能件数	受け入れ不能率
1	21	8	38%
2	14	6	43%
3	16	8	50%
4	26	18	69%
5	25	6	24%
6	16	9	56%
7	22	9	41%
8	17	9	53%
9	19	7	37%
10	11	2	18%
11	21	12	57%
12	23	10	43%
不明	1	1	100%
計	232	105	45%

依頼件数には、結果的に外来受診となったものも含む

11) 年次別搬送受け入れ不能状況

年	依頼件数	受け入れ不能件数	受け入れ不能率	備考
平成6年	66	12	18%	10月開設(22床)
平成7年	240	38	16%	阪神・淡路大震災
平成8年	312	76	24%	
平成9年	340	111	33%	
平成10年	324	105	32%	
平成11年	326	55	17%	フルオープン(32床)
平成12年	362	100	28%	総合周産期センターに指定
平成13年	328	60	18%	
平成14年	394	110	28%	
平成15年	367	140	38%	
平成16年	298	126	42%	
平成17年	285	120	42%	MFICU6床整備
平成18年	316	124	39%	空床情報ネットワーク整備
平成19年	285	91	32%	
平成20年	259	65	25%	
平成21年	279	88	32%	
平成22年	276	85	31%	
平成23年	256	96	38%	
平成24年	225	83	37%	
平成25年	232	105	45%	病床稼働率99.4%

12) 搬送依頼施設所在地別受信件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	0	0%	中播磨	姫路市	0	0%
	西宮市	17	7%		神埼郡	0	0%
	芦屋市	2	1%		小計	0	0%
	小計	19	8%		相生市	0	0%
阪神北	宝塚市	0	0%	西播磨	赤穂市	0	0%
	三田市	0	0%		宍粟市	0	0%
	川西市	0	0%		たつの市	0	0%
	伊丹市	1	0%		揖保郡	0	0%
	川辺郡	0	0%		赤穂郡	0	0%
	小計	1	0%		佐用郡	0	0%
神戸市	須磨区	32	14%	但馬	小計	0	0%
	中央区	23	10%		豊岡市	0	0%
	西区	40	17%		養父市	0	0%
	垂水区	6	3%		朝来市	0	0%
	灘区	5	2%		美方郡	0	0%
	東灘区	6	3%	小計	0	0%	
	北区	17	7%	丹波	篠山市	3	1%
	兵庫区	0	0%		丹波市	1	0%
	長田区	12	5%		小計	4	2%
	小計	141	61%	淡路	洲本市	11	5%
東播磨	明石市	37	16%		南あわじ市	0	0%
	加古川市	3	1%		淡路市	1	0%
	高砂市	1	0%		小計	12	5%
	加古郡	0	0%	他府県	大阪府	1	0%
小計	41	18%	京都府		1	0%	
北播磨	西脇市	2	1%		高知県	1	0%
	三木市	0	0%		他	0	0%
	小野市	7	3%	小計	3	1%	
	加西市	1	0%	海外	0	0%	
	加東市	0	0%	院内紹介	0	0%	
	多可郡	0	0%	不明	1	0%	
小計	10	4%	計	232	100%		

救急隊はその所属地域にカウントした

13) 搬送依頼元施設種類別

施設種類	件数	率
総合周産期医療センター	12	5%
地域周産期医療センター	25	11%
一般病院	87	38%
診療所	103	44%
助産院	1	0%
救急隊	4	2%
他	0	0%
不明	0	0%
計	232	100%

14) 搬送依頼電話受信時刻

勤務帯		件数	率
時間内	平日・日勤帯	123	53%
	平日・夜勤帯	61	26%
時間外	休日・日勤帯	31	13%
	休日・夜勤帯	17	7%
不明		0	0%
計		232	100%

15) 搬送電話依頼時理由

搬送理由	件数	率
切迫早産	131	56%
前期破水	28	12%
妊娠高血圧症候群	20	9%
胎盤早期剥離	8	3%
胎児機能不全	5	2%
胎児形態異常	4	2%
子宮内胎児発育不全	4	2%
切迫流産	4	2%
既往帝切	3	1%
前置胎盤	2	1%
多胎	2	1%
未受診	2	1%
出血多量	1	0%
胎児死亡	1	0%
難産	1	0%
他科合併症	0	0%
ショック	0	0%
子宮外妊娠	0	0%
その他	13	6%
不明	3	1%
計	232	100%

主たる理由で分類

16) 搬送電話依頼時妊娠週数

妊娠週数	件数	率
22週以前	19	8%
22～24週	42	18%
25～28週	39	17%
29～32週	55	24%
33～36週	52	22%
37～40週	16	7%
41週以降	1	0%
分娩後	0	0%
不明	8	3%
非妊娠	0	0%
計	232	100%

17) 受け入れ可否返事所要時間

所要時間	件数	累積率
～1分	176	76%
～3分	22	85%
～10分	25	96%
～20分	5	98%
～30分	1	99%
～60分	0	99%
～120分	2	100%
～180分	0	100%
不明	1	100%
計	232	100%

18) 受け入れ不能の理由

理由	件数	率
NICU 満床	4	4%
産科満床	75	71%
両方満床	3	3%
対象外	9	9%
その他	8	8%
不明	6	6%
計	105	100%

その他：手術中、搬送受入中等

## 22. 放射線科

### 1. 人事異動

2013年度の人事異動はなく、スタッフは赤坂好宣と杉岡勇典2名、放射線治療担当で副島俊典医師ががんセンターと兼務で週1回の診療にあたる。

非常勤医師として藤本雄介医師に月曜、木曜の週2日、西山章次医師に金曜午前に従来通り応援していただいている。

### 2. 2013年の動向

年間の読影件数は超音波検査以外はいずれも微減であった。

病院全体の診療状況を反映しているものとおもわれるが、超音波検査だけは年々増加を続けている。理由の一つには機器の進歩とともに画質の向上が著しく、診断できる疾患や病態が増えていることが考えられる。従来超音波では診断が難しいとおもわれていた疾患がよくみえることによって必要不可欠な画像検査になってきているのである。使い手の技量に影響されることもあり、検査ができる人を育成してきた結果もあるとおもわれる。

一方、IVRがついに0件となった。こうなると候補患者がいたとしてもますます簡単には行えなくなる。今後の課題であるが、新病院へ向けて、周辺施設の利用や連携を想定した働きかけを開始する必要がある。院内、院外の小児科医を対象とした放射線研修は依然希望者が多く、研修の必要性が若手医師に浸透してきた結果とおもわれる。指導者の恒常的なマンパワー確保が急務である。

県下では小児診療規模の大きな塚口病院、加古川西市民病院への診療応援も軌道に乗っており、不可欠なものになっていると同時に診療の質の向上に寄与していると自負している。

放射線科読影件数（2013年）

CT 2852件

透視 302件

MRI 2109件

IVR 0件

RI 347件

単純写真 21件

他院持込画像の読影  
280件

放射線治療（照射） 36人

超音波 4836件

研修医・専攻医指導記録

専攻医：二野菜々子（小児科）

専攻医：谷口紫野（小児科）

研修科：放射線科

研修科：放射線科

研修期間：

研修期間：2013.8.1.～2013.9.30

2013.2.1.～2013.5.31、2013.12.1～2013/12/31

指導医：赤坂好宣

指導医：赤坂好宣

読影件数

読影件数

CT：64

CT：357

MRI：67

MRI：323

RI：2

RI：65

透視検査：1

透視検査：21

超音波検査：103

超音波検査：343

研修医：前田阿紀（尼崎病院小児科）

専攻医：高藤 哲（小児科）

研修科：放射線科

研修科：放射線科

研修期間：2013.10.1.～2013.11.31

研修期間：2013.5.1.～2013.7.31

指導医：赤坂好宣

指導医：赤坂好宣

読影件数

読影件数

CT：191

CT：154

MRI：165

MRI：118

RI：0

RI：5

透視検査：14

透視検査：2

超音波検査：96

超音波検査：166

専攻医：祖父江俊樹（小児科）

専攻医：大星大観（塚口病院小児科）

研修科：放射線科

研修科：放射線科

研修期間：2013.12.1.～2014.1.31

研修期間：2013.6.1.～2013.9.30

指導医：赤坂好宣

指導医：赤坂好宣

読影件数

読影件数

CT：177

CT：144

MRI：58

MRI：199

RI：4

RI：7

透視検査：7

透視検査：18

超音波検査：115

超音波検査：367

## 23. 病理診断科

病理診断科では、胎盤病理・死産児の剖検などの周産期の病理診断、ヒルシュスプルング病や嚢胞性肺疾患などの小児外科領域の病理診断、小児期の固形腫瘍の病理診断を主体として、小児期の病理診断全般を行っている。小児固形腫瘍は国立成育医療センターを中心とする小児固形腫瘍観察研究に登録、参加して、中央病理診断や分子生物学的診断を受けている。腎生検は通常のパラフィン切片標本の病理報告書作成は病理診断科でおこなっているが、凍結検体を用いた蛍光免疫染色や電子顕微鏡の所見を加えた最終診断は腎臓内科が行っている。病理診断科では、検体のマクロ検索からミクロ検索までを一連の業務として取り組み、一例一例を大切に丁寧に診断することを心がけている。必要に応じて免疫染色や特殊染色、外部委託や小児固形腫瘍観察研究による分子生物学的検索、他施設へのコンサルテーション依頼等を行い、客観的で再現性のある標準化に則った病理診断を目指している。臨床カンファレンスを通じて、診断名のみならず所見の詳細を臨床に伝えることで診療に病理診断結果を活かしてもらえるように努めている。また病理診断は一時期の病変部のみの検索であるが、診療過程の全体を把握して病理診断にフィードバックしたいと考えている。

### 2013年の動向

2012年12月24～27日の4日間、成育医療センター病理診断科の見学をさせて頂いた。見学中は最近の中央病理診断済み標本の検鏡、JWiTS登録症例の検鏡、neuroblastoma, nodular typeやretinoblastomaの標本の検鏡、切り出し見学、迅速診断見学、肝臓病理カンファレンス・腎生検カンファレンス・腫瘍カンファレンスなどのカンファレンスの見学、CPC準備討論の見学等をさせて頂き、大変勉強になった。2014年夏にも見学を希望している。

2013年6月22日(土)大阪市立総合医療センター3階大会議室で開催された第69回関西小児病理研究会の世話人を兵庫県立こども病院病理診断科が担当した。

### 2013年の件数

組織診断件数 1027件 (うち迅速有り45件, 胎盤360件, 腎生検39件, その他)

細胞診断件数 196件

剖検件数 3件 (産科死産児2件, 新生児科1件)

### 参加カンファレンス

院内：CPC (2013年3月28日 (17:45～))

；臨床担当；救急集中治療科 楠元真由美先生

周産期カンファレンス (毎週月曜日 16:30～)

外科カンファレンス (毎週火曜日 8:00～)

腫瘍カンファレンス (毎週水曜日 17:30～)

院外：神戸大学病院病理部くすのき会 (わからん会) (第4水曜日 19:30～)

## 24. 看護部

### 看護部理念

命を守り、育てることに努力し、安心と満足が得られる看護の提供に努めます。

### 看護部のスローガン

「小児看護」→「笑児看護（しょうにかんご）」

「みる・まもる・つなぐ・つたえる」で、こどもと家族の輝く笑顔を引き出そう！！

### 看護部方針

- こどもの権利を守り、患者・家族の思いを尊重した看護を提供します。
- 看護の質の向上を目指し、安全と安心に繋がる看護を提供します。
- 患者を中心としたチーム医療の調整役として、主体的に行動します。
- 真の優しさと逞しさを備えた人間性を養い、自己研鑽に努めます。

### 看護の体制

- 固定チームナースング（継続受け持ち制）体制で、継続的かつ個別的な看護提供を行っています。
- 患者様が治療や検査を理解し、確実に行えるように、プリパレーションやディストラクションを取り入れた看護を実践しています。
- 保育士と協働し、患者様の成長発達に応じた療育への支援を行っています。
- 患者様に少しでも快適で豊かな入院生活を送っていただけるよう様々なボランティアの皆様と季節折々の行事を実施しています。
- 看護系大学との事例検討会や共同研究を推進し、看護の向上に向けて取り組んでいます。

### 看護部目標

#### ★「共育・共働・共創」の3拍子

共に育ち、共に働き、共に創り出す

#### ★看護師確保・定着対策（県立病院全体）

- ・実習生への関わり・・・学生が働きたいと思える病院作り
- ・教育担当看護師長の配置・・・採用前からの継続した関わり

#### ★診療報酬の改訂を取り入れた組織運営

- ・チーム医療・在宅医療の推進
- ・地域連携
- ・小児がん拠点病院としての活動推進

#### ★ベットコントロール（こどもと親にとって「最後の砦」）

患者を迎える、歓迎する気持ちで患者をうけいれる。看護師長間の調整、相互支援をしながら、お互いに知恵を出し合い共創する組織となって、目の前の患者の入院を受け入れる

#### 1. 働きやすい職場作りと看護実践能力・看護の質の向上

- 1) 無資格者（看護事務補助・看護補助）との業務の役割分担と協働・連携

- ・業務整理——委譲できる業務と看護の専門業務
- ・無資格者の育成

2) 業務委譲によりできた時間で、看護実践能力・看護の質の向上をはかる

## 2. 看護のやりがい・おもしろさの探求とチーム医療の推進

### 1) 専門職チームとしての事例検討の推進

- ・医師・保育師・薬剤師・栄養士・P T・放射線技師・検査部門

### 2) 部署間の連携と事例検討

- ・病棟—外来、病棟・外来—O P、病棟・外来—指導相談部等

### 2) 地域の看護職とのチーム作り

## 3. 新病院（実設計）へ向けて基盤整備

### 1) 人も育て自分も育つ

### 2) 外へ目を向け、外部から学ぶ

### 3) 電子カルテを見据えた看護記録・看護基準・標準看護計画の見直しとクリニカルパスの推進

## 看護部の活動

### 看護部

新病院では重症集中系病床の増床に伴い、看護師も増員が必要で、新規採用看護師の育成と定着促進のために、教育担当看護師長と共に精神リエゾン専門看護師や臨床心理士が精神的フォローを行う体制作りをしました。また現在の業務の振り返りを行い、新病院での業務フロー作成を行いました。

### 一般外科主体病棟

勉強会・事例検討会で看護を語り、後輩育成やチームナーシングに繋がった。プレパレーションを活用し手術患者の看護の充実に取組んだ。外来連携カンファレンスを実施し、シームレスケアに取組んだ。

### 循環器 A 病棟

ベットサイドケアの時間の確保と教育支援の充実に目的に、統括・フリー体制に変更をした。循環器、心臓血管外科と併せ血液腫瘍科の患者のケアを中心に実施、更にかん拠点病院の指定により化学療法を受ける患者が増加したが、統括・フリー体制導入により混乱なく受け入れ、看護の実践能力の向上が図れた。

### 循環器 B 病棟

質の高い看護記録を行うために、アセスメント力の向上を目指して努力している。退院困難患者に対し、退院支援に向けた他職種との合同カンファレンスを開催し、退院促進を行っている。

### 混合 A 病棟

子どもとご家族が安心して社会生活が送れるよう多職種カンファレンスをおこない、地域と連携をはかりながら退院支援を行った。また、小児がん拠点病院に指定されたことによる病棟の役割拡大に伴い、化学療法を受ける準備を行い安全に患者を受け入れることができた。

### 混合 B 病棟

慢性呼吸器患者の家族支援を計画的に行い、ADL の拡大や在宅への移行を目標に患者、家族へのかかわりを深めた。また、多職種との連携を積極的に図り患者家族の支援に役立てた。

### 血液主体病棟

小児がん拠点病院となり、化学療法看護、緩和ケアについての基盤を作るための取り組みを行なった。また、

ヒヤリハット減少、感染予防、看護の質向上を目指した業務整理を行い、働きやすい環境を整えることできた。

## ICU

ICUにおける看護実践能力の向上を目標に日々の緊急想定ケアパッケージの継続、ICUに必要な特殊治療に対してマニュアルをもとにしたシミュレーションを実施し、実践につながる教育支援に取り組んだ。

## HCU・外科系一般病棟

集中系病棟・一般病棟をつなぐ支援病棟としての役割を強化した。気管狭窄を主とする高度な呼吸管理のみならず、ICUの後方病床として心疾患を合併し循環管理を要する患児を受け入れた。またBCRではBMT、PBSCTの前処置からの受け入れを行った。

## NICU

ワーキンググループ活動を行うことで、看護のやりがいにつながり、産科・GCUとの連携も図れた。人材育成を目的に10月中旬よりPNSを導入した。現在NICU独自のPNSの構築に取り組んでいる。

## GCU

受け持ち看護師の役割を通し、患者・家族によりよい看護の提供に努めた。長期入院患児や在宅医療を必要とする児も多く、地域連携室や外来と連携をとり、入院中から継続した育児支援に取り組んだ。

## 産科

通院中から継続看護師が関わり、入院・分娩・育児へつなげている。循環器や精神面で問題のある妊産婦のケアを、他科と連携をはかり実践した。また、地域の中学校で「出前授業・命の教室」を開催し、良い評価を得た。

## 手術室

今年度部門システム稼働に応じた看護業務の慣習化が果たせた。教育では、新人教育の集団オリエンテーションを通し、他職種の協働を推進し、チーム医療の活性化に繋げることが出来ている。

## 外来

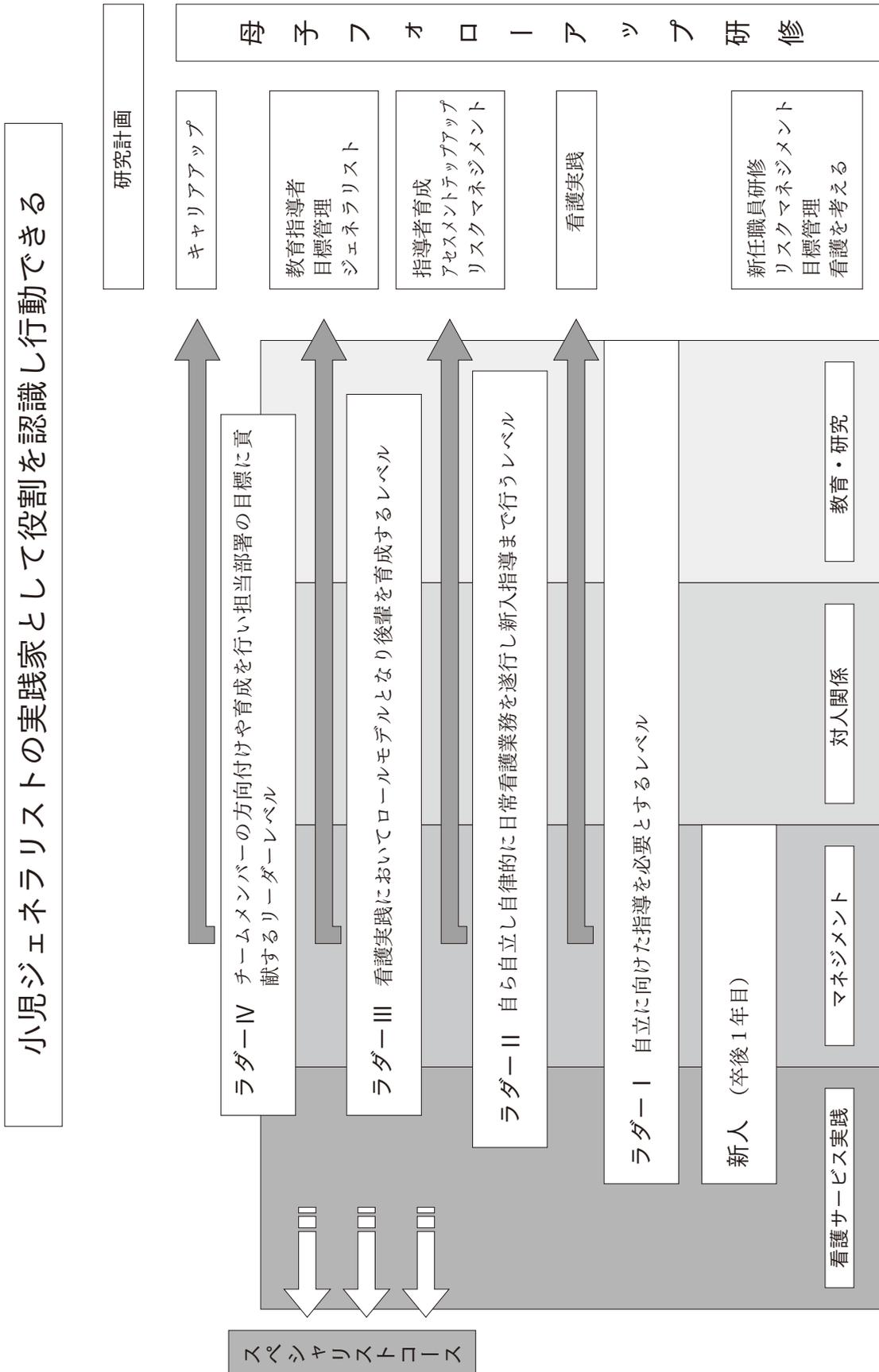
病棟－外来－地域の連携がはかれる様、多職種と共同して取り組みを行っている。また、外来通院患者の療養支援に関しては、通院治療を支援する関わりに取り組んでいる。新病院に向けては、多職種と調整を行い、現状の問題点の解決にむけての取り組みを開始した。

## 小児救急センター

高度集学的救急医療と同時に「子どもと家族を中心とした救急医療」をテーマとしている。尚、今年度のとりくみは「カンファレンス・事例検討活性化」「重症初療シミュレーション」「看護過程力向上」であった。

こども病院看護部教育方針

こども病院看護部継続教育の位置づけ



看護部委員会

委員会名	開催回数	目標と活動内容
看護師長補佐会	11回	<p>&lt;目的&gt; 各看護単位の円滑な運営と看護の質向上をはかる</p> <p>&lt;目標&gt; 1 病院としての課題達成に向けて率先して実行できる 2 看護師として責任ある行動が自主的に取れるように人材育成する 3 看護部委員会での活動の情報を共有し各部署で周知できるようにする</p> <p>&lt;活動内容&gt; 1 1) 委員会活動が各病棟で円滑に実践できるように情報共有と支援の実施 2) プレパレーションガイドラインの修正 2 1) 看護基準を177項目作成した 2) 標準看護計画から看護基準計画へ変更した 3 1) 看護補助者業務の現状調査 2) 看護師と看護補助者の連携のための業務調整システムと業務調整ツールの導入し、導入後の評価 3) 看護補助者研修の企画、運営（年間2回） 4 1) インターンシップの企画、運営（年間3回） 2) ふれあい看護体験の企画、運営 3) トライアルウィークの企画、運営 5 看護実践報告会の企画、運営</p>
看護部教育委員会	12回	<p>&lt;目的&gt; 看護職員のキャリア開発を支援するとともに、良質な看護を提供するための教育体系を整備、実践する</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 年間計画に沿って、集合教育を実施し、看護のおもしろさ・やりがい感を発見することができる研修を企画する 2. 教育委員が元気で、各病棟の教育支援ができるとともに、委員としての成長ができる</p> <p>&lt;活動内容&gt; 1. 院内集合研修の企画・運営・評価 2. OJTとリンクした継続性のある教育の検討と実施 3. 看護師個々のキャリアに応じた支援の検討と実施</p>
看護部教育担当者会	14回	<p>&lt;目的&gt; 新人看護師を支援する教育体制を整備し、実践する</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 新人看護師が現場に順応し、各自のペースに合わせて目標を達成していけるよう支援できる 2. 教育担当者が、新人看護師やプリセプターへの指導・教育、研修企画・運営、問題解決に関する知識やスキルを高め、成長できる</p> <p>&lt;活動内容&gt; 1. 新人看護師の院内集合研修の企画・運営・評価 2. OJTでの継続性のある新人看護師教育の検討と実施 3. 実施指導者・教育担当者の支援・育成 4. 全スタッフで新人看護師を育成する風土づくり・体制整備</p>

臨床指導者会	隔月開催で 6回	<p>&lt;目的&gt; 臨床指導者の育成と学生の効果的な臨床実習ができる</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生指導を通して指導スキルの向上をはかり自己の成長につなげる</li> <li>2. 患者の安全を確保し有効な実習を行える環境が提供できる。</li> <li>3. 指導要綱の見直しを行う</li> </ol> <p>&lt;活動内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スキルアップをはかる方法の一つとして積極的に研修会参加ができた。対象の理解と学生の学びを支えるための支援者の姿勢などについて学んだ</li> <li>2. 実習予定に関しては、事前に病棟会・連絡ノート・申し送りノート・カンファレンス・休憩室での掲示など行う、実習担当者に直接働きかけるなど工夫をしながら取り組んだ</li> <li>3. 「つぶやき版」は継続し、学生が起こしたヒヤリハット・個人情報の保護・実習に出来ない学生への対応など話し合え、活発な意見交換ができた</li> <li>4. 患者の安全については、学生に対して指導者の認識の差や目の行き届かない事があった。しかし、学生がなぜそうするのか、そう考えるのかを聞き出す働きかけが必要であったことがわかった</li> <li>5. 学生カンファレンスへの参加や学生との振り返り時に、自分の看護観を話す事で、学生に看護の楽しさややり甲斐を伝えるように努めた。また、学生も楽しさを感じたと話してくれた</li> <li>6. 実習経過表については、病棟の特徴に合わせた活用をしている</li> <li>7. 指導要綱の見直しは完了した</li> </ol>
業務・手順委員会	11回	<p>&lt;目的&gt; 業務を見直し、当院に必要な看護業務基準・手順を作成し、安全で安楽な標準化したケアを提供する</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護業務の見直しと改善策の検討</li> <li>2. 安全対策委員会感染対策委員会と連携を図り、看護業務基準・手順の作成及び修正</li> </ol> <p>&lt;活動内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 項目の手順見直しと手順監査</li> <li>2. 業務改善、ローカルルールの是正</li> </ol>

<p>感染対策委員会</p>	<p>11回</p>	<p>&lt;目的&gt;  リンクナースとして各部署における感染防止対策の中心的役割を担い、ICTと連携して感染防止対策を実践する。</p> <p>&lt;目標&gt;  1. 感染対策に対するスタッフの知識・技術が向上する。  2. 流行性感染症、耐性菌などのアウトブレイクが発生しない。  3. 勉強会、研修会、学会参加などをとおして実践モデルとしての役割がとれる。</p> <p>&lt;活動内容&gt;  1. 感染対策マニュアルの内容を実践に活かすため、毎月読み合わせを行い、リンクナース自身の理解を深めた。  2. 手指衛生の行動観察を2回実施した。対象とした半数の部署で遵守率が向上した。  3. 標準予防策のチェックリストを作成し、他者評価を実施して現状を把握した。並行してポスターを作成し、啓発した。  4. 有機物ふき取りキットを使用して環境整備の現状把握を行った。環境整備に対するスタッフの意識づけと改善策を実施して再調査を実施した結果、清潔度が改善した。新聞は計3回作成した。  5. 輸液に関する院内手順の見直しを行った。  6. ICTと密に連携し、問題発生時に早期対処した。  7. 病棟の感染対策に還元できるよう、ICTラウンドに同行して自己の学びを深めた。  8. リンクナースとして必要な知識、技術を習得するためチェックリストによる自己評価を年2回実施した。院外研修会にも自主的に参加した。</p>
<p>安全対策委員会</p>	<p>11回</p>	<p>&lt;目的&gt;  看護事故防止対策を検討し、全看護職員のリスク感性向上に向けて取り組むことを目的とする</p> <p>&lt;目標&gt;  1. ヒヤリハット事例の分析方法を理解し、再発防止に向けた取り組みができる  2. 院内のラウンドを行い、与薬、注射、ライン管理、転倒・転落に関する安全な行動の周知ができる  3. 看護部事故防止マニュアルの見直しができる</p> <p>&lt;活動内容&gt;  1. KYT、RCA分析について勉強会と分析を行い、マニュアルを作成した。各病棟でKYT・RCA分析を行った  2. 安全チェックリストの見直しを行った  3. 安全ニュースを2回（指差し呼称、環境整備や輸液ラインに関するKYTについて）発行した  4. 転倒、転落のアセスメントツールと看護計画の見直しを行った  5. 医療事故防止マニュアルの項目を検討した</p>

<p>看護記録委員会</p>	<p>11回</p>	<p>&lt;目的&gt; 電子カルテを見据え、看護の可視化と質評価につながる看護記録が出来る</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護記録フローシート記載要綱の修正及び、基準計画記載要綱の整備を行う</li> <li>2. 院内で使用している看護用語の統一に向けて、看護用語集作成の基盤ができる</li> <li>3. 「記録の日」の導入・定着を図るとともに、記録の監査を行うことで、スタッフ全員が看護の見える記録が出来るようになる</li> </ol> <p>&lt;活動内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護記録フローシートの記載要綱の見直し、修正を行った。</li> <li>2. 看護記録フローシートの記載見本を作成し使用方法の統一を図った。</li> <li>3. 補佐会と連携し、基準計画の記載要綱を作成した。</li> <li>4. 昨年度定義付けを行った、看護記録・看護計画で使用している用語や小児特有の用語について、電子カルテワーキンググループへ提出し、検討を図った。</li> <li>5. 業務委員会と連携し、今年度業務委員会で見直される看護手順の項目について、「記録する」の内容を明確にした。</li> <li>6. 機械的監査ツールを用いて、7月と10月にスタッフ全員を対象に監査を行った。</li> <li>7. 質的監査は看護記録フローシートの本格運用に合わせて、監査ツールの見直しを行った。</li> <li>8. 質的監査のツールの見直しとともに実施方法も見直し、9月と12月の2回監査を行った。</li> <li>9. 機械的・質的監査結果を受けて、各病棟単位で対策を立てた。</li> <li>10. 毎月の「記録の日」の活動内容をあらかじめ設定し、委員会で各病棟の取り組み状況の共有を行った。</li> </ol>
<p>クリニカルパス委員会</p>	<p>11回</p>	<p>&lt;目的&gt; 電子カルテを見据え、院内クリニカルパス委員会と連動し、クリニカルパスを推進する</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電子カルテに向け、パス用語の標準化が出来る</li> <li>2. バリエーション集計内容の質が向上する</li> <li>3. 既存パスのアウトカム修正を行う事により適切なバリエーション分析を行う</li> </ol> <p>&lt;活動内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既存パスの用語をMEDIS標準マスターを用いて見直しを行った</li> <li>2. 標準化した用語の情報共有の為、広報誌や用語集にまとめ提示した</li> <li>3. バリエーション集計用紙を活用し、バリエーションシートの記入状況を把握した</li> <li>4. バリエーション分析をパス修正や新規パス作成へ活用した</li> <li>5. アウトカムマスター（BOM）を用いたパス作成を開始</li> <li>6. 医事企画課と連携し、DPC適応のパスを検討し作成</li> <li>7. パス作成において現場で不明な点や、運用上の困った点を委員会で情報共有し、解決することでクリニカルパス推進に努めた</li> </ol>

<p>看護部地域連携委員会</p>	<p>11回</p>	<p>&lt;目的&gt; 在宅療養支援に関する院内外の現状を知り、地域連携推進に取り組む</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域と医療機関との交流を深め、連携を強化し受け入れ体制が整う</li> <li>2. 看護連絡票の見直しを行ない、必要な情報や看護が記載され、シームレスな看護ケアができる</li> <li>3. こども病院の退院支援システムの課題を明確にし、退院支援システムの構築をはかる</li> <li>4. 退院支援・退院調整のための知識・技術・社会資源の活用について学び、スタッフと共有する</li> </ol> <p>&lt;活動内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問看護実地研修1回、訪問看護師研修2回を開催した</li> <li>2. 看護連絡票の見直しを行ない、看護サマリーとして新しく書式を作成した。今後試行、修正を行い改定する</li> <li>3. 退院支援システムが完成し、診療部、看護部、指導相談・地域連携部と共有し、院内システムとして稼働を開始した。退院支援スクリーニングを行い入院早期から退院支援が開始となった</li> <li>4. 事例検討会を2事例した</li> <li>5. 在宅療養支援マニュアルの見直し・修正を行なった</li> </ol>
<p>看護部専門・認定看護師会</p>	<p>計11回</p>	<p>&lt;目的&gt; 医療・看護の質向上に向け、専門看護師・認定看護師が連携して問題解決への取り組みや支援を行う</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各専門・認定看護師の活動を共有し連携をはかる</li> <li>2. 各専門分野もしくは共通している問題について、ともに検討し解決につなげる</li> <li>3. 専門・認定看護師が協働して教育活動を行う</li> <li>4. 専門・認定看護師の支援体制を整える</li> </ol> <p>&lt;活動内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各自の年間計画、月間・年間活動報告の共有</li> <li>2. 活動の中で発見した問題提起と検討、互いの支援</li> <li>3. 専門・認定看護師が協働する勉強会の企画・運営</li> <li>4. 活動に関する看護部との調整・交渉</li> </ol>
<p>看護部研究支援委員会</p>	<p>計8回</p>	<p>&lt;目的&gt; スタッフが看護研究を意欲的かつ適切に実施できるように、研究の全過程にわたって支援する</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究の計画や実施において、スタッフが適切な倫理的配慮を行えるよう支援する</li> <li>2. スタッフが、看護に関して科学的方法を用いて探求し、新しい知見を得るために、適切な指導と支援を行う</li> </ol> <p>&lt;活動内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究の倫理的配慮に対する指導・教育</li> <li>2. 看護研究の計画・実施プロセスにおけるスタッフの支援</li> </ol>

皮膚・排泄ケア部会	11回	<p>&lt;目的&gt; 皮膚排泄における専門知識を習得し、ケアの質向上を図ることを目的とする</p> <p>&lt;目標&gt; 1. ストーマケア、失禁ケア、創傷ケアなどの専門知識、技術を共有する 2. 各部署におけるストーマケア、失禁ケア、創傷ケアの現状や課題を検証し改善する</p> <p>&lt;活動内容&gt; 1. グループ活動 1) 褥瘡の基本やケア方法について学習会を開催 2) ストーマケアと導尿の指導用VTRを作成 3) 褥瘡リスクアセスメント用紙の記入不備内容の検討とスタッフへの周知 2. 体圧分散寝具の特徴を理解し有効活用できるように、体圧分散寝具ファイルの整理 3. 各部署の皮膚・排泄ケアの取り組みや難渋した事例の報告と検討 4. 皮膚・排泄認定看護師より皮膚・排泄ケアやケア用品について、ワンポイントレッスンをを行い部会委員の知識の向上に努めた 5. 新人研修での皮膚・排泄ケア勉強会の開催</p>
呼吸障害ケア部会	11回	<p>&lt;目的&gt; 1. 呼吸障害における専門知識を習得する 2. 呼吸障害におけるケアの質の向上を図る</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 呼吸障害に関する最新知識・技術を学び、共有する 2. 各部署における呼吸ケアの現状や課題を検証し改善する</p> <p>&lt;活動内容&gt; 1. 呼吸ケア関連のヒアリハット対策 2. 院内全ての人工呼吸器に共通のチェックリストの運用を開始 3. 事例検討、関連情報の共有 4. 院内MEとの連携（在宅人工呼吸器に関する運用、他） 5. 院内ICNとの連携（呼吸関連デバイスの洗浄・消毒・方法に関する抜本的変更） 6. 在宅用人工呼吸器トリロジー®のトラブルシューティング作成 7. 口腔ケア方法の標準化 8. 勉強会の企画・開催 ①在宅用人工呼吸器トリロジー®について病棟単位の少人数制勉強会（計147名/13回） ②口腔ケアについて該当病棟合同勉強会（計53名/3回） 8. 呼吸ケアに関する看護手順の作成・改訂（15項目） 9. 学会・研修報告</p>
摂食障害ケア部会	11回	<p>&lt;目的&gt; 1. 摂食に関する最新の知識を学び、共有する 2. 事例検討を行い、質の高い看護を提供する</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 症例検討を通じて摂食ケアの考え方について学び、適切なケアを提供できる 2. 各委員が各部署における摂食ケアのレベルアップ方法を計画し、実践できる</p> <p>&lt;活動内容&gt; 1. 委員が、摂食ケアについての基礎知識を習得できるよう上半期計画的に勉強会を行った 2. 栄養指導課より、栄養療法の現状を学び適切な食事形態選択の指針とした 3. 毎月各部署から症例をあげ検討し、各部署での摂食に対する意識の向上につなげた 4. 標準看護計画を積極的に使用し看護ケアを展開しながら評価修正し看護基準への移行を行った</p>

## 25. 薬剤部

### 1 薬剤部員異動

(平成 25 年 4 月 1 日付)

【転出者】	次長	辻本 勉	県立淡路医療センター	(平成 25 年 4 月 1 日付)
	職員	森田 紗代	県立柏原病院	(平成 25 年 4 月 1 日付)
【転入者】	次長	合田 泰志	県立加古川医療センター	(平成 25 年 4 月 1 日付)
	職員	愛甲 佳未	新規採用者	(平成 25 年 4 月 1 日付)
	職員	柘井 佳奈	新規採用者	(平成 25 年 4 月 1 日付)

### 2 平成 25 年活動報告

本年の主な取り組み概要を下記に記す。

#### (1) 薬剤部内での医薬品に係わるヒヤリハット防止への取組

薬剤業務が適正に実施されているかを確認する目的で実践検証を実施、また医療事故防止のための薬剤業務マニュアルの輪読等、リスク防止対策を強化し、部員全員で調剤過誤防止に取り組んでいる。

#### (2) 治験への取組

治験審査委員会事務局として新規治験 7 件を含む 9 件の治験に携わった。さらに、本年は当院での治験に加え小児治験ネットワークを介した治験（中央治験審査委員会で審議）にも積極的に参加し、より充実した治験業務が展開できた。

#### (3) 薬学生の長期実務実習への取組

2 名の薬学生を受入れ、実務実習モデル・コアカリキュラムに沿って、当院での実習スケジュール等を作成し、病院薬剤師として必要な知識等を指導した。

#### (4) 部員の育成

薬剤部の活性化と個々の部員のモチベーションを高めるため、部内勉強会や薬剤管理指導症例検討会等を実施し、さらに学会等での発表を支援した。

#### (5) 新病院構想への対応

こども病院建替整備に向けて、薬剤部員の意見等を集約し、薬剤部門システムや医療情報システム等の仕様書策定等に携わった。

### 3 来年の展望と予定

昨年度に引き続き、医療事故防止対策の充実やチーム医療の促進という観点から病棟薬剤師業務等を含め、今後新たな業務等について検討していきたい。

また新病院建替整備においても、より充実したシステムや設備等を部員の意見等を踏まえ提案していきたい。

(1) 調剤件数

区 分	処方箋 枚 数	合 計			内 用 薬			外 用 薬		
		処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数
入 院	39,564	68,525	77,628	358,193	53,234	62,337	323,291	15,291	15,291	34,902
外 来	7,130	16,160	48,167	316,595	13,329	45,336	296,913	2,831	2,831	19,682
計	46,694	84,685	125,795	674,788	66,563	107,673	620,204	18,122	18,122	54,584
一日平均	191.4	347.1	515.6	2,765.5	272.8	441.3	2,541.8	74.3	74.3	223.7

(2) 注射薬取扱件数

区 分	注 射 薬	
	処方箋枚数	延本数
入 院	105,225	584,692
外 来	7,454	15,896
計	112,679	600,588
一日平均	461.8	2,461.4

(3) 薬剤管理指導料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
産 科	111	119	107	129	118	124	115	117	103	129	120	124	1,416
心外・循内	31	12	23	34	40	51	53	51	21	34	32	36	418
血液腫瘍内科	57	59	56	76	79	64	76	78	64	79	70	67	825
腎臓内科	5	6	7	9	13	11	15	12	12	18	15	17	140
眼 科	27	31	34	31	29	34	26	33	31	28	31	36	371
泌尿器科	0	0	0	0	6	18	15	18	17	12	17	15	118
耳鼻科	0	0	0	0	5	7	11	9	10	15	9	8	74
整形外科	0	0	0	0	6	13	12	13	11	13	15	15	98
形成外科	0	0	0	0	3	15	21	13	13	24	15	17	121
計	231	227	227	279	299	336	345	346	281	350	323	335	3,579

(4) 退院時薬剤情報管理指導料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
産 科	17	11	10	13	21	18	15	6	8	22	22	30	193
心外・循内	5	5	2	4	3	7	6	15	3	9	3	10	72
血液腫瘍内科	1	0	2	3	5	5	1	4	0	0	4	1	26
腎臓内科	1	0	2	0	2	0	3	4	1	4	2	4	23
眼 科	19	27	30	26	19	33	26	30	24	25	24	31	314
泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
耳鼻科	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
整形外科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
形成外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	43	43	46	46	50	63	51	61	37	61	55	76	632

(5) 薬剤情報提供料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全 科	445	400	447	427	397	431	466	489	378	430	419	449	5,178

(6) 無菌製剤調製業務 件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
抗がん剤	163	164	172	180	159	168	202	217	182	181	151	172	2,111
高カロリー	69	90	118	117	126	125	130	102	54	96	131	89	1,247
計	232	254	290	297	285	293	332	319	236	277	282	261	3,358

(7) 薬物の血中濃度測定 件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
メソトレキセート	0	14	13	12	20	22	8	16	17	30	30	25	207

(8) 院内D I 業務

① 電子メールによる情報提供

送 信 日	件 名
2013. 2. 8	医薬品・医療機器等安全性情報 No.297
2013. 2.15	医薬品・医療機器等安全性情報 No.298
2013. 4. 3	医薬品・医療機器等安全性情報 No.299
2013. 4. 3	医薬品・医療機器等安全性情報 No.300
2013. 6. 5	医薬品・医療機器等安全性情報 No.301
2013. 7. 4	医薬品・医療機器等安全性情報 No.302
2013. 8. 1	医薬品・医療機器等安全性情報 No.303
2013. 9. 2	医薬品・医療機器等安全性情報 No.304
2013. 9.30	医薬品・医療機器等安全性情報 No.305
2013.11.11	医薬品・医療機器等安全性情報 No.306
2013.12. 2	医薬品・医療機器等安全性情報 No.307

② 主な問い合わせ内容

問 い 合 わ せ 内 容	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 注射薬配合変化について</li><li>・ 注射薬溶解後の安定性について</li><li>・ 注射薬のフィルター透過性について</li><li>・ 食品と薬剤の相互作用について</li><li>・ 内服薬の飲み易い飲み方について</li><li>・ 冷所保存医薬品の常温での安定性について</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 抗がん剤の適切な投与方法について</li><li>・ 医薬品の副作用について</li><li>・ 血液製剤の投与方法について</li><li>・ 小児薬用量について</li><li>・ 錠剤の粉碎可否について</li></ul>

## (9) 院内製剤

## ① 内用液剤

製剤名	製剤量 (単位 /mL)
内服用ルゴール液	270

## ② 軟膏

製剤名	製剤量 (単位 /g)
バリアー	195,000
10% テストステロン軟膏	1,400
0.4% エストラジオール軟膏	2,400

## ③ 外用液剤

製剤名	製剤量 (単位 /mL)
アセモトール	12,000
1/2 カプトドロップ	1,440
0.5% アトロピン点眼	40
25% グリセリン液	26,100
耳垢水	200
食塩重曹液	190
20% 硝酸銀	20
30% 硝酸銀	130
40% 硝酸銀	50
10% ピオクタニン青液	150
1% ピオクタニン青液	40
0.2% ピオクタニン青液	200
30% アルコール	260
50% アルコール	255
ツェンテール液	20

## ④ 予製剤

製剤名	製剤量 (単位 /g)	製剤名	製剤量 (単位 /g)
(倍散→倍散)		ドルナー散 (× 50000)	13,000
0.01% ジゴシン散	1,000	ニュートライド (× 10)	500
(錠→散)		フラジール散 (× 4)	300
インデラル散 (× 100)	2,400	ポラキス散 (× 100)	1,800
グリチロン散	1,170	メキシチール散 (× 10)	100
コートリル散 (× 20)	1,500	ロングス散 (× 100)	4,800
デカドロン散 (× 1000)	500	ワーファリン散 (× 500)	13,500

## 26. 検査・放射線部（検査部門）

### 1. 人事異動

#### 【転出者】

担当課長補佐	小寺郁美	県立塚口病院	(平成 25 年 4 月 1 日付)
主任検査技師	藤中早代	県立淡路病院	(平成 25 年 4 月 1 日付)
課長補佐	松本郁子	県立がんセンター	(平成 25 年 4 月 1 日付)

#### 【転入者】

主査	河村規子	県立西宮病院	(平成 25 年 4 月 1 日付)
主査	山本正子	県立がんセンター	(平成 25 年 4 月 1 日付)
主任	溝根尚子	県立西宮病院	(平成 25 年 4 月 1 日付)

### 2. 活動報告

本年の主な取り組み概要を以下に示す

#### (1) 院内感染対策

- ・感染管理加算 I の取得
- ・感染対策委員会事務局として、本委員会を定期開催（年 12 回）
- ・院内の細菌分離状況および耐性菌検出状況を定期的に調査・報告
- ・厚生労働省・神戸市の定期感染症サーベイランス資料を作成・報告

#### (2) 安全な輸血医療

- ・輸血管理料 I の取得
- ・輸血療法委員会事務局として、本委員会を定期開催（年 6 回）
- ・輸血療法委員会研修会開催（全職員対象）
- ・輸血療法マニュアルの改定

#### (3) 検査委員会活動（診療支援、患者サービスの向上）

- ・臨床検査機器（時間外血液検査測定機器、自動免疫測定装置）の更新・新規
- ・時間外項目や迅速検査項目の追加
- ・新生児聴覚スクリーニング検査実施

#### (4) 医療事故防止の強化

- ・医療安全目標の作成と推進  
目標：「患者確認の徹底」患者氏名（フルネーム確認の徹底）、生年月日、患者 ID で確認
- ・始業前の朝会で、日当直帯検査実施状況の報告を行い、ヒヤリ・ハット情報の共有化に努める

#### (5) 資質向上と教育

- ・職員の資質向上を図るため、学会・研修会への積極的な参加や兵庫県立病院の相互利用による研修などを実施
- ・検査技術科学専攻学生臨地実習の受け入れと指導

神戸常盤大学保健科学部	(3年次臨地実習	: 2名)
愛媛県立医療技術大学保健科学部	(3年次病院見学	: 1名)
神戸大学医学部	(1年次初期体験実習:	7名)
神戸大学医学部保健学科検査技術科	(4年次臨地実習	: 2名)

〈認定資格〉

超音波検査士（消化器）	1名	超音波検査士（循環器）	2名
超音波検査士（産婦人科）	1名		
第2種ME技術	1名	分析機器・試薬アナリスト	1名
認定血液検査技師	1名	認定輸血検査技師	2名
日本糖尿病療養指導士	1名		
特定化学物質及び四アルカリ鉛等作業主任者	4名		
有機溶剤作業主任者	1名	毒物劇物取扱者	1名
第一種衛生管理者	1名	衛生工学衛生管理者	1名

3. 平成26年の課題

- ・小児がん拠点病院に対応する臨床検査部門の充実  
検査機器更新と人材育成
- ・輸血用血液製剤の効率的利用、赤血球製剤廃棄率の低減化推進
- ・感染対策に関する情報の院内周知強化
- ・こども病院建替基本計画にそった高度専門医療や救急・災害時に24時間365日対応できることを考慮した基本設計の推進

## (1) 平成 25 年臨床検査実施状況

メディスコードを用いた集計に変更

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
一 般	2,345	2,326	2,739	2,343	2,315	2,515	3,199	3,318	2,602	2,915	2,617	2,793	32,027
血 液	11,552	10,818	12,482	12,082	11,693	11,035	12,447	11,762	10,465	10,396	10,726	11,058	136,516
細 菌	2,803	2,721	2,924	2,929	3,076	2,522	3,051	2,699	2,693	2,512	2,742	3,042	33,714
血 清	5,372	4,804	5,479	5,119	5,115	5,054	5,895	5,406	4,617	4,509	4,848	5,020	61,238
生 化 学	43,785	41,483	47,015	45,674	46,442	42,641	48,250	48,220	41,804	42,075	42,901	44,966	535,256
病 理	135	115	147	139	128	113	186	166	119	148	151	167	1,714
生 理	1,069	1,124	1,505	1,508	1,364	1,299	1,510	1,883	1,378	1,432	1,275	1,468	16,815
職員検診	45	36	41	38	37	3,571	80	69	60	64	37	40	4,118
外部委託	3,305	2,912	3,357	3,460	3,079	5,981	3,592	3,610	3,363	2,956	3,079	2,918	41,612
合 計	70,411	66,339	75,689	73,292	73,249	74,731	78,210	77,133	67,101	67,007	68,376	71,472	863,010

## (2) 平成 25 年時間外（日、当直）検査実施状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年度累計
項目数	2,434	1,970	2,224	2,653	3,000	2,407	2,595	2,291	2,657	2,133	2,473	3,148	29,985
対前年比	103.4%	98.2%	106.3%	126.6%	135.7%	118.5%	111.9%	109.6%	133.4%	82.5%	104.0%	138.7%	113.5%
患者数	966	683	875	1,052	1,189	973	1,051	923	1,070	835	990	1,250	11,857
対前年比	104.5%	85.5%	106.7%	125.5%	129.9%	123.3%	116.8%	112.7%	132.3%	79.4%	108.1%	139.8%	113.2%

## (3) 平成 25 年血液製剤使用状況

製剤		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
RCC	購入数 単位数	175	187	282	215	236	227	256	244	242	173	202	207	2,646
	使用量 単位数	163	174	280	208	232	225	247	238	228	169	200	199	2,563
	廃棄量 単位数	12	13	2	7	4	2	9	6	14	4	2	8	83
	廃棄率 %	6.9	7.0	0.7	3.3	1.7	0.9	3.5	2.5	5.8	2.3	1.0	3.9	3.1
FFP	購入数 単位数	108	76	277	112	159	190	132	122	153	47	116	245	1,737
	使用量 単位数	106	75	273	106	158	185	131	122	147	45	116	241	1,705
	廃棄量 単位数	2	1	4	6	1	5	1	0	6	2	0	4	32
	廃棄率 %	1.9	1.3	1.4	5.4	0.6	2.5	0.8	0.0	3.9	4.3	0.0	1.6	1.8
PC	購入数 単位数	730	770	870	820	745	815	1,090	1,360	1,055	890	1,035	745	10,925
	使用量 単位数	730	770	860	820	735	815	1,090	1,360	1,035	880	1,035	725	10,855
	廃棄量 単位数	0	0	10	0	10	0	0	0	20	10	0	20	70
	廃棄率 %	0.0	0.0	1.1	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	1.9	1.1	0.0	2.7	0.6

材料別検査件数（H25年）

材料	依頼件数
喀痰	759
気管洗浄液	1274
咽頭粘液	1135
鼻腔粘液	1309
その他（呼吸器系）	136
口腔、気道又は呼吸器からの検体合計	4613
尿・カテーテル尿	1174
膣分泌物	832
悪露	217
子宮腔内	214
その他（泌尿器系）	189
泌尿器又は生殖器からの検体合計	2626
便	414
G B S 増菌	473
その他（消化器系）	55
消化管からの検体合計	942
血液	2266
髄液	171
胸・腹水	63
その他（穿刺液）	37
血液又は穿刺液検体合計	2537
I V H先端	369
ドレーンチューブ	167
膿（開放・非開放）	188
Aライン先端	62
耳漏	16
皮膚	318
眼脂	39
その他	374
その他の部位からの検体合計	1533
トリコモナス	8
培養合計	12259
感受性試験 1種類	1862
感受性試験 2種類	447
感受性試験 3種類	93
その他の検査	143
ウイルス迅速検査	1419
M R S A検査	7663

病棟別検査件数（H25年）

病棟	依頼件数
一般外科病棟 4 B	565
循環器 A 病棟 5A	421
循環器 B 病棟 5B	587
混合病棟 6 A	228
混合病棟 6 B	336
血液病棟 7 F	1955
救急病棟	2115
産科病棟	1831
ICU	1599
HCU	625
NICU	3538
GCU	2445
総合診療科	8
アレルギー科	3
脳神経内科	0
循環器科	21
腎臓内科	56
新生児科	106
血液・腫瘍科	45
小児外科	105
形成外科	5
整形外科	5
泌尿器科	87
耳鼻咽喉科	23
産科外来	857
心臓血管外科	2
救急集中治療科	403
眼科	0
代謝内分泌科	13
脳神経外科	8

分離菌内訳 (H25 年)

菌種		菌名	総件数	感受性報告件数
グラム陽性菌	ブドウ球菌	S.aureus	715	647
		S.aureus (MRSA)	510	341
		S.epidermidis	23	23
		S.epidermidis (MRSE)	353	353
		その他の CNS	1958	138
		Micrococcus sp.	245	5
	連鎖球菌	S.agalactiae	185	184
		S.pneumoniae	85	85
		Group G Strep	10	10
		Group A Strep	29	29
		その他の Viridans strep	1281	30
		その他の Streptococcus	95	23
	腸球菌	E.faecalis	280	280
		E.faecium	59	59
		その他の腸球菌	408	21
	その他	Bacillus sp.	27	1
		Corynebacterium sp.	493	0
		Lactobacillus sp.	856	0
嫌気性菌		5	0	
グラム陰性菌	腸内細菌	K.pneumoniae	229	229
		E.coli	282	282
		E.cloacae	78	78
		E.aerogenes	42	42
		S.marcescens	255	255
		K.oxytoca	157	157
		P.mirabilis	12	12
		C.freundii	8	8
		M.morganii	2	2
		その他の腸内細菌	26	26
	非ブドウ糖発酵菌	P.aeruginosa	620	613
		A.baumann/haem	148	148
		B.cepacia	26	26
		S.maltophilia	154	154
		その他の pseudomonas	8	3
		その他の非発酵菌	36	29
	その他	H.influenzae	57	57
		Haemophilus sp.	8	1
		M. (B) catarrhalis	52	52
		Neiseria sp.	424	1
		G.vaginalis	21	0
		その他の陰性菌	165	1
	真菌	C.albicans	179	
		C.glabrata	53	
C.parapsilosis		0		
Aspergillus sp.		0		
Candida sp.		10		

## 耐性菌検出状況 (H25 年)

菌名	件数
S.aureus (MRSA)	510
MRSA 感受性実施	415
S.epidermidis (MRSE)	353
その他の MRCNS	1653
MRCNS 感受性実施	117
St.pneumoniae (PISP)	12
St.pneumoniae (PRSP)	24
H.influenzae (BLNAR)	8
H.influenzae (BLPACR)	1
E.coli ESBL	46
K.pneumoniae ESBL	5
K.oxytoca ESBL	0
P.mirabilis ESBL	0
P.aeruginosa MBL	0
E.coli MBL	0
K.pneumoniae MBL	2
K.oxytoca MBL	0

## MRSA サーベイ (H25 年)

科・病棟	件数	陽性	陰性	陽性率
一般外科病棟 4B	123	54	69	43.9%
循環器 A 病棟 5A	160	28	132	17.5%
循環器 B 病棟 5B	201	85	116	42.3%
混合 A 病棟 6A	184	55	129	29.9%
混合 B 病棟 6B	178	93	85	52.2%
血液病棟 7F	173	8	165	4.6%
救急病棟	0	0	0	0%
I C U	245	26	219	10.6%
H C U	297	82	215	27.6%
N I C U	356	15	341	4.2%
G C U	722	16	706	2.2%

## MRSA 発生報告書分類 (H25 年)

病棟名	院内	持込	発病	保菌	不明
一般外科病棟 4B	2	3	2	3	
循環器 A 病棟 5A	2	0	0	2	
循環器 B 病棟 5B	7	8	0	15	
混合 A 病棟 6A	3	13	0	16	
混合 B 病棟 6B	4	21	1	24	
血液病棟 7F	0	0	0	0	
救急病棟	0	2	0	2	
I C U	2	2	0	4	
H C U	5	4	1	8	
N I C U	7	3	1	9	
G C U	10	3	2	11	
産科病棟	0	0	0	0	

無菌材料検出菌（H25年）

材 料	件数	陽性件数	陽性率
静脈血	1292	70	5.4%
動脈血	405	10	2.5%
プロピアック血	548	39	7.1%
ポート血	16	2	12.5%
臍帯血	6	2	33.3%
髄液	171	12	7.0%
IVH先端	369	67	18.2%
Aライン先端	62	20	32.3%
胸水	26	8	30.8%
腹水	35	10	28.6%
関節液	7	2	28.6%
穿刺液	19	8	42.1%
組織	18	11	61.1%
羊水	7	0	0%

血液培養検出菌	
S.epidermidis (MRSE)	20
S.aureus	8
S.aureus (MRSA)	3
その他 CNS	13
S.pneumoniae	8
その他連鎖球菌	13
腸球菌	9
E.coli	12
K.pneumoniae	2
その他腸内細菌	3
Paeruginosa	13
H.influenzae	2
GPR	8
その他	17

IVH先端培養検出菌	
S.epidermidis (MRSE)	38
S.aureus	4
S.aureus (MRSA)	5
その他 CNS	11
腸球菌	7
腸内細菌	4
Paeruginosa	7
GPR	2

髄液検出菌	
S.aureus (MRSA)	6
S.epidermidis (MRSE)	4
S.aureus	1
MRCNS	1

細菌別薬剤感受性率

グラム陽性球菌

菌名	株数	ABPC	CEZ	CDTR	CMZ	MEPM	GM	AMK	ABK	EM	CAM	AZM	CLDM	MINO	LVFX	VCM	TEIC	ST	LZD
S.aureus	715	0%	100%	100%	100%	100%	83%	99%	100%	88%	88%	88%	95%	91%	89%	100%	100%	100%	100%
S.aureus (MRSA)	510	0%	0%	0%	-	0%	67%	86%	100%	9%	10%	10%	18%	44%	12%	100%	100%	100%	100%
S.epidermidis	23	0%	100%	100%	96%	100%	87%	100%	-	78%	78%	78%	96%	100%	87%	100%	100%	100%	100%
S.epidermidis (MRSE)	353	0%	0%	0%	0%	0%	52%	89%	-	26%	28%	27%	60%	99%	36%	100%	100%	90%	100%
E.faecalis	280	100%	-	-	-	91%	-	-	-	15%	-	-	-	10%	100%	100%	100%	-	100%
E.faecium	59	5%	-	-	-	-	-	-	-	3%	-	-	-	19%	9%	100%	100%	-	100%

肺炎球菌

菌名	株数	PCG	ABPC	A/S	CTM	CTX	CFPM	CFIX	CDTR	MEPM	EM	CAM	CLDM	LVFX	VCM	ST
S.pneumoniae (PSSP)	49	100%	-	-	86%	98%	96%	23%	100%	100%	12%	23%	29%	100%	100%	80%
S.pneumoniae (PISP)	12	0%	-	-	17%	83%	100%	0%	92%	75%	8%	8%	25%	100%	100%	50%
S.pneumoniae (PRSP)	24	0%	-	-	13%	67%	88%	0%	71%	21%	4%	13%	58%	100%	100%	63%

グラム陰性桿菌

菌名	株数	ABPC	PIPC	CEZ	CTX	CAZ	CFPM	CDTR	CFPN	FMOX	MEPM	GM	AMK	MINO	LVFX	CPFX	ST
E.coli	236	57%	69%	86%	98%	97%	100%	83%	85%	96%	100%	93%	100%	100%	91%	90%	92%
E.coli ESBL	46	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%	0%	98%	100%	61%	100%	100%	37%	36%	67%
E.coli $\times$ タロ $\beta$ +	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
K.pneumoniae	221	7%	35%	82%	95%	88%	100%	82%	78%	88%	100%	97%	100%	96%	96%	94%	79%
K.pneum ESBL	5	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%	20%	100%	60%	100%	50%	0%
K.pneumoniae $\times$ タロ $\beta$ +	3	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%	100%	67%	100%	33%
K.oxytoca	157	5%	24%	26%	100%	100%	100%	98%	96%	100%	100%	100%	100%	96%	100%	100%	100%
K.oxytoca ESBL	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
K.oxytoca $\times$ タロ $\beta$ +	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
E.cloacae	78	8%	68%	3%	67%	71%	95%	58%	59%	6%	100%	100%	100%	90%	100%	100%	95%
E.aerogenes	42	43%	95%	38%	98%	98%	100%	89%	98%	45%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
S.marcescens	255	2%	88%	0%	92%	98%	100%	64%	71%	65%	100%	100%	100%	91%	100%	98%	86%
P.mirabilis	12	83%	92%	92%	100%	100%	100%	89%	92%	92%	100%	100%	100%	0%	100%	89%	92%
P.mirabilis ESBL	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

グラム陰性ブドウ糖非発酵菌

菌名	株数	PIPC	P/T	CAZ	CFPM	MEPM	DRPM	S/C	GM	TOB	AMK	MINO	LVFX	CPFX	ST	FOM
P.aeruginosa	620	92%	92%	79%	78%	89%	90%	75%	92%	100%	96%	-	95%	98%	-	18%
P.aeruginosa $\times$ タロ $\beta$ +	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A.baumannii	148	81%	-	100%	97%	100%	100%	100%	99%	99%	100%	100%	100%	100%	84%	-
S.maltophilia	154	-	-	36%	7%	-	-	-	-	-	-	100%	94%	-	100%	-
B.cepacia	26	0%	100%	50%	0%	100%	-	-	0%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	-
P.aeruginosa MDRP	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## 27. 検査・放射線部（放射線部門）

### 1. 人事異動 平成 25 年 4 月 1 日付

（転出者）	主任放射線技師	清水 俊文	県立塚口病院へ
	主査	関尾 直士	県立姫路循環器病センターへ
（転入者）	主任放射線技師	山崎 敏弘	県立西宮病院より
	主査	原 誠	県立加古川医療センターより

### 2. 活動状況

周産期医療センター開設時に多くの放射線機器の導入・更新がなされ、平成 19 年以降、昨年迄に順次更新がなされてきた。一昨年の X 線 C T 装置 (160 列) につづき、昨年は FPD (フラットパネルディテクタ) 搭載 X 線 TV 装置が導入され、より高画質かつ低被ばくの検査を実現している。ますます高度化する医療に対応できる放射線部を目指している。

また、他院からの紹介患者の画像については、一部を除き、診察前に画像情報を P A C S サーバに取込み、診察時に診療支援システムで画像を閲覧できるようにしている。

#### 1) 放射線検査業務実績

平成 25 年の放射線検査実績は、総検査件数 41,489 件で、ほぼ前年並み(41,343 件)の件数を維持している。外来患者は 140 件の減少であったが、時間外撮影の若干の増加により病室撮影 (入院患者) が増加した。詳細は後に掲載している「放射線検査人数」以降に示す。

#### 2) 機器の更新

脊椎・下肢全長撮影システム (一般撮影) の増設

整形外科領域の中で特に脊椎・下肢等の長尺撮影が増加している (22 年度 1,495 件、23 年度 1,808 件、24 年度 1,920 件)。従来、外科撮影室 1 室で撮影していたが、長尺撮影は撮影時間及び画像処理時間が通常撮影の 2 倍以上要するため、検査日には長時間の待ち時間がしばしば発生していた。システム増設により胸部撮影室を含めた 2 室で撮影・処理が可能となり業務の効率化と患者待ち時間の短縮が図れるようになった。

#### 3) 医療事故防止の取組み

東日本大震災以降、福島原発の放射能汚染により放射線に対する関心と不安は、非常に大きくなっている。病院で使用される放射能や放射線による被ばく量は、原発事故で発生する放射線被ばく量とは、桁違いに低いものではあるが、できる限り被ばくを少なくすることを心がけ、安全・安心な画像診断を目指している。

平成 25 年の医療事故防止重点取り組みは、以下のとおりである。

- ・患者間違いの防止：氏名、生年月日・リストバンド等による確認を徹底する。
- ・撮影間違いの防止：撮影情報 (左右の表示等)、撮影方向等の確認を徹底する。

#### 4) 資質向上と教育

職員の資質向上を図るため、学会・研修会への積極的な参加と研究発表を行っている。また専門認定資格取得にも取り組んでいる。今年の実績は以下のとおりである。

- ・学会・研修会発表 : 2 演題
- ・学会・研修会等への参加 : 放射線技術学会、小児放射線技術学会、日本磁気共鳴医学会等
- ・放射線部内勉強会の実施 : 4 回

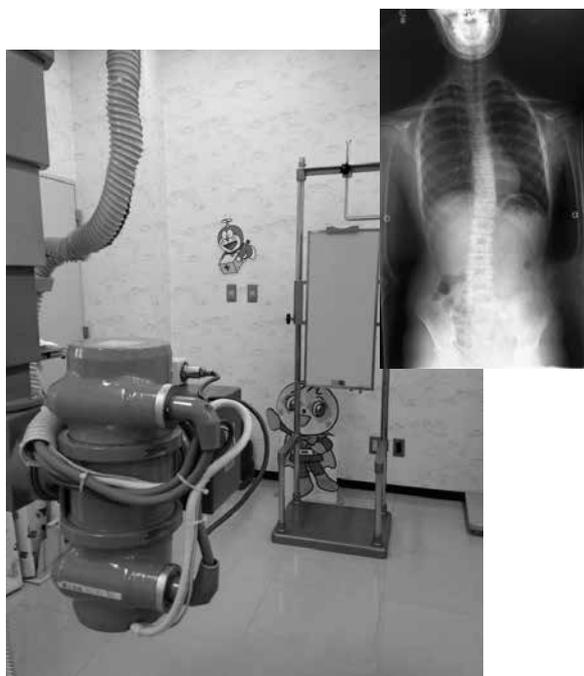
<認定資格>

第 1 種放射線取扱主任者	2 名	医用画像情報管理士	1 名
第 2 種放射線取扱主任者	1 名	放射線機器管理士	1 名
第 1 種作業環境測定士	1 名	日本 DMAT 隊員	1 名

3. 次年度の課題

こども病院の建て替え計画に合わせ、放射線部の基本設計が完成したところであるが、より具体的な新病院の機器整備計画や、電子カルテ導入に向けての準備を進めていく。

また、引続き医療安全に配慮しながら、放射線診療の質向上に努める。



脊椎・下肢全長撮影システム



FPD 搭載 X 線 TV 装置 : 日立 CUREVISTA

## (1) 放射線検査人数

区分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
単純撮影	胸部撮影	外来	618	620	856	738	692	631	761	945	669	684	639	645	8,498
		入院	129	91	124	87	125	149	149	151	101	141	137	131	1,515
		計	747	711	980	825	817	780	910	1,096	770	825	776	776	10,013
	外科撮影	外来	584	551	621	680	508	481	650	633	537	563	534	576	6,918
		入院	118	130	148	117	147	139	156	142	119	120	136	139	1,611
		計	702	681	769	797	655	620	806	775	656	683	670	715	8,529
	ポータブル	外来													0
		入院	742	613	756	670	798	665	761	547	649	638	714	816	8,369
		計	742	613	756	670	798	665	761	547	649	638	714	816	8,369
	パノラマ・その他	外来	45	46	46	51	43	45	35	35	23	27	26	28	450
		入院	1	0	1	0	1	1	3	1	0	0	0	0	8
		計	46	46	47	51	44	46	38	36	23	27	26	28	458
単純撮影合計		外来	1,247	1,217	1,523	1,469	1,243	1,157	1,446	1,613	1,229	1,274	1,199	1,249	15,866
		入院	990	834	1,029	874	1,071	954	1,069	841	869	899	987	1,086	11,503
		計	2,237	2,051	2,552	2,343	2,314	2,111	2,515	2,454	2,098	2,173	2,186	2,335	27,369
造影撮影	消化器	外来	19	10	15	15	15	8	13	16	12	10	12	11	156
		入院	12	7	11	16	23	31	25	17	12	16	11	34	215
		計	31	17	26	31	38	39	38	33	24	26	23	45	371
	脳血管	外来													0
		入院	0	1	3	2	1	2	4	2	3	1	2	3	24
		計	0	1	3	2	1	2	4	2	3	1	2	3	24
	心臓血管	外来													0
		入院	16	17	25	22	19	23	25	29	18	24	21	18	257
		計	16	17	25	22	19	23	25	29	18	24	21	18	257
	その他の血管	外来													0
		入院	0	0	2	2	4	3	1	3	4	0	2	1	22
		計	0	0	2	2	4	3	1	3	4	0	2	1	22
	泌尿器系	外来	22	24	33	21	20	25	20	34	26	33	28	22	308
		入院	1	0	2	2	6	4	3	1	6	3	0	1	29
		計	23	24	35	23	26	29	23	35	32	36	28	23	337
	その他の造影	外来	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	3
		入院	2	4	5	6	4	2	1	3	2	4	4	1	38
		計	2	4	5	6	5	2	1	5	2	4	4	1	41
造影撮影合計		外来	41	34	48	36	36	33	33	52	38	43	40	33	467
		入院	31	29	48	50	57	65	59	55	45	48	40	58	585
		計	72	63	96	86	93	98	92	107	83	91	80	91	1,052
CT撮影	外来	120	101	111	135	107	110	153	138	109	110	112	131	1,437	
	入院	95	114	109	112	122	103	146	143	122	121	123	137	1,447	
	計	215	215	220	247	229	213	299	281	231	231	235	268	2,884	
MRI検査	外来	95	110	118	119	115	105	134	152	116	115	110	120	1,409	
	入院	71	58	56	64	56	55	60	55	62	66	46	52	701	
	計	166	168	174	183	171	160	194	207	178	181	156	172	2,110	
核医学検査	外来	17	10	30	18	11	20	35	33	14	16	14	35	253	
	入院	12	6	6	7	9	6	5	12	5	12	7	8	95	
	計	29	16	36	25	20	26	40	45	19	28	21	43	348	
放射線治療	外来	12	0	43	4	0	11	20	15	0	6	10	0	121	
	入院	85	133	68	45	127	57	27	65	76	59	31	47	820	
	計	97	133	111	49	127	68	47	80	76	65	41	47	941	
超音波検査	外来	275	275	345	313	232	248	361	442	299	314	286	304	3,694	
	入院	59	48	81	51	78	69	65	70	59	75	70	58	783	
	計	334	323	426	364	310	317	426	512	358	389	356	362	4,477	
PACS処理	外来	179	201	157	187	155	168	205	233	203	212	168	185	2,253	
	入院													0	
	計	179	201	157	187	155	168	205	233	203	212	168	185	2,253	
骨塩定量	外来	3	2	7	3	4	3	5	3	4	4	2	1	41	
	入院	4	0	3	3	0	2	0	0	0	2	0	0	14	
	計	7	2	10	6	4	5	5	3	4	6	2	1	55	
総合計		外来	1,989	1,950	2,382	2,284	1,903	1,855	2,392	2,681	2,012	2,094	1,941	2,058	25,541
		入院	1,347	1,222	1,400	1,206	1,520	1,311	1,431	1,241	1,238	1,282	1,304	1,446	15,948
		計	3,336	3,172	3,782	3,490	3,423	3,166	3,823	3,922	3,250	3,376	3,245	3,504	41,489

(2) 機器別検査人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
X線撮影装置(胸部)	747	711	980	825	817	780	910	1,096	770	825	776	776	10,013
X線撮影装置(外科)	702	681	769	797	655	620	806	775	656	683	670	715	8,529
ポータブルX線撮影装置	742	613	756	670	798	665	761	547	649	638	714	816	8,369
泌尿器用X線TV装置	25	28	40	29	31	31	24	40	34	40	32	24	378
デジタルX線TV装置	31	17	26	31	38	39	38	33	24	26	23	45	371
X線CT装置	215	215	220	247	229	213	299	281	231	231	235	268	2,884
MRI装置	166	168	174	183	171	160	194	207	178	181	156	172	2,110
放射線治療装置(リニアック)	97	133	111	49	127	68	47	80	76	65	41	47	941
ガンマカメラ装置(RI)	29	16	36	25	20	26	40	45	19	28	21	43	348
血管連続撮影装置	16	18	30	26	24	28	30	34	25	25	25	22	303

(3) 時間外 時間帯別検査人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日勤帯検査人数	205	161	216	147	197	156	168	117	180	122	196	244	2,109
業務時間(時)	46	35	42	33	40	35	37	27	38	27	37	53	449
稼働日数	12	9	11	9	10	10	9	9	11	9	10	12	121
準夜帯検査人数	122	102	136	101	147	125	121	126	111	111	110	149	1,461
業務時間(時)	45	38	52	38	48	44	44	44	37	40	13	59	501
稼働日数	29	26	31	29	29	29	30	31	30	29	28	31	352
深夜帯検査人数	44	32	33	18	35	31	38	29	24	45	33	42	404
業務時間(時)	18	13	16	10	17	15	16	14	12	19	16	20	184
稼働日数	17	16	20	14	20	17	19	15	13	23	21	22	217
検査人数(計)	371	295	385	266	379	312	327	272	315	278	339	435	3,974
業務時間(計)	109	85	109	80	105	93	97	84	87	86	66	133	1,133

(4) 時間外 検査種別検査人数

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ポータブル	247	199	269	188	272	185	192	156	214	169	231	292	2,614
一般撮影	68	51	69	41	63	70	71	58	58	64	67	66	746
CT	48	40	40	32	37	48	57	47	40	44	40	67	540
TV	7	4	5	3	7	8	4	5	3	1	0	6	53
アンギオ	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	5
MRI	1	0	2	2	0	1	2	5	0	0	1	2	16
エコー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	371	295	385	266	379	312	327	272	315	278	339	435	3,974

(5) 時間外 病棟別検査人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
HCU	23	10	17	14	30	18	10	14	19	31	27	25	238
NICU	74	61	62	43	68	40	56	33	51	45	71	71	675
ICU	72	65	90	51	67	62	58	45	77	40	52	73	752
GPU	4	3	5	3	1	6	5	7	6	6	5	11	62
OP室	10	18	31	14	25	11	22	16	18	9	20	33	227
産科	6	3	3	5	5	7	6	2	4	4	6	6	57
外来	3	0	1	0	1	1	0	1	2	1	0	0	10
救急	88	69	84	69	86	89	92	86	65	76	70	88	962
PICU	60	45	57	45	48	41	32	33	49	40	56	76	582
一外4B	7	3	13	5	8	13	7	6	8	4	3	17	94
循環器5A	8	8	9	8	18	10	18	5	3	11	14	9	121
循環器5B	5	4	8	2	12	12	13	9	5	9	10	12	101
混合A	3	1	0	1	1	2	2	4	2	0	2	7	25
混合B	1	2	0	1	5	0	2	4	0	2	2	2	21
血液7F	7	3	5	5	4	0	4	7	6	0	1	5	47
合計	371	295	385	266	379	312	327	272	315	278	339	435	3,974

## 28. 栄養指導課

### 1. 平成 25 年の活動

平成 25 年の主な活動報告として以下の点が上げられる。

- NST（チーム医療）の円滑な稼働
- 医療事故防止対策に関する取り組み（ひやりハット報告）
- 褥瘡対策委員会及びクリニカルパス委員会への積極的な参画
- 調乳機器更新により安全で安心できる調乳業務の推進
- 患者給食サービスの向上を図るための給食イベントの開催「クリスマス・デザートバイキング食の提供」等
- IT 化の推進（給食オーダーリングシステムの安定稼働）
- 知識や技能の資質を向上させるための課内研修会の充実
- 栄養管理業務に関する研究の成果として学会等への積極的な発表

### 2. これからの展望

平成 26 年に向けては、引き続き「安全な食事の提供」という栄養指導課の基盤整備と患者サービスの向上のため、次の業務を中心に推し進める。

- NST（チーム医療）の円滑な稼働
- 医療事故防止対策に関する取り組み。（ひやりはつと報告）
- 褥瘡対策委員会及びクリニカルパス委員会への積極的な参画
- IT 化の推進（給食オーダーリングシステムの安定稼働）
- 患者給食のサービス向上のための給食イベントの開催「クリスマス・デザートバイキング食等の提供」等
- 知識や技能の資質を向上させるための調理・栄養関係研修会への参加と課内研修会の充実
- 栄養管理業務に関する研究の成果として学会等への積極的な参加と発表

3. 給食

(1) 調製乳・食事月別延数

1) 患者

① 調製乳人数

(単位 人)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
調乳のみ人員(人)		1,867	1,797	1,756	1,877	1,879	1,848	1,973	1,986	1,873	1,626	1,593	1,739	21,814	62.4
調乳食事人員:調乳(人)		196	235	203	227	254	271	231	219	219	254	292	244	2,845	11.1
小計		2,063	2,032	1,959	2,104	2,133	2,119	2,204	2,205	2,092	1,880	1,885	1,983	24,659	73.5
調乳・食事人員(食事)		551	571	606	546	619	700	666	448	533	625	594	473	6,932	26.5
計		2,614	2,603	2,565	2,650	2,752	2,819	2,870	2,653	2,625	2,505	2,479	2,456	31,591	100.0

(注) 調乳・食事人員・・・調乳のみ人員と調乳食事人員の数と重複あり

② 調製乳種類及び本数

(単位 本)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
13% レーベンスミルク		11,796	12,454	11,473	11,523	12,554	12,154	13,560	12,313	11,417	10,515	10,345	10,287	140,391
15% LW		3,780	3,202	2,782	3,618	3,177	3,651	2,801	3,741	3,470	3,005	3,402	3,385	40,014
7% レーベンスミルク												42	217	259
14% レーベンスミルク				54	48	64	45	63			15		18	307
15% レーベンスミルク		899	341	709	669	398	616	718	1,500	1,769	1,735	1,392	830	11,576
16% レーベンスミルク		200	176	135			63	8			31	27		640
17% レーベンスミルク		293	396	610	307	237	54	6			79	155	99	2,236
18% レーベンスミルク		33											126	159
26% レーベンスミルク								92						92
13%LW							43							43
10% 滋養糖		503	588	505	529	507	492	514	509	527	498	500	503	6,175
10%MA-1													51	51
13%MA-1								12						12
14%MA-1								21						21
15%MA-1		21	116	57	36	18	73	36	210	146		30	181	924
17%MA-1									16					16
13%E 赤ちゃん			16	252	367	346	296	300	15	9	6	71	94	1,772
15%E 赤ちゃん						12		8	64				208	292
10% エレメンタルフォーミュラ		28												28
13% エレメンタルフォーミュラ		21												21
15% エレメンタルフォーミュラ		49												49
17% エレメンタルフォーミュラ		128	196	217	210	217	101	145	24				66	1,304
20% エレメンタルフォーミュラ							90							90
14% ガラクトース除去							58							58
8%MCT フォーミュラ									9					9
14%MCT フォーミュラ		52	245	507	614	296	195	747	441	234	830	477	341	4,979
15%MCT フォーミュラ												9	9	18
16%MCT フォーミュラ					45	180			162	270	135	9	18	819
17%MCT フォーミュラ											186	239	279	704
18%MCT フォーミュラ													423	423
21%MCT フォーミュラ									54					54
13%MM-4							8							8
17% 8806(低カリウム中リンフォーミュラ)								184	160					344
15% 8806(低カリウム中リンフォーミュラ)		248	26				66		11	105			12	468
15% 中蛋白低ナトリウム						6								6
14% 必脂 MCT (721)													72	72
8% エレンタール						10								10
10% エレンタール						72	6				8	28		114
13% エレンタール						79	54	39			8	42		222
16% エレンタール					32	28						6		66
20% エレンタール		310	282	300	250	331	318	303	18					2,112
27% エレンタール		30			19		72		48		28	30	88	315
5% エレンタール P													94	94
10% エレンタール P		28						154				40	18	240
13% エレンタール P		124	45	40	41	6	10	45				50		361
15% エレンタール P		279	36					72						387
16% エレンタール P				32							30			62
18% エレンタール P			84											84
20% エレンタール P			90	270	64	8	18	116	4	100	54	28		752
23% エレンタール P												21		21
24% エレンタール P			54											54
25% エレンタール P												56		56
26% エレンタール P			43					66						109
27% エレンタール P		3				90						49	326	468
マクトンオイル					24	35	69	64						192
小計		3,249	2,734	3,688	3,255	2,940	2,747	3,713	3,245	3,160	3,643	3,301	4,073	39,748

濃厚流動食	リソースジュニア				149	226	337	155	94	172	178	178	12	1,501
	GFO				38	62	48	40	71	52	61	93	108	573
	アイソカルジュニア	452	463	463	477	468	519	633	462	665	670	624	656	6,552
	MA-8 プラス	605	746	701	581	562	698	569	752	800	682	486	495	7,677
	小計	1,057	1,209	1,164	1,245	1,318	1,602	1,397	1,379	1,689	1,591	1,381	1,271	16,303
														0
	滅菌水	103	169	177	94	93	94	93	84		66	75		1,048
	計	19,985	19,768	19,284	19,735	20,082	20,248	21,564	20,762	19,736	18,820	18,504	19,016	237,504
	空瓶 大 200cc	5,971	5,519	5,395	5,134	5,817	6,721	6,401	5,764	6,069	5,510	4,824	5,596	68,721
	空瓶 小 100cc	5,592	5,472	5,136	4,920	5,424	5,064	5,499	6,072	5,328	4,800	5,496	6,816	65,619
	計	11,563	10,991	10,531	10,054	11,241	11,785	11,900	11,836	11,397	10,310	10,320	12,412	134,340

③ 患者食事数

(単位 食)

区 分		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
常食	学 童 食	1,288	1,248	2,093	1475	1,711	2,124	2,240	3,150	1,695	1,493	1,557	1,982	22,056
	妊 産 婦 食	2,377	1,999	2,444	2,582	2,395	2,421	2,132	2,155	1,872	1,929	1,752	1,993	26,051
	小 計	3,665	3,247	4,537	4,057	4,106	4,545	4,372	5,305	3,567	3,422	3,309	3,975	48,107
軟菜・幼児・ 離乳	幼 児・ 離 乳 食	2,870	3,219	3,545	3,133	3,105	2,999	3,184	2,861	2,772	3,299	3,630	2,813	37,430
	軟 菜・ 流 動 食	397	355	482	740	705	358	495	440	456	442	456	450	5,776
	小 計	3,267	3,574	4,027	3,873	3,810	3,357	3,679	3,301	3,228	3,741	4,086	3,263	43,206
非加算特別食	ペ ー ス ト 食	297	261	240	174	143	133	174	119	134	144	192	136	2,147
	ア レ ル ギ ー 食	834	717	511	269	342	581	623	651	618	631	772	1,039	7,588
	自 由 食													0
	口 蓋 裂 食	1	16	7	24			25	39	6	27	10	96	251
	扁 摘 術 後 食	136	168	162	143	90	134	121	105	144	186	129	148	1,666
	移 植 対 応 食	395	294	368	298	295	622	337	338	423	271	229	202	4,072
	ケ ト ン 食								37	13				50
	低 残 査 食	16	5	1		10		11	16	5	2			66
	肥 満 食			13	52				1	11	10			87
	減 塩 食												16	16
	そ の 他 特 別 食	202	234	290	257	208	351	273	331	317	282	222	310	3,277
	小 計	1,881	1,695	1,592	1,217	1,088	1,821	1,564	1,637	1,671	1,553	1,554	1,947	19,220
	加算特別食	腎 臓 食	129	149	239	71	322	243	350	143	273	275	196	70
肝 臓 食		62	8	21	30	54	55	97	68	143	105	95	121	859
糖 尿 病 食		103	283	342	220	89	69	120	154	228	457	286	107	2,458
乳 び 胸 食					12	30	30		5	28	26		87	218
心 臓 食														0
潰 瘍 食														0
低 ナ ト リ ウ ム 食						10								10
検 査 食 ( 加 )														0
妊 娠 中 毒 症 食		117	166	68	13	48	77	277	241	115	173	319	171	1,785
妊 産 婦 糖 尿 病 食														0
妊 産 婦 肝 臓 病 食														0
高 尿 酸 血 症 食														0
小 計		411	606	670	346	553	474	844	611	787	1,036	896	556	7,790
計	9,224	9,122	10,826	9,493	9,557	10,197	10,459	10,854	9,253	9,752	9,845	9,741	118,323	
保 存 食	保 存 食	186	168	186	180	186	180	186	186	180	186	180	186	2,190
	検 査 食	188	170	188	182	188	182	188	188	182	188	182	188	2,214
	小 計	374	338	374	362	374	362	374	374	362	374	362	374	4,404
合計	9,598	9,460	11,200	9,855	9,931	10,559	10,833	11,228	9,615	10,126	10,207	10,115	122,727	

④ おやつ数

(単位 食)

月別 区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
おやつ数	3,602	3,832	4,248	3,827	4,000	4,124	4,083	4,197	3,797	4,086	4,386	3,974	48,156

2) 患者外 (保育食)

食事数

(単位 食)

月別 種類	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
保育児食	202	220	284	323	349	332	341	335	333	450	451	430	4,050

## (2) 栄養指導月別種類別件数

(単位 食)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
糖尿病食		40	38	40	32	36	29	39	38	35	34	35	36	432
耐糖能異常					1		1				1	1		4
ブラダーウィリー症候群		2		2	1	2	2	1	2	1		2		15
ターナー症候群		8	4	8	9	7	10	9	6	5	8	7	7	88
肥満		4	4	3	3	5	5	7	7	6	4	7	4	59
高コレステロール血症			1	2										3
先天性心疾患(心不全)					1		2	1	2	1		1	1	9
心疾患		2	2	2										6
腎臓病食		1												1
腎性尿崩症		1	4		3	2	3	1	4	4	2	4	2	30
慢性腎不全					1					2	1	1		5
フェニルケトン尿症		1	2	3	2	1	3	2	3		3	2	3	25
ガラクトース血症				1		1	3	1	2	1	1	3	1	14
非アルコール性脂肪肝炎		1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
高アンモニア血症					1									1
膵炎													2	2
脂質異常症							4		2	3	3	1	2	15
高脂血症			1											1
消化管障害						3		1			2			6
便秘								1						1
食物アレルギー		29	26	19	24	24	22	28	19	22	26	28	18	285
移植対応食		2	1		1		2	6		2	1	1	2	18
摂食障害(偏食含む)				1	2							2	2	7
摂食嚥下機能障害						1		3				1		5
体重増加不良			1			2		1		2		1		7
低身長				1	1				1		1	1	1	6
ビタミンD欠乏症			1				1							2
くる病									1					1
汎下垂体機能障害							1							1
妊娠糖尿病								1	2	3	6	3		15
妊娠高血圧症候群							1		1	1	5	6	3	17
調乳(標準ミルク)								1						1
調乳(特殊ミルク)								1	1	3	1		1	7
調乳(高濃度ミルク)						1	1				1	2	1	6
調乳指導		2	1	6	3									12
離乳食		1				1	1			1	1		1	6
ペースト食										1	1	1	1	4
ミキサー食(胃瘻)					1	1	1	3	1	1	1	2	2	13
食事調査						1	2		1	1				5
尿崩症				2										2
尿道閉鎖症術後				1										1
こんにゃく便		1												1
単心室							1							1
慢性腎不全					1									1
腸切除後吸収不良			1											1
乳び胸食						1								1
ダンピング症候群		1		1										2
溶血性貧血		1												1
少量頻回食			1											1
脂肪肝		1	1											2
偏食		1												1
食欲不振			1											1
妊娠中毒症食			1											1
減塩食						1								1

Ⅲ 診療統計

その他							4	6	3	5	8	5	31
													0
													0
													0
													0
件数 外来 (件)	68	74	78	68	68	70	70	77	66	67	85	65	856
人数 外来 (人)	125	152	145	120	129	134	140	160	126	132	171	121	1,655
件数 入院 (件)	31	17	15	19	23	26	42	23	33	42	36	31	338
人数 入院 (人)	65	31	28	36	52	57	89	42	60	78	68	57	663
件数病棟訪問(件)	17	12	7	17	13	14							80
人数病棟訪問(人)	30	21	12	33	27	29							152
合計 (件)	99	91	93	88	91	96	112	100	99	109	121	96	1,195
合計 (人)	190	183	173	156	181	191	229	202	186	210	239	178	2,318

## 29. 指導相談・地域医療連携部

### I. 組織

25年は、育児休暇中の心理士が復帰した以外スタッフの異動はなく、安定した1年であった。在宅支援に力を入れるためにMSW1名が常勤配置となった。

部長	宅見晃子（総合診療科医師）		
次長	橋本ひとみ（看護師）		
看護師	原田富士子	藤定睦子	
心理判定員	宮崎美知恵		
	藤井 美有	淀裕美子	菱川優（25年2月退職）
ケースワーカー	野呂 朝子（PSW）		
	小橋 諒子（MSW） 阿部明日香（MSW・がん相談担当）		

初診患者の予約は、予約センターが窓口となっており、委託業者3名が担当している。

8月からは、再診の電話予約センター（午後のみ）が開設され、委託業者2名が担当している。

### II. 平成25年活動

<25年の主な活動>

1. 新たな紹介病院、診療所の登録
  - ① 病院訪問による紹介依頼
2. 広報活動の推進（ホームページ更新、年報作成、広報誌「げんきカエル」作成）
3. 在宅療養支援の推進
  - ① 訪問看護ステーションとの連携強化（カンファレンス開催）・研修会開催
  - ② 地域医療機関との連携強化（カンファレンス開催・病院訪問）
  - ③ 制度活用支援・医療機器等の購入支援
  - ④ 周産期センターからの退院児への支援
4. 院内各科の診療支援
  - ① 各科の発達フォロー支援（各種心理テスト）
  - ② 家族背景へのケースワーク
  - ③ 院内他部署への連絡調整・院外関係機関への連絡調整
5. 入院中の情緒不応児への対応
  - ① 心理士の病棟への定期訪問・診療部回診・カンファレンスへの積極的参加
  - ② 児への心理評価・カウンセリング・プレイ療法
  - ③ 家族へのカウンセリング
  - ④ 病棟スタッフへの関わり方指導
6. 患者家族の不安への対応
7. 発達支援・養育支援
  - ① 虐待防止活動（委員会開催、地域との連携、家族支援）
  - ② 事故予防活動（外傷カンファレンス開催、症例集積、地域との連携）
  - ③ 発達相談、育児相談活動（評価、診断、関わり方指導）
8. 教育支援
  - ① わらび学級入級手続き
  - ② 教育機関とのカンファレンス

<今後の活動目標>

- ① 医療的ケアを必要とする児と家族が安心して在宅生活を送れるように支援する
- ② 高度専門医療機関としての役割の広報に務め、地域との連携を強化していく
- ③ 地域医療支援病院として、地域医療機関の研修に貢献するよう努める
- ④ 疾病を抱えた子どもと家族の育児支援に努める
- ⑤ 事故予防・虐待予防を含めた子育て支援に努める
- ⑥ 子どもと家族の心理的不安の解消に努める
- ⑦ 小児がん拠点病院としての責務を果たすための支援に努める

表 1 支援内容別業務統計

	内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	2012年
1	療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助	265	273	284	365	417	394	445	389	382	502	480	520	4716	3826
2	退院援助	27	27	31	17	38	21	37	25	38	40	46	41	388	335
3	社会復帰援助	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	13
4	受診・受療援助	21	37	71	30	23	22	27	51	14	33	33	47	409	439
5	経済的問題の解決、調整援助	59	36	36	55	45	42	49	49	45	50	51	58	575	534
6	地域活動	2	0	3	0	3	2	4	2	3	0	2	1	22	5
7	発達外来	23	19	19	21	29	26	24	25	21	26	26	18	277	273
8	養育支援(虐待予防を省く)	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	5	18
9	虐待・虐待予防関連	9	10	27	20	32	23	31	2	7	5	2	35	203	201
10	発達・発育指導	20	21	16	24	27	30	31	32	25	35	43	36	340	265
11	わらび学級入級手続き	5	0	1	9	4	1	1	0	0	2	2	0	25	53
12	一時保護	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3	2
13	その他	3	4	1	1	0	3	3	2	1	1	1	3	23	23
	合 計	435	429	491	543	618	564	653	577	537	695	687	759	6988	5987

表 2 機関別延べ連絡調整数

	機 関	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	2012年
14	院内他部門	312	273	288	366	429	365	498	335	360	499	481	547	4753	4119
15	家庭	306	294	331	361	398	374	412	397	370	462	428	460	4593	4047
16	教育関係機関	7	1	8	11	32	4	5	3	5	4	14	10	104	143
17	保健所・保健センター	24	29	26	23	29	28	35	26	18	41	36	44	359	282
18	福祉事務所	21	8	14	19	14	16	21	28	22	29	38	30	260	109
19	こどもセンター	10	15	22	20	26	32	30	15	7	15	15	55	262	180
20	児童福祉施設	2	9	7	15	6	4	12	5	5	6	15	15	101	162
21	訪問看護ステーション	28	27	34	40	27	40	75	48	53	69	78	64	583	360
22	地域医療機関	13	2	14	13	11	17	24	15	17	20	23	27	196	77
23	その他(医療機器業者、 装具関係など)	27	28	17	40	28	35	62	26	41	27	61	45	437	380
	合 計	750	686	761	908	1000	915	1174	898	898	1172	1189	1297	11648	9859

表 3 心理療法・心理検査延べ数

	項 目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	2012年
24	カウンセリング	6	5	8	6	7	7	5	4	6	7	8	15	84	204
25	プレイセラピー	5	4	4	3	3	2	4	4	4	7	3	3	46	106
26	発達検査	22	39	40	39	36	33	35	29	25	32	39	28	397	446
27	知能検査	26	29	33	27	31	27	40	36	28	43	32	31	383	404
28	性格検査	12	4	7	15	13	9	18	8	8	12	8	11	125	157
29	その他の検査	7	13	11	11	11	11	10	12	8	17	13	16	140	133
	合 計	78	94	103	101	101	89	112	93	79	118	103	104	1175	1450

表 4 関連機関カンファレンス延べ数

	項 目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	2012年
30	被虐待児等症例検討会	2	1	4	3	6	5	2	1	1	0	0	7	32	22
31	頭部外傷カンファレンス	2	0	6	3	0	2	4	3	0	1	0	0	21	24
32	施設入所カンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
33	在宅療養調整カンファレンス	3	6	2	6	3	2	1	1	4	3	9	7	47	25
34	教育機関カンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	6
35	臓器提供 A カンファレンス	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0
	合 計	7	8	12	12	11	9	7	5	5	4	10	14	104	79

表5 Aカンファレンス 外傷（疾患）別処遇

	一時保護	児童相談所	保健所	外来のみ	他院外来	フォローなし	合計
頭蓋骨骨折	0	0	0	1	0	0	1
硬膜外血腫	0	0	1	0	0	0	1
硬膜外血腫+頭蓋骨骨折	0	0	0	0	0	0	0
硬膜下血腫	0	4	3	0	0	0	7
硬膜下血腫+頭蓋骨骨折	0	2	2	0	0	0	4
心肺停止	0	1	0	0	0	0	1
ネグレクト	1	2	0	0	0	0	3
医療ネグレクト	0	2	0	0	0	0	2
肝損傷	0	1	0	0	0	0	1
合計（人）	1	12	6	1	0	0	20

2013年Aカンファレンス後処遇

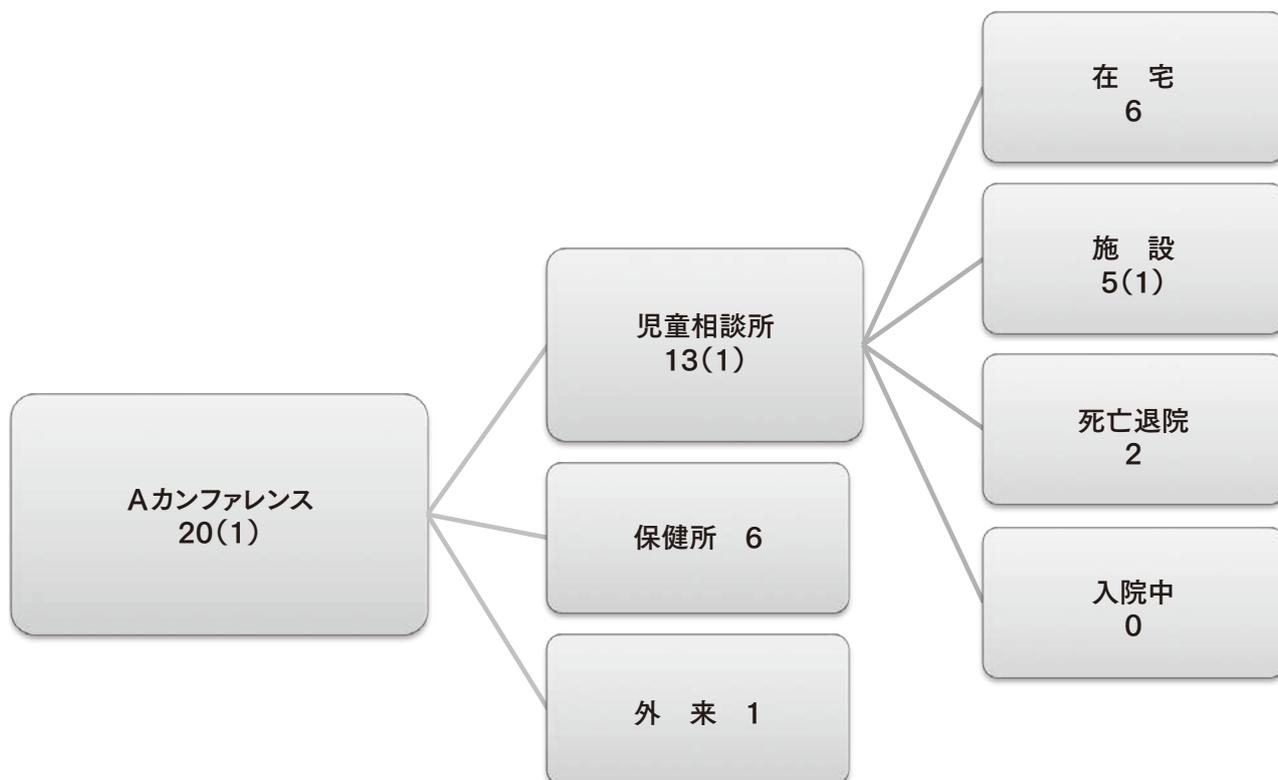


表6 頭部外傷カンファレンス 外傷別処遇

	児童相談所	保健所	外来のみ	他院外来	フォローなし	合計
頭部打撲	0	0	5	2	0	7
頭蓋骨骨折	0	2	6	1	0	9
硬膜外血腫	0	0	0	0	0	0
硬膜外血腫+頭蓋骨骨折	0	1	1	0	0	2
硬膜下血腫	0	0	0	0	0	0
合計（人）	0	3	12	3	0	18

III. 退院調整

退院調整患者

各診療科からの退院調整の依頼患者は42名で、2010度から継続の退院調整患者20名を含む計62名の退院調整を実施した。そのうち、1名は転院、1名は施設入所、1名は死亡、41名が在宅医療になったが、18名が12月末に退院できなかった。

地域で生活するために、家族の意向を聞き、今後も地域医療機関や訪問看護ステーションと連携を保ちながら退院調整をはかっていきたい。尚、退院・転院した患者の入院期間は最短が7日、最長が925日であった。

表7 依頼書による退院調整件数（2010度以前からの継続依頼患者20名が入院中である）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2012年	
退院調整依頼患者数	3	3	0	1	6	4	5	4	2	4	7	3	42	27	
転帰	在宅	1	3	3	2	1	4	5	5	3	1	5	8	41	19
	施設											1	1	0	
	転院		1										1	1	
	死亡							1					1	1	

表8 診療科別依頼件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2012年
総合診療科						1							1	0
新生児科	2	1		1	2		1	2		2	2	2	15	7
脳神経内科								1		1	1		3	1
循環器内科		1			1				1	1	1		5	10
腎臓内科													0	0
代謝・内分泌科													0	1
血液・腫瘍科		1											1	1
アレルギー・リウマチ科													0	0
救急集中治療科						1					1		2	0
小児外科	1				2	2	2	1			2	1	11	5
心臓血管外科													0	0
脳神経外科					1		1		1				3	2
形成外科													0	0
整形外科													0	0
眼科													0	0
精神科							1						1	0
泌尿器科													0	0
耳鼻咽喉科													0	0
産科													0	0
小児歯科													0	0
合計	3	3	0	1	6	4	5	4	2	4	7	3	42	27

表9 新生児特定集中治療室の退院調整加算に関わった件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2012年
加算1（600点）	3	8	7	8	22	11	10	9	15	12	9	12	126	105
加算2（1200点）	5	7	9	3	6	2	7	1	7	3	6	5	61	49
算定できず			1			1		1		1	1		5	1
合計	8	15	17	11	28	14	17	11	22	16	16	17	192	155

192件の退院調整に関わったが、NICUから当日転室のために、支援計画書を作成したが診療報酬に結びつかない件数が5件あった

#### IV. 長期入院患者

##### 長期入院患者内訳（各月末人数）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
4ヶ月～6ヶ月未満	11	5	7	6	6	10	6	8	10	11	8	5
6ヶ月～1年未満	6	10	9	9	10	8	11	8	8	12	9	9
1年～2年未満	10	10	11	8	6	5	5	6	7	7	7	6
2年～3年未満	3	3	3	5	6	5	4	3	3	2	2	2
3年～4年未満	0	1	1	1	1	2	2	2	2	2	3	3
4年～5年未満	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
5年～10年未満	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2
10年～20年未満	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
20年以上	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
合計	38	37	39	37	37	38	36	35	38	42	37	33
前年月末合計	45	43	43	41	40	42	41	34	34	37	34	37

##### 長期入院患者の退院人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
4ヶ月～1年未満	4	2	3	3	5	3	5	3	1	2	6	6	34
1年～2年未満	0	1	0	1	1	1	0	2	1	0	0	1	7
2年～3年未満	0	1	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	3
3年～5年未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5年以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	4	3	4	6	4	6	6	2	3	6	7	44
内訳													
在宅				4	5	2	5	5	1	3	6	6	37
転院				0	1	0	0	0	1	0	0	1	3
施設入所				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
死亡				0	0	2	1	1	0	0	0	0	4

#### V. わらび学級

病気療養のため、学校に行けない子どもたちに、神戸市立友生支援学校病弱児訪問学級（わらび学級）の教師がベッドサイドに訪問し、教育が受けられるようになっている。当部署で入級の説明から手続きをはじめ、主治医との面談、学校との連絡調整を行っている。なお、2012年度は高等部の在籍者はいなかった。

表 10 平成 25 年度わらび学級在籍状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延べ人数
小学部	在籍数	10	9	10	11	9	13	15	14	15	13	14	12	145
中学部	在籍数	5	5	4	5	4	4	4	5	7	6	5	5	59
院内全体	在籍数	15	14	14	16	13	17	19	19	22	19	19	17	204

## 指導相談・地域医療連携部（予約センター）

## 1. 業務内容

予約センターは委託職員が従事し、主に初診患者の予約業務と受診報告書の発送を行い、地域医療機関との連携を早く確実にしている。また、前方・後方連携のために2013年は医療機関を訪問した

延べ数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2012年
メール相談対応数	8	10	7	12	13	5	16	7	9	11	5	11	114	124
（内訳）各科医師相談	4	2	4	2	5	0	4	1	1	3	0	6	32	19
地域医療連携で返答	4	8	3	10	8	5	12	6	8	8	5	5	82	105
電話相談数（火・金）	1	2	1	0	0								4	12
セカンドオピニオン数	5	4	3	5	3	2	1	1	2	0	3	1	30	27
受診報告書発送数 （紹介状件数）	434	479	430	469	437	504	518	531	422	481	433	371	5509	5862
返書率	90.0	90.5	90.0	91.5	90	90.6	92.3	92.7	93.9	90.3	91.7	93	91.4%	91.5%
紹介医療機関新規登録件数	24	24	13	21	20	20	17	21	13	18	28	12	231	264
紹介状を持ち、直接来院した患者の紹介元への文書郵送件数（産科を省く）	3	1	1	5	2	1	1	0	2	1	1	1	19	23
FAX 予約数（地域連携）	382	432	389	435	417	467	478	510	416	450	434	364	5174	4834
FAX 予約内のキャンセル数	4	10	10	8	8	5	9	7	7	8	5	5	86	66

## 2. 紹介元新規医療機関

紹介元医療機関の登録件数は270件であった。平成17年から地域医療連携業務を行い、平成25年12月末で累計は3892件になった。

### 30. ME 室

#### 【スタッフ紹介】

主査 横山 真司 体外循環技術認定士  
 主任 岩崎 一崇 体外循環技術認定士  
 藤井 和弥  
 秋元 明日香  
 丸内 かおり  
 三坂 勇介  
 吉本 由衣

#### 【業務実績】

##### 医療機器管理業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
院内修理	33	31	19	18	19	23	24	32	19	34	29	18	299	24.9
依頼点検	40	34	27	37	40	30	36	42	30	30	37	28	381	31.7
定期点検	812	888	957	1080	1159	1029	1283	1251	994	1140	1018	1070	12681	1056.7
メーカー修理・点検	2	1	0	4	7	4	2	5	3	0	3	3	34	2.8
病棟ラウンド	5	2	2	15	8	5	7	9	8	11	12	6	90	7.5
その他	4	3	2	1	1	1	2	2	2	0	0	0	18	1.5

##### 臨床業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
体外循環	13	11	16	8	16	14	14	14	15	13	20	18	172	14.3
ECMO	0	1	3	2(1)	0	0	0	1	1	0	0	1	8(1)	0.7
人工心肺・ECMO スタンバイ	1	1	0	1	0	0	0	1	1	2	1	1	9	0.7
血液浄化療法	0	4	17	6	18	15	0	0	1	4	5	16	86	7.1
自己血回収	14	11	17	9	17	14	14	15	17	14	20	19	181	15
MEP	1	0	1	1	1	1	0	0	0	1	1	0	7	0.5
SPECTRA	1	6	5	1	0	0	4	0	0	2	2	0	21	1.8

※ ECMO：(回路交換回数)

##### 各種委員会活動

仕様策定委員会

リスクマネジメント委員会

手術室運営委員会

呼吸ケア部会

### 31. 理学療法

現在、理学療法はこども病院本館、周産期医療センター、小児救急医療センターに入院されている方を対象としている。疾患別では脳性まひや低酸素虚血性脳症などの中枢性疾患、骨延長術後や大腿骨頭すべり症などの小児整形疾患が大きな割合をしめる。各疾患術後の日常生活動作の回復、呼吸機能改善、運動発達促進、廃用性症候群の予防などを目的としベッドサイドを中心に行っている。

退院後の理学療法についてはご家族の要望も多いが、設備・マンパワー的に不足しており十分な対応が出来ていないのが現状である。

現在、2016年度の新病院移転に向けて、言語聴覚士など他のリハビリテーションスタッフとの連携をとり、機能訓練室完成にむけて諸準備をすすめている。より円滑なりハビリテーションを提供できるように努めていきたい。

#### 2013年 理学療法実施延べ件数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
178	182	195	210	185	168	217	245	226	220	216	230	2472

理学療法実施疾患：

整形疾患（骨折、大腿骨頭すべり症、骨延長術後、骨形成疾患など）、脳性まひ、低酸素虚血性脳症、新生児仮死、低出生体重児、蘇生後脳障害、遺伝子疾患、血液疾患（白血病など）、頭部外傷、二分脊椎、他

理学療法依頼科：

整形外科、総合診療科、脳神経内科、脳神経外科、血液腫瘍内科、新生児内科、救急科など

## 32. 医療安全管理室

医療安全管理室は、医療安全対策担当副院長を室長、管理局長、看護部長を副室長、副院長、診療部長、薬剤部長、医療安全対策担当課長、実働メンバーとして8名の総括リスクマネージャーと総務部長、総務部次長で構成され、院内の安全管理を担っている。

### 主な活動内容

#### 1. ヒヤリハット報告書に基づく評価・対策の検討

- 1) 総括リスクマネージャー会議を毎日11時から院長在籍のもと院長室で開催し、送られてきたヒヤリハット報告書に基づき評価・分析、解決策の検討を行った。
- 2) 月1回のリスクマネジメント部会では、各部門が前月分のヒヤリハット内容と評価・対策を報告し、院内で起こったヒヤリハットについて集約し検討を行った。
- 3) リスクマネジメント部会での報告・検討結果を医療事故防止委員会に報告した。
- 4) Morbidity & Mortalityカンファレンスの企画・運営を行った。
- 5) コード99症例の情報の共有化を行うために、医療安全管理室よりメール配信を行うこととした。

#### 2. ヒヤリハット報告件数

2013年のヒヤリハット報告件数は、2,698件で前年より31件の増加であった。レベル別報告数の割合は例年と大きな変化はなかったが、レベル3b以上のヒヤリハットの報告が1件あった。部門別にみると例年通り看護部からの報告が87%を占めている。また、診療部の報告件数はわずかだが増加している。

##### 1) レベル別報告件数

レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b
1064件 (39%)	1569件 (58%)	54件 (2%)	10件 (0.2%)	1件 (0%)

##### 2) 部門別ヒヤリハット報告件数

診療部	看護部	検査部	放射線部	薬剤部	リハビリ	栄養指導課	医事課
56 (2%)	2351(87.0%)	20 (0.7%)	190 (7%)	19 (0.9%)	4 (0.1%)	58 (2.0%)	1 (0%)

#### 3. 主な改善に向けた取り組み

- 1) バンコマイシンの抗生剤の過剰投与による医療事故に対して、バンコマイシンの処方及び投与方法の統一化を図った。
- 2) 塩化ナトリウム補正液に関するヒヤリハットに対して、塩化ナトリウム補正液を廃止し、10%塩化ナトリウム注射液の1剤とした。
- 3) 気管カニューレ・胃瘻ボタンのサイズ間違いによるヒヤリハットに対して、危険性が高いため、管理表を作成し情報の一元化を図った。
- 4) 外来において薬剤の過剰投与のヒヤリハットに対して、外来注射処方箋の見直しを行い、書式を変更した。
- 5) 手術室におけるIVラインからの外れや漏れのヒヤリハットに対して、一部の患者に限定し、ロックラインでの管理に変更した。
- 6) 旧タイプの学童用ベット柵に、安全性を強化するためにサイドレールを取り付けた。

## 4. 医療安全研修会の開催

各部門の取り組み報告会	3月12日	参加者 78名
カテーテル室での緊急シミュレーション	3月26日	参加者 43名
Morbidity&Mortality カンファレンス		
①小児のてんかん	6月28日	参加者 64名
②小児の気管狭窄	7月26日	参加者 69名
③重症筋無力症	9月20日	参加者 47名
第1回医療安全研修会『ひやっとした、はっとした時の“ヒヤリハット報告”こども病院の現状「セーフティマネジメント」 12月10日 参加者 127名		

## 5. Morbidity &amp; Mortalty カンファレンスの運営

リスクマネジメント部会の下部組織として Morbidity & Mortalty カンファレンスチームを結成し、院内の死亡例・重度合併症例・コード99例・CPR症例の把握と症例検討会を3回開催した。

## 6. 医療安全情報の提供

- 1) 日本機能評価機構からの医療安全情報の提供を月1回行った。
- 2) 院内で起こったヒヤリハット事例から、医療安全ニュースを発行し情報提供を行った。

### 33. 感染対策管理室

感染対策管理室は、感染対策委員会委員長を室長、診療部長、看護部次長を副室長とし、院長、総務部長、検査技師長、栄養指導課長、看護部長、医療安全対策担当課長、感染管理認定看護師の他、診療部6名、看護部4名、検査部4名、薬剤部1名、放射線部1名、医事企画課1名の計27名で構成され、院内の感染管理を担っている、このうち診療部4名、看護部3名、検査部1名、薬剤部1名の計9名が感染対策チーム（ICT）を結成し、実動部隊として活動している。

#### 主な活動内容

##### 1. 定期的な会議、ラウンドの実施

###### 1) 院内感染対策委員会（毎月第2金曜日）

細菌・ウイルスの分離状況、抗菌薬（抗MRSA薬、カルバペネム系薬剤）の使用状況、ICT活動などについて報告し、検討が必要な事項について議論した。

###### 2) ICT会議（毎週木曜日）

1週間の細菌・ウイルスの分離状況、院内で発生している感染症、市中の感染症の動向などを中心に議論した。

###### 3) ICTラウンドの実施（毎週木曜日）

毎回2部署を対象とした。環境整備の状況、患者ケア場面の感染対策がマニュアルどおりに実施されているかチェックし、改善の必要な項目について毎週フィードバックした。第2週は抗菌薬の長期使用の状況を確認した。

##### 2. 職員教育

研修会・演習	開催日	参加人数
2012年度 第2回全職員対象感染対策研修会 「感染性胃腸炎、感染防止対策加算」	1月21日	6名
	1月25日	73名
新規採用職員対象感染対策オリエンテーション	4月1日	28名
	3月～12月 (計10回)	看護補助者 21名
全職員対象研修会 「空気感染対策とN95マスク」	5月28日	40名
	7月10日	13名
保育士対象感染対策研修会 「MRSAなどについて」	6月19日	6名
清掃・リネン職員研修会 「流行性感染症について～風疹を中心に～」	7月3日	27名
2013年度 第1回全職員対象感染対策研修会 「基本に立ち返ろう。今一度、標準予防策」	7月29日	76名
	8月1日	69名

##### 3. サーベイランス情報の配信（毎週）

神戸市の定点サーベイランスの情報、院内の分離菌週報をまとめて配信した。

##### 4. 各種サーベイランスの実施

7F病棟：CLA-BSIサーベイランス（7月～）、全体：AURサーベイランス（4月～）

##### 5. 流行性ウイルスなどの感染症発生時の対応

水痘の発生（1月、9月、10月）、ロタウイルスのアウトブレイク（2月）、インフルエンザのアウトブ

レイク（院内保育室：12月）、その他疑い患者発生時に適宜対応した。

#### 6. 感染対策に関する各種コンサルテーションへの対応

#### 7. 職業感染防止の活動

- 1) 流行性ウイルス感染症ワクチンプログラムとして、全職員の抗体検査とワクチン接種を実施した。また、本年度より新規採用者と委託業務職員にも範囲を拡大した。

#### 【2013年に接種した流行性ウイルス感染症ワクチン】

	新規以外 全職員	新規医師	新規看護師	新規その他	委託業務 職員
抗体採血	707名	12名	39名	50名	161名
麻疹	196名	7名	11名	8名	31名
水痘	8名	1名	2名	2名	1名
風疹	87名	0	4名	2名	20名
ムンプス	184名	2名	11名	12名	52名
M R	24名	0	4名	4名	17名

- 2) 職員対象のインフルエンザワクチンの接種を行った。(11月)

965名に接種。接種率：病院職員 97.0%、委託職員 79.5%

- 3) 職員対象のHBワクチン接種の接種を行った。(本年よりICTでの運用に変更)

1クール(3回)接種：155名、ブースター(1回)接種：21名

- 4) 血液媒介ウイルス感染防止のため、針刺し・切創、血液・体液曝露について啓発活動を行うとともに、これらの事象発生時に迅速に対応した。

#### 【2013年に発生した針刺し・切創、血液・体液曝露】

総件数：16件(日勤帯：14件、夜勤帯：2件)						
内容	針刺し	11件	切創	3件	擦過傷	2件
発生部署	手術室	7件	病棟	9件		
受傷者	医師	4名	看護師	10名	その他職員	1名
					学生	1名
原因器材	注射針	7件	メス	2件	その他	5件

#### 3. 啓発活動の実施

マスク着用令(1月)

世界手洗いの日キャンペーン(10月)

ICT NEWSの発行：結核(10月)

#### 4. ファシリティマネジメントとして、ファシリティ部門への助言

ベッドマットレスの院外洗濯開始(2月)、各種業務(清掃、リネン、滅菌)の定例会の開催(4月～)、院内トイレの環境改善(ペーパータオル、石鹸の配置：4月～)、床用洗剤の導入(4月)、中材のリコール手順作成(6月)、各工場(滅菌、洗濯、廃棄物処理)の視察(8、9月)、資源ゴミの分別回収開始(10月)

#### 5. 感染防止対策加算に係る院外活動

加算1：六甲アイランド甲南病院と連携。相互ラウンド実施(10月、11月)

加算2：みどり病院と連携。合同カンファレンス(9月、12月)、

施設間ラウンドとカンファレンス(7月、9月)

#### 6. その他

酸素療法時の閉鎖式加湿システムの導入(2月)、感染対策マニュアルの定期改訂(3月) 予定入院の水痘調査(6月)、携帯用手指消毒剤の導入(8月)、針刺し後のHIV検査の院内での実施と抗HIV薬の常備開始(10月)、CHGエタノール綿棒の導入(12月)

## 34. 褥瘡管理室

褥瘡対策委員会は、委員長を形成外科医師、副委員長を看護部次長とし、委員として小児外科医師、17名の看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士、医事課職員により構成され、院内の褥瘡対策及び創傷ケアを検討し、トータルケアを行うことにより、創傷ケアの効果的な推進を図ることを目的としている。平成24年度より褥瘡管理者を置き、褥瘡ハイリスクケア患者ケア加算を導入した。

### 主な活動内容

#### 1. 褥瘡対策状況

会議を月に1回行い、褥瘡対策に関する報告を行い、褥瘡対策委員で情報を共有し、褥瘡ケアの評価や対策の検討をおこなう。

##### 1) 褥瘡発生率

3.5%（過去11年で2番目に高い値。過去の発生率は2.6%～4.0%）

褥瘡発生率 = 褥瘡発生数 ÷ 総新規入院数

##### 2) 褥瘡推定発生率

2.4%（過去7年で3番目に低い値。2.0～2.7%）

月の1日を調査日とし、

褥瘡推定発生率 = (調査日に褥瘡を保有する患者数 - 院外発生患者数) ÷ 調査日の入院患者数

##### 3) 褥瘡リスクアセスメント実施数 7260件（月平均605件）

##### 4) 褥瘡ハイリスク患者特定数 1014件（月平均84.5件）

##### 5) 褥瘡予防治療計画件数 2730件（月平均227.5件）

##### 6) 褥瘡ハイリスク患者ケア実施件数 1463件（月平均121.9件）

##### 7) 褥瘡発生詳細

褥瘡発生件数 187件

褥瘡発生個数 237個（体圧による褥瘡は86個、医療機器関連圧迫創は151個）

褥瘡発生件数の多い部署 ICU（48件）救急センター（32件）循環器A病棟（26件）

#### 2. 褥瘡回診状況

全褥瘡対策対象患者の回診（総合褥瘡回診）を週1回、褥瘡ハイリスク患者ケア加算対象者の回診を毎日行い、褥瘡予防治療計画書をもとに、褥瘡予防、治療方法を評価・検討し、必要時カンファレンスを実施している。

##### 1) 総合褥瘡回診 回診回数47回 患者数3116名（のべ）

##### 2) 褥瘡ハイリスク回診数 回診回数169回 患者数3427名（のべ）

##### 3) カンファレンス実施数 41回（月平均3.4回）

#### 3. 新人看護師対象の褥瘡講義の実施

#### 4. 領域別看護ケア向上委員会における事例検討と勉強会の実施

#### 5. 各部署カンファレンスや病棟会における褥瘡勉強会の実施

## IV 学会・研究・教育活動

## 1) 書籍

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
2005年出生超低出生体重児6歳時予後の全国調査集計結果	総合診療科	上谷良行	共著	藤村正哲	厚生労働科学研究費補助金「重症新生児のアウトカム改善に関する多施設共同研究」平成23年度藤村班総括・分担研究報告書	80	86	厚生労働省	2012.3
2005年出生の超低出生体重児6歳時予後の全国調査の実施	総合診療科	上谷良行	共著	藤村正哲	厚生労働科学研究費補助金「重症新生児のアウトカム改善に関する多施設共同研究」平成22～24年度藤村班総括研究報告書	32	52	厚生労働省	2012.3
幹細胞移植と栄養	血液腫瘍内科	神前愛子、長谷川大一郎	共著		臨床栄養			in press	2013
急性腎傷害 (AKI)	腎臓内科	田中亮二郎	単著	伊藤秀一編	小児急性血液浄化ハンドブック	99	113	東京医学社	2013
TAPVR 合併 complex 症例に対する sutureless pericardial repair	心臓血管外科	大嶋義博	共著	小室一成、坂田隆造	Annual Review 循環器 2013 中外医学社編	233	238	中外医学社	2013
脊髄腫瘍	脳神経外科	長嶋達也	単著	新井 一ほか	小児脳神経外科 診療ガイドブック	93	106	Medical View	2013年
子どもの扁平足：硬い扁平足	整形外科	薩摩真一		高尾昌人 編	Monthly Book Orthopaedics	25	32	全日本病院出版会	2013
先天性内反足	整形外科	薩摩真一		久保俊一、三谷 茂、金 郁喆	小児の運動器疾患エッセンス	165	166	診断と治療社	2013
先天性内反足に対する Ponseti 法	整形外科	衣笠真紀		岩本幸英	別冊整形外科	146	149	南江堂	2013
骨髄炎	整形外科	小林大介		久保俊一、三谷 茂、金 郁喆	画像とチャートで分かる小児の整形外科 診療エッセンス	209	210	診断と治療社	2013
先天性内反足	整形外科	小林大介		山口徹	今日の治療指針	947	947	医学書院	2013
前庭水管拡大症の一例の聴力変動	耳鼻咽喉科	大津雅秀	共著	松永達雄	厚生労働省研究費難治性疾患克服研究事業「Pendred 症候群の治療指針と診療体制モデルの構築」平成24年度総括・分担研究報告書	66	69	厚生労働省「Pendred 症候群の治療指針と診療体制モデルの構築」研究班	Mar.13
腎盂成形術	泌尿器科	杉多良文	共著	荒井陽一・松田公志・高橋悟	泌尿器科 周術期管理のすべて	434	437	メジカルビュー社	2013.12

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
臨床小児麻酔ハンドブック	麻酔科	香川哲郎 鈴木毅 大西広泰 高辻小枝子 池島典之 野々村智子 鹿原史寿子 上北郁男 土居ゆみ 池田優子 古賀聡人 似内久美子 野村有紀 山長修 岡田雅子	共著	香川哲郎・鈴木毅	臨床小児麻酔ハンドブック 改訂第3版	1	409	診断と治療社	2013.3
エコーを利用した中心静脈穿刺	麻酔科	土居ゆみ	共著	真田弘美ほか	看護に役立つ！ エコーの読み方 活かし方	90	96	照林社	2013.7
小児の痛みに対する薬物治療	麻酔科	古賀聡人 香川哲郎	共著	山本達郎ほか	痛みの Science & Practive 2. 痛みの薬物治療	92	96	文光堂	2013.7
兵庫県の周産期医療システム	産科	船越 徹	共著	大阪産婦人科医会	OGCS25周年記念誌	56	56	中島弘文堂	2013
妊娠中における感染対策	産科	船越 徹	共著	尾崎隆男、吉川哲史、伊藤嘉規	感染看護に必要な知識と対策 小児感染症のイロハ	191	197	日経研出版	2013.8
第3章術後から退院までのケア 新生児から学童期におけるストーマケア	看護部	鎌田直子	共著	松原康美	ストーマケア実践ガイド	137	149	学研メディアカル秀潤社	2013.7.1
トラブルを防ぐケアとアセスメントのポイント 臍部の皮膚トラブル予防 ストーマ周囲の皮膚トラブル予防 胃瘻周囲の皮膚トラブル予防	看護部	鎌田直子	共著	八田恵利	新生児の皮膚ケアハンドブック	65	82	メディカ出版	2013.12.1
E. 小児画像検査	放射線部	清水俊文、 久保田晴元、 服部真吾、 藤井友紀子、 佐藤雅之	共著	遠藤啓吾	図解診療放射線技術実践ガイド	1	29	文光堂	2014年2月

## 2) 雑誌発表

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Therapeutic indicators of acute encephalopathy in patients with complex febrile seizures.	脳神経内科	Nagase H, Nakagawa T, Aoki K, Fujita K, Saji Y, Maruyama A, Uetani Y.	Pediatr Int.	55	3	310	314		2013
インフルエンザ A(H1N1)pdm09 感染に伴う意識障害に認める非けいれん性発作	脳神経内科	藤田杏子、永瀬裕朗、中川拓、佐治洋介、丸山あずさ、上谷良行	日本小児科学会雑誌	117	6	986	991		2013
小児集中治療領域における自動発作検出プログラムの応用	脳神経内科	丸山あずさ、西山将広、藤田杏子、永瀬裕朗	小児科臨床	66	9	1887	1891	日本小児医事出版社	2013
Minimal residual disease monitoring in neuroblastoma patients based on the expression of a set of real-time RT-PCR markers in tumor-initiating cells	血液腫瘍内科	Hartomo TB, Kozaki A, Hasegawa D, Van Huyen Pham T, Yamamoto N, Saitoh A, Ishida T, Kawasaki K, Kosaka Y, Ohashi H, Yamamoto T, Morikawa S, Hirase S, Kubokawa I, Mori T, Yanai T, Hayakawa A, Takeshima Y, Iijima K, Matsuo M, Nishio H, Nishimura N	Oncol Rep.	29	4	1629	1636		2013 Apr
Excess treatment reduction including anthracyclines results in higher incidence of relapse in core binding factor acute myeloid leukemia in children	血液腫瘍内科	Tomizawa D, Tawa A, Watanabe T, Saito AM, Kudo K, Taga T, Iwamoto S, Shimada A, Terui K, Moritake H, Kinoshita A, Takahashi H, Nakayama H Koh K, Kitagawa H, Kosaka Y, Miyachi H, Horibe K, nakahata T, Adachi S	Leukemia						2013 May
IKZF1 deletion is associated with a poor outcome in pediatric B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia in Japan	血液腫瘍内科	Asai D, Imamura T, Suenobu S, Saito A, Hasegawa D, Deguchi T, Hashii Y, Matsumoto K, Kawasaki H, Hori H, Iguchi A, Kosaka Y, Kato K, Horibe K, Yumura-Yagi K, Hara J, Oda M; Japan Association of Childhood Leukemia Study(JACLS)	Cancer Med	2	3	412	419		2013 Jun

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Primary pediatric endobronchial Ewing sarcoma family of tumors	血液腫瘍内科	Hayakawa A, Hirase S, Matsunoshita N, Yamamoto N, Kubokawa I, Mori T, Yanai T, Maniwa Y, Iijima K	Am J Case Rep	14		67	69		2013
Primary pediatric stage III renal diffuse large B-cell lymphoma.	血液腫瘍内科	Hayakawa A, Shimotake N, Kubokawa I, Mitsuda Y, Mori T, Yanai T, Muramaki M, Miyake H, Fujisawa M, Iijima K.	Am J Case Rep.	14		37	37		2013
The emergence of CD20-/CD19-tumor cells after rituximab therapy for Epstein-Barr virus-associated post-transplant lymphoproliferative disorder complicated with hemophagocytic lymphohistiocytosis.	血液腫瘍内科	Yamamoto N, Nishimura N, Takeuchi M, Ito T, Yokozaki H, Hirase S, Kubokawa I, Mori T, Yanai T, Hayakawa A, Takeshima Y, Nishio H, Matsuo M, Imadome KI, Iijima K.	Eur J Pediatr.						2013 Oct
A case with sacrococcygeal primitive myxoid mesenchymal tumor of infancy: a case report and review of the literature.	血液腫瘍内科	Saito A, Taketani T, Kanai R, Kanagawa T, Kumori K, Yamamoto N, Ishikawa N, Takita J, Yamaguchi S.	J Pediatr Hematol Oncol.	35	7	e280	e282		2013 Oct
Prostate Cancer Progression Correlates with Increased Humoral Immune Response to a Human Endogenous Retrovirus GAG Protein.	血液腫瘍内科	Reis BS, Jungbluth AA, Frosina D, Holz M, Ritter E, Nakayama E, Ishida T, Obata Y, Carver B, Scher H, Scardino PT, Slovin S, Subudhi SK, Reuter VE, Savage C, Allison JP, Melamed J, Jäger E, Ritter G, Old LJ, Gnjjatic S.	Clin Cancer Res.	19	22	6112	6125		2013 Nov
Long-term outcome after immunosuppressive therapy with horse or rabbit antithymocyte globulin and cyclosporine for severe aplastic anemia in children	血液腫瘍内科	Jeong DC, Chung NG, Cho B, Zou Y, Ruan M, Takahashi Y, Muramatsu H, Ohara A, Kosaka Y, Yang W, Kim HK, Zhu X, Kojima S	Haematologica.						2013 Nov

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
A Phase II Clinical trial of a mixture of plasma-derived factor VIII and factor X (MC710) in haemophilia patients with inhibitors: haemostatic efficacy, safety and pharmacokinetics/pharmacodynamics	血液腫瘍内科	Shirahata A, Fukutake K, Takamatsu J, Shima M, Hanabusa H, Mugishima H, Amano K, Takedani H, Tamashi m a S, Matsushita T, Tawa A, Tanaka I, Higasa S, Kosaka Y, Fujii T, Sakai M, Migita M, Kawakami K, Ohashi Y, Saito H	Haemophilia.	19	6	853	860		2013 Nov
Prospective pharmacokinetic study of intravenous busulfan in hematopoietic stem cell transplantation in 25 children.	血液腫瘍内科	Okamoto Y, Nagatoshi Y, Kosaka Y, Kikuchi A, Kato S, Kigasawa H, Horikoshi Y, Oda M, Kaneda M, Mori T, Mugishima H, Tsuchida M, Taniguchi S, Kawano Y.	Pediatr Transplant					In press	
Outcome of TCF3-PBX1 positive pediatric acute lymphoblastic leukemia patients in Japan: a collaborative study of Japan Association of Childhood Leukemia Study and Children's Cancer and Leukemia Study Group.	血液腫瘍内科	Imamura T, Asai D, Yamashita Y, Suenobu S, Akiko Saito, Hasegawa D, Takao D, Hashii Y, Endo M, Hayakeyama N, Kawasaki H, Hori H, Horibe K, Yagi K, Hara J, Watanabe A, Kikuta A, Oda M, and Sato A.	Cancer Med.					In press	
難治性慢性免疫性血小板減少症の幼児に対するロミプロスタムの使用経験	血液腫瘍内科	平瀬敏志、西田浩輔、松野下夏樹、山本暢之、忍頂寺毅史、森健、親里嘉展、矢内友子、早川晶、竹島泰弘、飯島一誠	日本小児科学会雑誌	117	10	1640	1644		2013
皮膚限局型未分化大細胞型リンパ腫の小児例	血液腫瘍内科	斎藤敦郎、竹谷健、金井理恵、金子栄、澄川靖之、三原綾、森田栄伸、山口清次	日本小児血液・がん学会雑誌	50	2	237	242		2013
増加するマクロライド耐性マイコプラズマ	血液腫瘍内科	小山千草、竹谷健、横山桃子、町田静香、齋藤敦郎、美根潤、南憲明、堀江昭好、金井理恵、山口清次	日本小児科学会雑誌	117	1	135	137		2013

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
動脈管開存	循環器科	城戸佐知子 Shima Yuko, Nakanishi K, Hama T, Mukaiyama H, Togawa H, Sako M, Kaito H, Nozu K, Tanaka R, Iijima K, Yoshikawa N	成人病と生活習慣病	第43巻	第2号	223	227	東京医学社	2013.1.
Spontaneous remission in children with IgA nephropathy	腎臓内科	Ishikura K, Uemura O, Ito S, Wada N, Hattori M, Ohashi Y, Hamasaki Y, Tanaka R, Nakanishi K, Kaneko T, Honda M	Pediatr Nephrol	28		71	76	Springer	2013
Pre-dialysis chronic kidney disease in children: results of a nationwide survey in Japan	腎臓内科	神田杏子, 田中亮二郎 石田悠介, 中川拓, 橋村裕也, 神田杏子, 神岡一郎, 田中亮二郎	Nephrol Dial Transplant	28		2345	2355	Springer	2013
神戸市における学校腎臓検診について	腎臓内科	神田杏子, 田中亮二郎	小児科臨床	66		591	596	日本小児医事出版社	2013
若年性ネフロン癆に合併した好酸球増多症に伴うネフローゼ症候群の1例	腎臓内科	岡本光正, 横井 暁子, 洲尾 昌伍, 園田 真理, 荒井 洋志, 尾藤 祐子, 中尾 真, 西島 栄治	小児腎不全学会雑誌	33		228	229	日本小児腎不全学会	2013
ゴアテックスバッチを用いて段階的に腹壁閉鎖した巨大臍帯ヘルニアの1例	小児外科	園田 真理, 横井 暁子, 西島 栄治	日本小児外科学会雑誌	49巻	5号	1003	1007	日本小児外科学会	2013.08
グループアップ 在宅医療を始めるために【小児在宅医療における医療ケア最前線：医療行為別の診療ポイント 気管切開】	小児外科	横井 暁子, 西島 栄治	小児内科	45巻	7号	1231	1234	東京医学社	2013.07
プロが見せる手術シリーズ (1): 難易度の高い胸部手術【Long-gap A型食道閉鎖症に対する胸壁内延長術を付加した多段階手術】	小児外科	横井 暁子, 西島 栄治	小児外科	45巻	5号	560	563	東京医学社	2013.05
プロが見せる手術シリーズ (1): 難易度の高い胸部手術【気管軟化症に対する大動脈吊り上げ術】	小児外科	尾藤 祐子, 西島 栄治, 横井 暁子, 中尾 真, 荒井 洋志	小児外科	45巻	5号	512	514	東京医学社	2013.05
KTPレーザー焼灼を併用して喉頭気管形成術を施行した先天性声門下腔狭窄症の1例	小児外科	岡本光正, 西島 栄治, 横井 暁子, 中尾 真, 尾藤 祐子, 荒井 洋志	日本小児外科学会雑誌	49巻	2号	251	255	日本小児外科学会	2013.04
胸壁内に遺残した胎児胸腔羊水腔シャントチューブに対し、2方向より剥離を行い抜去した1例	小児外科	田村 亮, 横井 暁子, 喜吉 賢二, 船越 徹, 坂井 仁美, 中尾 秀人, 荒井 洋志, 尾藤 祐子, 中尾 真, 西島 栄治	日本小児外科学会雑誌	49巻	1号	44	47	日本小児外科学会	2013.02

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
【小児 NST 病態栄養シリーズ：中心静脈栄養法の諸問題】小腸機能不全に対する長期ルート保存のコツ	小児外科	中尾 真、横井 暁子、西島 栄治	小児外科	45 巻	4 号	398	402	東京医学社	2013.04
【クローズアップ 図説 最新の小児科処置】胸腔穿刺	小児外科	尾藤 祐子	小児内科	45 巻	4 号	674	676	東京医学社	2013.04
Primary sutureless repair and anterior translocation of the atrial septum for cardiac total anomalous pulmonary venous connection	心臓血管外科	Matsuhisa H, Oshima Y, Maruo A, Hasegawa T, Tanaka A, Noda R	Ann Thorac Surg	95	2	729	730	Elsevier	2013. 2
Ventricular septal dysfunction after surgical closure of multiple ventricular septal defects	心臓血管外科	Matsuhisa H, Yoshimura N, Higuma T, Misaki T, Onuma Y, Ichida F, Oshima Y, Okita Y.	Ann Thorac Surg	96	3	891	897	Elsevier	2013. 9
Landiolol for junctional ectopic tachycardia refractory to amiodarone after pediatric cardiac surgery	心臓血管外科	Hasegawa T, Oshima Y, Maruo A, Matsuhisa H, Kadowaki T, Noda R	Gen Thorac Cardiovasc Surg	61	6	350	352	Springer	2013. 6
Primary sutureless repair for simple total anomalous pulmonary venous connection with a risk of postoperative pulmonary venous stenosis	心臓血管外科	Hasegawa T, Oshima Y, Maruo A, Matsuhisa H, Kadowaki T, Noda R	Gen Thorac Cardiovasc Surg	61	9	528	530	Springer	2013. 9
Aortic arch augmentation using a pulmonary artery autograft patch and a reversed left subclavian artery flap for an interrupted aortic arch type B complex	心臓血管外科	Hasegawa T, Oshima Y, Kadowaki T	Cardiol Young					Cambridge University Press	in press
Innominate artery compression of the trachea in patients with neurological or neuromuscular disorders.	心臓血管外科	Hasegawa T, Oshima Y, Hisamatsu C, Matsuhisa H, Maruo A, Yokoi A, Bitoh Y, Nishijima E, Okita Y	Eur J Cardiothorac Surg					Oxford University Press	in press
Pediatric Cardiothoracic Surgery in Patients With Unilateral Pulmonary Agenesis or Aplasia	心臓血管外科	Hasegawa T, Oshima Y, Maruo A, Matsuhisa H, Yokoi A, Okata Y, Nishijima E, Yamaguchi M	Ann Thorac Surg					Elsevier	in press
Controlled release of ascorbic acid from gelatin hydrogel attenuates abdominal aortic aneurysm formation in rat experimental abdominal aortic aneurysm model	心臓血管外科	Tanaka A, Hasegawa T, Morimoto K, Bao W, Yu J, Okita Y, Tabata Y, Okada K.	J Vasc Surg					Elsevier	in press

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Total cavopulmonary connection in patients with apicocaval juxtaposition: optimal conduit route using preoperative angiogram and flow simulation.	心臓血管外科	Yoshida Y, Menon PG, Chrysostomou C, Pekkan K, Wearden PD, Oshima Y, Okita Y, Morell VO	Eur J Cardiothorac Surg	44	1	e46	e52	Springer International	2013. 7
Transaortic Approach to Residual Ventricular Septal Shunt after Repairing Corrected Transposition of the Great Arteries.	心臓血管外科	Takahashi H, Oshima Y, Shimazu C	Annals of thoracic and cardiovascular surgery	19	1	67	69	Japanese Editorial Committee of Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery	2013. 2
Surgical Management for Complete Removal of Choroid Plexus Papillomas of the Third Ventricle: 3 Case Reports	脳神経外科	Takashi Mizowaki, Tatsuya Nagashima, Kazuki Yamamoto, Atsufumi Kawamura, Makiko Yoshida, Eiji Kohmura	World Neurosurgery	13	Online			ELSEVIER	2013 March 16
Novel pre-surgical maxillary orthodontic device using $\beta$ -titanium wire for wide unilateral cleft lip and palate patients; preliminary study of its efficacy and impact for the maxillary formation.	Plastic Surgery	Taniguchi M, Oyama T, Kiya K, et al	Journal Plast Reconstr Aesthet Surg	67	2	167	172	Elsevier	2013.12
小児の下腿創外固定器術後鎮痛における持続坐骨神経ブロックの有用性—持続硬膜外麻酔と比較して—	整形外科	衣笠真紀、薩摩真一、小林大介、黒岩祐、飛梅祥子	日本小児整形外科学会雑誌	22	2	497	500	日本小児整形外科学会	2013.12.25
先天性股関節脱臼の total management - 変股症への進展を完全制圧するため—	整形外科	薩摩真一	兵庫県整形外科学会だより	82	1	76	77	兵庫整形外科学会	2013
Larsen 症候群の治療戦略	整形外科	薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、黒岩祐、飛梅祥子	日整会誌	87	1	48	56	日本整形外科学会	2013
先天性内反足に対する広範囲軟部組織解離術の治療成績—保存的治療との比較—	整形外科	薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、黒岩祐、飛梅祥子	日足外会誌	34	1	120	123	日本足の外科学会	2013
Perthes 病 小児の痛みについて考える	整形外科	小林大介	小児科臨床	66		2449	2453	日本小児医事出版	2013
安定型大腿骨頭すべり症に対する in situ pinning	整形外科	小林大介	別冊整形外科	64		129	133	南江堂	2013
調節性内斜視に対する累進多焦点コンタクトレンズの有用性	眼科	沖本聡志、野村耕治	眼科臨床紀要	第 6 巻	第 3 号	203	207	眼科臨床紀要会	2013.3
二分脊椎患者における麻痺性内反足先天性と後天性	整形外科	小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、黒岩祐、飛梅祥子	日本小児整形外科学会雑誌	22	2	346	350	日本小児整形外科学会	2013.12.25

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
当院における未熟児網膜症診療の発症ならびに治療状況	眼科	宇津永速、野村耕治、大西健、沖本聡志	眼科臨床紀要	第6巻	第4号	306	310	眼科臨床紀要会	2013.4
当院における未熟児網膜症および他の新生児合併症の経過	眼科	下山剛、横山知子、野村耕治	日本眼科学会雑誌	第117巻	第8号	616	620	日本眼科学会	2013.8
特集 小児科医が知っておきたい子ども目の病気 白内障および水晶体の異常	眼科	野村耕治	小児科	第54巻	第6号	845	852	金原出版	2013.5
いくつかのうちにその治療を打ち切るか - エキスパートに聞く：先天性喘鳴（喉頭軟弱症）	耳鼻咽喉科	阪本浩一	小児科	54	5	647	653	金原出版	2013.04
耳鼻咽喉科における乳幼児診療 Q&A: 持続する粘膿性鼻漏にどう対処したら良いですか？	耳鼻咽喉科	阪本浩一	ENTONI	152		34	41	全日本病院出版会	2013.04
耳鼻咽喉科領域とアレルギー：喉頭アレルギー	耳鼻咽喉科	阪本浩一	アレルギーの臨床	33	9	838	843	北隆館	2013.08
のどの異常：後鼻漏とのどの異常感	耳鼻咽喉科	阪本浩一	ENTONI	160		16	22	全日本病院出版会	2013.11
小児の痛みについて考える：小児の耳鼻咽喉科領域の痛み	耳鼻咽喉科	阪本浩一	小児科臨床	66	12	2359	2365	日本小児医事出版社	2013.12
VURD syndrome: Reports of three cases.	泌尿器科	Eiji Hisamatsu, Yoshikiyo Nakagawa, Yoshifumi Sugita	APSP Journal of Case Reports	4	2	17	17	EL-MED-Pub Publishers	2013.5
Two cases of late-diagnosed ovotesticular disorder of sex development.	泌尿器科	Eiji Hisamatsu, Yoshikiyo Nakagawa, Yoshifumi Sugita	APSP Journal of Case Reports	4	3	40	40	EL-MED-Pub Publishers	2013.10
新生児期の外科治療 総排泄腔外反症	泌尿器科	杉多良文、中川賀清、久松英治、神野雅	周産期医学	43	12	1613	1616	東京医学社	2013.12
新しい麻酔および関連薬の使用について	麻酔科	土居ゆみ、香川哲郎	麻酔	62	9	1088	1096	克誠堂	2013.9
血友病 B を合併した脊柱側彎症手術の麻酔経験	麻酔科	巻野将平、野村有紀、鹿原史寿子、高辻小枝子、香川哲郎	麻酔	62	10	1241	1244	克誠堂	2013.10
術後疼痛対策	麻酔科	香川哲郎 上北郁男	臨床麻酔	37	12	1735	1742	真興交易	2013.12
胎児鏡下レーザー光凝固で治療した双胎児間輸血症候群の単絨毛膜二羊膜性双生児における N-末端脳ナトリウム利尿性ペプチド前駆体濃度 (N-terminal Pro-brain Natriuretic Peptide Levels in Monochorionic Diamniotic Twins with Twin-to-twin Transfusion Syndrome Treated by Fetoscopic Laser Photocoagulation)(英語)	新生児科	Fujioka Kazumichi, Sakai Hitomi, Tanaka Satoshi, Iwatani Sota, Wada Keiko, Mizobuchi Masami, Yoshimoto Seiji, Nakao Hideto	Kobe Journal of Medical Sciences	59	1	E 28	35		2013.04

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
2012年度に当院で経験した先天性風疹症候群の2例	新生児科	藤岡一路、坂井仁美、田中聡、岩谷壮太、和田佳子、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	日本周産期・新生児医学会雑誌	49	2	737			2013.06
気管内吸引液分析による早期診断により救命し得た在胎22週の緑膿菌性人工呼吸器関連肺炎の一例	新生児科	溝淵雅巳、田中聡、藤岡一路、岩谷壮太、和田佳子、坂井仁美、芳本誠司、中尾秀人	日本周産期新生児学会雑誌	49	3	1078	1082		2013.09
I increased volume of tracheal aspirate fluid predicts the development of bronchopulmonary dysplasia.	新生児科	Iwatani S, Mizobuchi M, Tanaka S, Inomata K, Sakai H, Yoshimoto S, Nakao H.	Early Hum Dev.	89	2	113	117		2013.2
Perinatal outcome and clinical features of monoamniotic monoamniotic twin gestation	産科	Murata M, Ishii K, Kamitomo M, Murakoshi T, Takahashi Y, Sekino M, Kiyoshi K, Sago H, Yamamoto R, Kawaguchi H and Mitsuda N	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research	39	5	922	925		2013
胎児胸水に対する胎児治療	産科	喜吉賢二、牧志綾、船越徹	小児外科	45	1	49	51	東京医学社	2013
胎児治療：娩出時に腫瘍内吸引が必要であった仙尾部奇形腫	産科	牧志綾、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	小児外科	45	1	93	95	東京医学社	2013
帝王切開の合併症と対応	産科	船越徹	臨床婦人科産科	67	2	266	270	医学書院	2013
周産期における Pros, Cons 産科編妊娠34週まで早産治療を延長できた場合でも治療を継続する	産科	船越 徹	周産期医学	43	8	993	996	東京医学社	2013
平成24年度神緑会研究事業年間報告書 周産期予後不良症例の背景解析についての調査研究	産科	神戸大学大学院医学研究科総合臨床教育・育成学分野 <sup>1)</sup> 、加古川西市民病院 <sup>2)</sup> 、済生会兵庫県立産科病院 <sup>3)</sup> 、兵庫立淡路病院 <sup>4)</sup> 、山崎峰夫 <sup>1)</sup> 、房正規 <sup>2)</sup> 、船越 徹、左右田裕生 <sup>3)</sup> 、西島光浩 <sup>4)</sup>	神緑会学術誌	29		11	15	一般社団法人神緑会	2013
胎児評価の新展開 12. 胎児 MRI	放射線科	赤坂好直	産科と婦人科	80	9	1216	1222	診断と治療社	2013年9月

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Sacroccoccygeal yolk sac tumor developing after teratoma: A clinicopathological study of pediatric sacroccoccygeal germ cell tumors and a proposal of the pathogenesis of sacroccoccygeal yolk sac tumors	Division of Diagnostic Pathology, Kanagawa Children's Medical Center, Department of Pediatric Surgery, The University of Tokyo, Department of Pathology, National Center for Child Health and Development, Division of Pathology, Kobe Children's Hospital, Department of Pathology, Osaka City General Hospital, Division of Pathology, Saitama Children's Medical Center, Department of Clinical Laboratory Medicine and Anatomic Pathology, Osaka Medical Center and Research Institute for Maternal and Child Health, Department of Pathology, Shizuoka Children's Hospital, Department of Pathology and Laboratory Medicine, Hokkaido Medical Center for Child Health and Rehabilitation, Division of Pathology, Chiba Children's Hospital, Division of Surgery, Kanagawa Children's Medical Center, Division of Oncology, Kanagawa Children's Medical Center, Mikitano Clinic, Division of Pediatric Surgery, Saitama Children's Medical Center, Department of Pediatric Surgery, National Center for Child Health and Development,	Mariko Yoshida a,b, Kentaro Matsuoka c, Atsuko Nakazawa c, Makiko Yoshida d, Takeshi Inoue e, Hiroshi Kishimoto f, Masahiro Nakayama g, Emi Takaba h, Minoru Hamazaki h, Shigeaki Yokoyama i, Hiroshi Horie j, Mio Tanaka a, Kiyoshi Gomi a, Youkatsu Ohama k, Hisato Kigasawa l, Yoshihiro Kitano m, Hiroo Uchida n, Yutaka Kanamori o, Tadashi Iwanaka b, Yukichi Tanaka a	Journal of Pediatric Surgery	48		776	781	ELSEVIER	2013
胸腔内腫瘍の1例	1) 兵庫県立こども病院 病理診断科、 2) 同 血液腫瘍科、 3) 同 小児外科、 4) 同 救急集中治療科、 5) 同 放射線科	吉田牧子 <sup>1)</sup> 、田中愛子 <sup>2)</sup> 、川崎圭一郎 <sup>3)</sup> 、小坂嘉之 <sup>2)</sup> 、横井暁子 <sup>3)</sup> 、西島栄治 <sup>3)</sup> 、藤元真由美 <sup>4)</sup> 、山口善道 <sup>4)</sup> 、竹田洋樹 <sup>4)</sup> 、赤坂好宣 <sup>5)</sup> 、杉岡勇典 <sup>5)</sup>	日本小児血液・がん学会雑誌	50	1	151	151	日本小児血液・がん学会	2013.4
特集 小児がん〜子どもと家族の主体性を支える援助 小児がん学童期患者の主体性を支える援助	血液主体病棟	後藤恵美	がん看護	18	3	337	340	南江堂	2013.3
ケアモデル実践「心臓カテーテル検査」	看護部	藤原健太	小児看護	36	5	610	613	へるす出版	2013.5
症状マネジメント 倦怠感	看護部	濱田米紀	小児看護	36	8	1091	1097	へるす出版	2013.7
終末期ケアと看護倫理	看護部	濱田米紀	こどもケア	8	3	9	12	日総研出版	2013.8
心室中隔欠損症の根治術を受ける乳児への看護の実践	看護部	二星淳吾、本田真也	小児看護	36	11	1504	1510	へるす出版	2013.10

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
看護師による子どもへの「いのちの教育」－実践例から看護師の役割を考える－	看護部	杉本陽子、内田雅代、仁尾かおり、竹内幸江、濱田米紀、三輪富士代、高橋百合子	日本小児看護学会誌	22	2	97	106	日本小児看護学会	2013.11
転倒・転落防止オリエンテーションDVD「入院されるお子様の転倒・転落事故防止に関するお願い」第1版の有効性の検証	看護部	藤田優一、二星淳吾、湯浅真裕美、藤原千恵子	兵庫医療大学紀要					兵庫医療大学	2013.11
小児用転倒・転落防止プログラム第2版に対する看護師の意見－小児と家族用の転倒・転落防止DVDおよびパンフレットについて－	看護部	藤田優一、二星淳吾、湯浅真裕美、藤原千恵子	日本看護学会論文集：看護管理					日本看護学会	2013.11
呼吸系のフィジカルアセスメント	看護部	二星淳吾	小児看護	37	3	309	315	へるす出版	2014.3
小児ストローマ合併症と対処方法	看護部	鎌田直子	WOC Nursing	1	2	70	78	医学出版	2013.11

3) 学会発表

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
右上肢から体幹・頸部に及ぶ発赤腫脹を認めマムシ咬傷が疑われた1例	救急集中治療科	白鳥孝俊、田中司、楠元真由美、梶原伸介、山口義道、福原信一、竹田洋樹、上谷良行	第258回	日本小児科学会兵庫県 地方会	尼崎	2013.2.23
当院における腸重積症例のまとめ	救急集中治療科	楠元真由美、辻真之介、田中司、梶原伸介、山口義道、福原信一、竹田洋樹、上谷良行	第258回	日本小児科学会兵庫県 地方会	尼崎	2013.2.23
肝機能障害を呈し、TTウイルスの関与が疑われた1例	救急集中治療科	田中司、楠元真由美、梶原伸介、山口義道、福原信一、竹田洋樹、上谷良行	第258回	日本小児科学会兵庫県 地方会	尼崎	2013.2.23
兵庫県における深夜帯の小児救急患者動向について —第2報 神戸子ども初期急病センター開設後の変化—	救急集中治療科	上谷良行	第259回	日本小児科学会兵庫県 地方会	神戸	2013.5.25
歯ブラシによる咽頭損傷後に脳梗塞を起こした1例	救急集中治療科	中西啓太、山口義道、辻真之介、田中司、楠元真由美、梶原伸介、福原信一、竹田洋樹、上谷良行	第259回	日本小児科学会兵庫県 地方会	神戸	2013.5.25
僧帽弁逆流を合併した免疫グロブリン不応性川崎病 に対して血漿交換を行った1例	救急集中治療科	辻真之介、水田麻雄、笠井和子、中岸保夫、花田卓也、竹田洋樹、上谷良行	第259回	日本小児科学会兵庫県 地方会	神戸	2013.9.28
2日間で7回の腸重積再発を繰り返し腹腔鏡下に観 血的整備を行った4歳男児の1例	救急集中治療科	大片祐一、尾藤祐子、花田卓也、山口義道、竹田洋樹、上谷良行	第259回	日本小児科学会兵庫県 地方会	神戸	2013.9.28
2歳未満児に急性硬膜下血腫と急性硬膜外血腫の比較	救急集中治療科	楠元真由美、田中司、梶原伸介、山口義道、福原信一、野呂朝子、竹田洋樹、宅見晃子、上谷良行	第116回	日本小児科学会学術集会	広島	2013.4.19～21
当科で保存的に治療された外傷性肝損傷および脾損 傷の入院期間について	救急集中治療科	山口義道、辻真之介、田中司、楠元真由美、梶原伸介、福原信一、竹田洋樹、上谷良行	第27回	日本小児救急医学会学 術集会	宜野湾	2013.6.14-15
気道異物が疑われ当科を受診した42例の検討	救急集中治療科	辻真之介、竹田洋樹、田中司、楠元真由美、梶原伸介、山口義道、福原信一、上谷良行	第27回	日本小児救急医学会学 術集会	宜野湾	2013.6.14-15
当施設における救急・集中治療への超音波検査（エ コー）応用の試み	救急集中治療科	福原信一、辻真之介、田中司、楠元真由美、梶原伸介、山口義道、竹田洋樹、上谷良行	第27回	日本小児救急医学会学 術集会	宜野湾	2013.6.14-15
兵庫県下各圏域における深夜帯の小児救急患者動向 について 第2報 神戸子ども初期急病センター開 設後の変化	救急集中治療科	上谷良行	第24回	日本小児科医学会総会フ ォーラム in 大阪	大阪	2013.6.8～9
2005年出生超低出生体重児6歳時予後の全国調査集 計結果	救急集中治療科	上谷良行	平成24年 度	厚生労働科学研究費補 助金「重症新生児のプ ロトカム改善に関する 多施設共同研究」(藤 村班) 班会議	大阪	2013.1.18～19

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児の重症度評価、軽度外傷	救急集中治療科	上谷良行	平成24年度	兵庫県医師会小児初期救急医療研修会	神戸	2013.3.17
みんなで盛り上げよう 神戸西地域における小児救急「三次救急の現状から」	救急集中治療科	竹田洋樹	平成24年度	神戸西地域合同カンファレンス	神戸	2013.7.4
多彩な症状を呈したMODY5の1例に対するHNF1B遺伝子解析	代謝内分泌科	武岡 恵美子、野村 安隆、尾崎 佳代、郷司 克己、飯島 一誠	第86回	日本内分泌学会学術総会	仙台	2013.4.26
TNXA/TNXB キメララズ遺伝子形成により Ehlers-Danlos 症候群を合併した21水酸化酵素欠損症	代謝内分泌科	尾崎佳代、野村安隆、飯島一誠、郷司克己	第47回	日本小児内分泌学会学術集会	東京	2013.10.10
高カルシウム血症時にFGF23が著明高値であったWilliams症候群の1例	代謝内分泌科	野村安隆、尾崎佳代、郷司克己	第47回	日本小児内分泌学会学術集会	東京	2013.10.12
急性脳炎を合併した混合性結合組織病の1例	リウマチ科	武岡恵美子	第258回	日本小児科学会兵庫県地方会	尼崎市	2013. 2.23
トシリズマブ投与中に関節炎が再燃した全身型若年性特発性関節炎の6例	リウマチ科	中岸保夫	第57回	日本リウマチ学会総会・学術集会	京都市	2013. 4.18
関節型若年性特発性関節炎に対して、生物学的製剤のスイッチングを必要とした2例	リウマチ科	水田麻雄	第116回	日本小児科学会学術集会	広島市	2013. 4.19
トシリズマブ投与中にマクロファージ活性化症候群を合併し、治療方針の選択に苦慮した全身型若年性特発性関節炎の1例	リウマチ科	中岸保夫	第23回	日本小児リウマチ学会総会・学術集会	さいたま市	2013. 10.11
複雑心奇形を有する若年性特発性関節炎に対するトシリズマブの投与経験	リウマチ科	水田麻雄	第23回	日本小児リウマチ学会総会・学術集会	さいたま市	2013. 10.12
発熱とリンパ節腫脹のみで再燃後、急性脳炎を合併し、ウイルス感染との鑑別に苦慮した混合性結合組織病の1例	リウマチ科	笠井和子	第23回	日本小児リウマチ学会総会・学術集会	さいたま市	2013. 10.13
Induced hypothermia/normothermia with general anesthesia is related to better outcomes in children with acute encephalopathy caused by excitotoxicity.	脳神経内科	Masahiro Nishiyama, Kyoko Fujita, Azusa Maruyama, Hiroaki Nagase.	第65回	The American Academy of Neurology's AAN Annual Meeting	San Diego	2013.3.16-23
急性脳症における神経学的短期および長期予後の比較	脳神経内科・救急集中治療科	西山将広、藤田杏子、丸山あずさ、永瀬裕朗、竹田洋樹、上谷良行	第116回	日本小児科学会学術集会	広島	2013.4.20
頭部外傷により二相性脳症の経過を示した2例	脳神経内科	西山将広、田中司、藤田杏子、丸山あずさ、永瀬裕朗	第55回	日本小児神経学会総会	大分	2013.5.30-6.1

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
出血性ショック脳症症候群 (HSES) が疑われた9例の診断および転帰に関する検討	脳神経内科	田中司、西山将広、藤田杏子、丸山あずさ、永瀬裕朗	第55回	日本小児神経学会総会	大分	2013.5.30-6.2
急性脳症治療を目指した一般人口研究のための予備的研究	脳神経内科	佐々木香織、永瀬裕朗、丸山あずさ、藤田杏子、西山将広、田中司、上谷良行、貫名貞之、宅見徹、親里嘉展、西山敦史、河田知子、佐伯啓介、佐竹恵理子、高見勇一	第260回	日本小児科学会兵庫県地方会	大分	2013.9.28
3日間のピボキシル含有抗菌薬投与後に低血糖を認めた急性脳症の1例	脳神経内科	西山将広、田中司、藤田杏子、丸山あずさ、永瀬裕朗、竹田洋樹、上谷良行	第54回	日本小児神経学会近畿地方会	大阪	2013.10.21
急性脳症治療を目指した一般人口研究のための予備的研究	脳神経内科	佐々木香織、永瀬裕朗、丸山あずさ、藤田杏子、西山将広、田中司、上谷良行、貫名貞之、宅見徹、親里嘉展、西山敦史、河田知子、佐伯啓介、佐竹恵理子、高見勇一	第54回	日本小児神経学会近畿地方会	大阪	2013.10.21
小児血液腫瘍疾患診療において小児専門施設のできることでないこと	血液腫瘍内科	小阪嘉之	第25回	九州山口小児がんカンファレンス	博多	2013.11.9
岩井誠三特別講演 小児がん診療におけるチーム医療—特に麻酔科の関わりについて—	血液腫瘍内科	小阪嘉之	第19回	小児麻酔学会	神戸	2013.9.29-30
Equivalent outcome between reduced intensity versus conventional myeloablative conditioning hematopoietic stem cell transplantation for childhood MDS: A Report from the MDS working group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation (JSHCT)	血液腫瘍内科	Daichiro Hasegawa, Akira Kikuchi, Miharu Yabe, Kazuko Kudo, Yoshiko Atsuta, Jiro Inagaki, Masami Inoue, Ryosei Nishimura, Junji Tanaka, Koji Kato, Hiromasa Yabe, Keisei Kawa, Atsushi Manabe and Kenichiro Watanabe.	39th	39th Annual Meeting of European Group for Blood and Marrow Transplantation	London	2013.4.7-10
小児急性骨髄性白血病寛解導入療法において支持療法が有害事象に与える影響	血液腫瘍内科	長谷川 大一郎、工藤 寿子、多和 昭雄、照井 君典、岩本 彰太郎、木下 明俊、高橋 浩之、中山 秀樹、齋藤 明子、足立 壮一	第116回	日本小児科学会総会	広島	2013.4.19-21
Retrospective analysis of the outcome after hematopoietic stem cell transplantation between reduced intensity versus conventional myeloablative conditioning for childhood Myelodysplastic syndrome (MDS) : A Report from the MDS working group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation (JSHCT)	血液腫瘍内科	Daichiro Hasegawa, Akira Kikuchi, Miharu Yabe, Kazuko Kudo, Yoshiko Atsuta, Jiro Inagaki, Masami Inoue, Ryosei Nishimura, Junji Tanaka, Koji Kato, Hiromasa Yabe, Keisei Kawa, Atsushi Manabe and Kenichiro Watanabe.		小児再生不良性貧血／MDS 研究会	名古屋	2013.6.1-2
積極的治療にて救命し長期間寛解を維持している頭蓋内出血合併急性前骨髄急性白血病の一例	血液腫瘍内科	矢内友子、加藤威、平瀬敏志、山本暢之、久保川育子、森健、早川晶、竹島泰弘、飯島一誠	第27回	小児救急医学会	沖縄	2013.6.14-15
THE FEASIBILITY OF HIGH-DOSE TOPOTECAN, MELPHALAN AND CYCLOPHOSPHAMIDE IN CHILDREN WITH ADVANCED SOLID TUMORS: A SINGLE-INSTITUTION EXPERIENCE	血液腫瘍内科	Toshiaki Ishida, Daichiro Hasegawa, Kenji Miyata, Satoshi Ochi, Atsuro Saito, Aiko Tanaka-Kozaki, Keiichiro Kawasaki, Yoshiyuki Kosaka	45th	Congress of International society of Pediatric Oncology	Hong-Kong	2013.9.25-28

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
Long-term outcomes of AA or hypoplastic MDS children who received the same immunosuppression therapy	血液腫瘍内科	Asahito Hama, Hideki Muramatsu, Masafumi Ito, Yoshiyuki Kosaka, Masahiro Tsuchida, Yoshiyuki Takahashi, Ryoji Kobayashi, Etsuro Ito, Hiromasa Yabe, Shoutichi Ohga, Akira Ohara, Seiji Kojima.	第75回	日本血液学会総会	札幌	2013.10.11-13
Prognostic significance of CRLF2 overexpression in pediatric acute lymphoblastic leukemia	血液腫瘍内科	Mio Yano, Daisuke Asai, Toshihiko Imamura, So-ichi Suenobu, Daiichiro Hasegawa, Takao Deguchi, Yoshiko Hashii, Akiko Saito, Hirohide Kawasaki, Hiroki Hori, Yoshiyuki Kosaka, Koji Kato, Keizo Horibe, Keiko Yagi, Junichi Hara, Megumi Oda, Atsushi Sato	第75回	日本血液学会総会	札幌	2013.10.11-13
Genomic aberrations identified using array-CGH in monozygotic twins with t (12;21) ALL	血液腫瘍内科	Atsuro Saito, Daiichiro Hasegawa, Yoriko Noguchi, Yuji Nakamachi, Seiji Kawano, Takeshi Mori, Kenji Miyata, Satoshi Ochi, Aiko Tanaka-Kozaki, Toshiaki Ishida, Keiichiro Kawasaki, Keizo Horibe, Noriaki Yoshida, Shinobu Tsuzuki, Masao seto, Yoshiyuki Kosaka	第75回	日本血液学会総会	札幌	2013.10.11-13
Early Diagnosis of viral infection by multiplex PCR assays in allogeneic stem cell transplantation	血液腫瘍内科	Aiko Tanaka-Kozaki, Daiichiro Hasegawa, Kenji Miyata, Satoshi Ochi, Atsuro Saito, Toshiaki Ishida, Tomoko Yanai, Keiichiro Kawasaki, Norio Shimizu, Kiminari Ito, Yoshiyuki Kosaka	第75回	日本血液学会総会	札幌	2013.10.11-13
Cytokine change in a juvenile case with rapidly progressive multicentric Castleman disease	血液腫瘍内科	Ikuko Kubokawa, Tomoko Yanai, Kousuke Nishida, Satoshi Hirase, Nobuyuki Yamamoto, Daisaku Toyoshima, Taku Nakagawa, Takeshi Mori, Naoya Morisada, Akira Hayakawa, Yasuhiro Takeshima, Chieko Hisamatsu, Yoshihiko Yano, Tatsuya Nishii, Keisuke Nishimura, Gouchi Kageyama, Keiichiro Uehara, Yoshitake Hayashi, Tomoo Ito, Taizo Wada, Akihiro Yachie, Kazumoto Iijima	第75回	日本血液学会総会	札幌	2013.10.11-13
Neonatal multisystem langerhans cell histiocytosis with respiratory distress improved after discontinuation of chemotherapy	血液腫瘍内科	石田敏章、越智聡史、宮田憲二、齋藤敦郎、神前愛子、矢内友子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小坂嘉之	第55回	日本小児血液・がん学会学術総会	博多	平成25年11月29日—12月1日
入院時骨髓細胞の染色体分析にて21トリソミーの判明により、診断に苦慮した先天性白血病疑いの一例	血液腫瘍内科	宮田憲二、越智聡史、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、矢内友子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小坂嘉之	第55回	日本小児血液・がん学会学術総会	博多	2013.11.29-12.1
StropeL-3HR と PBSCT を術前化学療法として施行した多発肺転移を伴う PRETEXT IV の肝芽腫の一例	血液腫瘍内科	齋藤敦郎、宮田憲二、越智聡史、神前愛子、石田敏章、矢内友子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小坂嘉之	第55回	日本小児血液・がん学会学術総会	博多	2013.11.29-12.1

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
Risk Factors For Clonal Evolution Of Acquired Bone Marrow Failure After Immunosuppressive Therapy In Children	血液腫瘍内科	Asahito Hama, Hideki Muramatsu, Masafumi Ito, Yoshiyuki Kosaka, Masahiro Tsuchida, Yoshiyuki Takahashi, Ryoji Kobayashi, Etsuro Ito, Hiromasa Yabe, Shouichi Ohga, Akira Ohara, and Seiji Kojima.	55th	The 55th Annual Meeting of American Society of Hematology	New Orleans	2013.12.8-11
Poor Prognosis With Different Induction Rate Was Observed In Children With Acute Myeloid Leukemia and FLT3-ITD According To The ITD/WT Allelic Ratio: A Result From The Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group	血液腫瘍内科	Akira Shimada, Daisuke Tomizawa, Akio Tawa, Tomoyuki Watanabe, Toshiya Yokozawa, Kazuko Kudo, Shotaro Iwamoto, Kiminori Terui, Hiroshi Moritake, Akitoshi Kinoshita, Hiroyuki Takahashi, Hideki Nakayama, Katsuyoshi Koh, Hiroaki Goto, Yoshiyuki Kosaka, Akiko Moriya Saito, Junichiro Fujimoto, Keizo Horibe, Kentaro Oki, Yasuhide Hayashi, and Soutichi Adachi.	55th	The 55th Annual Meeting of American Society of Hematology	New Orleans	2013.12.8-11
Prognostic Significance Of CRLF2 Over-Expression In Pediatric Acute Lymphoblastic Leukemia	血液腫瘍内科	Mio Yano, Toshihiko Imamura, Daisuke Asai, Akiko Moriya Saito, So-ichi Suenobu, Daichiro Hasegawa, Takao Deguchi, Yoshiko Hashii, Hirohide Kawasaki, Hiroki Hori, Yoshiyuki Kosaka, MD, Koji Kato, Keizo Horibe, Keiko Yagi, Junichi Hara, Kenji Matsumoto, 4Nobutaka Kiyokawa, MD, Megumi Oda, MD, Atsushi Sato.	55th	The 55th Annual Meeting of American Society of Hematology	New Orleans	2013.12.8-11
出生時より多発肺嚢胞・多発腫瘍を呈し呼吸不全に至った新生児例	血液腫瘍内科	山下達也、宮田憲二、越智聡史、齋藤敦郎、田中愛子、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	第6回	兵庫県 tumor board	神戸	2013.1.18
初発時、腎臓癌を合併した Wilms 症候群の一例	血液腫瘍内科	宮田憲二、長谷川大一郎、越智聡史、齋藤敦郎、山下達也、神前愛子、石田敏章、川崎圭一郎、小阪嘉之	第63回	小児がんカンファレンス	大阪	2013.2.9
寛解導入中に急性出血による sudden death を来した BCP-ALL の一例	血液腫瘍内科	石田敏章、越智聡史、宮田憲二、齋藤敦郎、神前愛子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之		小児血液凝固セミナー in 兵庫		2013.3.29
先天性白血病との鑑別に苦慮している新生児の一例	血液腫瘍内科	宮田憲二、矢内友子、越智聡史、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、和田佳子、中尾秀人、小阪嘉之	第29回	兵庫県小児血液腫瘍症例検討会	神戸	2013.6.14
AML R1S12 の検討課題—適応症例の拡大について考える—	血液腫瘍内科	長谷川大一郎		日本白血病リンパ腫研究グループ総会		2013.6.21-23
Malignant Meningioma の一例	血液腫瘍内科	齋藤敦郎、長谷川大一郎、宮田憲二、越智聡史、神前愛子、石田敏章、川崎圭一郎、吉田牧子、山本裕輔、山元一樹、河村淳史、長嶋達也、小阪嘉之	第12回	小児脳腫瘍治療研究会		2013.6.29

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
3回目の免疫寛容療法を施行しているインヒビター保有血友病Aの一例	血液腫瘍内科	川崎圭一郎、小阪嘉之		Haemostasis 研究会	東京	2013.8.3
白血病疑いで行った骨髄検査にて21トリソミーが判明した非ダウン様顔貌の新生児	血液腫瘍内科	宮田憲二、越智聡史、斎藤敦郎、神前愛子、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、和田佳子、中尾秀人、西村範行、小阪嘉之	第51回	神戸血液病研究会	神戸	2013.9.28
131I-MIBG 内照射療法を施行した再発神経芽腫の3例	血液腫瘍内科	高藤哲、長谷川大一郎、宮田憲二、越智聡史、斎藤敦郎、神前愛子、石田敏章、川崎圭一郎、小阪嘉之、吉田牧子、杉岡勇典、赤坂好宣、副島俊典	第64回	小児がんカンファレンス	大阪	2013.11.9
	血液腫瘍内科	越智聡史、石田敏章、森健、宮田憲二、斎藤敦郎、神前愛子、矢内友子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之		平成25年度兵庫県白血病懇話会	神戸	2013.11.9
思春期以降に先天性心疾患に伴う感染性心内膜炎に罹患した6症例	循環器科	雪本千恵、城戸佐知子、亀井直哉、古賀千穂、佐藤有美、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、田中敏克、大嶋義博	第15回	日本成人先天性心疾患学会	東京	2013年1月19-20日
移行期医療における患者教室	循環器科	城戸佐知子、渡辺旭代、木村弘子、岸本明子、石本敦子、平井重世、杉友ユリ、中西亜希子	第15回	日本成人先天性心疾患学会	東京	2013年1月19-20日
CTO病変用ガイドワイヤーを用いてPTPVを施行したPA/IVSの2例	循環器科	田中敏克、雪本千恵、古賀千穂、亀井直哉、小川禎治、佐藤有美、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	第24回	日本小児インターベンション研究会	松山	2013年1月24-26日
完全房室ブロック、胎児水腫を合併した左側相同心に対する、上行大動脈アプローチによるバルーン大動脈形成術の経験	循環器科	佐藤有美、田中敏克、雪本千恵、亀井直哉、古賀千穂、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	第24回	日本小児インターベンション研究会	松山	2013年1月24-26日
AMPLATZER Cribiform Occluder を用いて心房間遺残短絡を閉鎖したPA/IVSの1例	循環器科	亀井直哉、田中敏克、藤田秀樹、佐藤有美、小川禎治、古賀千穂、富永健太、雪本千恵、城戸佐知子	第24回	日本小児インターベンション研究会	松山	2013年1月24-26日
小児の循環器疾患と睡眠時無呼吸症候群	循環器科	城戸佐知子、亀井直哉、田中敏克、藤田秀樹、富永健太、佐藤有美、小川禎治、古賀千穂、雪本千恵	第19回	日本小児肺循環研究会	東京	2013年2月2日
左室ペーシング部位の変更により心機能が改善した先天性完全房室ブロックの1例	循環器科	田中敏克、雪本千恵、古賀千穂、亀井直哉、小川禎治、佐藤有美、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	第116回	日本小児科学会学会術集	広島	2013年4月19-21日
有熱期間5日で冠動脈瘤を生じた川崎病の1例	循環器科	藤田秀樹、富永健太、雪本千恵、亀井直哉、古賀千穂、小川禎治、佐藤有美、田中敏克、城戸佐知子	第116回	日本小児科学会学会術集	広島	2013年4月19-21日
腎動脈狭窄に対する薬剤溶出性ステントの使用経験	循環器科	古賀千穂、藤田秀樹、雪本千恵、亀井直哉、小川禎治、佐藤有美、富永健太、田中敏克、城戸佐知子、田中亮二郎	第116回	日本小児科学会学会術集	広島	2013年4月19-21日

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
アミオダロン内服後に消失した房室接合部性頻拍の1例	循環器科	田中敏克、雪本千恵、古賀千穂、亀井直哉、小川禎治、佐藤有美、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	第259回	日本小児科学会兵庫県地方会	神戸	2013年5月25日
fenestrated TCPCに到達し得た、先天性気管狭窄症/無脚症/右室型単心室/肺動脈閉鎖/総肺静脈還流異常の1例	循環器科	富永健太、城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、佐藤有美、小川禎治、亀井直哉、古賀千穂、雪本千恵、三木康暢	第31回	西日本小児循環器HOT研究会	大阪	2013年6月8日
当院小児救急医療センターに循環器疾患疑いにて入院となった初診患者の疾患群について	循環器科	富永健太	第27回	日本小児救急医学会学術集会	沖縄	2013年6月14-15日
PA with IVSに対するPTPVの治療成績— 一成功例と不成功例の比較—	循環器科	田中敏克、雪本千恵、古賀千穂、亀井直哉、小川禎治、佐藤有美、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	第49回	日本小児循環器学会学術集会	東京	2013年7月11-13日
右大動脈弓を乗り越える異常な走行を呈する左肺動脈 左第5弓遺残が原因?	循環器科	藤田秀樹、小川禎治、亀井直哉、雪本知恵、古賀千穂、佐藤有美、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第49回	日本小児循環器学会学術集会	東京	2013年7月11-13日
新生児期開心術症例における胎児診断の有無についての検討	循環器科	佐藤有美、城戸佐知子、雪本千恵、亀井直哉、古賀千穂、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、田中敏克	第49回	日本小児循環器学会学術集会	東京	2013年7月11-13日
血管造影検査室にて心カテーター検査施行に際し、緊急に補助循環導入に至った3例	循環器科	富永健太、城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、佐藤有美、小川禎治、亀井直哉、古賀千穂、雪本千恵、三木康暢	第49回	日本小児循環器学会学術集会	東京	2013年7月11-13日
Fontan candidate 症例におけるBTシャント手術と側副血管の発達に関する検討	循環器科	雪本千恵、亀井直哉、古賀千穂、小川禎治、佐藤有美、富永健太、藤田秀樹、田中敏克、城戸佐知子	第49回	日本小児循環器学会学術集会	東京	2013年7月11-13日
先天性心疾患女性患者に対する性教育、妊娠・出産に対する患者教室	循環器科	城戸佐知子、渡辺旭代、木村弘子、大原三代子、平井重世	第49回	日本小児循環器学会学術集会	東京	2013年7月11-13日
先天性心疾患患者に対する移行期医療としての患者教室	循環器科	城戸佐知子、渡辺旭代、木村弘子、岸本明子、石本敦子、北村直美、神川真菜、杉友ユリ、中西亜希子、平井重世	第11回	兵庫県立病院学会	神戸	2013.8.31
先天性心疾患長期経過において片側肺循環となった症例の検討	循環器科	城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、富永健太、佐藤有美、小川禎治、亀井直哉、古賀千穂、雪本千恵、三木康暢	第61回	日本心臓病学会	熊本	2013年9月1日
胎児心エコーモニタリング	循環器科	佐藤有美	第3回	神戸産婦人科臨床フォーラム 教育講演	神戸	2013年1月12日
兵庫県立こども病院のFontan 応援活動	循環器科	城戸佐知子		長野こども病院講演会	松本	2013.6.22
先天性心疾患患者の移行期医療：ある小児病院の挑戦～一緒に川を渡ろう～	循環器科	城戸佐知子	第49回	日本小児循環器学会学術集会 ランチョンセミナー講演	東京	2013年7月11-13日

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
兵庫県立こども病院の Fontan 応援活動	循環器科	城戸佐知子		広島心臓病の子どもを守る会講演	広島	2013.11.16
小児科領域における肺高血圧症	循環器科	城戸佐知子		グラクソ・スミス・クライン社内講演会	神戸	2013年11月28日
循環器の ABC	循環器科	亀井直哉		兵庫県難病連医療相談会講演	神戸	2013.12.1
頻回再発型ネフローゼ症候群 (FRNS) に対する初期の標準的な Cyclosporine (CyA) 2年間投与後の経過	腎臓内科	中川拓、神田杏子、田中亮二郎	第46回	近畿小児腎臓病研究会	大阪	2013.3.30
顕微鏡的多発血管炎加療中に Wegener 肉芽腫症様の肺病変を認めた1例	腎臓内科	鴨井良明、沖田空、西山敦史、親里嘉展、神岡一郎、足立昌夫、米谷昌彦、中川拓、神田杏子、田中亮二郎	第116回	日本小児科学会学術集会	広島	2013.4.19-21
先天性腎尿路奇形 (CAKUT) における尿中 L 型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP) の臨床的有用性について	腎臓内科	田中亮二郎、中川拓、神田杏子	第48回	日本小児腎臓病学会学術集会	徳島	2013.6.28-29
半月体形成性糸球体腎炎を呈する小児 Ig A 腎症について	腎臓内科	高友子、中西浩一、向山弘展、瀧武継、田中亮二郎、飯島一誠、吉川徳茂	第48回	日本小児腎臓病学会学術集会	徳島	2013.6.28-29
P T E N 遺伝子異常を認めた巣状分節性糸球体硬化症の児	腎臓内科	中川拓、橋村裕也、神田杏子、田中亮二郎	第48回	日本小児腎臓病学会学術集会	徳島	2013.6.28-29
もやもや病に腎血管性高血圧を合併し治療に難渋したため患側腎摘出を施行した1例	腎臓内科、病理部	神田杏子、中川拓、吉田牧子、田中亮二郎	第48回	日本小児腎臓病学会学術集会	徳島	2013.6.28-29
頻回再発型ネフローゼ症候群 (FRNS) に対する初期の標準的な CyA2年間投与後の経過	腎臓内科	中川拓、神田杏子、田中亮二郎	第56回	日本腎臓学会学術総会	東京	2013.5.10-12
「1学期定例研究会」神戸市 学校検尿—早期発見から管理治療、予後まで—	腎臓内科	田中亮二郎	第56回	神戸市養護教諭研究会・神戸市教育委員会 共催	神戸	2013.7.4
学校検尿でわかる小児腎臓病	腎臓内科	田中亮二郎	第6回	兵庫県学校保健セミナー	神戸	2013.7.6
小児腎炎・ネフローゼ	腎臓内科	田中亮二郎	第59回	神戸市難病連主催医療相談会	神戸	2013.7.7
肉眼的血尿と強い腹痛が続き、診断に苦慮したネフローゼ症候群の1例	腎臓内科	神田杏子、中川拓、田中亮二郎	第17回	兵庫県腎疾患治療懇話会	神戸	2013.7.19

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
Clinical usefulness of urinary liver-fatty acid-binding protein in congenital anomalies of the kidney and urinary tract	腎臓内科	Ryojiro Tanaka, Taku Nakagawa, Kyoko Kanda	第16回	The 16 Congress of the International Pediatric Nephrology Association	Shanghai	August 30- September 3, 2013
A case of focal segmental glomerulosclerosis with PTEN gene mutation	腎臓内科	Taku Nakagawa, Yuya Hashimura, Kyoko Kanda, Ryojiro Tanaka	第16回	The 16 Congress of the International Pediatric Nephrology Association	Shanghai	August 30- September 3, 2013
Effective rituximab treatment for Epstein-Barr virus-associated smooth muscle tumor in a transplant recipient	腎臓内科	Yuya Hashimura1 2), Taku Nakagawa1), Kyoko Kanda1), Kenichi Imadome3), Ryojiro Tanaka1)	第16回	The 16 Congress of the International Pediatric Nephrology Association	Shanghai	August 30- September 3, 2013
Multicenter Double-Blind Placebo-Controlled Randomized Trial of Rituximab for the Treatment of Childhood-Onset Refractory Nephrotic Syndrome	腎臓内科	Kazumoto Iijima1), Mayumi Sako2), Kandai Nozu1), Nao Tsuchida3), Ryojiro Tanaka4), Kenji Ishikura5), Shuichi Ito6), Yasuo Ohashi7)	第16回	The 16 Congress of the International Pediatric Nephrology Association	Shanghai	August 30- September 3, 2013
The relationship between timing of renal biopsy and pathological variables of the Oxford classification (Ox) in childhood IgA Nephropathy	腎臓内科	Yuko Shima1), Koichi Nakanishi1), Hironobu Mukaiyama1), Taketsugu Hama1), Hiroko Togawa1), Ryojiro Tanaka2), Kazumoto Iijima3), Norishige Yoshikawa1)	第16回	The 16 Congress of the International Pediatric Nephrology Association	Shanghai	August 30- September 3, 2013
もやもや病に腎血管性高血圧を合併し治療に難渋したため患側腎摘出を施行した1例	腎臓内科	神田杏子、中川拓、田中亮二郎	第20回	日本小児高血圧研究会	大阪	2013.9.15
各種治療に難渋したステロイド抵抗性ネフローゼ症候群に対してリツキシマブが著効した2症例	腎臓内科	神田杏子、中川拓、田中亮二郎	第47回	近畿小児腎臓病研究会	大阪	2013.10.5
急性腎傷害から無尿となり、間質性肺炎を合併した乳児ネフローゼ症候群の1例	救急集中治療科、腎臓内科	花田卓也、中川拓、神田杏子、田中亮二郎	第47回	日本小児腎不全学会学術集会	福島	2013.10.24-25
Quantitative PCR assay demonstrated exon deletions of ADAMTS13 in two unrelated patients with Upshaw-Schulman syndrome	腎臓内科	Yuka Eura, Koichi Kokame, Toshiro Takafuta, Ryojiro Tanaka, Hikaru Kobayashi, Fumihiko Ishida, Masanori Matsumoto, Yoshihiro Fujimura Toshiyuki Miyata		国際血栓止血学会	阿姆斯特ダム	2013.6.29-7.4
Kinetics and half-life of plasma ADAMTS13 after plasma infusion in four patients with Upshaw-Schulman Syndrome	腎臓内科	Hideo Yagi, Seiji Kato, Mutsuko Konno, Ryojiro Tanaka, Yuki Hasegawa, Rie Kanai, Seiji Yamaguchi, Ayami Isonishi, Masanori Matsumoto, Yoshihiro Fujimura		国際血栓止血学会	阿姆斯特ダム	2013.6.29-7.4
当院における ADHD 薬物療法の現状	精神神経科	関口典子 長谷川弘子、松川悦之	第54回	日本児童青年精神医学会総会	札幌	2013.10.11
THE ROLE OF SURGERY FOR HIGH-RISK NEUROBLASTOMA	Pediatric Surgery, Hematology and Oncology, Pathology	Akiyo Yokoi*, Daiichiro Hasegawa**, Keitichiro Kawasaki**, Toshiaki Ishida**, Hiroshi Arai*, Yuko Bitoh*, Makiko Yoshida***, Yoshiyuki Kosaka**, Eiji Nishijima	46th	PAPS 2013	Hunter Valley, Australia	2013.4.7-11

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児の外科的気道確保の観点から	外科	横井 暁子	第 60 回	日本麻酔科学会	札幌	2013/5/25
総排泄腔外反症の病型の検討	外科、泌尿器科	横井 暁子, 中尾 真、尾藤 祐子, 荒井 洋志, 杉多良文, 西島 栄治	第 50 回	日本小児外科学会総会	東京	2013.5.30-6.1
The treatment of postoperative tracheal granulation tissue with inhaled budesonide in congenital tracheal stenosis.	Pediatric Surgery, Cardiovascular Surgery	Akiko Yokoi <sup>1</sup> , Makato Nakao <sup>1</sup> , Yuko Bitoh <sup>1</sup> , Hiroshi Arai <sup>1</sup> , Yoshihiro Oshima <sup>2</sup> , Eiji Nishijima <sup>1</sup>	60th	BAPS 2013	Bournemouth	2013/7/16-19
胃腸断裂部内癒化を試みた外傷性膈損傷 (III b 型) の 2 例	外科	横井暁子、中尾真、岩城隆馬、吉田拓哉、岩出珠幾、谷本光隆、園田真理、西島栄治、福澤宏明、尾藤祐子、西島栄治	第 29 回	日本小児外科学会秋季シンポジウム	東京	2013/10/26
高リスク神経芽細胞種に対する局所遅延療法臨床試験における化学療法後の組織学的治療効果の検討	外科、病理診断科、血液腫瘍科	横井暁子、吉田牧子、長谷川大一郎、吉田拓哉、岩出珠幾、谷本光隆、園田真理、大川祐一、福澤宏明、尾藤祐子、西島栄治、川崎圭一郎、小阪嘉之	第 55 回	日本小児血液・がん学会	福岡	2013.11.29
ANTERIOR TRANSLOCATION SLIDE TEACHEOPLASTY FOR CONGENITAL TRACHEAL STENOSIS WITH UNILATERAL LUNG AGENESIS OR SEVERE HYPOPLASIA	Pediatric Surgery, Cardiovascular surgery	Yuichi Okata, Akiko Yokoi, Yuko Bitoh, Hiroshi Arai, Makoto Nakao, Yoshihiro Oshima, Eiji Nishijima	46th	PAPS 2013	Hunter Valley, Australia	2013.4.7-11
頸部から気管分岐部に及ぶ食道重複症に対する頸部切開アプローチの経験	外科	大川祐一、横井暁子、尾藤祐子、中尾真、荒井洋志、福澤宏明、園田真理、谷本光隆、吉田拓哉、洲尾昌伍、河原仁守、西島栄治	第 50 回	日本小児外科学会総会	東京	2013.5.30-6.1
2 日間で 7 回の腸重積再発を繰り返し腹腔鏡下に観血的整復を行った 4 歳男児の 1 例	外科・救急科	大川祐一、尾藤祐子、花田卓也、山口善道、竹田洋樹、岩城隆馬、吉田拓哉、谷本光隆、園田真理、福澤宏明、中尾真、横井暁子、西島栄治	第 260 回	日本小児科学会兵庫県地方会	姫路	2013.9.28
喉頭気管分離術に工夫を要した 2 例：先天性気管狭窄症術後および喉頭気管食道裂傷後例	外科	大川祐一、西島栄治、吉田拓哉、岩城隆馬、谷本光隆、園田真理、福澤宏明、尾藤祐子、中尾真、横井暁子	第 32 回	日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	東京	2013.10.24-25
腎膿瘍を合併した Wilms 腫瘍の 1 例	外科・血液腫瘍科・病理診断科	大川祐一、横井暁子、宮田薫二、斎藤敦郎**、長谷川大一郎**、河原仁守*、吉田拓哉*、洲尾昌伍*、谷本光隆*、園田真理*、福澤宏明*、尾藤祐子*、中尾真*、吉田牧子、小阪嘉之、西島栄治	第 55 回	日本小児血液・がん学会	福岡	2013.11.29-12.1
新生児外科疾患における 出生前診断の役割	外科	大川祐一	平成 25 年度	兵庫県周産期医療研修会	神戸	2013.12.21
Wound retractor を使用し小開腹で摘出可能であった超巨大な毛髪胃石の 1 例	外科	岩出珠幾、福澤宏明、洲尾昌伍、岩城隆馬、吉田拓哉、園田真理、谷本光隆、大川祐一、尾藤祐子、中尾真、横井暁子、西島栄治	第 49 回	日本小児外科学会近畿地方会	大阪	2013.8.25

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
Nuss バー挿入時の胸膜損傷と開胸創の開大が原因で術後早期よりバーの変位を認めたと考えられる一例	外科	岩出珠幾、福澤宏明、吉田拓哉、園田真理、谷本光隆、大井祐一、尾藤祐子、横井曉子	第13回	NUSS 法漏斗胸手術手技研究会	松本	2013.11.23
非拡張性・胆管合流異常症に対して腹腔鏡下肝外胆管切除+肝管空腸吻合術を施行した1例 —術式の工夫について—	小児外科	福澤宏明、岩城隆馬、吉田拓哉、園田真理、岩出珠幾、大井祐一、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	第26回	日本内視鏡外科学会	福岡	平成25年11月28日-30日
外傷性肝損傷および脾損傷の保存的治療におけるプロトコール作成の試み	小児外科	福澤宏明、岩城隆馬、吉田拓哉、園田真理、岩出珠幾、大井祐一、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	第29回	日本小児外科学会秋季シンポジウム	東京	平成25年10月26日
代理 ミュンヒハウゼン病が強く疑われた嘔吐・下痢・敗血症を繰り返した1例	小児外科	福澤宏明、岩城隆馬、吉田拓哉、園田真理、岩出珠幾、大井祐一、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	第30回	日本小児外科学会秋季シンポジウム	東京	平成25年10月26日
当院での腹腔鏡下先天性胆道拡張症手術の工夫	小児外科	福澤宏明、岩城隆馬、吉田拓哉、園田真理、岩出珠幾、大井祐一、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	第33回	日本小児内視鏡外科・手術手技研究会		
胆嚢嚢からの洗浄を行うも胆管内タンパク栓が残存した先天性胆道拡張症の1症例	小児外科	岩城隆馬、吉田拓哉、福澤宏明、園田真理、谷本光隆、大井祐一、岩出珠幾、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	第49回	日本小児外科学会近畿地方会	大阪	平成25年8月26日
頸顔面の巨大奇形腫に対してEXIT法を施行した1例	小児外科、麻酔科、新生児科	谷本光隆、横井曉子、岩城隆馬、吉田拓哉、園田真理、岩出珠幾、大井祐一、福澤宏明、尾藤祐子、中尾真、香川哲郎、藤岡一路、中尾秀人、西島栄治	第55回	日本小児血液・がん学会	福岡	2013.11.29-12.1
巨大脂肪芽腫の1例	小児外科	吉田拓哉、福澤宏明、岩城隆馬、園田真理、谷本光隆、岩出珠幾、大井祐一、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	第55回	日本小児血液・がん学会	福岡	2013.11.29-12.1
緊急気管切開術を要した新生児喉頭嚢胞の1例	小児外科	吉田拓哉、中尾真、河原仁守、洲尾昌伍、谷本光隆、園田真理、大井祐一、福澤宏明、荒井洋志、尾藤祐子、横井曉子、西島栄治	第27回	日本小児救急医学会	沖縄	2013年6月14日、15日
急性虫垂炎と鑑別を要した特発性大網炎の1例	小児外科	河原仁守、尾藤祐子、横井曉子、中尾真、荒井洋志、福澤宏明、大井祐一、園田真理、谷本光隆、洲尾昌吾、吉田拓哉、西島栄治	第27回	日本小児救急医学会	沖縄	2013年6月14日、15日
腹腔鏡下手術を施行した副脾茎捻転の1例	小児外科	洲尾昌伍、尾藤祐子、福澤宏明、横井曉子、中尾真、荒井洋志、大井祐一、園田真理、谷本光隆、吉田拓哉、河原仁守、西島栄治	第26回	日本小児脾臓研究会	大阪	平成25年3月9日
小児患者におけるベッドサイドでの軟性気管支鏡検査の有用性	小児外科	谷本光隆、横井曉子、吉田拓哉、園田真理、岩出珠幾、大井祐一、福澤宏明、尾藤祐子、中尾真、西島栄治	第40回	日本小児内視鏡研究会	東京	平成25年7月6日
胆嚢嚢からの洗浄を行うも胆管内タンパク栓が残存した先天性胆道拡張症の1症例	小児外科	吉田拓哉、福澤宏明、岩城隆馬、園田真理、谷本光隆、大井祐一、岩出珠幾、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	第36回	日本膵・胆管合流異常研究会	兵庫	平成25年9月14日

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
喉頭気管分離術後、創し開、気管食道吻合部縫合不全に対する治療戦略	小児外科	洲尾昌伍、横井暁子、中尾真、尾藤祐子、荒井洋志、岡本光正、馬場勝尚、田村亮、谷本光隆、園田真理、西島栄治				
先天性横膈膜ヘルニアにおいて手術時期の検討	小児外科	河原仁守、西島栄治、横井暁子、中尾真、尾藤祐子、荒井洋志、福澤宏明、大川祐一、園田真理、園田真理、西島栄治、洲尾昌伍、吉田拓哉	第 50 回	日本小児外科学会総会	東京	2013.5.30-6.1
脾胆管合流異常を伴う胆道閉鎖症の病理学的検討	小児外科	洲尾昌伍、横井暁子、中尾真、尾藤祐子、荒井洋志、福澤宏明、大川祐一、園田真理、谷本光隆、吉田拓哉、河原仁守、西島栄治、吉田敦子	第 50 回	日本小児外科学会総会	東京	2013.5.30-6.1
当院における先天性空腸閉鎖症の検討	小児外科	園田真理、河原仁守、吉田拓哉、洲尾昌伍、谷本光隆、大川祐一、福澤宏明、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井暁子、西島栄治	第 50 回	日本小児外科学会総会	東京	2013.5.30-6.1
当科で経験した1才以降に診断が確定したヒルシュスプルング病症例の検討	小児外科	中尾真、河原仁守、吉田拓哉、洲尾昌伍、谷本光隆、園田真理、大川祐一、福澤宏明、荒井洋志、尾藤祐子、横井暁子、西島栄治	第 50 回	日本小児外科学会総会	東京	2013.5.30-6.1
染色体異常と外科治療 当院における18トリソミー児への外科治療	小児外科	吉田拓哉、横井暁子、河原仁守、洲尾昌伍、谷本光隆、園田真理、大川祐一、福澤宏明、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、西島栄治	第 50 回	日本小児外科学会総会	東京	2013.5.30-6.1
小児外科における新たなエビデンス 当院における先天性気管狭窄症の非手術症例に関する検討	小児外科	谷本光隆、横井暁子、河原仁守、吉田拓哉、洲尾昌伍、園田真理、大川祐一、福澤宏明、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、西島栄治	第 50 回	日本小児外科学会総会	東京	2013.5.30-6.1
房室弁の形態異常を合併した心内膜床欠損症の外科治療	心臓血管外科	大嶋義博	第 43 回	日本心臓血管外科学会学術総会	東京	2013.2.27
MRSA 感染予防プロトコル導入による小児開心術周術期感染の結果	心臓血管外科	園尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、田中重紀子、野田怜	第 43 回	日本心臓血管外科学会学術総会	東京	2013.2.26
当院における Norwood 型手術大動脈弓再建の中期遠隔成績	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、園尾文子、松久弘典、田中重紀子、野田怜	第 43 回	日本心臓血管外科学会学術総会	東京	2013.2.25
小児ベースメーカー再手術症例の検討 - 心機能保持の観点から	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、園尾文子、長谷川智巳、田中重紀子、野田怜	第 43 回	日本心臓血管外科学会学術総会	東京	2013.2.26
TAPVC 成績向上に向けた取り組み - primary sutureless 法の適応拡大	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、園尾文子、長谷川智巳、田中重紀子、野田怜	第 43 回	日本心臓血管外科学会学術総会	東京	2013.2.27
Pulmonary Coarctation に対する治療成績	心臓血管外科	園尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、田中重紀子、野田怜	第 27 回	日本小児循環器学会近畿・中四国地方会	大阪	2013.3.3
Severe AS を伴った PA-IVS に対する段階的大動脈弁手術	心臓血管外科、循環器科	松久弘典、大嶋義博、園尾文子、長谷川智巳、田中重紀子、野田怜、亀井直哉、田中敏克、城戸佐知子	第 27 回	日本小児循環器学会近畿・中四国地方会	大阪	2013.3.3

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
Midterm outcomes of aortic arch reconstruction in Norwood operation	心臓血管外科	Tomomi Hasegawa, Yoshihiro Oshima, Ayako Maruo, Hironori Matsuhisa, Akiko Tanaka, Rei Noda	第 1 回	Joint Conference of Hanoi and Kobe Children's Hospital	神戸	2013.4.3
Midterm results of pulmonary artery reconstruction utilizing main pulmonary artery	心臓血管外科	Ayako Maruo, Yoshihiro Oshima, Tomomi Hasegawa, Hironori Matsuhisa, Akiko Tanaka, Rei Noda	第 21 回	Annual Meeting of the Asian Society for the Cardiovascular and Thoracic Surgery	神戸	2013.4.6
Efficacy of tranexamic acid on bloodless management of pediatric cardiac surgery	心臓血管外科	Tomomi Hasegawa, Yoshihiro Oshima, Ayako Maruo, Hironori Matsuhisa, Akiko Tanaka, Rei Noda	第 21 回	Annual Meeting of the Asian Society for the Cardiovascular and Thoracic Surgery	神戸	2013.4.6
Anterior Pulmonary Artery Translocation for Airway Obstruction or Pulmonary artery Compression within the Aortopulmonary Space	心臓血管外科	Hironori Matsuhisa, Yoshihiro Oshima, Ayako Maruo, Tomomi Hasegawa, Akiko Tanaka, Rei Noda	第 21 回	Annual Meeting of the Asian Society for the Cardiovascular and Thoracic Surgery	神戸	2013.4.6
高度の胎児水腫を呈し、出生後管理に難渋した多脾症候群の 1 例	心臓血管外科、 循環器科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、田中重紀子、野田伶、松島峻介、城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、富永健太、小川禎次、古賀千穂、亀井直哉、雪本千恵、三木康暢	第 22 回	小児循環器病カンファレンス	京都	2013.6.1
Ebstein 奇形に対する乳児期 Cone 手術の 1 例	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、田中重紀子、野田伶	第 55 回	神戸心臓外科研究会	神戸	2013.6.5
気管支軟化、右肺低形成合併例への胸骨正中切開左房アプローチ VSD 閉鎖と大動脈吊り上げ術の一例	心臓血管外科	田中重紀子、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、野田伶	第 62 回	兵庫県心臓外科懇談会	神戸	2013.6.7
単心室房室弁逆流に対する治療戦略と術式選択	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、田中重紀子、野田伶	第 56 回	関西胸部外科学会学会 集会	広島	2013.6.14
Ebstein 奇形に対する乳児期 Cone 手術の 1 例	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、田中重紀子、野田伶	第 56 回	関西胸部外科学会学会 集会	広島	2013.6.13
Aortic Root Translocation 法の 3 例	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、田中重紀子、野田伶、岩城隆馬、松島峻介	第 56 回	関西胸部外科学会学会 集会	広島	2013.6.13
気管支軟化、右肺低形成合併例への胸骨正中切開左房アプローチ VSD 閉鎖と大動脈吊り上げ術の一例	心臓血管外科	田中重紀子、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、野田伶	第 56 回	関西胸部外科学会学会 集会	広島	2013.6.13
先天性心疾患と先天性気管狭窄合併例に対し二期的手術を選択した 2 症例	心臓血管外科	野田伶、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、田中重紀子	第 56 回	関西胸部外科学会学会 集会	広島	2013.6.13
Down 症候群に対する Norwood 手術の 3 例	心臓血管外科	岩城隆馬、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、田中重紀子、野田伶	第 56 回	関西胸部外科学会学会 集会	広島	2013.6.13

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
当院の周術期感染撲滅への取り組み	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、田中重紀子、野田怜	第 65 回	近畿心臓外科研究会	大阪	2013.6.22
心内膜症欠損症	心臓血管外科	圓尾文子	第 59 回	医療相談会心臓部会	神戸	2013.7.7
小児における僧帽弁閉鎖不全症に対する弁形成術の長期成績	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、田中重紀子、野田怜	第 49 回	日本小児循環器学会学術集会	東京	2013.7.12
当院におけるフアロー四徴症根治手術の長期遠隔成績	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、田中重紀子、野田怜	第 49 回	日本小児循環器学会学術集会	東京	2013.7.13
心外膜電極による小児期ベースメーカ治療 - 左室ペーシングの有用性	心臓血管外科、循環器科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、田中重紀子、野田怜、城戸佐知子、田中敏克	第 49 回	日本小児循環器学会学術集会	東京	2013.7.13
RSウイルス感染後の人工心臓症例についての検討	心臓血管外科	田中重紀子、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、野田怜	第 49 回	日本小児循環器学会学術集会	東京	2013.7.11
当院における PA-IVS に対する Rastelli 型手術の遠隔成績 (シンポジウム)	心臓血管外科	野田怜、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、田中重紀子	第 49 回	日本小児循環器学会学術集会	東京	2013.7.11
8歳時に Rastelli 手術を行い、26年後に再右室流出路再建、大動脈弁形成を行った総動脈幹症の 1 例	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、田中重紀子、野田怜、松島峻介	第 36 回	神戸心臓血管カンファレンス	神戸	2013.7.24
僧帽弁低形成例に対する二心室修復の適応検討	心臓血管外科	松島 峻介、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、田中重紀子、野田怜	第 1 回	小児心臓手術検討会	神戸	2013.8.2
乳児特発性僧帽弁腱索断裂の 1 例	心臓血管外科、循環器科	野田怜、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、田中重紀子、松島峻介、佐藤有美、城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、富永健太、小川慎治、亀井直哉、古賀千穂、雪本千恵、三木康暢	第 260 回	日本小児科学会兵庫県地方会	姫路	2013.9.28
経右室アプローチによるフアロー四徴症根治手術の長期遠隔成績～手術時期の低年齢化における右室切開の影響の有無について～ (シンポジウム)	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、田中重紀子、野田怜、松島峻介	第 66 回	日本胸部外科学会学術集会	仙台	2013.10.18
Severe AS を伴った PA-IVS に対する段階的大動脈弁手術	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、田中重紀子、野田怜、松島峻介	第 66 回	日本胸部外科学会学術集会	仙台	2013.10.19
Norwood 手術に先行させた両側肺動脈絞扼術の功罪	心臓血管外科	田中重紀子、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、野田怜、松島峻介	第 66 回	日本胸部外科学会学術集会	仙台	2013.10.18
当院における大動脈弁形成術の成績	心臓血管外科	野田怜、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、田中重紀子、松島峻介	第 66 回	日本胸部外科学会学術集会	仙台	2013.10.18

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
大動脈弓離断症の生存率向上および大動脈弓再建部狭窄回避に向けた治療戦略	心臓血管外科	松島駿介、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、田中重紀子、野田怜	第 66 回	日本胸部外科学会学術集会	仙台	2013.10.18
左室・冠動脈瘻を有する HLHS に対する心拍動下 Norwood 型手術の一例	心臓血管外科	松島駿介、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、田中重紀子、野田怜	第 62 回	兵庫県心臓外科懇談会	神戸	2013.11.15
自己心膜による大動脈弁形成の一例	心臓血管外科	松島駿介、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、田中重紀子、野田怜	第 56 回	神戸心臓外科研究会	神戸	2013.11.27
脊髄膜瘤キャリアーオーバー — 小児専門施設の課題 —	脳神経外科	長嶋達也、河村淳史、山元一樹	第 41 回	日本小児神経外科学会	大阪	2013.6.8
再発上衣腫に対するサルベージ療法	脳神経外科	河村淳史、山本祐輔、長嶋達也、山元一樹	第 41 回	日本小児神経外科学会	大阪	2013.6.9
兵庫県立こども病院における髄芽腫治療の考察	脳神経外科	河村淳史、前山昌博、山元一樹、長嶋達也	第 12 回	小児脳腫瘍治療研究会	大阪	2013.6.29
脊髄膜瘤に伴う成人発症の難治性脊髄空洞症例	脳神経外科	長嶋達也	第 30 回	日本二分脊椎研究会	仙台	2013.7.6
急速に症状が進行し緊急で開頭腫瘍摘出術を要した類上皮腫の 1 例	脳神経外科	前山昌博、河村淳史、山元一樹、長嶋達也	第 43 回	兵庫県脳神経外科医懇話会	神戸	2013.7.27
小脳橋角部に発生した悪性胎児性腫瘍（症例報告 3 例）	脳神経外科	前山昌博、河村淳史、山元一樹、長嶋達也	第 66 回	日本脳神経外科学会近畿支部学術集会	大阪	2013.9.7
Malignant embryonal brain tumors occupying the cerebellopontine angle : report of three cases	脳神経外科	Masahiro Maeyama Atsufumi Kawamura Kazuki Yamamoto Tatsuya Nagashima	The 4th	MASSIN 国際シンポジウム	神戸	2013.9.5
中枢神経系感染症に対する外科的治療（教育講演）	脳神経外科	長嶋達也	第 18 回	日本神経感染症学会総会学術集会	宮崎	2013.10.11
小脳橋角部に発生した悪性胎児性腫瘍の 2 例	脳神経外科	前山昌博、河村淳史、山元一樹、長嶋達也	第 72 回	日本脳神経外科学会総会	横浜	2013.10.17
当施設における近年の髄芽腫治療と考察	脳神経外科	河村淳史、前山昌博、山元一樹、長嶋達也	第 72 回	日本脳神経外科学会総会	横浜	2013.10.17
てんかんで発症した小児頭蓋内病変例	脳神経外科	河村淳史、前山昌博、山元一樹、長嶋達也	第 2 回	兵庫県てんかん治療カンファレンス	神戸	2013.10.24
視床・脳幹部 Low-Grade Glioma の治療戦略 — 自験例 2 症例より —	脳神経外科	田中 潤、河村淳史、山元一樹、長嶋達也	平成 25 年 度	神戸大学医学部脳神経外科同門会学術講演会	神戸	2013.12.8

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
髄芽腫に対する治療と考察	脳神経外科	河村淳史、前山昌博、山元一樹、長嶋達也	第30回	日本脳腫瘍学会学術総会	宮崎	2013.12.08
小児脳腫瘍の治療について	脳神経外科	河村淳史、田中 潤、山元一樹、長嶋達也	第1回	KOBE Neuro-Oncology Seminar	神戸	2013.12.11
当院における腸骨海綿骨採取法	形成外科	谷口真貴 大山知樹 木矢孝一郎	第103回	関西形成外科学会学術集会	大阪	2013.3.9
片側唇裂手術におけるデザインと術後対称性について	形成外科	大山知樹 木矢孝一郎 谷口真貴	第56回	日本形成外科学会学術集会	東京	2013.4.3-5
片側唇裂初回手術後の患側上唇下垂について	形成外科	木矢孝一郎 大山知樹 谷口真貴	第31回	日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会	愛知	2013.10.24-25
埋没耳 各種手術術式の検討	形成外科	谷口真貴 大山知樹 木矢孝一郎	第104回	関西形成外科学会学術集会	大阪	2013.12.7
先天性内反足の初診時評価 -Dimeglio score と Pirani score の比較-	整形外科	衣笠真紀、薩摩真一、小林大介、蒲田悦子	第24回	日本小児整形外科学会	横浜	2013.11.08-9
先天性股関節脱臼に対する観血的整復術の長期成績	整形外科	衣笠真紀、薩摩真一、小林大介、蒲田悦子	第52回	日本小児股関節研究会	神戸	2013.06.28-29
先天性下腿偽関節症の1治療経験	整形外科	衣笠真紀、薩摩真一、小林大介、蒲田悦子	第52回	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2013.07.27
こどもの歩容異常・姿勢異常の診かたとその対応	整形外科	薩摩真一	第3回	神戸市西部 小児科 JOINT 会	神戸	2013.1.19
Windshield-wiper effect を起こした大腿骨頭すべり症の1例	整形外科	黒岩 祐、薩摩 真一、小林大介、衣笠真紀、飛梅 祥子	第51回	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2013.1.26
限局性强皮症による下肢変形短縮に対し創外固定器を用いて治療した1例	整形外科	飛梅祥子、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、黒岩 祐	第51回	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2013.1.26
Ponseti 法後の遺残変形と再発の危険因子	整形外科	薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、蒲田悦子	第38回	回日本足の外科学会	仙台	2013.10.31-11.1
Ponseti 法後の難治例に対する治療	整形外科	薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、蒲田悦子	第24回	回日本小児整形外科学会	横浜	2013.11.8-11.9
下腿延長術後の腓骨偽関節 - 足関節外反への影響は？ -	整形外科	小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、蒲田悦子	第24回	日本小児整形外科学会	横浜	2013.11.8-11.9

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
下腿延長術後の腓骨偽関節が足関節外反に及ぼす影響について	整形外科	小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、	第 26 回	日本創外固定、骨延長学会	長崎	2013. 3.29 - 30
乳幼児健診時における整形外科疾患の診かた	整形外科	薩摩真一		神戸市医師会 乳幼児健診研修会	神戸	2013.5.11
小児科外来で遭遇する整形外科疾患の診かた	整形外科	薩摩真一		加古川市小児科医会	加古川	2013.5.18
Ponseti 法による先天性内反足の治療成績と先天性垂直距骨の新しい治療法	整形外科	薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、黒岩 祐、飛梅祥子	第 86 回	日本整形外科学会	広島	2013.5.23-26
5 歳児に発症した大腿骨頭すべり症の 1 例	整形外科	飛梅祥子、小林大介、衣笠真紀、黒岩 祐、薩摩真一	第 52 回	日本小児股関節研究会	神戸	2013.6.28-29
高度遺残亜脱臼に対する Salter 骨盤骨切り術と関節内操作の長期治療成績	整形外科	小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、蒲田悦子	第 52 回	日本小児股関節研究会	神戸	2013.6.28-29
Prediction of the congruity between femoral head and acetabulum by arthrogram at infancy for DDH treated by conservative reduction	整形外科	Shinichi Satsuma, Daisuke Kobayashi, Maki kinugasa, Etsuko Kamata	第 9 回	Combined Congress of Spine and Pediatric Orthopaedic Sections, APOA	クチン、マレーシア	2013.8.29-31
生検後に著明な縮小を認めた動脈瘤様骨嚢腫の 1 例	整形外科	蒲田悦子、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀	第 52 回	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2013.7.27
屈折異常に起因する弱視の診断と治療	眼科	野村 耕治	第 19 回	やまぐち眼科フォーラム	山口	2013.1.12
兵庫県立こども病院における過去 20 年間の網膜芽細胞腫の治療成績	眼科	沖本聡志	第 36 回	日本手術学会総会	福岡	2013.1.25
教育セミナー 4 小児白内障と屈折異常：先天性白内障の視機能術後管理	眼科	野村耕治	第 36 回	日本手術学会総会	福岡	2013.1.25
小児における眼内レンズ挿入後の近視化	眼科	大西 健	第 36 回	日本手術学会総会	福岡	2013.1.27
遠視に起因する弱視の診断と治療	眼科	野村耕治	第 6 回	京都北部病診連携研究会	綾部	2013.2.23
小児眼科の pitfall	眼科	野村耕治	第 33 回	関西医科大学眼科学教室勉強会	枚方	2013.3.13
遠視に起因する弱視の治療ならびに眼位管理	眼科	野村耕治	第 24 回	徳島眼科医療フォーラム	兵庫	2013.3.17

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
みんなで守ろうこどもの眼	眼科	野村耕治	第 64 回	神戸市学校医研修会	神戸	2013.5.25
手術時期の異なる 2 例のメビウス症候群の経過	眼科	中野沙弥	第 69 回	日本弱視斜視学会総会	広島	2013.7.5
眼球摘出後に眼窩内での再発と中枢神経播種を呈した網膜芽細胞腫の一例	眼科	阪田敏奈	第 38 回	日本小児眼科学会総会	広島	2013.7.5
追加手術が必要となった乳児内斜視症例についての検討	眼科	金井友範	第 66 回	日本臨床眼科学会総会	横浜	2013.11.1
プリマリー・ケア・シリーズ (55) 乳幼児の診察 2) 外眼部、前眼部	眼科	野村耕治	第 59 回	日本臨床眼科学会総会 専門医制度講習会	横浜	2013.11.2
コンタクトレンズが有用な小児眼疾患	眼科	野村耕治	第 32 回	コンタクトレンズ技術 フォーラム	京都	2013.11.23
難聴児発見の現況	耳鼻咽喉科	阪本浩一	平成 24 年度	日耳鼻福祉医療乳幼児 担当者全国会議	東京	2013.1.27
最新の補聴器	耳鼻咽喉科	阪本浩一	平成 24 年度	補聴器相談医の更新講 習会	神戸	2012.1.31
喉頭アレルギーの診断と問題点：慢性咳嗽・咽喉頭異常感を訴えて耳鼻咽喉科外来を受診した症例についての検討	耳鼻咽喉科	阪本浩一、金城東和	第 25 回	日本喉頭科学会	横浜	2013.3.7-8
先天性無舌症児の一例	耳鼻咽喉科	大野呂知之、阪本浩一、大津雅秀	第 173 回	日本耳鼻咽喉科学会兵 庫県地方部会	姫路	2013.3.31
長期の聴力経過が観察可能であった Pendred 症候群の 3 例	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀、松永達雄	第 114 回	日本耳鼻咽喉科学会	札幌	2013.5.15-18
次世代シーケンサーを用いた難聴遺伝子解析と原因診断への活用	耳鼻咽喉科	松永達雄、渡部高久、南修司郎、守本倫子、 阪本浩一、杉内智子、小川 郁、加我君孝	第 114 回	日本耳鼻咽喉科学会	札幌	2013.5.15-18
CD23 遺伝子変異による遺伝性難聴の臨床像	耳鼻咽喉科	水足邦雄、仲野敦子、有本友季子、 増田佐和子、阪本浩一、守本倫子、瀧口哲也、 小河原昇、加我君孝、松永達雄	第 114 回	日本耳鼻咽喉科学会	札幌	2013.5.15-18
一側高度難聴として発見され健側聴力の変動を伴う低下を来した先天性サイトメガロウイルス感染症の 2 例	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第 8 回	日本小児耳鼻咽喉科学会	前橋	2013.6.20-21
同一の GJB2 遺伝子変異を有する同胞 (兄弟姉妹) の聴覚	耳鼻咽喉科	藤岡正人、守本倫子、阪本浩一、大津雅秀、 仲野敦子、有本友季子、増田佐和子、 杉内智子、益田 慎、加我君孝、松永達雄	第 8 回	日本小児耳鼻咽喉科学会	前橋	2013.6.20-21

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
前庭水管拡大症で認められたSLC26A 遺伝子変異と臨床的特徴	耳鼻咽喉科	松永達雄、加我君孝、仲野敦子、有本友季子、杉内智子、泰地秀信、守本倫子、阪本浩一、大津雅秀、増田佐和子、小河原昇	第 8 回	日本小児耳鼻咽喉科学会	前橋	2013.6.20-21
CHARGE 症候群の聴覚管理とその周辺	耳鼻咽喉科	阪本浩一	平成 25 年度	CHARGE の会総会	神戸	2013.7.27
喉頭アレルギーの臨床	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第 1 回	播磨耳鼻咽喉科アレルギー研究会	加古川	2013.8.29
小児睡眠時無呼吸症候群の治療前後における質問紙表 (OSA-18) の使用経験	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第 26 回	日本口腔咽喉頭科学会	名古屋	2013.9.12-13
パネルディスカッション：小児の言語聴覚障害への対応ー早期発見から療育へー言語発達障害	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第 58 回	日本音声言語医学会	高知	2013.10.17-18
1 歳以降に診断され補聴を必要とした難聴児に関する検討	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第 58 回	日本聴覚医学会	松本	2013.10.24-25
新生児スクリーニングで Pass と評価された GJB2 遺伝性難聴児 13 症例の検討	耳鼻咽喉科	南修司郎、松永達雄、仲野敦子、有本友季子、加我君孝、泰地秀信、守本倫子、坂田英明、安達のどか、浅沼 聡、増田佐和子、阪本浩一、加我君孝	第 58 回	日本聴覚医学会	松本	2013.10.24-25
耳鼻咽喉科疾患に伴う慢性咳嗽ー喉頭アレルギーー後鼻漏症候群を中心に	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第 15 回	日本咳嗽研究会	金沢	2013.10.26
小児心因性難聴の動向	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第 44 回	日本医師会全国学校保健・学校医大会	秋田	2013.11.7
兵庫県立こども病院における難聴遺伝子解析の現況	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第 175 回	日本耳鼻咽喉科学会兵庫県地方部会	西宮	2013.12.1
局所陰圧閉鎖療法を用いた深頸部膿瘍の一例	耳鼻咽喉科	梶本康幸、古閑紀雄、阪本浩一	第 175 回	日本耳鼻咽喉科学会兵庫県地方部会	西宮	2013.12.1
嚥下障害はどんな病気？ どうすればいい？	耳鼻咽喉科	阪本浩一	平成 25 年第 5 回	加古川市民健康フォーラム	加古川	2013.12.7
性分化疾患 (DSD) に対するアプローチ	泌尿器科	杉多良文	第 101 回	日本泌尿器科学会総会	札幌市	2013.4.26
総排泄腔外反女児症例に対する腔形成術	泌尿器科	久松英治	第 101 回	日本泌尿器科学会総会	札幌市	2013.4.26

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
有袋術を行った異所性尿管瘤の臨床的検討	泌尿器科	杉多良文	第101回	日本泌尿器科学会総会	札幌市	2013.4.28
尿管形成を施行した巨大尿管症例の検討	泌尿器科	中川賀清	第50回	日本小児外科学会学術集会	東京都	2013.5.30
総排泄腔外反女児症例に対する腔形成術	泌尿器科	久松英治	第50回	日本小児外科学会学術集会	東京都	2013.5.31
小児病院の現状と展望	泌尿器科	杉多良文	第22回	日本小児泌尿器科学会総会	東京都	2013.7.11
有袋術を行った異所性尿管瘤の臨床的検討	泌尿器科	杉多良文	第22回	日本小児泌尿器科学会総会	東京都	2013.7.11
尿管形成を施行した巨大尿管症例の検討	泌尿器科	中川賀清	第22回	日本小児泌尿器科学会総会	東京都	2013.7.11
膀胱外反・総排泄腔外反症 - 治療の現状および成年期の問題 -	泌尿器科	杉多良文	第22回	日本小児泌尿器科学会総会	東京都	2013.7.12
出生前診断された無症候性水腎症における術後腎機能の検討	泌尿器科	神野雅	第22回	日本小児泌尿器科学会総会	東京都	2013.7.12
総排泄腔外反女児症例に対する腔形成術	泌尿器科	久松英治	第22回	日本小児泌尿器科学会総会	東京都	2013.7.12
Reconstruction of Hypospadias with Free Prepuce Graft	泌尿器科	杉多良文	2013年度	Cross-strait Pediatric Urology Conference	台湾	2013.10.23
Recent Advances in Hypospadias	泌尿器科	杉多良文	第15回	Annual Congress of Asia-Pacific Association of Pediatric Urologists	台湾	2013.10.25
Management of Concealed penis	泌尿器科	杉多良文	第15回	Annual Congress of Asia-Pacific Association of Pediatric Urologists	台湾	2013.10.26
Free Skin Graft Urethroplasty	泌尿器科	杉多良文	第15回	Annual Congress of Asia-Pacific Association of Pediatric Urologists	台湾	2013.10.27
小児腎盂形成術 -理想の開放手術を求め続けて得たもの-	泌尿器科	杉多良文	第27回	日本泌尿器内視鏡学会総会	名古屋	2013.11.9
片側性唇顎口蓋裂児における矯正用β-Tiワイヤーを用いた術前顎矯正～顎裂幅の変化～	小児歯科	曾根由美子	第72回	日本矯正歯科学会大会	松本	2013.10.8～9

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児カフつきチューブのサイズの選択の検討 第二報	麻酔科	似内久美子、野村有紀、中川明美、高辻小枝子、香川哲郎	第60回	日本麻酔科学会	札幌市	2013.5.23
小児下腿骨延長術に対する術後持続坐骨神経ブロックの検討；フェンタニル持続静注と比較して	麻酔科	末田彩、鹿原史寿子、古賀聡人、菅原友道、香川哲郎	第60回	日本麻酔科学会	札幌市	2013.5.23
小児腕神経叢ブロックの局所麻酔薬濃度の違いによる鎮痛効果時間の比較	麻酔科	野々村智子、鈴木毅、山長修、香川哲郎	第60回	日本麻酔科学会	札幌市	2013.5.24
小児の腸胃採取部に対する術後鎮痛法の検討；局所麻酔薬持続投与法とフェンタニル持続静脈内投与法	麻酔科	塚口敦子、上北郁男、本田真子、池島典之、香川哲郎	第60回	日本麻酔科学会	札幌市	2013.5.23
小児の術後鎮痛	麻酔科	香川哲郎	第60回	日本麻酔科学会	札幌市	2013.5.25
小児の検査・処置に対する手術室外での鎮静および病棟での全身麻酔	麻酔科	鈴木毅	第19回	日本小児麻酔学会	神戸市	2013.9.28
兵庫県立こども病院における日帰り手術	麻酔科	土居ゆみ、香川哲郎	第19回	日本小児麻酔学会	神戸市	2013.9.28
二回目の手術の術前血液検査で凝固機能異常を認めvon Willebrand病が疑われた一例	麻酔科	山田祥子、高辻小枝子、鹿原史寿子、野々村智子、香川哲郎	第19回	日本小児麻酔学会	神戸市	2013.9.28
兵庫県立こども病院における危機的でない麻酔偶発症の自発的報告の集計	麻酔科	池島、小島、川瀬、山根、末田、香川	第19回	日本小児麻酔学会	神戸市	2013.9.29
自発呼吸消失後にマスク換気が不可能であったCrouzon症候群患児の一例	麻酔科	塚口敦子、土居ゆみ、高辻小枝子、香川哲郎	第19回	日本小児麻酔学会	神戸市	2013.9.29
Fontan術後患者の扁桃摘出術において抗凝固療法再開後出血をきたした2症例	麻酔科	久保田恵理、土居ゆみ、大西広泰、上北郁男、香川哲郎	第19回	日本小児麻酔学会	神戸市	2013.9.29
麻酔導入中に経口挿管が不可能と判断した無舌症患児の麻酔経験	麻酔科	上北郁男、鈴木毅、池島典之、川瀬大助、土居ゆみ、香川哲郎	第33回	日本臨床麻酔学会	金沢市	2013.11.3
巨大胎児頸部奇形腫に対してEXITを行った一症例	麻酔科	本田真子、大西広泰、菅原友道、古賀聡人、上北郁男、似内久美子、香川哲郎	第33回	日本臨床麻酔学会	金沢市	2013.11.3
Increased levels of interleukin-6 in tracheal aspirate fluid at birth reflect the presence of funisitis in ventilated very premature infants	新生児科	Sota Iwatani, Masami Mizobuchi, Satoshi Tanaka, Kazumichi Fujioaka, Keiko Wada, Hitomi Sakai, Seiji Yoshimoto, Hideto Nakao		2013 PAS meetings	Washington DC	2013.5.4-7
Early Phase Apparent Diffusion Coefficient Value Predicts Cerebral Palsy in Neonatal Hypoxic Ischemic Encephalopathy	新生児科	Satoshi Tanaka, Sota Iwatani, Kazumichi Fujioaka, Keiko Wada, Hitomi Sakai, Masami Mizobuchi, Seiji Yoshimoto, Hideto Nakao		2013 PAS meetings	Washington DC	2013.5.4-7

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
Increased Levels of Serum N-terminal Prohormone Brain Natriuretic Peptide (NT-proBNP) at Birth in Monochorionic Twins with Selective Intrauterine Growth Restriction (sIUGR)	新生児科	Kazumichi Fujioaka, Hitomi Sakai, Satoru Takafuji, Satoshi Tanaka, Sota Iwatani, Keiko Wada, Masami Mizobuchi, Seiji Yoshimoto, Hideto Nakao		The 9th Congress of Asian Society of Pediatric Research	Sarawak, Malaysia	2013.5.9
Intensive Management for Late Hypobilirubinemia Reduces Athetotic Cerebral Palsy in Preterm Infants	新生児科	Hitomi Sakai, Masami Mizobuchi, Kazumichi Fujioaka, Sota Iwatani, Keiko Wada, Seiji Yoshimoto, Hideto Nakao		2013 ESPR 54th annual meeting	Porto, Portugal	Oct10-14,2013
新生児慢性肺疾患 (CLD) に対する吸入ステロイド中止後にステロイド全身投与は増加するか	新生児科	三木康暢, 田中聡, 藤岡一路, 岩谷壮太, 坂井仁美, 和田佳子, 溝淵雅巳, 芳本誠司, 中尾秀人	第 258 回	日本小児科学会兵庫県地方会		2013.2.23
体内治療的帝王切開術 (Ex utero intrapartum treatment: EXIT) による気道確保を行った胎児頭部腫瘍の 1 例	新生児科	藤岡一路, 三木康暢, 田中聡, 岩谷壮太, 坂井仁美, 和田佳子, 溝淵雅巳, 芳本誠司, 中尾秀人	第 258 回	日本小児科学会兵庫県地方会		2013.2.23
Twin to Twin Transfusion Syndrome (TTTS) に対する Fetoscopic laser photocoagulation (FLP) 施行例の出生時 NT-pro BNP 値の検討	新生児科	藤岡一路, 高藤哲, 田中聡, 岩谷壮太, 和田佳子, 坂井仁美, 溝淵雅巳, 芳本誠司, 中尾秀人	第 26 回	近畿小児科学会		2013.3.24
出生時より著明な白血球増多を認めた先天性カンジダ感染症の一例	新生児科	岩谷壮太, 田中聡, 藤岡一路, 坂井仁美, 和田佳子, 溝淵雅巳, 芳本誠司, 中尾秀人	第 116 回	日本小児科学会	広島	2013.4.19-21
総合周産期センターに入院したダウン症候群の新生児搬送、母体搬送による臨床像の違い	新生児科	芳本誠司, 田中聡, 藤岡一路, 岩谷壮太, 坂井仁美, 和田佳子, 溝淵雅巳, 中尾秀人	第 116 回	日本小児科学会	広島	2013.4.19-21
完全大血管転位を合併した先天性風疹症候群 (congenital rubella syndrome: CRS) の一例	新生児科	上村和也, 藤岡一路, 石田悠介, 梶美美子, 岩谷壮太, 和田佳子, 坂井仁美, 溝淵雅巳, 芳本誠司, 中尾秀人	第 259 回	日本小児科学会兵庫県地方会	神戸	2013.5.21
2012 年度に当院で経験した先天性風疹症候群の 2 例	新生児科	藤岡一路, 田中聡, 岩谷壮太, 坂井仁美, 和田佳子, 溝淵雅巳, 芳本誠司, 中尾秀人	第 49 回	日本周産期新生児医学会	横浜	2012.7.14-16
一絨毛膜二羊膜双胎と二絨毛膜二羊膜双胎の一児発育不全 (selective IUGR) における出生時 NT-proBNP 値の比較	新生児科	藤岡一路, 田中聡, 岩谷壮太, 坂井仁美, 和田佳子, 溝淵雅巳, 芳本誠司, 中尾秀人	第 49 回	日本周産期新生児医学会	横浜	2012.7.14-16
慢性肺疾患進展期における気管内吸引液中タンパク濃度の経時的変化	新生児科	岩谷壮太, 田中聡, 藤岡一路, 坂井仁美, 和田佳子, 溝淵雅巳, 芳本誠司, 中尾秀人	第 49 回	日本周産期新生児医学会	横浜	2012.7.14-16
超早産児の CLD における胸部 CT 上の大嚢胞形成に関連する周産期因子の検討	新生児科	坂井仁美, 田中聡, 藤岡一路, 岩谷壮太, 和田佳子, 溝淵雅巳, 芳本誠司, 中尾秀人	第 49 回	日本周産期新生児医学会	横浜	2012.7.14-16
超早産児に対する出生後ステロイド投与 ステロイド吸入療法中止後の変化	新生児科	溝淵雅巳, 田中聡, 藤岡一路, 岩谷壮太, 坂井仁美, 芳本誠司, 中尾秀人	第 49 回	日本周産期新生児医学会	横浜	2012.7.14-16
長期 NO 吸入療法により人工呼吸器離脱可能となった重症 Wilson-Mikity 症候群の超早産児例	新生児科	芳本誠司, 田中聡, 藤岡一路, 岩谷壮太, 坂井仁美, 溝淵雅巳, 中尾秀人	第 49 回	日本周産期新生児医学会	横浜	2012.7.14-16

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
第三次周産期医療センターにおける気管切開症例の検討	新生児科	上村和也、藤岡一路、梶笑美子、岩谷壮太、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、中尾秀人	第 260 回	日本小児科学会兵庫県地方会	姫路	2013.9.28
墜落分娩で出生し、Edwardsiella tarda を起因菌とする敗血症を呈した超早産・超低出生体重児の一例	新生児科	梶笑美子、坂井仁美、岩谷壮太、藤岡一路、和田佳子、芳本誠司、溝淵雅巳、中尾秀人	第 58 回	日本未熟児新生児学会	金沢	2013.11.25-27
超早産児における生直後の酸素使用状況・過剰な酸素投与を行っていないか？	新生児科	岩谷壮太、藤岡一路、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 58 回	日本未熟児新生児学会	金沢	2013.11.25-27
当院におけるアテトーゼ型脳性麻痺を呈した早産児の黄疸管理についての検討	新生児科	坂井仁美、梶笑美子、藤岡一路、岩谷壮太、和田佳子、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 58 回	日本未熟児新生児学会	金沢	2013.11.25-27
生後 1 週以後の未熟児動脈管開存の有無による短期予後の違い	新生児科	芳本誠司、梶笑美子、和田佳子、岩谷壮太、藤岡一路、坂井仁美、溝淵雅巳、中尾秀人	第 58 回	日本未熟児新生児学会	金沢	2013.11.25-27
周産期センターにおける先天性副甲状腺機能低下症の臨床像	新生児科	和田佳子、梶笑美子、岩谷壮太、坂井仁美、溝淵雅巳、中尾秀人	第 58 回	日本未熟児新生児学会	金沢	2013.11.25-27
全く予期されなかった先天性風疹症候群 (congenital rubella syndrome: CRS) の一例	新生児科	藤岡一路		周産期新生児感染症研究会		2013.3.30
人工呼吸管理を要する超早産児における気管内吸引液分析の有用性	新生児科	溝淵雅巳	第 22 回	近畿新生児研究会		
Surfactant lavage therapy for respiratory deterioration in extremely premature infants with developing bronchopulmonary dysplasia	新生児科	Sota Iwatani, Masami Mizobuchi, Sayaka Kawai, Satoshi Tanaka, Kei Inomata, Hitomi Sakai, Seiji Yoshimoto, Hideto Nakao		FAOPS & PSANZ	Sydney	2012.03
Increased levels of interleukin-6 in tracheal aspirate fluid at birth reflect the presence of severe histologic chorioamnionitis	新生児科	Sota Iwatani, Masami Mizobuchi, Sayaka Kawai, Satoshi Tanaka, Kei Inomata, Hitomi Sakai, Seiji Yoshimoto, Hideto Nakao		The 8th Congress of Asian Society of Pediatric Research	Seoul	2012.05
Early Detection of VAP with IL-6 in Tracheal Aspirate Fluid in Preterm Infants	新生児科	Masami Mizobuchi, Sota Iwatani, Satoshi Tanaka, Kei Inomata, Hitomi Sakai, Seiji Yoshimoto, Hideto Nakao		The 8th Congress of Asian Society of Pediatric Research	Seoul	2012.05
Perinatal factors associated with multiple large cysts on chest computed tomography in extremely premature infants with chronic lung disease	新生児科	Hitomi Sakai, Masami Mizobuchi, Satoshi Tanaka, Kazumichi Fujioka, Sota Iwatani, Keiko Wada, Seiji Yoshimoto, Hideto Nakao		The 4th Congress of the European Academy of Paediatric Societies	Istanbul	Oct5-9,2012
支持療法にて体重増加を図り、手術的介入が可能となった、左心低形成症候群の極低出生体重児の一例	新生児科	宮田憲二、河合清日、田中聡、猪俣慶、岩谷壮太、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 255 回	日本小児科学会兵庫県地方会	塚口	2012.2.4
NO 吸入療法の新たな展開～早産児への早期予防投与～	新生児科	岩谷壮太、宮田憲二、河合清日、田中聡、猪俣慶、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 21 回	近畿新生児学会	大阪	2012.3.10

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
広範囲型 Hirschsprung 病と前頭部白毛症を合併した 1 例	新生児科	祖父江俊樹、河合清日、田中聡、猪俣慶、岩谷壮太、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾 秀人	第 25 回	近畿小児科学会		・ 2012.3.11
Kasabach-Merritt 症候群を合併した新生児肝血管腫にピンクリクスチンが奏効した一例	新生児科	田中聡、祖父江俊樹、河合清日、宮田憲二、猪俣慶、岩谷壮太、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾 秀人	第 25 回	近畿小児科学会		・ 2012.3.11
新生児巨大肝血管腫の治療選択 過去 4 例の検討	新生児科	田中聡、猪俣慶、岩谷壮太、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 115 回	日本小児科学会	福岡	2012.4.20-22
総合産産期母子医療センターにおける食道閉鎖症の合併疾患、病型による初期管理の違い	新生児科	芳本誠司、田中聡、猪俣慶、岩谷壮太、坂井仁美、溝淵雅巳、中尾秀人	第 115 回	日本小児科学会	福岡	2012.4.20-22
当院における臍帯ヘルニアの背景および予後規定因子の検討	新生児科	宇仁田亮、白鳥孝俊、村上優子、田中聡、藤岡一路、岩谷壮太、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 256 回	日本小児科学会兵庫県 地方会	神戸	2012.5.26
前前破水における児の娩出時期の検討 嚢胞性脳室周囲白質軟化症は防げるか	新生児科	河合清日、猪俣慶、田中聡、岩谷壮太、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 48 回	日本周産期新生児医学会	埼玉	2012.7.8-10
新生児低酸素性虚血性脳症の急性期 MRI と生後 18 ヶ月における神経学的予後の関連性	新生児科	田中聡、河合清日、猪俣慶、岩谷壮太、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 48 回	日本周産期新生児医学会	埼玉	2012.7.8-10
切迫早産管理における母体硫酸マグネシウム投与により新生児蘇生の必要性は上昇しているか？	新生児科	岩谷壮太、河合清日、田中聡、猪俣慶、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 48 回	日本周産期新生児医学会	埼玉	2012.7.8-10
在胎 26 週未満の CLD に対するハイドロコロチゾン投与は CLD の重症化を抑制するか？	新生児科	坂井仁美、河合清日、猪俣慶、田中聡、岩谷壮太、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 48 回	日本周産期新生児医学会	埼玉	2012.7.8-10
Small-for-dates 児における腸管機能障害と血液学的異常の関連性	新生児科	溝淵雅巳、河合清日、猪俣慶、田中聡、岩谷壮太、坂井仁美、芳本誠司、中尾秀人	第 48 回	日本周産期新生児医学会	埼玉	2012.7.8-10
34 週時心電図所見の慢性肺疾患の重症度による違い	新生児科	芳本誠司、河合清日、猪俣慶、田中聡、岩谷壮太、坂井仁美、溝淵雅巳、中尾秀人	第 48 回	日本周産期新生児医学会	埼玉	2012.7.8-10
胎内診断された巨大頭蓋内奇形腫の 5 例	新生児科	谷口紫野、田中聡、村上優子、岩谷壮太、藤岡一路、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 257 回	日本小児科学会兵庫県 地方会	姫路	2012.9.29
母体硫酸マグネシウムの総投与量は新生児予後に影響するか？	新生児科	村上優子、藤岡一路、岩谷壮太、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 57 回	日本未熟児新生児学会	熊本	2012.11.25-27
新生児脳障害における拡散テンソル画像と tractography	新生児科	田中聡、村上優子、藤岡一路、岩谷壮太、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 57 回	日本未熟児新生児学会	熊本	2012.11.25-27

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
一絨毛膜二羊膜双胎の selective IUGR における出生時 NT-proBNP 値の検討	新生児科	藤岡一路、坂井仁美、溝淵雅巳、村上優子、田中聡、岩谷壮太、和田佳子、芳本誠司、中尾秀人	第 57 回	日本未熟児新生児学会	熊本	2012.11.25-27
平成 23 年兵庫県周産期医療システム母体紹介・搬送情報提供書集計結果について	産科	船越 徹	平成 24 年度	家族計画・母体保護法指導者講習会に伴う伝達講習会	神戸市	2013.2.24
平成 23 年兵庫県周産期医療システム母体紹介・搬送情報提供書集計結果について	産科	船越 徹	平成 24 年度	家族計画・母体保護法指導者講習会に伴う伝達講習会	尼崎市	2013.3.7
分娩前の CTG 異常への対応と新生児蘇生について	産科	船越 徹		神戸市立医療センター西市民病院周産期オーブンカンファレンス	神戸市	2013.3.28
妊娠中風疹抗体価高値 (HI 256 倍) で異なる経過を呈した 2 症例	産科	葉 直慧、佐本 崇、志水香保里、上田智弘、角 健司、牧志 綾、高松祐幸、喜吉賢二、船越 徹	第 8 回	周産期新生児感染症研究会	神戸	2013.6.9
当院における羊水過多症例の妊娠経過と転機に関する検討	産科	牧志 綾、久保田陽子、葉 直慧、志水香保里、上田智弘、角 健司、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹	第 65 回	日本産科婦人科学学会術講演会	札幌	2013.5.10-12
当院で管理した一絨毛一羊膜性双胎 6 例の検討	産科	葉 直慧、久保田陽子、志水香保里、上田智弘、角 健司、牧志 綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹	第 65 回	日本産科婦人科学学会術講演会	札幌	2013.5.10-12
経母体薬物治療にて胎児頻脈は改善したが救命でできなかった症例～胎児頻脈性不整脈治療の紹介～	産科	喜吉賢二、上田 萩子、牧志 綾、高松祐幸、佐本 崇、船越 徹	第 87 回	兵庫県産科婦人科学学会	神戸	2013.6.9
胎児シャントを用いた胎児胸水治療	産科	喜吉賢二、上田 萩子、牧志 綾、高松祐幸、佐本 崇、船越 徹	第 87 回	兵庫県産科婦人科学学会	神戸	2013.6.9
妊娠中風疹抗体価高値 (HI 256 倍) で異なる経過を呈した 2 例	産科	上田 萩子、佐本 崇、牧志 綾、高松祐幸、喜吉賢二、船越 徹	第 87 回	兵庫県産科婦人科学学会	神戸	2013.6.9
胎動回数減少を主訴とした 6 症例の検討	産科	明石医療センター 1) 神戸アドベントゥスト病院 2) 済生会兵庫県病院 3) 兵庫県立淡路病院 4) 上田智弘 1)、佐本 崇、久保田陽子 2)、葉 直慧 3)、志水香保里、角 健司 4)、牧志 綾、喜吉賢二、高松祐幸、船越 徹	第 128 回	近畿産科婦人科学学会	大津市	2013.6.15-16
当院における臍帯付着部異常例に関する検討	産科	牧志 綾、志水香保里、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹	第 49 回	周産期新生児医学会	横浜	2013.7.14-16

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
妊娠 22 ～ 26 週に分娩となった 207 妊娠の分析	産科	船越徹、上田萩子、中澤浩志、南谷智之、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇	平成 25 年	位育会臨床セミナー	神戸	2013.8.24
一絨毛膜二羊膜性双胎に合併した胎便性腹膜炎の一例	産科	南谷智之、喜吉賢二、上田萩子、中澤浩志、牧志綾、高松祐幸、佐本崇、船越徹	第 36 回	母体胎児医学会	宮崎	2013.8.24-25
CTG 判読の実際	産科	船越 徹		院内助産所助産師外来開設のための助産師等研修事業	神戸	2013.9.25
生殖補助医療 (assisted reproductive technology: ART) と周産期医療	産科	船越 徹	第 1 回	兵庫県生殖周産期医療協議会	神戸	2013.11.9
新生児外科手術に向けての臍帯血自己血貯血の試み	産科	喜吉賢二、南谷智之、中澤浩志、上田萩子、牧志綾、高松祐幸、佐本崇、船越 徹	第 129 回	近畿産科婦人科学会	大阪	2013.11.10
新生児外科手術に向けての臍帯血自己血貯血の試み	産科	喜吉賢二、南谷智之、中澤浩志、上田萩子、牧志綾、高松祐幸、佐本崇、船越 徹	第 11 回	胎児治療学会	東京	2013.11.16-17
胎便性腹膜炎における胎児腹水中の大網所見の検討	産科	南谷智之、喜吉賢二、中澤浩志、上田萩子、牧志綾、高松祐幸、佐本崇、船越 徹	第 11 回	胎児治療学会	東京	2013.11.16-17
救急や外来で遭遇する腹部疾患	放射線科	赤坂好宣	10	日本小児放射線学会教育セミナー	東京	2013.1.26
イメージングインターベンションセッション (嚢胞性線維症)	放射線科	赤坂好宣	49	日本小児放射線学会	下関	2013.6.21
イメージングインターベンションセッション (進行性骨化性線維異形成症)	放射線科	赤坂好宣	49	日本小児放射線学会	下関	2013.6.21
画像を通した小児診療の勧め	放射線科	赤坂好宣	10	尾道・三原小児疾患研究会	三原	2013.7.11
呼吸障害で発症した Langerhans 細胞組織球症の新生児例	放射線科	杉岡勇典、赤坂好宣、西山章次	303	日本医学放射線学会関西地方会	大阪	2013.2.2
腹膜播種を伴った小児卵巣未熟奇形腫の 1 例	放射線科	杉岡勇典、赤坂好宣、西山章次	46	兵庫県磁気共鳴医学研究会	神戸	2013.6.3
急速に呼吸不全に陥った Langerhans 細胞組織球症の新生児の 1 例	放射線科	杉岡勇典、山口善道、赤坂好宣、西山章次	49	日本小児放射線学会	下関	2013.6.21

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児胆嚢ポリープの2例	病理診断科1)、 小児外科2)、腎 臓内科3)、脳神 経内科4)	吉田牧子 <sup>1)</sup> 、横井暁子 <sup>2)</sup> 、中尾真 <sup>2)</sup> 、 尾藤祐子 <sup>2)</sup> 、荒井洋志 <sup>2)</sup> 、園田真理 <sup>2)</sup> 、 西島栄治 <sup>2)</sup> 、田中亮二郎 <sup>3)</sup> 、 丸山あずさ <sup>4)</sup> 、永瀬裕朗 <sup>4)</sup>	第68回	関西小児病理研究会	大阪市	2013.1.19
第3脳室内腫瘍の1例	病理診断科1)、 脳神経外科2)、 放射線科3)、血 液腫瘍科4)	吉田牧子 <sup>1)</sup> 、河村淳史 <sup>2)</sup> 、山元一樹 <sup>2)</sup> 、 前山昌博 <sup>2)</sup> 、長嶋達也 <sup>2)</sup> 、赤坂好宣 <sup>3)</sup> 、 杉岡勇典 <sup>3)</sup> 、斎藤敦郎 <sup>4)</sup> 、小阪嘉之 <sup>4)</sup>	第69回	関西小児病理研究会	大阪市	2013.6.22
腹腔内腫瘍の1例	病理診断科1)、 小児外科2)、血 液腫瘍科3)、新 生児科4)、産科 5)、放射線科6)	吉田牧子 <sup>1)</sup> 、谷本光隆 <sup>2)</sup> 、福澤宏明 <sup>2)</sup> 、 横井暁子 <sup>2)</sup> 、西島栄治 <sup>2)</sup> 、小阪嘉之 <sup>3)</sup> 、 和田佳子 <sup>4)</sup> 、牧志 綾 <sup>5)</sup> 、赤坂好宣 <sup>6)</sup> 、 杉岡勇典 <sup>6)</sup>	2013年	小児腫瘍症例検討会	東京都	2013.8.30
当院における移植関連微小血管障害に関する検討； intestinal TAMとcolonic castを中心として	1 病理診断科、2 血液腫瘍科	吉田牧子 <sup>1)</sup> 、長谷川大一郎 <sup>2)</sup> 、川崎圭一郎 <sup>2)</sup> 、 矢内友子 <sup>2)</sup> 、石田敏章 <sup>2)</sup> 、神前愛子 <sup>2)</sup> 、斎藤敦 郎 <sup>2)</sup> 、越智聡史 <sup>2)</sup> 、宮田憲二 <sup>2)</sup> 、小阪嘉之 <sup>2)</sup>	第33回	日本小児病理研究会 術集会	東京都	2013.8.31
Hirschsprung病及び類縁疾患におけるcalretinin免疫 染色の検討	1 病理診断科、2 小児外科	吉田牧子 <sup>1)</sup> 、福澤 宏明 <sup>2)</sup> 、中尾 真 <sup>2)</sup> 、横 井 暁子 <sup>2)</sup> 、岩城 隆馬 <sup>2)</sup> 、岩出 珠幾 <sup>2)</sup> 、吉 田 拓哉 <sup>2)</sup> 、谷本 光隆 <sup>2)</sup> 、園田 真理 <sup>2)</sup> 、大 片 祐一 <sup>2)</sup> 、尾藤 祐子 <sup>2)</sup> 、西島 栄治 <sup>2)</sup>	第33回	日本小児病理研究会 術集会	東京都	2013.8.31
当院における小児囊胞性肺疾患の病理組織学的検討； 気管支閉鎖症の組織診断基準を用いて	病理診断科1)、 小児外科2)、 放射線科3)	吉田 牧子 <sup>1)</sup> 、岩城 隆馬 <sup>2)</sup> 、岩出 珠幾 <sup>2)</sup> 、 吉田 拓哉 <sup>2)</sup> 、谷本 光隆 <sup>2)</sup> 、園田 真理 <sup>2)</sup> 、 大片 祐一 <sup>2)</sup> 、福澤 宏明 <sup>2)</sup> 、尾藤 祐子 <sup>2)</sup> 、 中尾 真 <sup>2)</sup> 、横井 暁子 <sup>2)</sup> 、西島 栄治 <sup>2)</sup> 、 杉岡 勇典 <sup>3)</sup> 、赤坂 好宣 <sup>3)</sup>	第24回	日本小児呼吸器外科研 究会	東京都	2013.10.26
当院における小児囊胞性肺疾患の病理組織学的検討； 気管支閉鎖症の組織診断基準を用いて	1 病理診断科、2 小児外科、3 放射 線科、4 高槻病院 小児外科	吉田牧子 <sup>1)</sup> 、西島 栄治 <sup>2)</sup> 、岩城 隆馬 <sup>2)</sup> 、岩 出 珠幾 <sup>2)</sup> 、吉田 拓哉 <sup>2)</sup> 、谷本 光隆 <sup>2)</sup> 、園 田 真理 <sup>2)</sup> 、大片 祐一 <sup>2)</sup> 、福澤 宏明 <sup>2)</sup> 、尾 藤 祐子 <sup>2)</sup> 、中尾 真 <sup>2)</sup> 、横井 暁子 <sup>2)</sup> 、杉岡 勇典 <sup>3)</sup> 、赤坂 好宣 <sup>3)</sup>	第70回	関西小児病理研究会	大阪市	2013.12.21
脳腫瘍ターミナル期の患児とその家族の思いに寄り 添う看護	看護部	姑山 千恵	平成25年度	西部支部看護実践報告会	神戸市	2013.1.25
家族エンパワーメントモデルのアセスメントシート 導入の効果 ～看護師の実践面での自己評価の変化～	看護部	中村亮子	平成25年度	西部支部看護実践報告会	神戸市	2013.1.25
小児WOCケアのひろがり 小児看護CNSの立場か ら	看護部	濱田米紀	第27回	日本小児ストーム・排 泄管理研究会	神戸市	2013.5.18
潮水による心配停止蘇生後に発症した重症ARDSの 一例 一経過の特徴と看護アセスメントの視点から	看護部	大田利哉	第27回	日本小児救急医学会 学術集会	沖縄県 那覇市	2013.6.14

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
患者教室における移行期支援に向けた効果的なアプローチの方法の検討	看護部	渡辺旭代	第49回	日本小児循環器学会総会・学術集会	東京都	2013.7.11
先天性心疾患患者への継続看護を目指した病棟-外来連携の課題	看護部	中野幸子	第49回	日本小児循環器学会総会・学術集会	東京都	2013.7.12
小児専門病院における退院支援の現状と課題	看護部	文字智子	第23回	日本小児看護学会学術集会	高知市	2013.7.14
骨軟骨異形成症のある子どもへのセルフケア支援 一外科的治療期以降の生活に注目して	看護部	清水克美	第23回	日本小児看護学会	高知市	2013.7.13
小児糖尿病看護相談外来の開設と効果	看護部	中谷扶美	第23回	日本小児看護学会学術集会	高知市	2013.7.13
入院している小児の転倒・転落防止対策における家族自己チェックの実施状況	看護部	藤田優一、湯浅真裕美、二星淳吾、藤原千恵子	第23回	日本小児看護学会第23回学術集会	高知市	2013.7.13
サークルベッド用転倒・転落リスクアセスメントツール：C-FRAT1 第2版の危険因子と転倒・転落発生との関連	看護部	二星淳吾、藤田優一、湯浅真裕美、藤原千恵子	第23回	日本小児看護学会第23回学術集会	高知市	2013.7.13
成人ベッド・学童ベッド用転倒リスクアセスメントツール：C-FRAT2 第2版の危険因子と転倒発生との関連	看護部	湯浅真裕美、藤田優一、二星淳吾、藤原千恵子	第23回	日本小児看護学会第23回学術集会	高知市	2013.7.13
小児糖尿病看護相談外来の開設・運営における小児看護専門看護師の活動の明確化	看護部	濱田米紀、中谷扶美	第23回	日本小児看護学会	高知市	2013.7.14
グリニカルパス改善の見える化と職員の参加意識の育成の活動評価	看護部	二星淳吾、大西美樹、木村弘子	第9回	兵庫県立病院学会	神戸市	2013.8.31
周産期センター乳房外来での看護支援	看護部	杉友ユリ	第11回	兵庫県立病院学会	神戸市	2013.8.31
勇気のビーズプログラムを導入して	看護部	碓定 永里雅	第11回	県立病院学会	神戸市	2013.8.31
小児用転倒・転落防止プログラム第2版に対する看護師の意見-小児用転倒・転落リスクアセスメントツールC-FRATについて-	看護部	藤田優一、二星淳吾、湯浅真裕美、藤原千恵子	第44回	日本看護学会：小児看護	栃木	2013.9.13
小児用転倒・転落防止プログラム第2版に対する看護師の意見-小児と家族用の転倒・転落防止DVDとパンフレットについて-	看護部	藤田優一、二星淳吾、湯浅真裕美、藤原千恵子	第44回	日本看護学会：看護管理	大阪	2013.9.19
小児の特殊体位への取り組み ～体位確保の趣意 チームで防ぐ合併症～	看護部	高橋紫	第19回	日本小児麻酔学会	神戸市	2013.9.29

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
データベースによるバリアンスデータ収集方法の実際	看護部	二星淳吾、大西美樹、清水克美、鎌田直美、前原由紀	第14回	日本クリニカルパス学会学術集会	岩手	2013.11.1
定期補充療法の継続が低下した青年期血友病患者への関わり	看護部	小澤一美	第10回	血友病看護フォーラム	福岡	2013.12.1
グリーンケア啓蒙活動による看取りの経験のないスタッフの意識の変化 ～グリーンケア教育について考える～	看護部	熊谷千穂、松田ルミ、石井亜季、伊達尚美、竹井朋子	第23回	日本新生児看護学会学術集会	金沢市	2013.12.2
早産児の臍ヘルニアに対する綿球および創傷被覆剤を用いた圧迫療法	看護部	要登志美、竹田明子、森脇愛、杉森恵美、内海祐子	第23回	日本新生児看護学会学術集会	金沢市	2013.12.2
子どもの地域での療養生活を見越した支援 ～子ども病院における小児看護専門看護師の取り組み～	看護部	文字智子	第1回	兵庫県立専門看護師認定看護師企画看護フォーラム	神戸市	2013.12.14
医療者がかかかえるジレンマを乗り越えるための取り組み ～双胎の中期中絶をした母親への関わりをとおして～	看護部	原田加奈子・杉友ユリ	平成25年度	周産期事例検討会	神戸市	2014.3.22
小児ネフローゼ症候群患者に対する薬剤管理指導と適正な薬剤使用に向けての取り組み	薬剤部	池田絵里佳	第34回	日本病院薬剤師会近畿学術大会	滋賀	2013.1.26～27
兵庫県立こども病院におけるバンコマイシンの使用状況調査～抗菌薬TDMガイドラインとの比較～	薬剤部	森田紗代	第34回	日本病院薬剤師会近畿学術大会	滋賀	2013.1.26～27
腎不全患者の栄養障害：Protein Energy Wastingへの対応を考える～透析患者の輸液療法における薬剤師の役割～	薬剤部	辻本勉	第28回	日本静脈経腸栄養学会	金沢	2013.2.21～22
散薬錠口抗がん剤調剤過程における汚染防止対策の検討（第一報）	薬剤部	永井浩章	第11回	兵庫県立病院学会	神戸	2013.8.31
こども病院における病理検査システムの導入について	検査・放射線部	川畑順子、入野博文、近平佳美、吉田牧子	第11回	県立病院学会	神戸市	2013.8.31
看護に活かす栄養管理の基礎と実践	栄養指導課	鳥井隆志		兵庫県看護協会	神戸市	2013.1.22～23
食物アレルギー講習会	栄養指導課	鳥井隆志		明石健康福祉事務所	明石市	2013.8.29
平成25年度母子保健事業スキュアアップ研修会 「小児（未熟児含む）の栄養評価について」	栄養指導課	鳥井隆志		奈良県栄養士会 奈良県葛城保健所	橿原市	2013.10.28

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
経腸栄養の基礎	栄養指導課	鳥井隆志		尼崎病院給食研究会	尼崎市	2013.11.28
小児体外循環を考察する～新生児を中心として～	診療器材管理室	横山真司	第39回	日本体外循環技術医学会	熊本市	2013.11.2.3
創傷管理の実際(治療過程・ドレッシング材)	看護部	鎌田直子	第18回	日本小児ストーマ・排泄管理セミナー	神戸市	2013. 5.17
コンセンサスシナポジウム5 Medical Device Related Pressure Ulcer 小児施設アンケート結果	看護部	鎌田直子	第15回	日本褥瘡学会	神戸市	2013.7. 21
小児の失禁ケア	看護部	鎌田直子	平成25年度	山陽学園皮膚・排泄ケア認定看護師研修	岡山県	2013. 10.9
小児ストーマケア	看護部	鎌田直子	平成25年度	関西ストーマケア講習会	兵庫県	2013.10. 20
医療関連機器圧迫創傷のケア	看護部	鎌田直子	第4回	近畿小児WOCケア勉強会	兵庫県	2013. 12. 7
A小児専門病院NICUにおけるストーマケア～ストーマ器具の選択とケア	看護部	鎌田直子	第24回	近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会	兵庫県	2013. 12. 7
汎用X線透視診断装置における透視条件の入射皮膚線量率把握と低減の検討	検査・放射線部 放射線科	射場智美	平成25年度	兵庫県立病院放射線技師研修会	神戸市	2013.7.20
X線TV装置における透視時の被ばく線量低減の検討	検査・放射線部 放射線科	射場智美	第11回	県立病院学会	神戸市	2013.8.31

## 4) 報道

テーマ	所属科	発表者名	報道媒体	報道年月日
兵庫の医療 歯、口の病気④小児歯科	小児歯科	曾根由美子	神戸新聞 第41370号	2013.3.23
人工肛門と生きる	看護部	鎌田直子	朝日新聞	2013・6・15

5) 実習生・研修生受け入れ状況 (2013年)

①実習生

診療部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸大学医学部	6年次学外実習	2	7.1~12.8.17~28	小児救急医療センター
兵庫県立塚口病院	初期研修医	1	6.1~8.31	小児救急医療センター
神戸大学医学部医学科・保健学科 神戸薬科大学薬学部	1年次学生合同初期体験実習	7	9.11	小児救急医療センター・指導相談地域連携部・薬剤部・検査部・看護部
神戸総合医療専門学校	言語聴覚士学生実習	1	2.14~2.19	耳鼻咽喉科外来、手術室、6A病棟
神戸総合医療専門学校	言語聴覚士学生実習	1	8.26~9.27	耳鼻咽喉科および形成外科外来、手術室、6A病棟
兵庫県立総合衛生学院 歯科衛生学科		2	1.18~2.13	歯科外来・他
神戸常盤大学短期大学部 口腔保健学科		1	4.16~5.10	歯科外来・他
神戸常盤大学短期大学部 口腔保健学科		2	6.5~6.28	歯科外来・他
兵庫歯科学院専門学校 歯科衛生学科		2	7.1~7.30	歯科外来・他
兵庫歯科学院専門学校 歯科衛生学科		2	10.1~10.30	歯科外来・他
兵庫歯科学院専門学校 歯科衛生学科		2	11.29~12.25	歯科外来・他

看護部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立大学大学院 看護学研究科博士前期課程	母性高度実践看護実習Ⅱ 母性治療看護実習Ⅱ	2沼田 富久美	4.8~8.31	産科病棟
	母性高度実践看護実習Ⅲ	2沼田 富久美	10.1~12.31	産科病棟
	母性高度実践看護実習Ⅰ 母性治療看護実習Ⅰ	1高田 鼓	10.4~1.24	産科病棟
	小児治療看護実習	4	1122~	
	小児高度実践看護研究	2佐々木 藍子	9.17~1.31	病棟 (7F/HCU/5A)

学 校 名	実 習 名	実 習 生 数	実 習 期 間	実 習 場 所
神戸市看護大学大学院 看護学研究科博士前期課程	小児看護学特講演習	1土器 和幸	6.17～7.3	GCU
	小児看護学研究	2荒井 三奈	10.7～3.28	病棟 (7F)
	家族看護学実践実習	2浅井 桃子	7.2～20	病棟 (救急・4B・5B)
	統合看護・総合実習 (小児b)	5	6.17～7.12	病棟 (救急・4B・6A・6B)
	統合看護・総合実習 (基礎C)	6	5/27～6/20	病棟 (7F、5A、5B、4B)
	統合看護・総合実習 (母性)	5	5/27～6/20	病棟 (6A、6B)
	生涯健康看護	18	7/1～18	病棟 (7F、6A、6B、5A、5B、4B)
	生涯健康看護	5	7/2～18	産科病棟
	統合看護・実践研究	5	8/19～9/6	病棟 (7F、6B、5A、5B、4B、)
	統合看護・実践研究	3	8/26～9/27	病棟 (産科)
	生涯健康看護	18	10/7～10/24	病棟 (7F、6A、6B、5A、5B、4B)
	生涯健康看護	5	10/8～10/24	産科病棟
	総合看護技術	33	12/3～12/5, 12/9～12/11	病棟 (7F、6A、6B、5A、5B、4B)
	小児看護学 (看護学科全日制)	13	9/4～9/14	病棟 (7F、6A、6B、4B)
兵庫県立総合衛生学院	小児看護学 (看護学科全日制)	6	11/5～15	病棟 (7F、4B)
	小児看護学 (看護学科定時制)	7	5/15～5/25	病棟 (6A、6B)
	小児看護学 (看護学科定時制)	6	9/4～9/14	病棟 (5A、5B)
	小児看護学 (看護学科定時制)	6	9/18～9/28	病棟 (5A、5B)
	母性看護学 (看護学科定時制)	4	6/25～6/26	産科病棟
	母性看護学 (看護学科定時制)	6	8/20～6/21	産科病棟
	母性看護学 (看護学科定時制)	6	9/10～9/11	産科病棟
	母性看護学 (看護学科定時制)	6	9/18～9/19	産科病棟
	母性看護学 (看護学科定時制)	6	9/24～9/25	産科病棟
	助産学科	4	9/25～9/27	GCU
	助産学科	4	10/2～10/4	GCU
	助産学科	4	1/16～1/18	GCU
	助産学科	3	1/22～1/24	GCU

学 校 名	実 習 名	実 習 生 数	実 習 期 間	実 習 場 所
神戸常磐大学	課題別総合実習	7	8/19～8/31	病棟 (7 F、6 A)
近大姫路大学	統合実習	3	8/19～8/30	病棟 (6 B、5 B、4 B)
	こども看護	8	9/24～28	病棟 (6 A、6 B)
	こども看護	7	10/23～11/1	病棟 (6 A、6 B)
	こども看護	14	11/13～11/21	病棟 (7 F、6 A、6 B、5 A、5 B、4 B)
兵庫県立大学大学院看護学研究科博士前期課程	母性高度実践看護実習Ⅱ		4/8～7/31	
	母性治療看護実習Ⅱ	1	8/1～9/30	産科病棟
	母性高度実践看護実習Ⅲ		10/1～12/27	
	母性高度実践看護実習Ⅱ	1	10/1～12/20	産科病棟
	小児治療看護実習	4	11/22～3/31	病棟 (7 F、6 A、5 A、5 B、4 B、HCU、ICU、PICU)
	小児高度実践看護研究	1	9/17～1/31	病棟 (7 F・HCU・5 A)
神戸市看護科大学大学院看護学研究科博士前期課程	小児看護学特講演習	1	6/17～7/3	病棟 (GCU)・育児内科外来
	小児看護学特講演習		10/7～2/28	病棟 (7 F)
	小児看護学研究	1	10/7～12/6	病棟 (救急・4B・5 B)
大阪府立大学大学院看護学研究科博士前期課程	家族看護学実践実習	1	6/17～7/12	病棟 (救急・4B・6A・6B)
松江総合医療専門学校	看護学科 見学	42	8.30	
阪奈中央看護学校	看護学科 見学	36	2.21	
川崎医療短大	保育学科	4	8/19～30	病棟 (4 B、5 B)
	保育学科	4	9/2～13	病棟 (6 A、7 F)
大阪保育福祉専門学校	児童福祉科	2	9/30～10/21	病棟 (4 B、7 F)
武庫川女子大学	文学部教育学科病棟保育見学	2	8.13	病棟 (6 A)

#### 薬剤部

学 校 名	実 習 名	実 習 生 数	実 習 期 間	実 習 場 所
神戸薬科大学	薬学生実務実習	1	9.30～12.14	薬剤部と主な部署
兵庫医療大学	薬学生実務実習	1	9.30～12.14	薬剤部と主な部署

#### 検査・放射線部 (検査)

学 校 名	実 習 名	実 習 生 数	実 習 期 間	実 習 場 所
神戸常盤大学保健科学部	3年次臨地実習	1	1.15～3.8	検査室

学 校 名	実 習 名	実 習 生 数	実 習 期 間	実 習 場 所
愛媛県立医療技術大学保健科学部	3年次病院見学	1	1.9	検査室
神戸大学医学部	1年次初期体験実習	7	1.9	検査室
神戸大学医学部保健学科検査技術科	4年次臨地実習	2	11.5～11.22	検査室

### 栄養指導課

学 校 名	実 習 名	実 習 生 数	実 習 期 間	実 習 場 所
兵庫県立大学	臨床栄養学臨地・校外実習	4	2.17～2.28	栄養指導課
同志社女子大学	〃	3	3.3～3.14	〃
武庫川女子大学	〃	2	6.3～6.14	〃
神戸松蔭女子大学	〃	4	6.17～6.28	〃
神戸女子大学	〃	11	7.1～9.13	〃
神戸学院大学	〃	4	7.1～8.30	〃
武庫川女子大学	臨床栄養実習	2	6.3～8.2	〃
武庫川女子大学	臨床栄養実習	2	9.17～10.11	〃

### ②研修生

#### 診療部

依 頼 元	研 修 科	研 修 生 数	研 修 期 間	研 修 場 所
尼崎病院	放射線科	1	2ヶ月	読影室、超音波室、透視検査室など
神戸中央市民病院	放射線科	1	1か月	読影室、超音波室、透視検査室など
塚口病院	放射線科	1	4か月	読影室、超音波室、透視検査室など
宝塚三田病院	精神科	1名	4/1～3/31(1/月)	精神科外来
神戸赤十字病院 卒後臨床研修委員会	産科	6	1ヶ月ずつ	産科病棟、外来、手術室など

#### 看護部

依 頼 元	研 修 科	研 修 生 数	研 修 期 間	研 修 場 所
山陽学園大学看護研修センター認定 看護師教育課程	失禁外来実習	2	12月2日	ストーム・排泄外来 病棟

研修先施設名	所属部署	研修者名	研修期間	研修内容
山陽学園大学看護研修センター認定 看護師教育課程	失禁外来実習	2	12月9日	ストーマ・排泄外来 病棟
山陽学園大学看護研修センター認定 看護師教育課程	失禁外来実習	2	12月16日	ストーマ・排泄外来 病棟
山陽学園大学	皮膚排泄ケア認定看護師教育課程実習	2	12月2日	ストーマ・排泄外来
山陽学園大学	皮膚排泄ケア認定看護師教育課程実習	2	12月9日	ストーマ・排泄外来
山陽学園大学	皮膚排泄ケア認定看護師教育課程実習	2	12月16日	ストーマ・排泄外来
山陽学園大学	皮膚排泄ケア認定看護師教育課程実習	3	1月27日	ストーマ・排泄外来
兵庫県内訪問看護ステーション	医療ケア看護技術	11	10月10日	医療ケア 病棟
兵庫県内訪問看護ステーション	医療ケア看護技術	7	12月18日	医療ケア 病棟
さくら療育園	新生児看護	1	9月19日	NICU GCU
兵庫県立光風病院	小児看護技術	2	2月12日13日	6 A HCU
兵庫県立光風病院	小児看護技術	2	2月17日18日	6 B HCU
兵庫県立光風病院	小児看護技術	2	2月19日20日	6 A HCU
兵庫県立光風病院	小児看護技術	2	2月24日25日	6 B HCU

## 6) 長期院外研修 (2013年)

研修先施設名	所属部署	研修者名	研修期間	研修内容
日本看護協会看護研修学校	看護部	坂本 加津子	2013.4.24～2013.12.20	集中ケア認定看護師教育課程
北里大学看護キャリア開発・研究センター	看護部	井谷 洋美	2013.10.1～2014.3.31	新生児集中ケア認定看護師教育課程
兵庫県立光風病院	看護部	文字智子	2013.12.9～2013.12.13	発達障害のある子どもの看護
シアトル小児病院	看護部	杉友 ユリ	2013.3.1～2013.3.31	シアトル小児病院における家族看護、地域看護。 ワシントン州立大学・関連病院で産科部門を見学

## 6. 研修

### 1) 公開研修会

名称	主催	開催日	時間	場所	院内参加数	院外参加数	合計	テーマ	発表者/担当	所属科名
第170回こども病院症例検討会	研修教育委員会	1月10日	17:45～18:30	研修室AB	16	0	16	『若年性特発性関節炎～関節痛を考える～』	水田 麻雄	アレルギー科
第171回こども病院症例検討会	研修教育委員会	1月24日	17:45～18:30	研修室AB	24	0	24	『当院における未熟児網膜症の発症ならびに治療状況』	山崎 悠佐	眼科
第172回こども病院症例検討会	研修教育委員会	2月14日	17:45～18:30	研修室AB	19	2	21	『言語聴覚士の取り組み～入院患者を中心に～』	小松 岳	耳鼻咽喉科
第173回こども病院症例検討会	研修教育委員会	2月28日	17:45～18:30	研修室AB	26	1	27	『小児救急外来での整形外科疾患の対応』	飛梅 祥子	整形外科
第174回こども病院症例検討会	研修教育委員会	3月14日	17:45～18:30	研修室AB	53	2	55	『英国で学んだ緩和ケアとその問題点』	矢内 友子	神戸大学医学研究科
第175回こども病院症例検討会	研修教育委員会	4月11日	17:45～18:30	研修室AB	13	3	16	『HUS/TTPの最近の話題』	高藤 哲	腎臓内科
第176回こども病院症例検討会	研修教育委員会	4月25日	17:45～18:30	研修室AB	25	5	30	『対人関係の不安定な親への支援』	関口 典子	精神科
第177回こども病院症例検討会	研修教育委員会	5月9日	17:45～18:30	研修室AB	16	1	17	『手術を必要とした尿路外傷』	神野 雅	泌尿器科
第178回こども病院症例検討会	研修教育委員会	5月23日	17:45～18:30	研修室AB	19	3	22	『外傷・熱傷の初療』	谷口 真貴	形成外科
第179回こども病院症例検討会	研修教育委員会	6月13日	17:45～18:30	研修室AB	14	2	16	『後頭蓋窩脳腫瘍の対処について』	河村 淳史	脳神経外科
第180回こども病院症例検討会	研修教育委員会	6月27日	17:45～18:30	研修室AB	23	3	26	『低身長～症例から考える～』	野村 安隆	代謝内分泌科
第181回こども病院症例検討会	研修教育委員会	9月12日	17:45～18:30	研修室AB	32	0	32	『感冒様症状で発症した心臓手術症例』	野田 怜	心臓血管外科
第182回こども病院症例検討会	研修教育委員会	9月26日	17:45～18:30	研修室AB	25	1	26	『初発症状が低身長と精神遅滞であったミトコンドリア病の一例』	中西 啓太	脳神経内科
第183回こども病院症例検討会	研修教育委員会	10月10日	17:45～18:30	研修室AB	25	5	30	『当院に心肺停止で搬送となった症例の臨床的検討』	辻 真之介	救急集中治療科
第184回こども病院症例検討会	研修教育委員会	10月24日	17:45～18:30	研修室AB	30	2	32	『QT延長症候群：小児科医が知っておくべきこと（失神の原因検索など）』	小川 祐治	循環器内科

第185回こども病院症例検討会	研修教育委員会	11月7日	17:45～18:30	研修室AB	20	0	20	『先天性鼻涙管閉塞症』	井上 結香子	眼科
第186回こども病院症例検討会	研修教育委員会	11月21日	17:45～18:30	研修室AB	26			『救急・外来で遭遇する比較的 common な腹部疾患』	赤坂 好宣	放射線科
NST勉強会	栄養指導課	1月31日	17:30～18:30	研修室AB	10	1	11	増粘剤（トロミ調整食品）の使い方	鳥井隆志	栄養指導課
NST勉強会	栄養指導課	2月25日	17:30～18:30	研修室AB	13	1	14	栄養サポートと漢方の関係	鳥井隆志	栄養指導課
NST勉強会	栄養指導課	5月31日	17:30～18:30	研修室AB	17	27	44	がん患者に欠かせない栄養管理～チーム医療と看護師の役割を考える～	鳥井隆志	栄養指導課
NST勉強会	栄養指導課	6月24日	17:30～18:30	研修室AB	14	27	41	当院のアレルギーマイクロビオについて	鳥井隆志	栄養指導課
NST勉強会	栄養指導課	7月24日	17:30～18:30	研修室AB	24	2	26	静脈経腸栄養のガイドライン改定「小児領域の紹介」	鳥井隆志	栄養指導課
NST勉強会	栄養指導課	9月24日	17:30～18:30	研修室AB	20	2	22	成分栄養剤の基礎と最近の話題	鳥井隆志	栄養指導課
NST勉強会	栄養指導課	11月25日	17:30～18:30	研修室AB	17	1	18	栄養と乳酸菌製剤について	鳥井隆志	栄養指導課
NST勉強会	栄養指導課	12月18日	17:30～18:30	研修室AB	6	3	9	重症心身障害児の栄養管理	鳥井隆志	栄養指導課
第9回 胃瘻を持つ子ども地域連携パス」運用に関するカンファレンス	クリニカルパス委員会 地域連携部	6月19日	19:00～20:00	研修室AB	11	22	33	第9回 胃瘻を持つ子ども地域連携パス」運用に関するカンファレンス 講義：胃瘻の管理 報告：地域連携パスの導入 意見交換	尾藤 祐子 前原 由起	診療部 看護部
第10回 胃瘻を持つ子ども地域連携パス」運用に関するカンファレンス	クリニカルパス委員会 地域連携部	10月16日	19:00～20:00	研修室AB	13	29	42	第10回 胃瘻を持つ子ども地域連携パス」運用に関するカンファレンス 報告：クリニカルパス作成の経緯 報告：地域連携パスの導入 講義：重症心身障害児の栄養管理 意見交換	尾藤 祐子 前原 由起 鳥井 隆志	診療部 看護部 栄養指導課
第11回 胃瘻を持つ子ども地域連携パス」運用に関するカンファレンス	クリニカルパス委員会 地域連携部	3月5日	19:00～20:00	研修室AB	9	12	21	第11回 胃瘻を持つ子ども地域連携パス」運用に関するカンファレンス 講義：兵庫県立こども病院における小児在宅医療の現状 報告：胃瘻ケア地域連携パスの現状と今後の課題 一聞き取りアンケート結果から 意見交換	尾藤 祐子 泊 菊子	診療部 看護部

## 2) 院内全体研修

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	講師 / 発表者	所属
平成24年度 第2回放射線安全研修会	放射線安全管理委員会	3月13日	15:30～17:00	研修室AB	19	①放射線の人体への影響 ②MRI検査の安全性について ③核医学検査について ④放射線被ばくについて ⑤放射線治療について	杉岡勇典 北住一哉 大谷幸広 関尾直士 小田敏彦	検査・放射線部 放射線科
平成25年度 第1回放射線安全研修会	放射線安全管理委員会	5月31日	15:15～16:30	研修室AB	49	①放射線の人体への影響 ②MRI検査の安全性について ③核医学検査について ④放射線被ばくについて ⑤放射線治療について	赤坂好宣 服部真吾 大谷幸広 原 誠 小田敏彦	検査・放射線部 放射線科
平成24年度医療安全研修会	リスクマネジメント部 会	H25年 3月7日	17:30～18:30	研修室AB	78名	各部門の安全への取り組み報告	各部門リスクマネージャ	
カテーテル室緊急シミュレーション	リスクマネジメント部 会	H25年 3月26日	17:30～19:00	アンギオ室	43名	カテーテル室緊急シミュレーション	古賀医師 清水看護師長	麻酔科 小児救急CN
第1回 Morbidity&Mortality カンファレンス	リスクマネジメント部 会	H25年 6月28日	18:00～19:25	研修室AB	64名	歌舞伎マイキック症候群患児の瘻管を起こした1事例	佐藤医師 開 保津看護師長	循環器内科 循環器病棟
第2回 Morbidity&Mortality カンファレンス	リスクマネジメント部 会	H25年 7月26日	18:00～19:25	研修室AB	69名	気管狭窄症患児の1事例	清水看護師長 横井医師	小児救急CN 小児外科医師
第3回 Morbidity&Mortality カンファレンス	リスクマネジメント部 会	H25年 9月19日	17:30～19:50	研修室AB	47名	重症筋無力症の1事例	永瀬医師 関保津看護師 長	脳神経内科 循環器
平成25年度第1回医療安全 全研修会	リスクマネジメント部 会	H25年12月10日	17:30～18:30	研修室AB	127名	ヒヤットした時の”ひやりはっ”と報告”兵庫県立こども病院の現状 「セーフティマネジメント」	土居医師 麻生尚樹氏	麻酔科 テルモ株式会社
平成25年度第2回医療安全 全研修会	リスクマネジメント部 会	H26年 3月11日	17:30～18:31	研修室AB	名	各部門の安全への取り組み報告	各部門リスクマネージャ	
チームで行う内視鏡手術	手術室運営 委員会	7月5日	17:30～18:30	研修室AB	28	釧路市赤臨床工学技士の取り組み	C E 齊藤	旭川赤十字病院

第1回クリニカルパス大会	クリニカルパス委員会	10月15日	17:30～18:30	研修室 AB	50名	『パス立ちぬ・・・見直さねば』 口蓋裂のクリニカルパス	橋 憲司 大山 知樹 池田 絵里香 中村 優里 松田 亜由美	医事企画課 診療部 薬剤部 看護部 栄養指導課
第2回クリニカルパス大会	クリニカルパス委員会	2月18日	17:30～18:30	研修室 AB	65名	『クリニカルパス改善プロセスの見える化』 クリニカルパス委員会活動報告 斜視のクリニカルパスの改善 パリアンス集計の現状と今後の課題 地域連携クリニカルパスの運用について	木村 弘子 金井 友範 清水 克美 二星 淳吾 泊 菊子	看護部 診療部
医療用ガス安全研修会	医療用ガス安全管理委員会	6月17日	17:30～18:30	研修室 AB	46名	『医療ガス安全講習会』	坂本 啓 米田 亘	水島酸素商会
小児がん勉強会	看護部	10月4日	17:30～18:30	研修室 AB	112	がんの動向、小児がん拠点病院とは	小阪 医師	血液腫瘍科
小児がん勉強会	看護部	10月31日	17:30～18:30	研修室 AB	117	白血病、悪性リンパ腫、固形腫瘍	宮田 医師	血液腫瘍科
小児がん勉強会	看護部	12月16日	17:30～18:30	研修室 AB	50	脳腫瘍	河村 医師	脳神経外科
小児がん勉強会	看護部	11月22日	17:30～18:30	研修室 AB	59	がんの治療と看護①化学療法と看護	越智 医師 後藤 化学療法 CN	血液腫瘍科 看護部 (7F)
小児がん勉強会	看護部	1月10日	17:30～19:00	研修室 AB	62	がんの治療と看護②放射線療法	副島 医師 橋口 がん CNS	県立がんセンター ター
小児がん勉強会	看護部	2月17日	17:30～19:00	研修室 AB	56	がんの治療と看護③緩和ケア	矢内 医師 伊藤 がん CNS	血液腫瘍科 県立がんセンター ター
第1回全職員対象感染対策研修会	感染対策委員会	①7月29日 ②8月1日	17:30～18:30	研修室 AB	①76 ②69	基本に立ち返ろう。 今一度、標準予防策	鳴滝 由佳	感染対策チーム
第2回全職員対象感染対策研修会	感染対策委員会	①2月19日 ②2月28日	17:30～18:30	研修室 AB	①127 ②93	続 標準予防策。そして、感染経路別予防策。	I C T 一同	感染対策チーム
看護師新人フォロー研修	看護部	①4月3日 ②10月18日	①10:50～12:05 13:05～14:00 ②8:35～9:35	①研修室 AB 研修室 C ②研修室 AB	①65 ②42	①感染対策の基本 ～標準予防策(スタンダードプリコーション)・小児専門病院 としての感染対策～ ②感染対策フォローアップ	鳴滝 由佳	感染対策チーム

感染対策オリエンテーション (新規採用医師対象)	感染対策委員会	4月1日	10:00～10:30	研修室 A	20	感染対策の基本	鳴滝由佳	感染対策チーム
感染対策オリエンテーション (新規採用コメディカル対象)	感染対策委員会	4月1日	15:20～15:40	研修室 D	8	感染対策の基本	鳴滝由佳	感染対策チーム
感染対策オリエンテーション (新規採用看護補助者対象)	感染対策委員会	①4月26日 ②5月30日 ③7月1日 ④9月2日 ⑤9月17日 ⑥10月1日 ⑦10月16日 ⑧12月2日 ⑨12月2日 ⑩2月3日 ⑪2月17日	①11:15～12:00 ②11:15～12:00 ③11:15～12:00 ④9:00～10:00 ⑤9:00～10:00 ⑥9:00～10:00 ⑦11:15～12:00 ⑧9:00～10:00 ⑨11:30～12:30 ⑩11:15～12:00 ⑪11:15～12:00	①看護部長室 ②研修室 C ③看護部長室 ④看護部長室 ⑤看護部長室 ⑥看護部長室 ⑦看護部長室 ⑧看護部長室 ⑨看護部長室 ⑩看護部長室 ⑪研修室 AB	①1 ②4 ③1 ④1 ⑤1 ⑥3 ⑦1 ⑧1 ⑨1 ⑩1 ⑪3	感染対策の基本	鳴滝由佳	感染対策チーム
全職員対象勉強会	感染対策委員会	①5月28日 ②7月10日 (外来対象)	①17:30～18:30 ②15:00～16:00	①研修室 AB ②研修室 AB	①40 ②13	空気感染対策と N95マスク	瀬尾達朗	スリーエムヘルスケア
感染対策勉強会 (病棟保育士対象)	感染対策委員会	6月19日	14:15～15:00	7F 食堂	6	MRSA などについて	鳴滝由佳	感染対策チーム
感染対策研修会 (清掃・リネン業務職員対象)	感染対策委員会	7月3日	11:00～11:30	研修室 C	27	流行性感染症について～風疹を中心に～	鳴滝由佳	感染対策チーム
感染対策研修会 (委託職員対象)	感染対策委員会	①②1月22日 ③1月27日	①13:00～13:30 ②17:00～17:30 ③11:30～12:00	研修室 AB	①2 ②17 ③25	感染性胃腸炎	鳴滝由佳	感染対策チーム
平成24年度 第2回放射線安全研修会	放射線安全管理委員会	3月13日	15:30～17:00	研修室 A B	19	①放射線の人体への影響 ②MRI 検査の安全性について ③核医学検査について ④放射線被ばくについて ⑤放射線治療について	杉岡勇典 北住一哉 大谷幸広 関尾直士 小田敏彦	検査・放射線部 放射線科
平成25年度 第1回放射線安全研修会	放射線安全管理委員会	5月31日	15:15～16:30	研修室 A B	49	①放射線の人体への影響 ②MRI 検査の安全性について ③核医学検査について ④放射線被ばくについて ⑤放射線治療について	赤坂好宣 服部真吾 大谷幸広 原 誠 小田敏彦	検査・放射線部 放射線科

## 3) 複数科合同カンファレンス

名称	対象科	開催日	時間	場所	参加数	テーマ
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、泌尿器科、脳神経外科、病理解	1月9日	17:30-19:00	研修室C	31	1) 多発腫瘍性病変 (15歳女児) 2) 胎児頸部腫瘍 (0歳児男児) 3) 脳腫瘍 (6歳男児) 4) 髄芽腫 (12歳男児) 5) AT/RT (1歳7ヶ月男児) 6) 髄芽腫 (3歳男児) 7) 網膜腫瘍 (2歳10ヶ月児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	1月16日	17:30-19:00	研修室C	22	1) 網膜芽腫 (4歳男児) 2) 小脳腫瘍 (6歳女児) 3) AT/RT (1歳7ヶ月男児) 4) 膝腫瘍 (10歳男児) 5) 骨肉腫 (9歳男児) 6) 肝芽腫 (4歳女児) 7) 神経芽腫 stage4 (3歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、眼科、病理	1月23日	17:30-18:20	研修室C	25	1) 左頬粘膜腫瘍 (0歳2ヶ月児) 2) 左腎腫瘍 (3歳女児) 3) テント上PNET (2歳女児) 4) 左頭蓋底～小脳橋角部骨腫瘍 (4歳女児) 5) 網膜芽細胞腫 (3歳女児) 6) 網膜芽腫 (4歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、眼科、病理	1月30日	18:00-19:30	研修室C	16	1) 網膜芽細胞腫 (3歳女児) 2) 網膜芽細胞腫 (4歳男児) 3) 小脳髄芽腫 (8歳女児) 4) 左頭蓋底～小脳橋角部の骨腫瘍疑い (4歳女児) 5) 松果体腫瘍 (10歳児) 6) 退形成上衣腫 (6歳男児) 7) 退形成上衣腫 (9歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	2月6日	17:30-18:00	研修室C	24	1) 肝芽腫 (0歳10ヶ月男児) 2) 小脳髄芽腫 (1歳10ヶ月女児) 3) 第3脳室腫瘍 (5歳児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、病理	2月13日	17:30-18:30	研修室C	17	1) 鞍上部、視床下部腫瘍 (10歳女児) 2) 松果体部腫瘍 (13歳男児) 3) ependymoma (16歳女児) 4) 上衣腫 (9歳男児) 5) pineoblastoma (10歳女児) 6) pilomyxoid astrocytoma (13歳女児) 7) retinoblastoma (4歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、泌尿器科、脳神経外科、病理	2月20日	17:30-18:45	研修室C	28	1) 横紋筋肉腫 (8歳男児) 2) astrocytoma/pilomyxoid astrocytoma (9歳女児) 3) 肝芽腫 (4歳8ヶ月女児) 4) 血管腫 s/o (2歳児)

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、眼科、病理	2月27日	17:45-18:45	研修室 C	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 左眼窩内腫瘍 (2歳児)</li> <li>2) immature teratoma (12歳女児)</li> <li>3) 上衣腫 (6歳男児)</li> <li>4) AT/RT (1歳9カ月男児)</li> <li>5) optic pathway glioma (4歳男児)</li> <li>6) 松果体部腫瘍 (13歳男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、眼科、病理	3月6日	17:30-18:30	研修室 C	19	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) fibromatosis (4歳女児)</li> <li>2) 神経芽腫 (1歳男児)</li> <li>3) 左頸部腫瘍 (0歳0カ月14日)</li> <li>4) 網膜芽腫、汎下垂体機能低下症 (3歳女児)</li> <li>5) 小脳髓芽腫 (10歳男児)</li> <li>6) Ewing 肉腫 (4歳女児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、神戸大学腫瘍科、病理	3月13日	18:30-19:30	研修室 C	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 鞍上部腫瘍 (10歳女児)</li> <li>2) 第3脳室腫瘍 (5歳男児)</li> <li>3) 第3脳室腫瘍 (14歳女児)</li> <li>4) 脳腫瘍 (7歳男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、救急集中治療科、病理	3月19日	17:30-18:00	研修室 C	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 頸椎腫瘍 (6歳女児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、病理	3月21日	17:30-18:30	研修室 C	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 肝芽腫 PRETEXT4、多発肺転移 (4歳女児)</li> <li>2) 左頸部腫瘍 (0歳1カ月児)</li> <li>3) 網膜芽腫 (3歳1カ月児)</li> <li>4) 右眼窩内腫瘍 (2歳9カ月児)</li> <li>5) 右眼窩腫瘍 (0歳10カ月女児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	3月27日	18:00-19:00	研修室 C	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 脊柱管内腫瘍 (6歳女児)</li> <li>2) 神経芽腫疑い (1歳男児)</li> <li>3) 仙尾部腫瘍 (0歳女児)</li> <li>4) 後腹膜奇形腫 (0歳男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	4月3日	17:30-18:20	研修室 C	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 上衣腫 (9歳男児)</li> <li>2) 頸部リンパ管腫 (2歳男児)</li> <li>3) 左頸部腫瘍 (0歳1カ月女児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、眼科、病理	4月10日	18:00-19:00	研修室 C	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) PNET (11歳男児)</li> <li>2) 左眼窩内腫瘍 (2歳3カ月男児)</li> <li>3) リンパ腫疑い (4歳10カ月男児)</li> <li>4) 神経芽腫疑い (1歳男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、形成外科、耳鼻科、病理	4月15日	16:30-17:00	研修室 C	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 頭蓋底腫瘍 (9歳女児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	4月17日	17:30-18:00	研修室 C	19	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 仙骨前腫瘍 (0歳2カ月男児)</li> <li>2) 腭腫瘍 (13歳女児)</li> </ul>

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、眼科、形成外科、病理	4月24日	18:00-19:30	研修室 C	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) ALCL (4歳男児)</li> <li>2) 肝芽腫 (4歳女児)</li> <li>3) 発熱・咳嗽 (14歳男児)</li> <li>4) 不明熱 (0歳7カ月女児)</li> <li>5) Ewing 肉腫 (6歳女児)</li> <li>6) 胞巣型横紋筋肉腫 (9歳女児)</li> <li>7) 網膜芽腫 (3歳2カ月男児)</li> <li>8) optic pathway glioma (12歳男児)</li> <li>9) AT/RT (1歳11カ月男児)</li> <li>10) 頭蓋内胚細胞腫瘍 (12歳男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	5月1日	17:30-18:00	研修室 C	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 髓芽腫 (1歳女児)</li> <li>2) 多発肺・肝・脾結節 (14歳男児)</li> <li>3) リンパ腫 (2歳男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、泌尿器科、脳神経外科、病理	5月8日	17:30-18:30	研修室 C	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 小脳腫瘍 (7歳男児)</li> <li>2) 精巣腫瘍 (0歳9カ月男児)</li> <li>3) Ewing 肉腫 (4歳女児)</li> <li>4) 多発肺結節・肝結節・脾結節 (14歳男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、神戸大学小児科、病理	5月15日	17:30-18:00	研修室 C	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) malignant meningioma (5歳男児)</li> <li>2) 視神経腫瘍 (4歳男児)</li> <li>3) yolk sac tumor (1歳男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、神戸大学小児科、病理	5月22日	17:30-18:30	研修室 C	26	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) optic pathway glioma (4歳女児)</li> <li>2) 頭蓋内胚細胞腫瘍 (12歳男児)</li> <li>3) 小脳腫瘍 (1歳女児)</li> <li>4) 多発肺・肝・脾結節 (14歳男児)</li> <li>5) 膜腫瘍 (13歳女児)</li> <li>6) 腹腔内腫瘍 (4歳女児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、眼科、病理	5月29日	18:00-19:20	研修室 C	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 仙尾部奇形腫 (0歳1カ月女児)</li> <li>2) retinoblastoma (4歳男児)</li> <li>3) 小脳腫瘍 (1歳女児)</li> <li>4) 鞍上部脳腫瘍 (12歳女児)</li> <li>5) 小脳髓芽腫 (7歳女児)</li> <li>6) 小脳髓芽腫 (12歳男児)</li> <li>7) 鞍上部腫瘍 (10歳女児)</li> <li>8) 多発性頭蓋骨腫瘍 (7歳男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	6月5日	18:15-19:30	研修室 C	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 肝芽腫 (4歳女児)</li> <li>2) 後頸部腫瘍 (2歳女児)</li> <li>3) 多発肺結節、肝結節、脾結節 (14歳男児)</li> <li>4) 右腎腫瘍 (4歳女児)</li> <li>5) 鞍上部 germinoma (14歳女児)</li> <li>6) anaplastic ependymoma (4歳児)</li> <li>7) 小脳腫瘍 (1歳9カ月女児)</li> <li>8) glioblastoma (7歳女児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、眼科、病理	6月12日	17:30-18:00	研修室 C	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 視神経腫瘍 (4歳男児)</li> <li>2) 後頸部腫瘍 (2歳女児)</li> <li>3) AT/RT (2歳1カ月男児)</li> </ul>

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、病理	6月19日	17:15-17:45	研修室 C	17	1) anaplastic ependymoma (4歳男児) 2) Ewing 肉腫 (6歳女児) 3) 前額部腫瘍 (3歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	6月26日	18:00-18:30	研修室 C	16	1) 神経芽腫 stage IV (5歳女児) 2) 胞巣型横紋筋肉腫 (9歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	7月3日	17:30-18:20	研修室 C	25	1) 頭蓋内胚細胞腫瘍 (12歳男児) 2) 多発性頭蓋骨腫瘍 (7歳男児) 3) 後頭蓋窩腫瘍 (7歳男児) 4) 腹腔内腫瘍 (12歳男児) 5) 神経芽腫 (5歳女児) 6) リンパ腫疑い (8歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	7月10日	17:30-18:00	研修室 C	18	1) 腹腔内腫瘍 (12歳男児) 2) リンパ腫 (8歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、泌尿器科、脳神経外科、病理	7月17日	17:30-18:30	研修室 C	28	1) 右胸膜肺芽腫 (5歳男児) 2) 神経芽腫 (5歳女児) 3) 後頸部腫瘍 (2歳女児) 4) 小脳嚢芽腫 (7歳女児) 5) 鞍上部腫瘍 (10歳女児) 6) 小脳嚢芽腫 (3歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、泌尿器科、脳神経外科、病理	7月24日	17:30-18:00	研修室 C	18	1) 右胸膜肺芽腫 (5歳男児) 2) Ewing 肉腫 (7歳女児) 3) Ewing 肉腫 (4歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	7月31日	17:30-18:30	研修室 C	22	1) 腹腔内腫瘍 (12歳男児) 2) 胞巣型横紋筋肉腫 (9歳女児) 3) 神経芽腫 (2歳男児) 4) 多発腫瘍 (0歳11ヵ月男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、救急科、病理	8月5日	13:00-13:20	研修室 C	16	1) 腹部腫瘍 (0歳4ヵ月男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、救急科、病理	8月7日	17:30-19:00	研修室 C	25	1) 小脳腫瘍の疑い (3歳女児) 2) 小脳腫瘍 (1歳男児) 3) 骨融解症 (7歳男児) 4) anaplastic pilocytic astrocytoma (1歳女児) 5) 鞍上部腫瘍 (14歳女児) 6) 腹部腫瘍 (0歳4ヵ月男児) 7) 左卵巢腫瘍 (11歳女児) 8) 神経芽腫、stage4(5歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	8月14日	17:30-18:30	研修室 C	22	1) 鞍上部腫瘍 (14歳女児) 2) 神経芽腫 (0歳11ヵ月男児) 3) 腹部腫瘍 (神経芽腫疑い) (0歳4ヵ月男児) 4) 右基底核胚細胞腫瘍 (8歳男児) 5) 脳腫瘍 (胚細胞腫瘍) (16歳男児)

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	8月21日	17:30-18:15	研修室 C	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 骨盤部腫瘍 (1歳7ヵ月男児)</li> <li>2) 鞍上部・松果体腫瘍 (7歳女児)</li> <li>3) 橋出血、脳幹部神経膠腫 (5歳男児)</li> <li>4) 橋神経膠腫 (8歳男児)</li> <li>5) AT/RT (1歳4ヵ月男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、病理	8月28日	18:00-18:30	研修室 C	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) retinoblastoma (4歳男児)</li> <li>2) hepatoblastoma (5歳女児)</li> <li>3) NB (0歳5ヵ月男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、病理	9月4日	17:30-18:15	研修室 C	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 仙尾部奇形腫 (0歳16日男児)</li> <li>2) 網膜芽細胞腫 (19歳女児)</li> <li>3) 神経芽腫再発 (6歳男児)</li> <li>4) 鞍上部 germinoma (14歳女児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	9月18日	17:30-18:00	研修室 C	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) mixed germ cell tumor (10歳男児)</li> <li>2) 骨髄部 neuroblastoma (2歳男児)</li> <li>3) 神経芽腫 stage4 (5歳男児)</li> <li>4) 神経芽腫 stage4 (3歳男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、病理	10月2日	17:30-18:20	研修室 C	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 腹部腫瘍、両側網膜芽腫治療後 (4歳女児)</li> <li>2) 泡果型横紋筋肉腫 (9歳女児)</li> <li>3) 鞍上部腫瘍 (7歳男児)</li> <li>4) 松果体腫瘍 (10歳男児)</li> <li>5) 後頭蓋窩腫瘍 (7歳男児)</li> <li>6) 脊髄腫瘍 (17歳女児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	10月9日	17:20-18:10	研修室 C	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 神経芽腫 (3歳男児)</li> <li>2) 腰痛腫瘍播種 (17歳女児)</li> <li>3) anaplastic pilocytic astrocytoma (2歳)</li> <li>4) 髓芽腫 (2歳女児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、病理	10月16日	17:30-18:00	研修室 C	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 腹部腫瘍、両側網膜芽腫治療後 (4歳女児)</li> <li>2) 神経芽腫、stage4、JNBSG (JN-12029) (3歳男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、眼科、神経内科、病理	10月23日	17:30-18:30	研修室 C	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 網膜芽腫 (4歳男児)</li> <li>2) germinoma の疑い (12歳男児)</li> <li>3) 右網膜芽腫疑い (2歳女児)</li> <li>4) 小脳髓芽腫 (8歳男児)</li> <li>5) 鞍上部・松果体腫瘍 (7歳女児)</li> <li>6) 右基底核胚細胞腫瘍 (9歳男児)</li> <li>7) ependymoma (17歳女児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	10月30日	18:30-19:00	研修室 C	19	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 神経芽腫 JN-12029 (3歳男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、眼科、病理	11月6日	17:30-18:30	研修室 C	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 網膜芽細胞腫 (2歳女児)</li> <li>2) pineoblastoma (11歳女児)</li> <li>3) Ewing 肉腫 (5歳女児)</li> </ul>

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、眼科、外科、病理	11月19日	17:30-18:30	研修室 C	24	1) 右網膜芽腫 (2歳男児) 2) anaplastic pilocytic astrocytoma (2歳女児) 3) 鞍上部腫瘍 (15歳女児) 4) 腹部腫瘍 (1歳男児) 5) ALCL (13歳男児) 6) 仙尾部奇形腫 (0歳4ヵ月女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、眼科、外科、病理	11月26日	18:30-19:30	研修室 C	26	1) 左網膜芽腫 (3歳児) 2) 右基底核胚細胞腫瘍 (9歳男児) 3) 鞍上部・松果体腫瘍 (7歳女児) 4) 脳腫瘍、多発脊髄腫瘍 (12歳男児) 5) anaplastic ependymoma (4歳男児) 6) 甲狀腺腫瘍 (18歳男児) 7) 左胸膜肺芽腫 (5歳男児) 8) 肝芽腫、多発肺転移 (5歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、眼科、外科、病理	12月3日	17:30-18:30	研修室 C	24	1) 右基底核胚細胞腫瘍 (9歳男児) 2) 網膜芽細胞腫 (2歳男児) 3) 網膜芽腫 (2歳女児) 4) ALCL (13歳男児) 5) 腹部腫瘍 (1歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、耳鼻科、眼科、外科、病理	12月10日	17:50-18:20	研修室 C	24	1) 泡巣型横紋筋肉腫 (10歳女児) 2) 肝芽腫、多発肺転移 (5歳女児) 3) 腹部腫瘍、両側網膜芽腫治療後 (4歳女児) 4) 両側網膜芽腫 (2歳男児) 5) 左網膜芽腫 (3歳男児) 6) 多発骨腫瘍 (2歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、病理	12月11日	15:00-15:30	放射線科読影室	10	1) 上衣腫 (7歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、病理	12月17日	17:30-18:00	研修室 C	11	1) 骨融解症 (8歳男児) 2) 第3脳室腫瘍 (5歳男児) 3) myxopapillary ependymoma (12歳女児) 4) optic pathway glioma (5歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科	12月24日	17:30-18:00	研修室 C	10	1) GCT 2) GCT 3) GCT
麻酔科・心臓外科合同カンファレンス	麻酔科・心臓外科	毎日	7:55~8:10	ICU	約10	当日の心臓外科症例についてのカンファレンス
ICUカンファレンス	心臓外科・ICU患者関連部署	毎日	10:30~11:00	ICU	約10	ICU患者についてのカンファレンス
心臓外科術前症例検討会	心臓外科・臨床工学技士・手術室看護師	毎週月曜日	8:15~9:00	本館4階カンファレンスルーム	約10	その週の心臓外科手術症例についての術前カンファレンス

循環器カンファレンス	循環器科・心臓外科・麻酔科	毎週月曜日	17:00～	本館4階 カンファレンスルーム	約15	心臓カテーター検査症例や手術検討症例についてのカンファレンス
循環器抄読会	循環器科・心臓外科	隔週木曜日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	約15	最近の小児循環器関連の文献より
心臓外科術後症例検討会	心臓外科・臨床工学技士	毎週金曜日	8:15～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	約10	一週間の心臓外科手術症例についての術後カンファレンス
心臓血管外科・麻酔科・ME 合同カンファレンス	心臓血管外科、麻酔科、ME	毎日	7:55～8:10	ICU	15	当日の心臓血管外科手術症例についてカンファレンス
心臓血管外科・ME 術前カンファレンス	心臓血管外科、ME、手術室看護師	毎週月曜日	8:15～9:00	本館4F カンファレンスルーム	15	各週の手術症例の術前検討
心臓血管外科・ME 術後カンファレンス	心臓血管外科、ME	毎週金曜日	8:15～9:00	本館4F カンファレンスルーム	15	各週の手術症例の術後検討
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科、整形外科、泌尿器科 皮膚・排泄ケア認定看護師	4月5日	15:30～16:40	整形外科診察室	12	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者20名
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科、整形外科、泌尿器科 皮膚・排泄ケア認定看護師	4月19日	15:30～16:50	整形外科診察室	8	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者19名
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科、整形外科、泌尿器科 皮膚・排泄ケア認定看護師	6月14日	15:00～15:40	整形外科診察室	12	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者7名
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科、整形外科、泌尿器科 皮膚・排泄ケア認定看護師	9月13日	15:50～16:50	整形外科診察室	5	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者14名
周産期カンファレンス	産科、新生児科、小児外科、病理診断科、看護師、検査技師、薬剤部	毎月 (月が休日の場合は火)	16:30～16:55	産科外来指導室	18～21	未分娩の症例提示と新生児の経過報告
ウィークエンドカンファレンス	産科、看護師、薬剤部	毎金 (金が休日の場合は木)	16:00～16:25	産科病棟詰所	8～10	産科入院症例の検討
MRI カンファレンス	産科、放射線科	隔月の最終週の月か金	17:00～17:40	放射線科読影室	10～12	胎児 MRI 撮影症例の提示と読影、新生児の画像紹介
麻酔科・心臓外科・循環器科合同カンファレンス	麻酔科、心臓外科、循環器内科、看護師、臨床工学技士	通年、毎日	7:55～8:10	ICU	15	当日の心臓外科症例についてのカンファレンス

4) 部署別勉強会・カンファレンス

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者/担当
journal club	救急集中治療科	5月7日		救急センター カンファレンスルーム	15	Tolvaptan in Patients with Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease	田中亮二郎
journal club	救急集中治療科	5月14日		救急センター カンファレンスルーム	16	Inhibition of prostaglandin receptor EP2 following status epilepticus reduces delayed mortality and brain inflammation	永瀬裕朗
journal club	救急集中治療科	5月21日		救急センター カンファレンスルーム	13	Efficacy of Intravenous Immunoglobulin Combined with Prednisolone Following Resistance to Initial Intravenous Immunoglobulin Treatment of Acute Kawasaki Disease	中岸保夫
journal club	救急集中治療科	5月28日		救急センター カンファレンスルーム	15	Association Between Childhood Migraine and History of Infantile Colic	丸山あずさ
journal club	救急集中治療科	6月4日		救急センター カンファレンスルーム	14	Oral Acyclovir Suppression and Neurodevelopment after Neonatal Herpes	梶原伸介
journal club	救急集中治療科	6月11日		救急センター カンファレンスルーム	13	Continuous Renal Replacement Therapy for Children $\leq$ 10kg:A Report from the Prospective Pediatric Continuous Renal Replacement Therapy Registry	花田卓也
journal club	救急集中治療科	6月18日		救急センター カンファレンスルーム	15	High-frequency oscillation in early acute respiratory distress syndrome.	西山将広
journal club	救急集中治療科	6月25日		救急センター カンファレンスルーム	16	Dupilumab in Persistent Asthma with Elevated Eosinophil Levels	橋本興人
journal club	救急集中治療科	9月3日		救急センター カンファレンスルーム	17	Prone Positioning in Severe Acute Respiratory Distress Syndrome	神田杏子
journal club	救急集中治療科	9月10日		救急センター カンファレンスルーム	18	More Codeine Fatalities After Tonsillectomy in North American Children New Evidence about an Old Drug:Risk with Codeine after Adenotonsillectomy	矢内友子
journal club	救急集中治療科	9月17日		救急センター カンファレンスルーム	14	N-Terminal Pro Brain Natriuretic Peptide and Risk of Coronary Artery Lesions and Resistance to Intravenous Immunoglobulin in Kawasaki Disease	水田麻雄
journal club	救急集中治療科	9月24日		救急センター カンファレンスルーム	15	2012 Revised International Chapel Hill Consensus Conference Nomenclature of Vasculitides	笠井和子

journal club	救急集中治療科	10月1日		救急センター カンファレンスルーム	13	A Randomized Trial of Adenotonsillectomy for Childhood Sleep Apnea	辻真之介
journal club	救急集中治療科	10月8日		救急センター カンファレンスルーム	12	U.S Hospitalization for Pneumonia after a Decade of Pneumococcal Vaccination	二野菜々子
journal club	救急集中治療科	10月15日		救急センター カンファレンスルーム	16	Immunogenicity of 13-Valent Pneumococcal Conjugate Vaccine Administered According to 4 Different Primary Immunization Schedules in Infants	楠元真由美
journal club	救急集中治療科	10月22日		救急センター カンファレンスルーム	17	Targeted versus Universal Decolonization to Prevent ICU infection	宮田憲二
journal club	救急集中治療科	10月29日		救急センター カンファレンスルーム	15	Rapid Blood-Pressure Lowering in Patients with Acute Intracerebral Hemorrhage	田中司
journal club	救急集中治療科	11月5日		救急センター カンファレンスルーム	15	Impact of Early Nutrient Restriction During Critical Illness on the Nonthyroidal Illness Syndrome and Its Relation With Outcome:A Randomized,Controlled Clinical Study	野村安隆
journal club	救急集中治療科	11月12日		救急センター カンファレンスルーム	12	Health-Education Package to Prevent Worm Infections in Chinese Schoolchildren	福原信一
journal club	救急集中治療科	11月19日		救急センター カンファレンスルーム	14	Bleeding manifestations and management of children with persistent and chronic immune thrombocytopenia : data from the intercontinental Cooperative ITP Study Group(ICIC)	川崎圭一郎
journal club	救急集中治療科	11月26日		救急センター カンファレンスルーム	12	Early Volume Expansion During Diarrhea and Relative Nephroprotection During Subsequent Hemolytic Uremic Syndrome	斉藤敦郎
journal club	救急集中治療科	12月3日		救急センター カンファレンスルーム	14	Vasopressin,Steroids,and Epinephrine and Neurologically Favorable Survival After In-Hospital Cardiac Arrest A Randomized Clinical Trial	谷口紫野
journal club	救急集中治療科	12月10日		救急センター カンファレンスルーム	17	The Use of Vaptans in Clinical Endocrinology	尾崎佳代
journal club	救急集中治療科	12月17日		救急センター カンファレンスルーム	15	Racemic Adrenaline and Inhalation Strategies in Acute Bronchiolitis	長谷川大一郎
journal club	救急集中治療科	12月24日		救急センター カンファレンスルーム	13	Targeted Temperature Management at 33°C versus 36°C after Cardiac Arrest	日外佑理
麻酔科カンファレンス	麻酔科	毎日	8:30-9:00	手術室内麻酔科医控室	16	毎日の麻酔症例についての検討	麻酔科統括

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	1月7日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	CLD に対する吸入ステロイド中止後変化について	三木康暢
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	1月9日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	致死性骨異形成症 2 型	坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	1月9日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	EXIT を行った巨大奇形腫	藤岡一路
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	1月14日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	致死性骨異形成症の予後	和田佳子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	1月21日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	MRSA 保菌に対するムピロシム投与	溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	1月23日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	早産児のアテトーゼ脳性麻痺と黄疸	坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	1月28日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	severe FGR の一例	日外佑理
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	1月30日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	早産児の重症新生児仮死	三木康暢
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月4日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	重症 CLD の管理	芳本誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月6日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	selective FGR 児の BNP についての検討	藤岡一路
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月11日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	24 週出生の 18 トリソミー児の一例	和田佳子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月17日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	巨大奇形腫を合併した児の管理	藤岡一路
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月25日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	胎便性腹膜炎	日外佑理
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月27日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	新生児低カルシウム血症	三木康暢
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月6日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	先天性風疹症候群	藤岡一路

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月11日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	低血糖, 閉塞性黄疸を来した severe FGR の一例	坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月13日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	HOT療法の適応	和田佳子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月20日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	22q.11.2欠失症候群	三木康暢
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月25日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	研究総括	溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月8日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	21トリソミー一児のまとめ	芳本誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月10日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	先天性カンジダ感染症	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月15日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	新生児頭蓋瘍	梶笑美子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月22日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	Kings College 留学報告会	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月29日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	MSC研究	溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月1日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	抜管困難症のまとめ	上村和也
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月6日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	CLD 児の心電図変化	芳本誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月13日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	低体温療法の適応	坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月20日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	胎便性腹膜炎	梶笑美子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月27日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	refeeding syndrome	石田悠介
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月3日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	mesenteric lymphoangioma	上村和也

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月12日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	胎児水頭症	梶美子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月17日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	高血糖を来した超低出生体重児	石田悠介
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月19日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	先天性皮膚異常の一例	上村和也
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月24日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	慢性期のPDAの管理	芳本誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月1日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	墜落産で出生した超低出生体重児	梶美子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月8日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	過剰酸素の未熟肺への影響	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月15日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	CLDにおけるCT上の大嚢胞の周産期因子	坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月22日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	副甲状腺機能低下症と喉頭軟化症を合併した一例	上村和也
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月29日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	結節性硬化症	石田悠介
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月5日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	新生児領域におけるPMX療法	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月12日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	研究総括	溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月19日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	腹部膨満と重症CLDを合併したSFD児	梶美子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月26日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	HLHの一例	上村和也
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月2日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	新生児低血糖に対するジアゾキサイドの使用	梶美子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月9日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	仙骨部奇形腫のまとめ	岩谷壮太

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月16日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	先天性貧血	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月23日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	重症仮死症例のまとめ	芳本誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月30日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	出生前ステロイドのまとめ	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月7日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	晩期黄疸と予後	坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月14日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	早産児のMRI研究	溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月21日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	成熟児頭蓋内出血	武岡恵美子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月28日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	Goldenher syndrome	白鳥孝俊
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月6日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	9モザイクトリソミー	橋本興人
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月11日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	心臓腫瘍の2例	武岡恵美子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月13日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	胎児母体間輸血症候群	白鳥孝俊
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月20日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	JMMLの一例	中西啓太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月27日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	重症TMDの一例	橋本興人
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月2日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	小児科専門医教育	溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月9日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	IDM	白鳥孝俊
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月16日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	血友病A	武岡恵美子

新生児クリニック カンファレンス	新生児科	12月23日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	新生児におけるシスタチンC	白鳥孝俊
産科抄読会	産科	毎金	8:20~8:40	産科病棟医師控え室	7~8	英文医学雑誌から産科関連論文の紹介	
産科症例検討会	産科	年に数回	8:20~8:40	産科病棟医師控え室	7~8	管理に難渋した症例の検討	
産科勉強会	産科	9~10月 月1・2回	8:20~8:40	産科病棟医師控え室	7~8	若手医師による産科代表的疾患の総説	
薬剤部勉強会	薬剤部	1月16日	8:45~9:00	薬剤部	10	症例報告会 血液腫瘍科 「CDDPによる聴力障害が疑われた症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	1月16日	17:30~18:30	薬剤部	8	部内勉強会 循環器内科 「先天性風疹症候群について」	
薬剤部勉強会	薬剤部	1月30日	8:45~9:00	薬剤部	10	症例報告会 産科 「シユエーグレン症候群合併妊娠の症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	2月6日	8:45~9:00	薬剤部	10	症例報告会 腎臓内科 「沈降炭酸カルシウムによる高Ca血症を未然に防いだ症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	2月20日	17:30~18:30	薬剤部	8	部内勉強会 腎臓内科 「小児ネフローゼ症候群と治療薬シクロスポリン」	
薬剤部勉強会	薬剤部	2月25日	17:30~18:30	薬剤部	8	製品勉強会 「ギリアデル脳内留置用剤」	
薬剤部勉強会	薬剤部	2月27日	17:30~18:30	薬剤部	8	製品勉強会 「ダイアコミット」	
薬剤部勉強会	薬剤部	3月13日	17:30~18:30	薬剤部	8	部内勉強会 「肝硬変についてー非代償期を中心にー」	
薬剤部勉強会	薬剤部	4月17日	17:30~18:30	薬剤部	10	製品勉強会 「ホスリボン配合顆粒」	
薬剤部勉強会	薬剤部	4月24日	17:30~18:30	薬剤部	10	製品勉強会 「エルカルチンFF内用液」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月5日	17:30~18:30	薬剤部	10	「院内肺炎」DVD視聴	

薬剤部勉強会	薬剤部	6月19日	17:30～18:30	薬剤部	9	症例報告会 循環器内科 「ワーファリン服用患児に授乳している母の納豆摂取について」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月26日	17:30～18:30	薬剤部	9	「皮膚軟部組織感染症」DVD 視聴	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月3日	17:30～18:30	薬剤部	7	製品勉強会 「アドベイト注射用」	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月17日	17:30～18:30	薬剤部	9	症例報告会 血液腫瘍科 「小児T細胞性急性リンパ性白血病に対してアラノンジーを使用した症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月31日	17:30～18:30	薬剤部	10	製品勉強会 「トレシーバ注フレックスタッチ」	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月14日	17:30～18:30	薬剤部	9	製品勉強会 「アバスタチン点滴静注用」	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月21日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会 腎臓内科 「小児慢性腎不全患者に成長ホルモンの指導を行った症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	9月4日	17:30～18:30	薬剤部	9	「感染性心内膜炎」DVD 視聴	
薬剤部勉強会	薬剤部	9月11日	17:30～18:30	薬剤部	9	製品勉強会 「サムスカ錠」	
薬剤部勉強会	薬剤部	9月18日	17:30～18:30	薬剤部	9	症例報告会 産科 「喘息合併妊娠の妊婦に対して指導を行った症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	10月2日	17:30～18:30	薬剤部	10	製品勉強会 「シナジス筋注液の適応追加」	
薬剤部勉強会	薬剤部	10月16日	17:30～18:30	薬剤部	9	症例報告会 血液腫瘍科 「エクジェイドを懸濁せずに内服していた患児への服薬指導」	
薬剤部勉強会	薬剤部	10月23日	17:30～18:30	薬剤部	9	当院循環器医師より勉強会「肺動脈性肺高血圧症について」	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月6日	17:30～18:30	薬剤部	8	製品勉強会 「イーフェンバツカル錠」	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月13日	17:30～18:30	薬剤部	9	製品勉強会 「スプリセル錠 (CML)に関するガイドラインの改定)」	

薬剤部勉強会	薬剤部	11月20日	17:30～18:30	薬剤部	9	製品勉強会「アセリオ静注液」	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月27日	17:30～18:30	薬剤部	9	症例報告会 腎臓内科「ネフローゼ症候群再発予防にリツキサンを使用した症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月11日	17:30～18:30	薬剤部	9	製品勉強会「アイフェンド（TDMを中心に）」	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月18日	17:30～18:30	薬剤部	10	症例報告会 形成外科「手術時休薬がある患者での口蓋裂手術の症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月25日	17:30～18:30	薬剤部	10	薬剤師専門教育研修報告（感染制御領域）	
検査部内研修会	検査部	1月17日	16:30～17:30	検査技師室	12	心エコーの見方と最近の話題	循環器・小川
検査部内研修会	検査部	5月15日	16:30～17:30	検査技師室	8	遺伝子・染色体検査の臨床的意義	三菱化学 メディエンス
検査部内研修会	検査部	5月22日	16:30～17:30	検査技師室	9	セルダインサンファイア（測定原理と解析）	アボット
検査部内研修会	検査部	6月13日	16:30～17:30	検査技師室	8	臨床検査情報処理システム（輸血）について	日本電子
検査部内研修会	検査部	6月27日	16:30～17:30	検査技師室	12	検体の取り扱いについて	入野
検査部内研修会	検査部	7月25日	16:30～17:30	検査技師室	10	求められる尿中赤血球算定と赤血球形態情報ガイドラインについて	シスメックス
検査部内研修会	検査部	11月20日	16:30～17:30	検査技師室	11	こども病院における病理検査の特徴について	病理診断・吉田
検査部内研修会	検査部	11月21日	16:30～17:30	検査技師室	12	先天性QT延長症候群の特徴と関連する検査について	循環器・小川
検査部内研修会	検査部	12月7日	16:30～17:30	検査技師室	12	遺伝子欠損の検査について	代謝内科・郷司
放射線部勉強会	放射線部	8月22日	16:30～17:30	放射線技師室	10	医療情報システムについて 放射線予約システム PACSシステム	PSP

放射線部勉強会	放射線部	8月29日	16:30～17:30	放射線技師室	11	医療情報システムについて 放射線予約システム	富士通 システムズ
放射線部勉強会	放射線部	11月29日	16:30～17:30	放射線技師室	6	成育医療センター研修 参加報告会	原 誠
課内研修会	栄養指導課	1月7日	15:00～15:30	栄養指導課	9	今後の栄養指導課のあり方について	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	2月1日	15:00～15:30	栄養指導課	8	今後の栄養指導課のあり方について	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	3月5日	15:00～15:30	栄養指導課	9	調理業務の高度化・専門化について	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	4月8日	15:00～15:30	栄養指導課	9	今後の栄養指導課のあり方について	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	5月10日	15:00～15:30	栄養指導課	8	ヒヤリハットの報告について	山本和彦
課内研修会	栄養指導課	6月6日	15:00～15:30	栄養指導課	8	調理業務の高度化・専門化について	鳥井孝志
課内研修会	栄養指導課	7月8日	15:00～15:30	栄養指導課	9	調理業務の高度化・専門化について	鳥井孝志
課内研修会	栄養指導課	8月5日	15:00～15:30	栄養指導課	9	厨房内における衛生管理について	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	9月10日	15:00～15:30	栄養指導課	8	ヒヤリハットの防止対策について	山本和彦
課内研修会	栄養指導課	10月8日	15:00～15:30	栄養指導課	8	調理業務の高度化・専門化について	鳥井孝志
課内研修会	栄養指導課	11月8日	15:00～15:30	栄養指導課	8	ヒヤリハットの報告及び配膳チェックについて	山本和彦
課内研修会	栄養指導課	12月16日	15:00～15:30	栄養指導課	8	服務規律の遵守について	山本和彦
MEカンファレンス	ME	毎日	8:30～9:00	ME室	7	臨床業務、医療機器管理業務についての検討、情報交換	

ME 勉強会	ME	2月21日	16:45～17:40	ME室	7	新生児と乳児の心筋保護	岩崎一崇
心臓血管外科 カンファレンス	心臓血管外科	3月6日	8:40～9:00	心外医局	12	心臓血管外科学会報告会	圓尾文子
人工心肺自動記録説明会	ME	3月13日	17:30～18:30	日帰り手術室	4	自動記録システム ORSYS 説明会	業者/ 岩崎一崇
ME 勉強会	ME	3月14日	8:20～8:50	ME室	7	末梢血幹細胞採取について	藤井和弥
人工心肺自動記録説明会	ME	3月14日	17:30～18:30	日帰り手術室	4	自動記録システム ORSYS 説明会	業者/岩崎一 崇
ME 勉強会	ME	3月27日	8:30～9:00	ME室	6	人工呼吸器安全使用のための指針について	横山真司
ME 勉強会	ME	4月24日	8:15～9:00	ME室	7	CHDFを併施することで良好な経過を得た小児ECMOの 1例	秋元明日香
ME 勉強会	ME	5月8日	8:20～8:50	ME室	7	フォロー四徴症に対する手術と体外循環法	三坂勇介
ME 勉強会	ME	5月29日	8:15～8:50	ME室	7	加温加湿器と人工鼻～適切な加温加湿のために～	吉本由衣
心外・ME 勉強会	ME	6月19日	8:15～9:00	本館4F カンファレンスルーム	14	泉工・人工心肺回路 SEC コーティングについて	業者/ 横山真司
心外・ME 勉強会	心臓血管外科	6月26日	8:20～9:00	研修室 AB	14	赤外線酸素モニタ装置：NIRO について	業者
ME 勉強会	ME	7月8日	8:30～9:00	ME室	7	内視鏡業務講演会報告	藤井和弥
心外・ME 勉強会	ME	7月17日	8:20～9:00	研修室 AB	13	小児用膜型人工肺 QUADROX-i 説明会	業者/ 横山真司
産科・ME 勉強会	産科・ME	7月19日	16:50～17:20	産科外来 カンファレンス室	8	セルセーバー 5 + について	業者/ 横山真司
ME 勉強会	心臓血管外科	7月24日	8:15～9:00	研修室 AB	11	心筋保護液について	松久弘典

心外・麻酔科合同勉強会	心臓血管外科・ 麻酔科・ME	7月25日	17:30～19:30	研修室AB	25	カテコラミンの使用方法について	圓尾文子・ 土居ゆみ
ME勉強会	心臓血管外科・ ME	7月29日	16:00～18:30	ME室	6	人工肺入口圧上昇について、オキシア ICNeo 説明会	業者/ 横山真司
心外・ME勉強会	ME	9月11日	8:20～8:55	研修室AB	13	テルモ FX 説明会、人工肺とレジストリーについて	業者/ 横山真司
人工心肺自動記録説明会	ME	9月27日	11:00～12:30	手術室1	4	自動記録システム ORSYS 説明会	業者/ 岩崎一崇
ME勉強会	ME	10月11日	17:30～18:30	ME室	7	Infant Flow Sipap について	業者/ 藤井和弥
ME勉強会	ME	11月7日	17:00～19:00	ME室	6	第39回日本体外循環技術医学会報告会	横山真司・ 秋元明日香
ME勉強会	ME	11月14日	8:15～9:00	ME室	7	体外循環離脱直前の FFP 投与～ACT とヘパリナーゼ ACT の評価～	横山真司
ME勉強会	ME	11月20日	8:30～9:00	ME室	7	ECMO：機器トラブルとその対応	岩崎一崇
ME勉強会	ME	11月28日	8:15～9:00	ME室	7	NICU 領域の血液浄化法の進歩	藤井和弥
ME勉強会	ME	12月4日	8:15～9:00	ME室	7	特殊な呼吸療法	秋元明日香
ME勉強会	ME	12月11日	8:20～8:50	ME室	7	小児体外循環におけるヘマトクリット値と末梢温度との 関係	三坂勇介
ME勉強会	ME	12月18日	8:15～8:50	ME室	6	人工呼吸器緊急時の対応と事故予防策	吉本由衣
心外・循環器抄読会	心臓血管外科・ 循環器科	12月19日	8:15～9:00	本館4F カンファレンスルーム	20	Sepsis に対する ECMO 導入	宇仁田亮
ME勉強会	ME	12月26日	8:15～8:50	ME室	7	小児体外循環における限外濾過の検討～積極 DUF と消極 DUF の比較～	丸内かおり

看護部部署内勉強会（2013年度）

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者 / 担当
勉強会	一般外科主体病棟	4月16日	14:30～15:00	4B	20	スタンダードブリーディング	感染係
勉強会	一般外科主体病棟	5月14日	15:00～15:30	4B	2	静脈注射管理	富永、細川
勉強会	一般外科主体病棟	5月14日	17:30～18:30	4A	2	手順に沿った吸引・気切ケア	富永、福島、茨木
勉強会	一般外科主体病棟	5月20日	14:30～15:00	4B	2	防災システムについて	丸山、宮武
勉強会	一般外科主体病棟	5月27日	15:00～15:30	4B	5	ドレーン管理（外科系、胸腔ドレーン以外）	黒木
勉強会	一般外科主体病棟	5月29日	15:00～15:30	4B	3	CV管理	福島、平塚
勉強会	一般外科主体病棟	6月6日	14:30～15:00	4B	5	防災時の避難準備について	島、丸山
勉強会	一般外科主体病棟	6月18日	15:00～15:30	4B	3	カテーテル管理（泌尿器科系）	丸山、北川
勉強会	一般外科主体病棟	6月25日	15:00～15:30	4B	10	防災訓練①	防災係
勉強会	一般外科主体病棟	6月26日	17:30～18:30	4A	5	ストーマケア	岡野
勉強会	一般外科主体病棟	7月22日	17:30～18:30	4A	6	救急蘇生	富永、福島、平塚、細川
勉強会	一般外科主体病棟	7月23日	15:00～15:30	4B	10	患者のケースカンファ	スタッフ全員
勉強会	一般外科主体病棟	7月27日	18:10～18:30	研修室C	15	ブレパレセッション	富永

勉強会	一般外科主体病棟	8月16日	15:00～15:30	4B		16	看護基準	平塚、表
勉強会	一般外科主体病棟	8月22日	15:00～15:30	4B		6	患者のケースカンファ	スタッフ全員
勉強会	一般外科主体病棟	9月3日	17:30～18:30	4A		9	呼吸管理①気管切開	山口、桑畑
勉強会	一般外科主体病棟	9月15日	17:30～18:30	4A		13	呼吸管理②気切ケア、TBT、アンビュー加圧	朴、松本
勉強会	一般外科主体病棟	9月28日	17:30～18:30	4A		15	呼吸管理③呼吸器装着患児の看護	中津、横山
勉強会	一般外科主体病棟	10月2日	17:30～18:30	4A		8	褥瘡アセスメントについて	岡野
勉強会	一般外科主体病棟	10月17日	17:40～18:30	4A		15	BAと肝硬変	園田 Dr
勉強会	一般外科主体病棟	11月5日	17:30～18:30	4A		9	CIC、CISC	岡野
勉強会	一般外科主体病棟	11月19日	14:30～15:00	4B		10	防災訓練②	防災係
勉強会	一般外科主体病棟	11月30日	17:30～18:30	4A		9	失禁ケア	岡野
勉強会	一般外科主体病棟	1月14日	14:30～15:00	4B		8	RCA分析	松本
勉強会	一般外科主体病棟	2月20日	14:30～15:00	4B		7	感染予防策について	
勉強会	循環器A病棟	4月9日	11:00～13:00	病棟食堂		3	小児の呼吸・循環	青野
勉強会	循環器A病棟	4月26日	16:00～17:00	病棟食堂		3	新生児看護	谷口
勉強会	循環器A病棟	5月2日	16:00～17:00	病棟内		3	病棟麻酔・CV抜去	村上

勉強会	循環器 A 病棟	5月16日	16:00～17:00	病棟食堂	3	ルンバール・マルク・髷注	山本
勉強会	循環器 A 病棟	6月20日	16:00～17:00	病棟食堂	3	PI管理	渡邊ち
勉強会	循環器 A 病棟	10月15日	10:30～11:30	病棟食堂	3	心不全	渡辺ゆ
勉強会	循環器 A 病棟	5月30日	14:20～14:50	Ns ステーション	16	上室性頻拍について	久田・青野
勉強会	循環器 A 病棟	6月6日	14:30～15:00	アナムネ室	10	12誘導心電図について	渡辺ゆ・渡邊
勉強会	循環器 A 病棟	8月29日	14:30～15:00	Ns ステーション	10	心タンポナーデ	青野・久田
勉強会	循環器 A 病棟	10月23日	14:30～15:00	Ns ステーション	5	ペーシングについて	古賀・池田
勉強会	循環器 A 病棟	12月16日	14:30～15:00	Ns ステーション	8	N・K様病態について	渡邊ち・渡辺
勉強会	循環器 A 病棟	5月13日	14:20～15:00	Ns ステーション	15	S・R様退院調整カンファレンス	池田
勉強会	循環器 A 病棟	10月11日	14:40～15:00	処置室	7	抗がん剤の投与方法とバル輸液ラインでの管理	東谷
勉強会	循環器 A 病棟	10月15日	9:30～10:20	処置室	4	抗がん剤の準備、投与方法（認定看護師が実施）	東谷
勉強会	循環器 A 病棟	10月15日	11:00～11:20	処置室	7	抗がん剤投与スケジュールの見方と注意点	東谷
勉強会	循環器 A 病棟	11月8日	9:30～10:20	処置室	6	抗がん剤準備、投与方法の実際	東谷
勉強会	循環器 A 病棟	11月8日	14:30～15:00	Ns ステーション	7	抗がん剤の準備する適切な環境とは	東谷
勉強会	循環器 A 病棟	11月13日	14:40～15:00	Ns ステーション	7	抗がん剤投与時の観察ポイント	東谷

勉強会	循環器 A 病棟	11 月 22 日	9:30 ~ 10:20	処置室	6	抗がん剤の準備、投与方法の実際	東谷
勉強会	循環器 A 病棟	11 月 22 日	14:30 ~ 15:00	Ns ステーション	8	化学療法を受ける患者さまの検査データの見方	東谷
勉強会	循環器 A 病棟	12 月 3 日	14:40 ~ 15:00	Ns ステーション	7	内服化学療法について	東谷
勉強会	循環器 A 病棟	12 月 17・27 日	14:30 ~ 15:00	Ns ステーション	9	抗がん剤投与ルート管理について	東谷
勉強会	循環器 A 病棟	1 月 24 日	14:30 ~ 15:00	Ns ステーション	4	がん化学療法の副作用	東谷
勉強会	循環器 A 病棟	10 月 28 日	14:30 ~ 14:45	Ns ステーション	7	生食ログについて	竹村
勉強会	循環器 B 病棟	6 月 30 日	17:45 ~ 18:45	5B 病棟	2	グレン・TCPC の看護	小林、山下、渡辺
勉強会	循環器 B 病棟	7 月 18 日	17:30 ~ 18:30	5B 病棟	7	心不全の看護	中村
勉強会	循環器 B 病棟	7 月 31 日	13:00 ~ 17:00	5B 病棟	5	呼吸管理	中野、野口
勉強会	循環器 B 病棟	8 月 20 日	17:45 ~ 19:00	研修室 C	14	救急蘇生	吉村、楠本、井川、山下
勉強会	循環器 B 病棟	8 月 29 日	8:30 ~ 17:15	5B 病棟	5	呼吸管理	中野、野口
勉強会	循環器 B 病棟	9 月 20 日	17:15 ~ 18:55	7F カンファレンスルーム	4	SP シヤントの看護	小林、林
勉強会	循環器 B 病棟	10 月 18 日	17:40 ~ 19:25	7F カンファレンスルーム	5	ドレーン管理	松島、刈谷
勉強会	循環器 B 病棟	11 月 13 日	17:45 ~ 18:45	研修室 D	7	摂食勉強会	佐藤、中村、植山
勉強会	循環器 B 病棟	11 月 19 日	17:45 ~ 18:15	7F カンファレンスルーム	27	RCA 分析	渡辺

勉強会	循環器 B 病棟	11 月 22 日	17:25 ~ 19:30	5B 病棟	4	不整脈	野口、中村
勉強会	循環器 B 病棟	11 月 26 日	17:45 ~ 18:45	研修室 D	9	救急蘇生	吉村、楠本、井川、山下
勉強会	循環器 B 病棟	12 月 20 日	17:45 ~ 19:00	5B 病棟	4	ペースメーカー	永田、石塚
勉強会	循環器 B 病棟	1 月 23 日	17:45 ~ 18:45	7F カンファレンスルーム	3	新生児看護	佐藤、小林
勉強会	混合 A 病棟	6 月 21 日	17:00 ~ 17:30	6A 面談室	5	急変時の対応	吉村 / 玉田
勉強会	混合 A 病棟	6 月 25 日 28 日	14:30 ~ 15:00	病棟	14	摂食障害の看護	水本 / 清水
勉強会	混合 A 病棟	7 月 9 日	17:30 ~ 19:00	7 階 カンファレンスルーム	5	家族エンパワーメントモデルを用いた家族アセスメント	浅井 (院生)
勉強会	混合 A 病棟	7 月 31 日	17:30 ~ 19:00	研修室 D	10	創外固定器について、看護	整形外科師
勉強会	混合 A 病棟	8 月 27 日	17:30 ~ 19:01	6A 病室	10	救急蘇生 シミュレーション	田中 / 宮崎
勉強会	混合 A 病棟	9 月 11 日	17:30 ~ 19:00	研修室 D	11	プレパレーション ケアモデルについて	藤本 / 梅崎
勉強会	混合 A 病棟	9 月 20 日 24 日	17:30 ~ 18:30	6A 食堂	15	トリロジー	フィリップス / 担当
勉強会	混合 A 病棟	10 月 7 日	17:30 ~ 18:30	研修室 AB	9	退院支援	文字 / 松永
勉強会	混合 A 病棟	10 月 17 日・11 月 13 日	17:30 ~ 18:30	6A 食堂	18	ベネット	担当
勉強会	混合 A 病棟	11 月 20 日	17:30 ~ 18:30	研修室 AB	7	糖尿病について	野村医師
勉強会	混合 A 病棟	1 月 10 日	14:30 ~ 15:00	病棟	13	脳腫瘍プロトコル・指示受けの注意点	後藤 CN

勉強会	混合 A 病棟	1 月 21 日	17:30 ~ 18:00	6B 食堂	8	癌化学療法 調剤方法	後藤 CN
勉強会	混合 AB 病棟	2 月 13 日	17:30 ~ 19:00	研修室 C	16	脳腫瘍と化学療法 / 化学療法の副作用と看護	神前・後藤 CN
勉強会	混合 B 病棟	6 月 21 日	17:30 ~ 19:00	4A カンファレンスルーム	12	新人対象に場面を想定した救急蘇生	教育担当者
勉強会	混合 AB 病棟	10 月 10 日	17:30 ~ 19:00	研修室 C	7	退院支援について	地域連携委員
勉強会	混合 AB 病棟	11 月 20 日	17:30 ~ 18:30	研修室 A	6	糖尿病とは	代謝内科 Dr
勉強会	混合 AB 病棟	11 月 22 日	14:30 ~ 15:30	6B 病棟	4	人工呼吸器の基本について学ぶ	呼吸ケア部会
勉強会	混合 AB 病棟	11 月 27 日	14:30 ~ 15:30	6B 病棟	3	人工呼吸器の基本について学ぶ	呼吸ケア部会
勉強会	混合 AB 病棟	2 月 13 日	17:30 ~ 18:30	研修室 A	8	がん化学療法勉強会	血内医師・ CN
勉強会	血液主体病棟	4 月 30 日	17:30 ~ 18:30	7 階学習室	20	化学療法の看護	後藤 CN
勉強会	血液主体病棟	5 月 15 日		7 階学習室	18	血管外漏出	後藤 CN
勉強会	血液主体病棟	5 月 30 日	17:45 ~ 18:45	研修室 D	25	ALL-B12	宮田医師
勉強会	血液主体病棟	7 月 12 日	17:30 ~ 18:30	7 階学習室	15	化学療法の副作用	後藤 CN
勉強会	血液主体病棟	9 月 27 日	17:30 ~ 18:30	7 階学習室	15	子どもの痛みの勉強会	小野看護師
勉強会	血液主体病棟	11 月 26 日	17:30 ~ 18:30	7 階学習室	6	移植勉強会	長谷看護師
勉強会	血液主体病棟	1 月 24 日	17:30 ~ 18:30	7 階学習室	20	疼痛	矢内医師

勉強会	血液主体病棟	10月～2月	各15分	詰所	26	ダウン症赤ちゃん体操勉強会	奥田保育士
勉強会	血液主体病棟		17:30～18:30	7階学習室			
勉強会	救急	6月5日	17:35～18:50	研修室AB	47	臓器提供に関する基礎的な知識 (コーディネーターの役割、臓器提供に関する法律改正後の日本の動向、脳死と心臓死の概念)	神田
勉強会	救急	12月13日	17:45～18:30	救急 カンファレンスルーム	36	医師・看護師合同 症例検討会 [Sepsisの概念、ショック移行時の治療戦略]	竹田、梶原、 生田
勉強会	救急	1月29日	18:00～19:15	救急 カンファレンスルーム	29	医師・看護師合同 症例検討会 [劇症の経過をとったEB VAHS症例の終末期移行の医学的判断と家族意思決定について]	竹田、中岸、 清水
勉強会	救急	2014年7月31日	18:00～19:00	初療室	23	初療フルスケールシミュレーション：CPA	Aチームメン バー
勉強会	救急	2014年8月14日	18:00～19:00	初療室	28	初療フルスケールシミュレーション：CPA	Aチームメン バー
勉強会	救急	2014年8月29日	18:00～19:00	初療室	10	初療フルスケールシミュレーション：CPA	Aチームメン バー
勉強会	救急	2014年10月15日	18:00～19:00	初療室	26	初療フルスケールシミュレーション：瘻撃	Aチームメン バー
勉強会	救急	2014年10月28日	18:00～19:00	初療室	21	初療フルスケールシミュレーション：瘻撃	Aチームメン バー
勉強会	救急	2014年11月27日	18:00～19:00	初療室	27	初療フルスケールシミュレーション：外傷（胸部）	Aチームメン バー
勉強会	救急	2014年12月11日	18:00～19:00	初療室	11	初療フルスケールシミュレーション：外傷（胸部）	Aチームメン バー
勉強会	救急	2014年12月16日	18:00～19:00	初療室	13	初療フルスケールシミュレーション：外傷準備	Aチームメン バー
勉強会	救急	2015年1月24日	18:00～19:00	初療室	18	初療フルスケールシミュレーション：外傷（腹部）	Aチームメン バー
勉強会	救急	6月20日	17:30～18:30	カンファレンス室	21	HFOVの基礎、トランプルシミュレーション	金子

勉強会	救急	9月27日	17:45～18:45	カンファレンス室	30	急変時シミュレーション：ECMO導入時の流れ	藤原
勉強会	救急	11月6日	18:00～19:00	観察室	46	急変時シミュレーション：ECMO	Bチームメンバー
勉強会	救急	1月27日	17:45～18:30	観察室	22	急変時シミュレーション：ECMO	Bチームメンバー
専門看護師・認定看護師 主催勉強会	専門看護師・ 認定看護師会	9月21日	17:30～18:30	研修室AB	61	小児看護について	藤原健太 (小児救急看護 認定看護師)
勉強会	救急	12月17日	17:30～18:30	面談室	12	循環器疾患の管理 総論	祖父江Dr 圓尾
勉強会	救急	2月26日	17:40～19:10	カンファレンス室	14	循環器疾患の管理 各論	祖父江Dr 圓尾
勉強会	HCU病棟	7月12日	17:30～18:30	研修室C	13	肺理学療法	PT 中田
勉強会	HCU病棟	7月23日	17:30～18:30	研修室C	21	総排泄腔症・鎖肛	尾藤Dr
勉強会	HCU病棟	8月21日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	9	ストマケア	斉藤Dr
勉強会	HCU病棟	8月14日	17:30～18:30	7F会議室	16	副腎過形成	日外Dr
勉強会	HCU病棟	8月16日	17:30～18:30	研修室AB	19	気管狭窄症	横井Dr
勉強会	HCU病棟	1月28日	17:30～18:00	カンファレンスルーム	11	疼痛コントロール	熊谷NS
勉強会	HCU病棟	12月21日	17:30～18:00	カンファレンスルーム	16	RCA	小川NS
勉強会	HCU病棟	2月21日	17:30～18:30	4階会議室	10	フィジカルアセスメント・急変時対応	藤原NS
勉強会	HCU病棟	2月21日	18:30～19:00	4階会議室	8	救急蘇生シミュレーション	藤原NS

勉強会	HCU 病棟	12月	17:30～18:00	HCU 病棟	6	救急蘇生シミュレーション	藤田 NS
勉強会	HCU 病棟	12月	17:30～18:00	HCU 病棟	6	救急蘇生シミュレーション	鞆 NS
勉強会	ICU	5月28日	14:25～14:55	ICU	7	くも膜下嚢胞の患者管理について	山元 Dr
勉強会	ICU	6月21日	17:30～19:00	ICU、 カンファレンスルーム	25	救急蘇生勉強会① 救急蘇生場面に必要な手技について	小林、 C チーム
勉強会	ICU	9月24日	17:30～19:00	ICU	30	救急蘇生勉強会② ECMO 導入シミュレーション	西村、 B チーム
勉強会	ICU	12月13日	17:30～18:30	ICU	21	救急蘇生勉強会③ ECMO 導入シミュレーション	田路、 A チーム
勉強会	ICU	10月10日～20日	14:15～14:35	ICU	32	感染勉強会① 心外 OP の感染対策プロトコル、検査データについて	C チーム
勉強会	ICU	11月4日～11日	14:15～14:35	ICU	34	感染勉強会② 流行性感染症	C チーム
勉強会	ICU	1月21日～27日	14:15～14:35	ICU	35	感染勉強会③ ICU での感染対策	C チーム
勉強会	ICU	10月28日	17:30～19:00	研修室 C	17	手指衛生について	山下
勉強会	ICU	10月17日	14:15～14:50	ICU	12	心エコー結果が読める看護師になろう	小川 Dr
勉強会	ICU	10月31日	14:15～14:50	ICU	12	心エコー結果が読める看護師になろう	小川 Dr
勉強会	ICU	2月7日	14:15～14:50	ICU	13	32週で出生予定の心疾患低体重児のケアについて	NICU 伊達 NS
勉強会	NICU プリセプター会	6月21日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	10	NICU における救急蘇生	プリセプター /和久
勉強会	NICU プリセプター会	7月19日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	10	低酸素にさせないケア	プリセプター /舛田

勉強会	NICU アプリセプター会	8月16日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	8	ファミリーケア	アプリセプター /舩田
勉強会	NICU アプリセプター会	9月20日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	10	呼吸ウイニングする児の看護	アプリセプター /熊谷
勉強会	NICU アプリセプター会	10月18日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	8	経験の少ない日常生活援助技術の習得	アプリセプター /石井
勉強会	NICU アプリセプター会	11月5日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	12	予定外抜管	アプリセプター /石井
勉強会	NICU アプリセプター会	12月13日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	8	入院受け	アプリセプター /熊谷
勉強会	NICU アプリセプター会	2月7日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	7	アセスメント	アプリセプター /石井
勉強会	NICU アプリセプター会	2月26日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	31	入院受け振り返り	アプリセプター /舩田
勉強会	NICU アプリセプター会	3月5日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム		看護観	森岡 森田
勉強会	NICU GCU	5月7日	17:30～19:00	研修室AB	11	Let's enjoy neonatal care	中尾副院長
勉強会	NICU GCU	6月18日	17:30～19:00	研修室AB	25	黄疸について	坂井医師
勉強会	NICU GCU	7月19日	17:30～19:00	研修室AB	81	ポジショニングについて	長野県立こども病院 木原 PT
勉強会	NICU GCU	8月23日	17:30～19:00	研修室AB	29	栄養について	岩谷医師
勉強会	NICU GCU	10月22日	17:30～19:00	研修室AB	22	新生児の痛みについて	伊達 CN
勉強会	NICU GCU	11月26日	17:30～19:00	研修室AB	35	外科疾患管理	大片医師
勉強会	NICU GCU	12月17日	17:30～19:00	研修室AB	32	看護基準について	柳川瀬補佐

勉強会	NICU GCU	1月28日	17:30～19:00	研修室AB	33	内分泌系の基礎と管理について	和田医師
勉強会	NICU GCU	2月25日	17:30～19:00	研修室AB	31	退院指導と外来	内海 蔵本
勉強会	NICU	11月28日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	10	事例検討会	八塚 高野
勉強会	NICU	12月3日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	10	事例検討会	小城 川崎
勉強会	NICU	12月6日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	10	倫理勉強会	米村 吉田 井口 森
勉強会	NICU	3月25日	17:30～19:00	研修室AB	25	救急蘇生シミュレーション	和久 舩田 石井
勉強会	NICU GCU	1月24日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	20	乳房トラブル	母乳育児ワー キングG
勉強会	GCU	5月31日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	9	1年目対象 直母	加藤・佐竹・ 竹田
勉強会	GCU	6月13日	17:30～18:30	研修室C	13	1年目対象 第1回救急蘇生	
勉強会	GCU	6月21日	17:30～18:30	沐浴室	10	1年目対象 沐浴	橋詰・森脇・ 岩本
勉強会	GCU	7月23日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	9	脊髄膜瘤の児の看護	小松
勉強会	GCU	8月20日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	11	PDAのある児の看護	森脇
勉強会	GCU	8月28日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	10	1年目対象 お話会	小松・中谷・ 高柳
勉強会	GCU	9月26日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	8	V-P シヤントを挿入した児の看護	佐竹
勉強会	GCU	10月18日	17:30～18:30	研修室D	10	1年目対象 第2回救急蘇生	吉田・岩本・ 高柳

勉強会	GCU		11月29日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	9	先天性疾患(AVSD、PDA)の児の看護	橋詰
勉強会	GCU		12月10日	17:30～18:30	沐浴室	7	N-CPAP装着中の児の看護	古賀
勉強会	GCU		1月29日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	19	救急蘇生	平井え・笠作・日高
勉強会	GCU		2月27日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	14	CLDの児の看護	田中は
勉強会	GCU		3月5日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	7	超低出生体重児のコット移床について	中谷
勉強会	産科		5月10日	15:00～16:00	産科外来指導室	9	帝王切開	津田・石川・西本
勉強会	産科		5月28日	15:00～16:00	産科外来指導室	10	乳房ケア	網干
勉強会	産科		6月25日	17:30～18:30	分娩室	15	救急蘇生	西田・畠山
勉強会	産科		7月24日	17:30～18:30	分娩室	6	経膈分娩シミュレーション(間接介助)	千田・西田・畠山
勉強会	産科		10月8日	17:30～18:30	分娩室	11	帝王切開シミュレーション(ベビーキャッチ)	西田・畠山
勉強会	産科		10月25日	17:30～18:30	産科外来指導室	11	輸血	西田・畠山
勉強会	産科		12月22日	17:30～18:30	産科外来指導室	6	PIH	西本・新開
勉強会	産科		1月8日	17:30～18:30	産科外来指導室	6	PIH	畠山
勉強会	産科		1月31日	17:30～18:30	産科外来指導室	4	PIH	畠山
勉強会	産科		2月17日	17:30～18:30	産科外来指導室	5	PIH	畠山

勉強会	産科	2月19日	17:30～18:30	産科外来指導室	4	PIH	畠山
勉強会	産科・手術室	7月11日	15:00～15:30	産科・手術室	16	超緊急帝王切開シミュレーションI	勉強会担当
勉強会	産科・手術室	12月9日	15:00～15:30	産科・手術室	20	超緊急帝王切開シミュレーションII	勉強会担当
勉強会	産科・手術室	2月20日	15:00～15:30	産科・手術室	13	超緊急帝王切開シミュレーションIII	勉強会担当
勉強会	産科	10月18日	18:30～19:30	産科外来指導室	14	事例検討会・IUFD後の患者家族の看護	藤原
勉強会	産科	11月20日	18:30～19:30	産科外来指導室	13	事例検討会・精神科疾患合併妊婦の看護	杉友
勉強会	産科	12月20日	18:30～19:30	産科外来指導室	14	事例検討会・双胎の中期中絶時の看護	原田
勉強会	仲本・川崎	10月24日	17:00～18:00	休憩室	20	白内障術式の理解を深める (I/A + IOL, PPL)	井上医師
勉強会	穂満・高山	10月25日	17:15～18:10	リカバリー	15	水痘の知識と対応	穂満・高山
勉強会	高橋・坂本	10月30日	17:30～18:30	休憩室	19	Wellbing 褥瘡対策を考える～身体にかかる圧の影響と対策～	(株) モルテン 高橋
勉強会	上田・織田	11月18日		休憩室	9	ブレパレセッションについて	上田・高橋
勉強会	穂満	11月22日	17:00～17:30	休憩室	22	オペエイドについて	3M
勉強会	谷口・菊池	12月2日	17:00～18:00	日帰り	10	急変時の初期対応の理解	土居・谷口・片山
勉強会	三好・宮永・池田	① 12月13日 ② 12月20日 ③ 12月27日	16:30～17:00	休憩室	① 11 ② 3 ③ 11	地震に対する基礎知識と対応を理解する	宮永・三好
勉強会	丹野・坂本	① 12月24日 ② 1月9日	17:30～18:00	休憩室	① 9 ② 16	再発防止に活かす RCA (根本原因分析) の実	坂本

勉強会	三好		2月27日	17:30～18:30				術後訪問の必要性の理解と知識の統一		三好
勉強会	橋口		3月		休憩室			手術室における電気設備について理解する		ME
勉強会	新人・新人担当者		2月12日	17:15～18:15	休憩室		15	5S活動 5S診断評価からいえること		メドライン K.k
勉強会	外来		6月26日	17:30～18:30	相談室		10	看護記録とは 講師：武田看護師長		山本 / 神川
勉強会	外来		7月24日	17:30～18:30	相談室		10	クリニカルパスについて 講師：大西看護師長		山本 / 神川
勉強会	外来		10月4日	17:30～18:30	外科処置室		10	ケアパッケージとは 講師：本田小児専門看護師		山本 / 神川
勉強会	外来		5月15日	14:30～15:00	外科処置室		15	整形外科の診療介助について		山本
勉強会	外来		6月5日	15:00～15:30	外科処置室		15	中材物品の取り扱いについて		山本
勉強会	外来		6月10日	15:05～15:50	相談室		16	代謝内分泌科の診療介助と負荷試験検査について①		神川
勉強会	外来		7月8日	14:30～15:00	相談室		17	代謝内分泌科の診療介助と負荷試験検査について②		神川
勉強会	外来		7月11日	14:30～15:00	外科処置室		10	患者誤認防止について		山本
勉強会	外来		8月8日	15:00～15:30	相談室		13	血液腫瘍科の診察介助について		神川
勉強会	外来		9月12日	14:30～15:00	外科処置室		10	二分脊椎外来の予約方法について		山本
勉強会	外来		10月7日	15:00～15:30	相談室		12	循環器科の診察介助について		神川
勉強会	外来		10月15日	14:30～15:00	外科処置室		10	MRIの予約方法の変更について		山本

勉強会	外来	1月15日	14:30～15:00	外科処置室	10	入院スクリーニングシート活用手順について	山本/神川
勉強会	外来	11月6日	16:00～16:30	外来全体	30	人為災害(局地災害)発生時の避難行動	神川
勉強会	仲本・川崎	10月24日	17:00～18:00	休憩室	20	白内障術式の理解を深める(I/A + IOL, PPL)	井上医師
勉強会	穂満・高山	10月25日	17:15～18:10	リカバリー	15	水痘の知識と対応	穂満・高山
勉強会	高橋・坂本	10月30日	17:30～18:30	休憩室	19	Wellbing 褥瘡対策を考える～身体にかかる圧の影響と対策～体圧分散と除圧について理解を深め、今後の褥瘡対策に役立てる	(株)モルテン 高橋
勉強会	上田・織田	11月18日		休憩室	9	プレパレーションについて	上田・高橋
勉強会	穂満	11月22日	17:00～17:30	休憩室	22	オペエイドについて	3M
勉強会	谷口・菊池	12月2日	17:00～18:00	日帰り	10	急変時の初期対応の理解	土居・谷口・片山
勉強会	三好・宮永・池田	① 12月13日 ② 12月20日 ③ 12月27日	16:30～17:00	休憩室	① 11 ② 3 ③ 11	地震に対する基礎知識と対応を理解する	宮永・三好
勉強会	丹野・坂本	① 12月24日 ② 1月9日	17:30～18:00	休憩室	① 9 ② 16	再発防止に活かす RCA (根本原因分析) の実際	坂本
勉強会	三好	2月27日	17:30～18:30			術後訪問の必要性の理解と知識の統一	三好
勉強会	橋口	3月		休憩室		手術室における電気設備について理解する	ME
勉強会	新人・新人担当者	2月12日	17:15～18:15	休憩室	15	5S活動 5S 診断評価からいえること	メドライン K.k

# V ボランティア

平成 25 年度 ボランティア受け入れ状況

ボランティアの状況

ボランティア名	内容	活動人数	活動日	活動場所
神戸市生活指導研究会 こども病院ボランティアグループ	看護用品、医療材料、保育材料の作成	21	毎週月・金	ボランティア室で毎回3名が交代で活動
こども病院ボランティアグループ	子どもの遊び相手、本の読み聞かせ、外来での患者・家族の受診介助（案内・移動の介助）	16	毎週月～金	病棟・外来

イベントボランティアの状況

アロマセラピー	妊産婦のリラクゼーションセラピーマッサージ (代表：田中美早)	22名	11回	産科外来
クリニックラウン	笑いやユーモアを届けるコミュニケーション (NPO法人日本クラウン協会)	12名	6回/年	本館病棟・HCU・外来
神戸女子大学キッズリーダー部	紙人形劇「たなばた」 (代表：永守 絢子)	15名	7月5日	研修室AB
神戸大学児童文化研究会	人形劇「夏の友だち」 (代表：野住 朋可)	10名	9月13日	研修室AB
フリーリングアーツ	音と映像の世界 (代表：北村 義博)	6名	10月11日	研修室AB
フルートコンサート	フルートとピアノの調べ (代表：竹内 倫美子)	2名	11月13日	周産期センター玄関ホール
NPO 兵庫県こども文化振興協会	くわえぱべつとステージ ワークショップ (代表：宮武 裕美)	5名	11月27日 11月28日	本館病棟プレイルーム (7F・6F・5F・4F)
クリスマスコンサート (神戸ハーバーライオンズクラブ主催)	歌と音楽コンサート (代表：桂田 秀子)	15名	12月11日	周産期センター玄関ホール
NPO 兵庫県こども文化振興協会	絵本おはなし会 (代表：宮武 裕美)	2名	12月19日	6階病棟プレイルーム
まさゆめプロジェクト	サンタクロースキャンペーン (代表：小倉 謙)	18名	12月25日	小児病棟

神戸女子大学キッズリーダー部	紙人形劇「ぐりとぐら」 (代表：清水 絵里香)	20名	12月25日	研修室AB
NPO 兵庫県こども文化振興協会	きしだてんだい絵本パフォーマンス (代表：宮武 裕美)	1名	1月23日	6階病棟プレイルーム
ストリートオルガン演奏	外来待合フロアでの演奏 (演奏：洲尾 佳栄)	1名	3月18日	内科外来受付前